
比企郡川島町

富田後遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事に伴う
川島地区埋蔵文化財発掘調査報告
(第2分冊)

2 0 1 1

国土交通省 関東地方整備局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

(第1分冊)

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・報告書作成の組織	3
II 遺跡の立地と環境	5
1. 地理的環境	5
2. 歴史的環境	9
III 遺跡の概要	12
IV 遺構と遺物	29
1. 縄文時代の遺構と遺物	29
(1) 土壇	
(2) グリッド出土遺物	
2. 古墳時代～中・近世の遺構と遺物	
(1) 住居跡	34
(2) 周溝状遺構	38
(3) 方形周溝墓	209
(4) 掘立柱建物跡	231

(5) 柵列跡	274
(6) 土壇	280

(第2分冊)

(7) 井戸跡	305
(8) 古墳跡	353
(9) 溝跡	384
(10) 性格不明遺構	423
(11) 火葬墓跡	430
(12) グリッドピット	431
(13) 自然科学分析 (樹種同定)	437
V 調査のまとめ	442
1. 調査の成果	442
2. 縄文時代の富田後遺跡と川島町の自然堤防	443
3. 古墳時代前期の遺構と遺物について	446
4. 土器が納められた井戸跡について	454

写真図版

(7) 井戸跡

井戸跡については、古墳時代前期、古代、中・近世のものが混在すると考えられ、時期を特定することは困難であることから、この項ですべての井戸跡について扱うこととした。なお、発掘調査の工程上、D・E区を並行して行ったため遺構名の重複を避けるべく各々区名を冠して、D区第1号井戸跡、E区第1号井戸跡と命名した。但し、A～C区については連番で命名しているため、区名の表記を行っていない。なお、各井戸跡の法量については、計測表(第77表)に示した。

検出された井戸跡は、A区1基、B区36基、C区8基、D区34基、E区19基の計98基である。

第1号井戸跡(第296図)

G-5グリッドに位置する。第3号溝跡よりも新しい。平面形は円形、断面形は段を有する筒形である。

本遺構は、人為的に埋め戻しが行われていると推定される。

遺構の時期は不明である。

第2号井戸跡(第296・321図)

G-5グリッドに位置する。重複遺構はない。

平面形は円形、断面形はロート状である。開口部付近がやや開いているのは、壁面の崩落による結果の可能性が高い。

覆土中から、曲物の底板(スギ 2)と、用途不明木製品(カヤ 1)と、竹を用いた編み物が出土した。編み物については劣化が著しく、取り上げることができなかった。本遺構は埋め戻されたものと推定される。

遺構の時期は、古代もしくは中・近世と考えられるが特定することはできなかった。

第3号井戸跡(第296図)

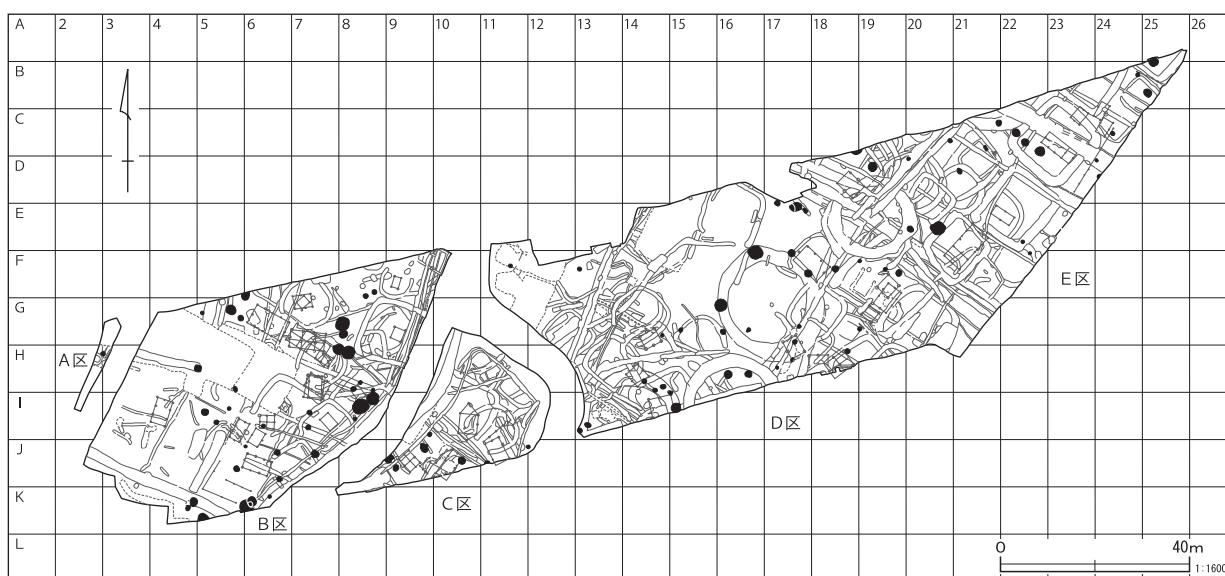
G-5グリッドに位置する。第1号溝跡よりも新しい。平面形は円形、断面形は筒形である。危険防止のため、完掘には至らなかった。

本遺構は、人為的に埋め戻しが行われていると推定される。

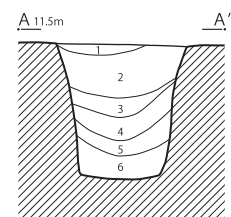
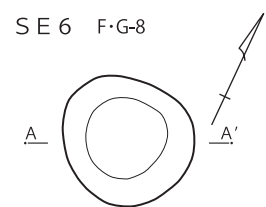
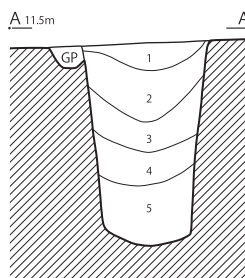
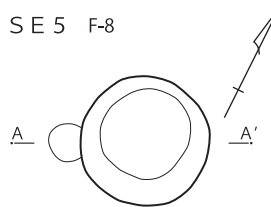
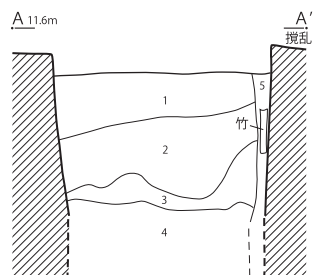
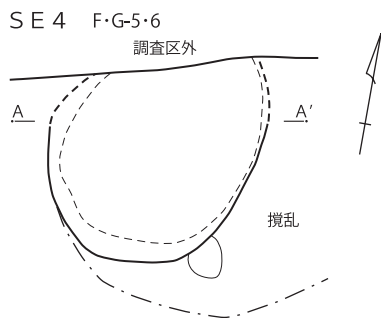
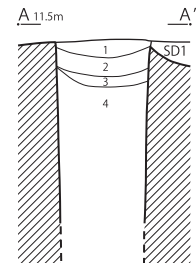
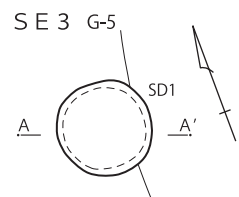
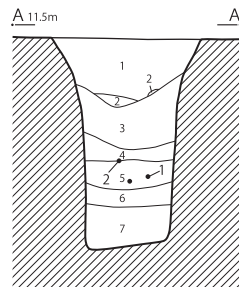
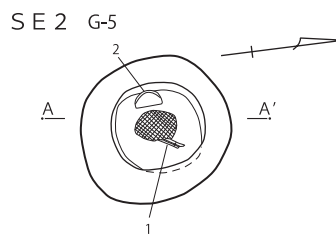
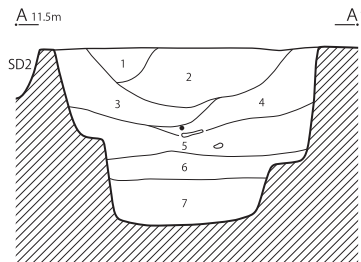
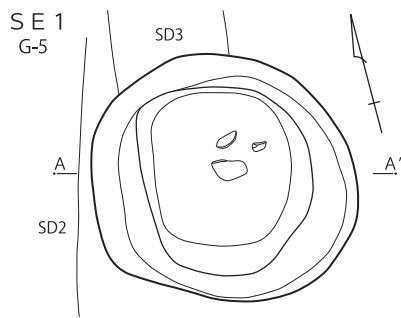
遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

第4号井戸跡(第296図)

F・G-5・6グリッドに位置する。重複遺構はない。北側は調査区外に続く。平面形は楕円形と推定される。断面形は筒形である。危険防止の



第295図 井戸跡分布図



- SE 1
- 1 褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少
 - 2 灰褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多 埋戻し土
 - 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 少
 - 4 黒褐色土 黄褐色土ブロック (1 cm) を不均一に少 埋戻し土
 - 5 黒灰色土 黄褐色土ブロック (1 cm) を不均一に多 埋戻し土
 - 6 黒灰色土 緑灰色粘土ブロック (0.5 cm) 多 埋戻し土
 - 7 緑灰色土 黒色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多 埋戻し土

- SE 2
- 1 黒褐色土 褐色土ブロック (3 ~ 7 cm) ・炭化物ブロック ・ 焼土ブロック (0.5 cm) 少 粘性やや弱
 - 2 黒色土 褐色土粒子少 粘性やや弱
 - 3 黒褐色土 褐色土ブロック (1.5 ~ 2 cm) 少 黄褐色土ブロック (2 cm) 微量
 - 4 黒褐色土 褐色土ブロック (2 cm) 微量 粘性やや弱
 - 5 暗褐色粘土 褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 微量 粘性強
 - 6 黒褐色土 緑灰色シルト (2 cm) 少 しまり弱
 - 7 緑灰色土 黒褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 少 しまり弱 粘性強

- SE 3
- 1 褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 多 埋戻し土
 - 2 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 少 埋戻し土
 - 3 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 少 埋戻し土
 - 4 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 多 埋戻し土か

- SE 4
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3 ~ 5 cm) 多 しまり強 埋戻し土
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (10 cm) との混土层 埋戻し土
 - 3 黄灰色土 粘土層中に黒色土粒子少
 - 4 淡緑灰色土 粘土層中に黒色土粒子少
 - 5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3 ~ 5 cm) 多 埋戻し土

- SE 5
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) ・焼土粒子 ・炭化物粒子少 埋戻し土
 - 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) ・焼土粒子 ・炭化物粒子少
 - 3 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 埋戻し土
 - 4 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (1 cm) 少 有機物多 しまり弱
 - 5 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (1 cm) 多

- SE 6
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2 ~ 4 cm) 均質に少
 - 2 暗褐色土 褐色地山ブロック ・黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 微量
 - 3 暗褐色土 褐色地山粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) ・黄褐色粘土ブロック (2 ~ 5 cm) 少
 - 4 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 微量
 - 5 暗褐色土 褐色地山粒子 (0.3 ~ 0.4 cm) ・黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 多 しまり弱
 - 6 黒色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 微量 有機物多

第296図 井戸跡 (1)

ため、完掘には至らなかった。

本遺構は、土層断面第1～5層は黄褐色粘土ブロックが層状ではなく斑状であることから、人為的に埋め戻しが行われていると推定される。

第5層内には竹が確認されたが、本来の長さではなく、井戸の息抜きとも通称される行為の痕跡と推測される。その際に用いられた竹の部分的な遺存の結果であると考えられる。

しかし、第5層のような埋め戻しはどういう方法で可能になったのか、という疑問点が残る。第5層分のスペースを残しながら、下位から埋め戻しを行っていき、それに合わせて第5層の土も常に同じ高さを保ちつつ、順次、第4層と第5層、第3層と第5層、第2層と第5層、第1層と第5層といった具合で埋め戻しを行いながら、第5層の土を充填していった可能性を指摘したい。ではなぜ、第5層のスペースが設けられたのか。

表現の順序が逆にはなるが、埋め戻しを行うに際し、まず節を抜き取ったと思われる竹を、井戸の底に置き(または刺し)、竹の部分の廻りに土(第5層)を充填した、と考える。

しかしその場合、竹の周囲の土のみ常に同じ土で埋める必要性があったのであろうか。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第5号井戸跡(第296・312図)

F-8グリッドに位置する。1つのピットよりも新しい。その他に重複遺構はない。平面形は円形、断面形は筒形である。開口部付近はやや開いているが、これは壁面の崩落による結果と考えられる。

本遺構は、部分的に人為的埋め戻しが行われていると推定される。

土師器の壺(1)と、青磁の碗(2)が出土している。遺構の時期は、中・近世と推定される。

第6号井戸跡(第296図)

F・G-8グリッドに位置する。重複遺構はな

い。平面形は円形、断面形は筒形である。開口部付近がやや開いているのは、開口部付近の壁面の崩落による結果と推定される。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第7号井戸跡(第297・312図)

H-8グリッドに位置する。第4号周溝状遺構、第5・21号溝跡、第10号井戸跡よりも新しい。平面形は円形、断面形はロート状である。危険防止のため、完掘には至らなかった。開口部付近がやや開いているのは、開口部付近の壁面の崩落による結果であると推定される。

部分的に、人為的埋め戻しと推定される土層が見受けられた。

本遺構は、今回確認された中でも、規模の大きな部類に含まれる。

土師器壺の破片(3)が1点出土した。遺物は流れ込みと考えられるため、時期決定には至らなかったが、中・近世の可能性が高いと考えられる。

第8号井戸跡(第298・321図)

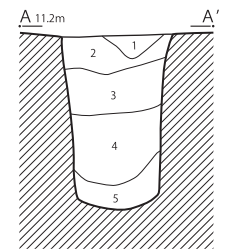
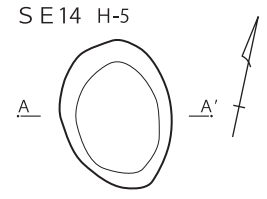
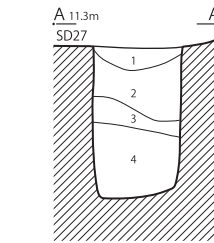
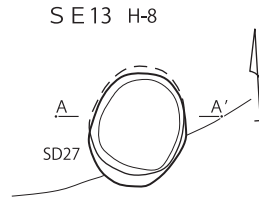
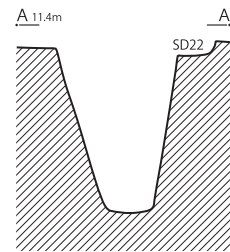
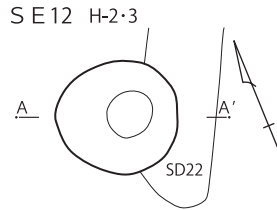
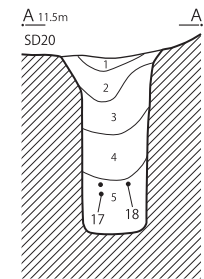
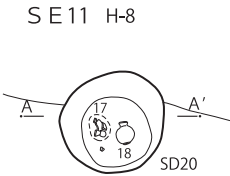
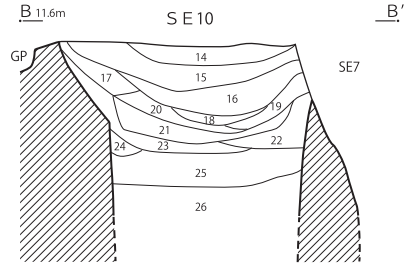
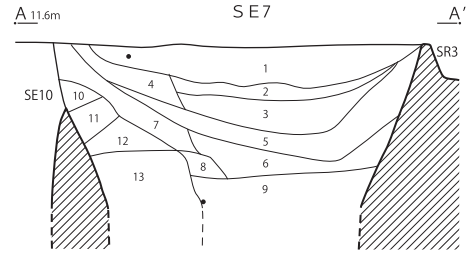
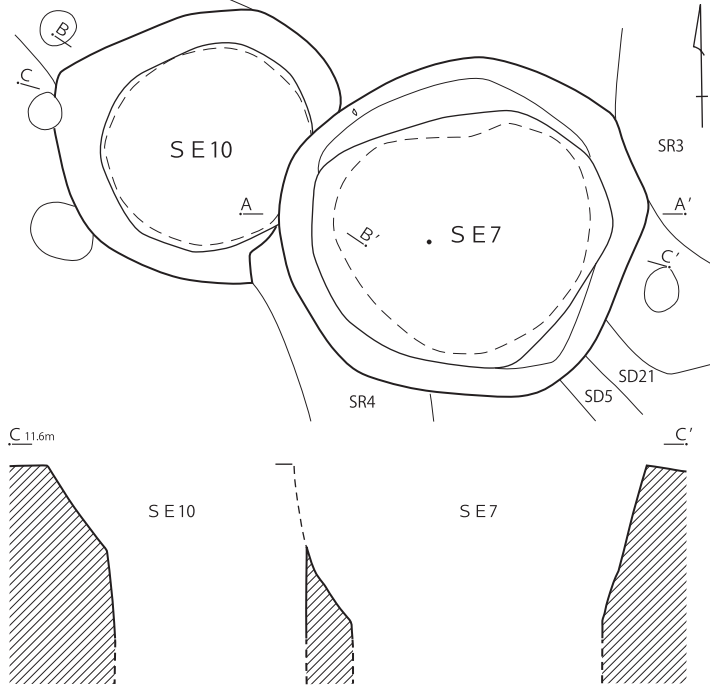
G-8グリッドに位置する。第70号溝跡、第9号井戸跡より新しいと推定される。平面形は円形、断面形はロート状である。開口部が開く角度に違いがあることから、ロート状を意識して掘削されたものではなく、開口部付近の壁面が崩落した可能性が高いと考えられる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

桃の種が3点(3～5)出土した。この他には、覆土中に、加工のみられない竹と思われる小破片と、自然木が混入していた。遺構の時期は不明である。

第9号井戸跡(第298・312・321図)

G-7・8グリッドに位置する。第10号溝跡より新しく、第8号井戸跡より古いと推定される。開口部の平面形は円形であるが、井戸側内は方形で

SE7・10 H-8 G・H-7・8



SE7・10

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm)・焼土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 少
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 少 炭化物粒子・灰多
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 少 炭化物粒子・灰多 焼土粒子を不均一に少 埋戻し土か
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 少 炭化物粒子・灰多 埋戻し土か
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) を不均一に少
- 6 褐色土 黄褐色粘土ブロック (2 ~ 3 cm) を不均一に少 埋戻し土
- 7 褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm)・焼土粒子少
- 8 褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 少 粘性弱
- 9 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) を不均一に少 埋戻し土
- 10 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 少
- 11 黄褐色粘土 黄褐色粘土ブロック少
- 12 黄褐色粘土 黄褐色粘土ブロック・褐色土ブロック (1 cm) 多
- 13 黄褐色粘土 黄褐色粘土ブロック少
- 14 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) を不均一に多 埋戻し土
- 15 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) を不均一に多 埋戻し土
- 16 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 少
- 17 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) を不均一に多 埋戻し土
- 18 黒灰色土 暗灰色土ブロック (1 cm)・炭化物粒子少
- 19 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2 ~ 3 cm) を均質に少
- 20 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 少 褐鉄鉱多
- 21 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) を均質に少
- 22 暗灰色土 黄褐色粘土ブロック少

- 23 黄灰色土 黄灰色粘土ブロック (1 cm)・黄褐色粘土ブロック (1 cm)・砂粒少
- 24 暗灰色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 少
- 25 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 少
- 26 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 少

SE11

- 1 褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.1 cm) 多
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 cm)・黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 cm)・黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少 有機質多
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少

SE13

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2 ~ 3 cm) 多 埋戻し土
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2 ~ 3 cm) を不均一に少 埋戻し土
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2 ~ 3 cm) 多 埋戻し土
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) を疎らに少 有機質多 粘性強

SE14

- 1 黒灰色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 3 cm) 多
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量 炭化物少
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量 炭化物を均質に少
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少
- 5 黒褐色土 緑灰色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) 少

第297図 井戸跡 (2)

あり、断面形はロート状を呈す。危険防止のため、完掘には至らなかった。

本遺構は、井戸側内面に竹とみられる植物を縦方向に配し、さらにロート状に開口する直前の部分には、5本の板状の木製品が1段ではあるが配置されていた。その内の1本は鴨居を用いた転用材で、他の横棧の長さに合わせて切断されたものであった。この横棧は、井戸側内に配された竹材の抑えとして設置されたものと考えられる。井戸枠として用いられているのは6点であるが、鴨居の転用材（ヒノキ）以外はいずれも樹種はクリであった。本遺構からは、この他の木製品として、ヘラ状木製品（スギ・エノキ属）、半球状木製品（コナラ属アカガシ亜属）のほか、用途不明木製品（コナラ属アカガシ亜属）等が出土している。

木製品以外の遺物として、在地産と推定される鉢（4）と常滑産の大甕の破片（5）、および用途不明の棒状鉄製品（6）が出土している。本遺構の時期は中世と考えられる。

第10号井戸跡（第297・312図）

G・H-7・8グリッドに位置する。第4号周溝状遺構より新しく、第7号井戸跡より古いが、ピットとの新旧関係については確認できなかった。平面形は円形、断面形はロート状である。危険防止のため、完掘には至らなかった。開口部付近がやや開いているのは、ロート状を意識して掘削したためであるのか、あるいは開口部付近の壁面の崩落による結果であるのか特定できなかった。

部分的に、人為的埋め戻しと推定される土層が見受けられた。

本遺構は、今回確認された中でも、比較的規模の大きな部類に含まれる。

土師器壺の小破片（7）が1点出土した。遺物は流れ込みと考えられるため、時期決定には至らなかった。

第11号井戸跡（第297・312図）

H-8グリッドに位置する。第20号溝跡より新

しい。平面形は円形、断面形は筒形である。危険防止のため、完掘には至らなかった。

本遺構は、今回確認された中でも、径の小さな部類に含まれる。

覆土中から、胴部（焼成後）穿孔された完形の土師器壺（18）が出土した。出土状況からみて、この土器は埋納されたと推定される。井戸の底面より上位から出土したのは、井戸内に土器を埋納する時点で、その位置まで埋まっていた可能性と、井戸を埋める過程で据えられた可能性とが考えられるが、特定することはできなかった。この他に、土師器壺の破片1点（17）が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期と推定される。

第12号井戸跡（第297・312図）

H-2・3グリッドに位置する。第22号溝跡と重複しているが、新旧関係を確認することはできなかった。平面形は楕円形、断面形は開口部に向かって広がる筒形である。開口部がやや開くのは、開口部付近の壁面が崩落した結果と考えられる。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。

瓦質土器の播鉢が1点（8）出土した。遺構の時期は中世と推定される。

第13号井戸跡（第297図）

H-8グリッドに位置する。第27号溝跡より新しい。平面形は楕円形、断面形は筒形である。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。

また、人為的に埋め戻されていると推定される。遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第14号井戸跡（第297図）

H-5グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形、断面形は筒形である。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。南北に長いのは、壁面の崩落によると推定される。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第15号井戸跡 (第298図)

H-4・5グリッドに位置する。第26号溝跡より新しい。平面形は隅丸方形、断面形は塊形である。

一部、人為的埋め戻しと考えられる土層が認められた。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。

井戸として扱ったが、深度が小さいため土壌の可能性も否定できない。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第16号井戸跡 (第298・312図)

I-8グリッドに位置する。第32・41号溝跡より新しい。深度に比べ、径は大規模である。平面形は円形、断面形は筒形である。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。底面中央寄りにピット状の掘り込みがみられるが、水溜としての機能を有したと推定される。一部、人為的埋め戻しと考えられる土層が認められた。

瓦質の鉢(9)と陶器の皿(10)が出土した。皿は瀬戸・美濃系の志野で、時期は16世紀末～17世紀初めと推定される。

第17号井戸跡 (第298図)

H-8グリッドに位置する。第27号溝跡より新しく、第29号溝跡より古い。平面形は楕円形、断面形は筒形である。

本遺構は、今回確認された中でも、径の小さな部類に含まれる。

遺物は出土しなかった。遺構の時期は不明であるが、中世の可能性が高いと考えられる。

第18号井戸跡 (第299図)

I-7グリッドに位置する。第9号周溝状遺構より新しい。平面形は楕円形、断面形は筒形であ

る。危険防止のため、完掘には至らなかった。

一部、人為的埋め戻しと考えられる土層が認められた。

本遺構は、今回確認された中でも、径の小さな部類に含まれる。

遺物は出土しなかった。遺構の時期は不明であるが、中世の可能性が高いと考えられる。

第19号井戸跡 (第299・312図)

J-7グリッドに位置する。第10号周溝状遺構より新しく、第32号溝跡より古い。平面形は楕円形、断面形はロート状である。開口部付近がやや開いているのは、ロート状を意識して掘削したためであるのか、あるいは開口部付近の壁面の崩落による結果であるのか特定できなかった。しかし、可能性としては、前者の方が高いと思われる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

第5層から木製品が出土したが、断片であること、劣化が著しいことから、図化には至らなかった。

土師器の埴(19)が出土している。しかし、遺物は流れ込みと考えられるため、時期決定には至らなかった。

第20号井戸跡 (第299・312図)

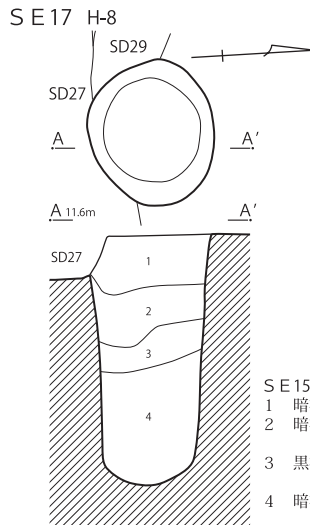
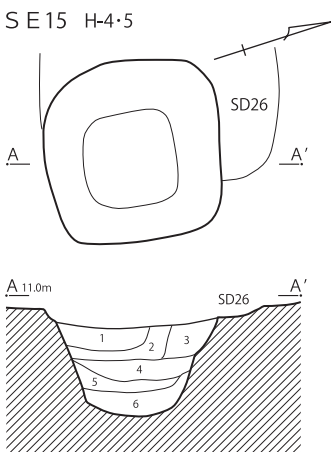
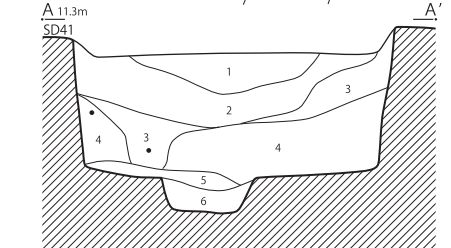
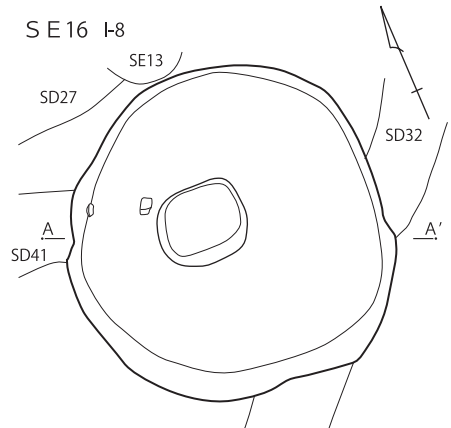
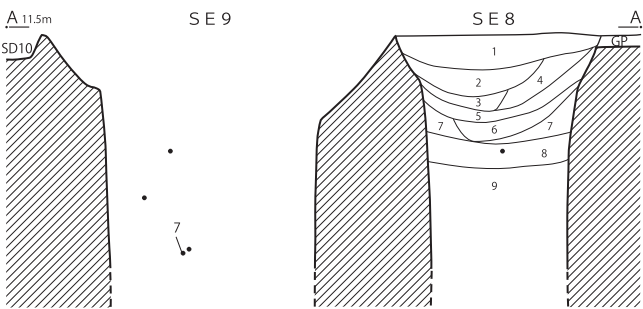
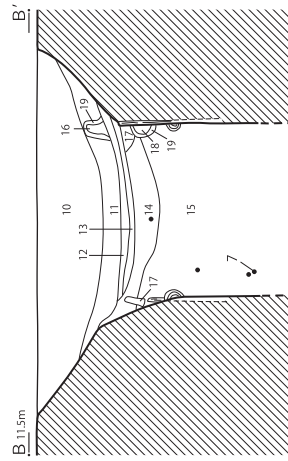
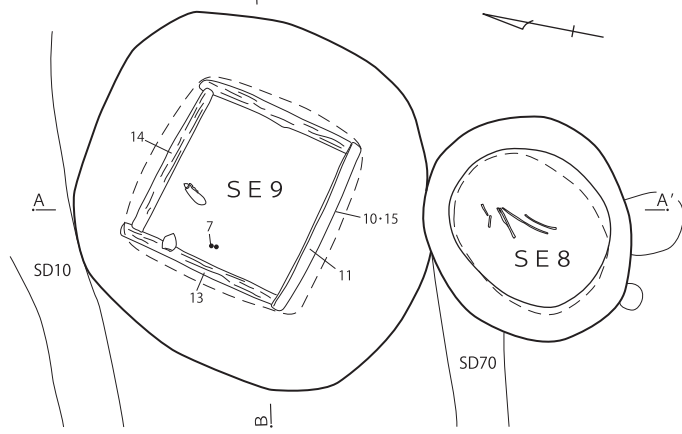
J-6グリッドに位置する。第10号周溝状遺構より新しい。平面形は円形、断面形はロート状に近い。底面は平坦ではなく、中央がやや窪む。開口部付近がやや開いているのは、ロート状を意識して掘削したためであるのか、あるいは開口部付近の壁面の崩落による結果であるのか特定できなかった。しかし、可能性としては、後者の方が高いと思われる。

瀬戸美濃系の陶器碗(11)が出土している。遺物の時期は、18世紀後葉～19世紀中葉と考えられる。遺構の時期は、中・近世と推定される。

第21号井戸跡 (第299図)

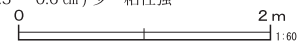
I-8グリッドに位置する。第39号土壌、第32号溝跡と重複しているが、新旧関係は確認できな

SE 8・9 G-8 G-7・8



- SE 8・9
- 1 暗褐色土 黄褐色土粘土ブロック (0.5~0.8 cm) 多 埋戻し土
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粘土ブロック (0.5~0.8 cm) 少
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粘土ブロック (1 cm) 疎ら
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粘土ブロック (1 cm) 多 埋戻し土
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粘土ブロック (1 cm) 少
 - 6 暗褐色土 黄褐色土粘土ブロック (1 cm) 多 埋戻し土
 - 7 褐色土 黄褐色土粘土ブロック (1 cm) 少 しまり弱
 - 8 暗褐色灰色土 緑灰色粘土粒子 (0.2~0.3 cm) 少 しまり弱
 - 9 暗褐色灰色土 緑灰色粘土粒子 (0.2~0.3 cm) 均質に少 8層より暗い しまり弱
 - 10 暗褐色土 褐色土ブロック (0.5 cm) 微量
 - 11 暗褐色土 炭化物粒子少 焼土粒子・黄褐色粘土粒子 (0.3~0.5 cm) 微量
 - 12 明暗褐色土 焼土粒子微量
 - 13 褐色土 焼土粒子少 しまりやや強
 - 14 灰褐色土 有機物少 しまり弱
 - 15 青灰色土 黄褐色粘土粒子 (0.2~0.3 cm) 微量
 - 16 暗褐色粘土 黄褐色粘土粒子少 粘性強
 - 17 暗褐色土 黄褐色土粒子少
 - 18 暗褐色土 黄褐色土粒子少 木片少
 - 19 褐色土 黄褐色土粒子少 木片少

- SE 15
- 1 暗褐色土 褐色土ブロック (0.5 cm) 微量
 - 2 暗褐色土 褐色土粒子 (0.2~0.3 cm) 多
 - 3 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3~0.5 cm) やや多
 - 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm・1.5~4 cm) 多 不均一に少 埋戻し土
 - 5 黒褐色土 焼土粒子 (0.2 cm) 微量 黄褐色粘土ブロック (0.2~0.8 cm) やや多
 - 6 青灰色粘土 褐色土粒子 (0.2~0.4 cm)・青灰色粘土ブロック (0.5 cm) 微量 褐色土粒子少
- SE 16
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.2~0.8 cm・7 cm) やや多
 - 2 暗褐色土 焼土ブロック (0.5 cm) 少
 - 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5~1.5 cm)・焼土ブロック (0.5~1 cm) 多
 - 4 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~20 cm) 不均一に少 埋戻し土
 - 5 暗青灰色粘土 焼土粒子 (0.2~0.5 cm)・焼土ブロック (3 cm) 少
 - 6 暗青灰色粘土 暗褐色土ブロック少
- SE 17
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~5 cm) やや多 焼土粒子 (0.3 cm) 少
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~6 cm)・炭化物少
 - 3 灰褐色土 褐色粘土粒子 (0.2~0.5 cm)・褐色土粘土ブロック (3 cm) 多 粘性強
 - 4 灰褐色土 褐色土ブロック (0.3~0.6 cm) 少 粘性強



第298図 井戸跡 (3)

かった。平面形は隅丸方形、断面形は筒形である。黒褐色粘土が層状ではなく、ブロック状に含まれている層があり、埋め戻しが行われたと推定される。本遺構は、今回確認された中でも、径・深度ともに小さな部類に含まれる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第22号井戸跡 (第299図)

I-6グリッドに位置する。第43号溝跡よりも古いと思われる。第2号掘立柱建物跡との新旧関係は確認できなかった。平面形は円形、断面形は筒形である。底面は平坦ではなく、中央がやや窪みを有する。

褐色粘土が層状ではなく、ブロック状に含まれている層があり、埋め戻しが行われたと推定される。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度ともに小さな部類に含まれる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第23号井戸跡 (第299図)

I-5グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は円形、断面形は筒形である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第24号井戸跡 (第299図)

I-7グリッドに位置する。第42号溝跡より古いと推定される。平面形は円形、断面形は開口部にむかってやや広がる筒形である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第25号井戸跡 (第299・312図)

J-5・6グリッドに位置する。第12号周溝状遺構より新しい。平面形は楕円形、断面形は筒形である。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度とも小さな部類に含まれる。

瀬戸・美濃系の陶器皿が2点(12・13)出土した。12は小皿で、内外面ともに灰釉が施されている。数は少ないが、気泡が認められる。17世紀後半か。13は志野と考えられる皿で、全面に長石釉が施され、畳付・高台内にまで及んでいるが、部分的に無釉の部分もある。器面には多数の気泡がみられる。削り出し高台。口縁部内面に一重圈線、見込みに二重圈線が、鉄釉によって筆描きされており、焼成時の円錐ピン跡が1箇所認められる。見込みと口縁部外面に黒ずみがあり、断面にまで及んでいる。二次的被熱はない。灯明皿に転用された可能性が考えられる。16世紀末～17世紀前半。遺構の時期は、近世前期と推定される。

第26号井戸跡 (第300図)

I-5グリッドに位置する。第12号周溝状遺構より新しい。平面形は円形、断面形は筒形である。危険防止のため、完掘には至らなかった。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第27号井戸跡 (第300図)

J-5グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形、断面形は筒形である。上位3分の1は、人為的埋め戻しが行われていると推定される。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

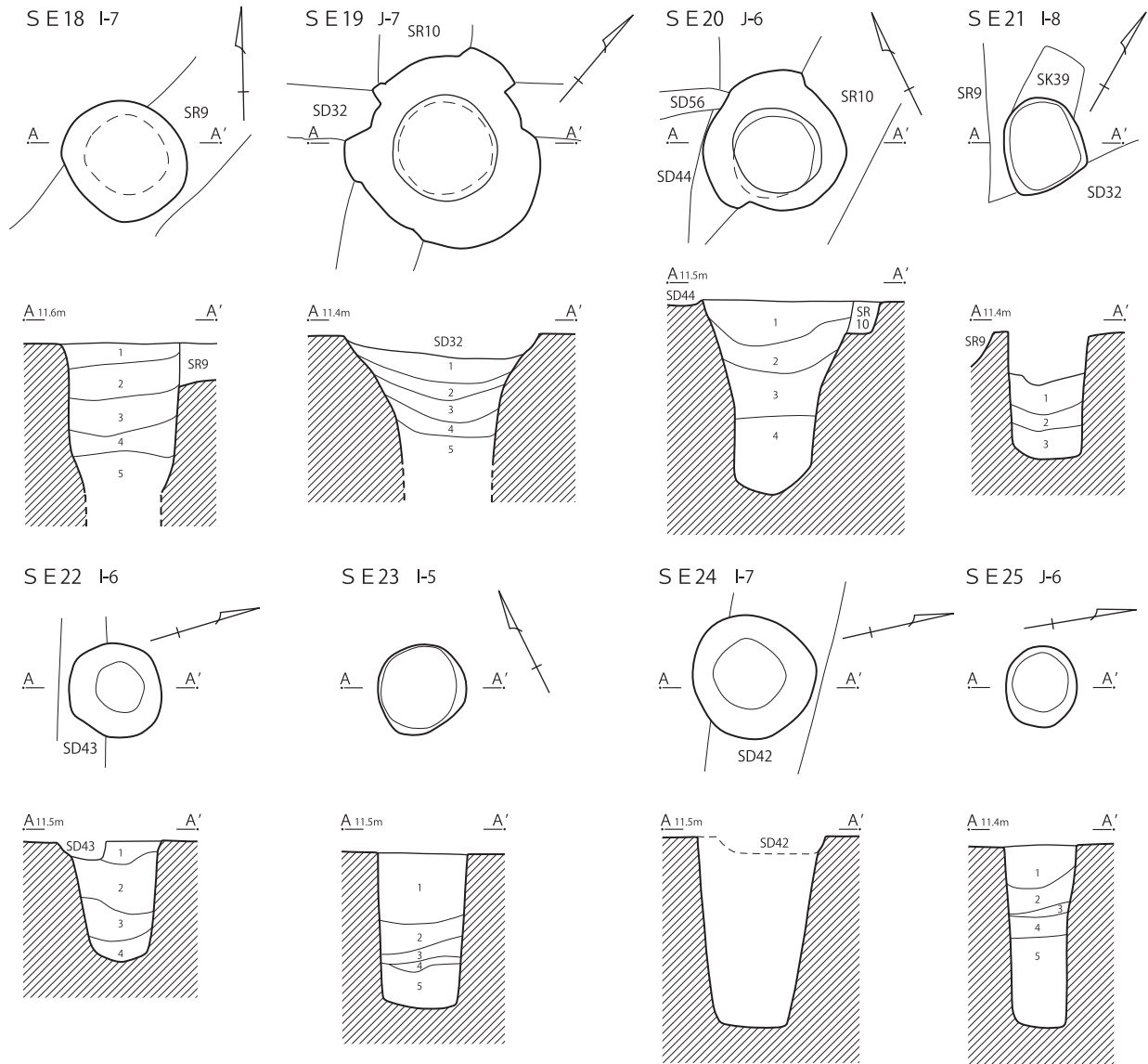
第28号井戸跡 (第300・312図)

J-6グリッドに位置する。第10号周溝状遺構より新しく、第32号溝跡よりも古い。平面形は楕円形、断面形はU字形である。開口部がやや開くのは、開口部付近の壁面が崩落した結果と考えられる。

一部、人為的埋め戻しと考えられる土層が認められた。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。

土師器の壺(20)が出土している。遺構の時期は、



- SE 18**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 多
褐色土粒子 (0.3 cm)・炭化物粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) やや多
焼土粒子 (0.3 ~ 0.4 cm) 微量
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm)・黄褐色粘土ブロック (1 ~ 3 cm)・
褐色土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm)・褐色土ブロック (1 cm) やや多
焼土粒子 (0.2 cm) 微量 炭化物粒子 (0.2 cm) 多
 - 3 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 少
褐色土ブロック (0.2 ~ 0.7 cm)・焼土ブロック (0.5 cm) 微量
 - 4 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 cm)・黄褐色粘土ブロック (2 ~ 5 cm) 多
ブロックが不均一に混入 埋戻し土
 - 5 青灰色粘土 褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 微量
- SE 19**
- 1 暗褐色土 褐色土ブロック (0.7 cm) 多
 - 2 暗褐色土 褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) やや多
 - 3 暗灰褐色土 褐色土ブロック (1 cm) 微量 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm・2 cm) 少
 - 4 暗灰褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm)・黄褐色粘土ブロック (1 cm) やや多
 - 5 暗灰褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少 粘性やや強 木製品出土
- SE 20**
- 1 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm)・焼土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) 少
 - 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 5 cm) やや多 焼土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) 微量
 - 3 暗灰色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm・1 cm) やや多
 - 4 暗灰色粘土 黒色土粒子 (0.4 cm) 多
- SE 21**
- 1 褐色土 黒褐色土ブロック (5 cm) やや多 ブロックが不均一に混入 埋戻し土
 - 2 褐色土 褐色粘土ブロック (1 ~ 1.5 cm) 多
 - 3 暗褐色土 褐色粘土ブロック (1 ~ 1.5 cm) やや多 粘性やや強

- SE 22**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 少
褐色土粒子 (0.1 ~ 0.4 cm) やや多
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm)・
黄褐色粘土ブロック (2 ~ 5 cm) 多
褐色土ブロック (0.5 ~ 1 cm) やや多 埋戻し土
 - 3 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm)・褐色土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 多
 - 4 灰褐色粘土 褐色粘土ブロック (1 cm) 多 粘性強
- SE 23**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm)・褐色土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm)・
褐色土ブロック (4 ~ 7 cm) 少
 - 2 暗褐色土 褐色土粒子 (0.2 cm) 微量
 - 3 暗褐色土 褐色土ブロック (0.4 ~ 0.7 cm) 少
 - 4 青灰色粘土 黄褐色粘土ブロック (0.3 ~ 1.5 cm) 多 粘性強
 - 5 黒褐色土 褐色土粒子 (0.2 cm) やや多 粘性やや強
- SE 25**
- 1 褐色土 黄褐色粘土ブロック (5 ~ 10 cm) 少
炭化物ブロック (0.2 ~ 0.7 cm) やや多
 - 2 褐色土 炭化物粒子 (0.2 cm) 少
 - 3 黄褐色土 酸化土からなる層 しまり強
 - 4 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 1.5 cm) 少
 - 5 暗灰色土 有機物少

第299図 井戸跡 (4)

古墳時代前期と推定される。

第29号井戸跡 (第300図)

I-5グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形、断面形はロート状である。開口部付近がやや開いているのは、ロート状を意識して掘削したためであるのか、あるいは開口部付近の壁面の崩落による結果であるのか特定できなかった。しかし、可能性としては、後者の方が高いと思われる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第30号井戸跡 (第300図)

K-4グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形、断面形は筒形である。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第31号井戸跡 (第300図)

K-4グリッドに位置する。第47号溝跡より新しいと推定される。平面形は楕円形、断面形は筒形と推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の大きな部類に含まれる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第32号井戸跡 (第300図)

K-5グリッドに位置する。重複遺構はない。南半部は調査区外に続いている。平面形は円形と推定される。断面形は壜形である。

黄褐色粘土ブロックが、均質ではなく斑に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると推定される。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

第33号井戸跡 (第301・312・322図)

K-6グリッドに位置する。第34・35号井戸跡より新しいが、第32号溝跡との新旧関係は不明である。平面形は楕円形、断面形は逆台形である。

陶器の鉢(15)と、鉢または土鍋と思われる瓦質土器(14)が出土している。二次的被熱はない。またこの他に、スギ製の板状木製品が1点(16)検出されている。遺構の時期は、近世と推定される。

第34号井戸跡 (第301図)

K-6グリッドに位置する。第35号井戸跡より新しく、第33号井戸跡よりも古い。平面形は楕円形、断面形は逆台形である。

黄褐色粘土ブロックが、均質ではなく斑に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると推定される。

遺物は出土しなかった。しかし、近世の第35号井戸跡を壊し、同じく近世の第33号井戸跡に壊されていることから、本遺構の時期は、近世と推定される。

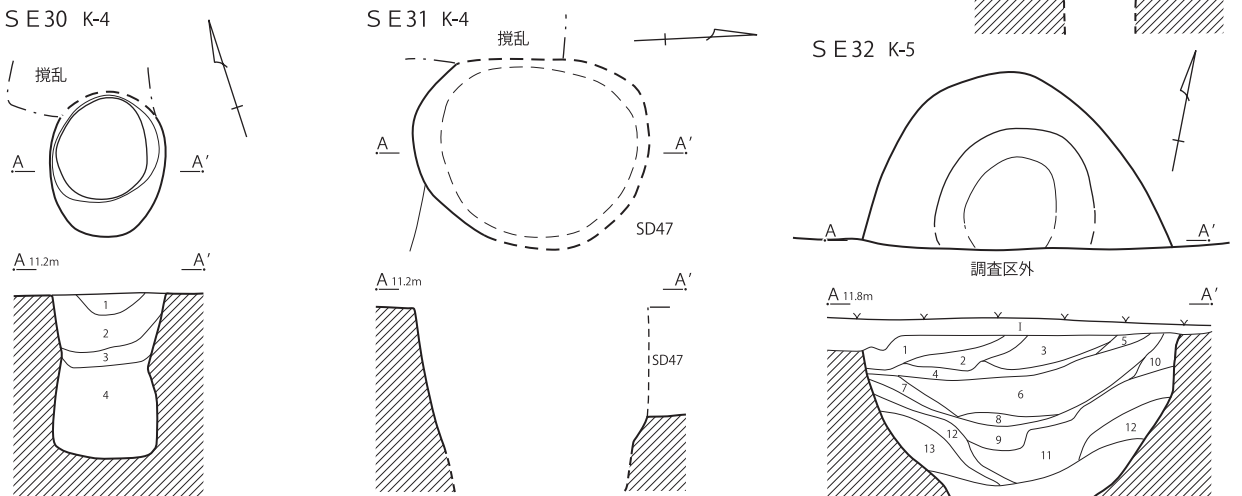
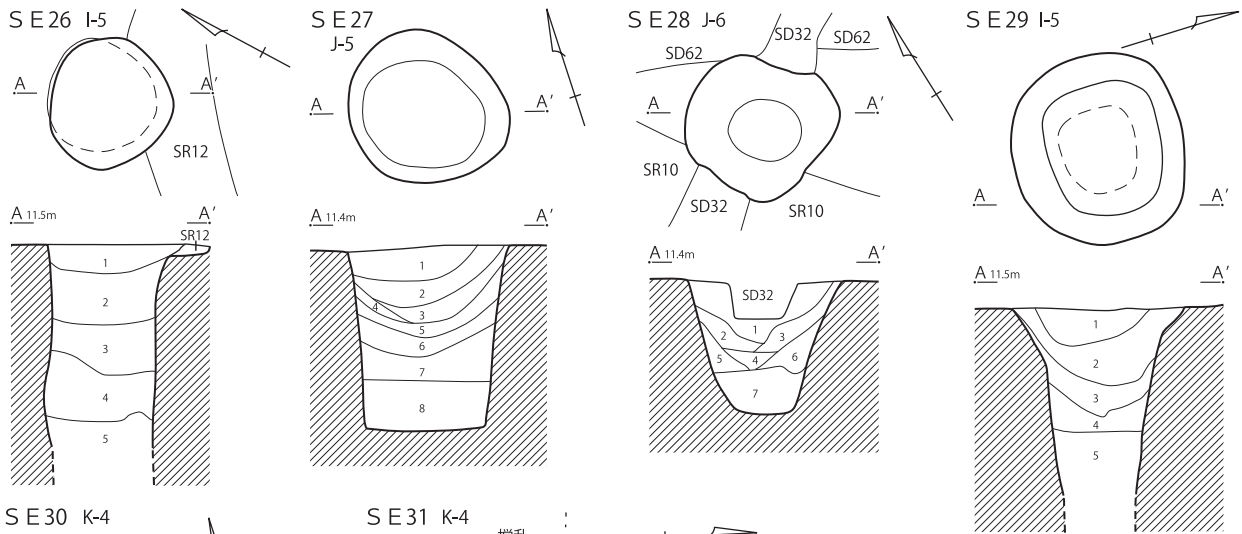
第35号井戸跡 (第301・312・322図)

K-5・6グリッドに位置する。第33・34号井戸跡より古いが、第32号溝跡との新旧関係は不明である。平面形は楕円形、断面形は逆台形であるが、底部中央に水溜(第21・22層部分)をもつ。但し、この水溜は土層断面上で確認できたものであり、平面図には図示されていない。

黄褐色粘土ブロックが、均質ではなく斑に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると推定される。

瀬戸・美濃系の陶器皿が1点(16)出土している。灰釉は内面～高台内の一部にまで及んでおり、施釉部分には貫入(多)・気泡が認められる。見込みには、円錐ピンがみられる。見込みと口縁部外面に黒ずみがあり、断面にまで及んでいる。二次的被熱はない。17世紀後半のものと考えられる。

またこの他に、木製品3点(17～19)と鉄滓1点(22)が出土している。17と18は柄杓の容器部分



- SE 26**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm)・褐色粘土ブロック (1 cm) 少 焼土粒子 (0.2 cm) 微量
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1~2 cm)・褐色粘土ブロック (0.5 cm) やや多 有機物少
 - 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) やや多 有機物少
 - 4 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5~1 cm) 多
 - 5 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2~0.4 cm) 多

- SE 27**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1~2 cm) 不均一に含む 埋戻し土
 - 2 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (1~2 cm) 不均一に多 埋戻し土
 - 3 黒褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.3~0.5 cm) 均質に含む 埋戻し土
 - 4 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック (1 cm) を互層状に含む
 - 5 黒灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.3~0.5 cm) 少
 - 6 黒灰色土 黒色土と緑灰色粘土の混土層
 - 7 灰色土 黒色土と灰色粘土の混土層
 - 8 黒灰色土 灰色粘土との混土層 シルト質

- SE 28**
- 1 黒色土 黄褐色粘土ブロック (1~3 cm) 少
 - 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) やや多 褐色粘土ブロック (0.5 cm) 微量
 - 3 黄褐色土 黒色土ブロック (0.7 cm) やや多 褐色粘土粒子 (0.2~0.5 cm) 微量
 - 4 黒色土 黄褐色粘土粒子 (0.2~0.4 cm) 微量
 - 5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5 cm) やや多 黄褐色粘土粒子 (0.2~0.4 cm)・褐色粘土粒子 (0.2~0.4 cm)・褐色土ブロック (0.5 cm) 多
 - 6 黄褐色土 黒色土ブロック (0.3~1 cm) 少 しまり強
 - 7 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~10 cm) やや多 黄褐色粘土粒子 (0.2~0.5 cm) 多 褐色粘土ブロック (0.3~0.7 cm) やや多 埋戻し土

- SE 29**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~10 cm) 多 黒色土ブロック (3 cm) 少
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.2~1 cm) 微量
 - 3 暗灰色土 褐色粘土粒子 (0.2~0.5 cm) 多 褐色粘土ブロック (2 cm) やや多
 - 4 暗灰色土 褐色粘土粒子 (0.2~0.4 cm) やや多
 - 5 青灰色土 有機物少 粘性やや強

- SE 30**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~8 cm)・褐色土ブロック (0.5 cm) 多
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2~0.4 cm) 多
 - 3 青灰色土 黄褐色粘土ブロック (0.5~0.8 cm) 多 灰褐色粘土ブロック (1 cm) やや多 褐色粘土粒子 (0.3~0.5 cm) 微量
 - 4 青灰色土 褐色粘土粒子 (0.3~0.5 cm) 微量

- SE 32**
- 1 灰褐色土 耕作土
 - 1 褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.6~0.9 cm) 微量 しまり弱
 - 2 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2~0.5 cm)・黄褐色粘土ブロック (1 cm) 多 しまり弱 埋戻し土
 - 3 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm)・炭化物ブロック (0.5~0.7 cm) 微量 黒色土ブロック (1 cm) 少
 - 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.7 cm) 多 灰褐色粘土ブロック (1 cm) やや多
 - 5 褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) 少 灰褐色粘土ブロック (0.5~1.5 cm) 微量
 - 6 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.7 cm)・褐色粘土粒子 (0.2~0.5 cm)・褐色粘土ブロック (1~4 cm) やや多
 - 7 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.6 cm) 微量 灰褐色粘土粒子 (0.2~0.5 cm) 少
 - 8 黒色土 褐色粘土粒子 (0.2~0.5 cm) 少
 - 9 暗灰色土 黄褐色粘土粒子 (0.1~0.3 cm)・灰褐色粘土ブロック (0.5 cm)・褐色粘土粒子 (0.2 cm) 多
 - 10 褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5~0.7 cm) やや多 しまりやや強
 - 11 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm・2~8 cm)・灰褐色粘土ブロック (0.5 cm)・褐色粘土ブロック (0.2~0.7 cm) 多 埋戻し土
 - 12 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (3 cm) 少 灰褐色粘土ブロック (1 cm) やや多
 - 13 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (10 cm) 多
 - 14 青灰色粘土 黄褐色粘土ブロック (10~20 cm) 多
 - 15 青灰色粘土 黄褐色粘土ブロック (0.5~0.8 cm) やや多 粘性強

第300図 井戸跡 (5)

(曲物)で、ともにヒノキ製である。柄の部分は検出されなかった。19は建築材と推定される棒状製品(クマシデ属イヌシデ節)である。遺構の時期は、近世と推定される。

第36号井戸跡(第301図)

K-6グリッドに位置する。第60号溝跡より古いと推定される。平面形は円形、断面形は筒形である。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度ともに規模の小さな部類に含まれる。

遺物は出土しなかった。遺構の時期は不明であるが、中世の可能性が高いと考えられる。

第37号井戸跡(第301・312図)

I-8グリッドに位置する。第6号周溝状遺構、第32・41号溝跡、第38号土壇よりも古い。平面形は楕円形、断面形はロート状である。開口部付近の壁面が崩落した結果、ロート状になったのではなく、意図的にロート状に掘削されたと考えられる。

本遺構は、今回確認された中でも、径の規模が最大級の部類に含まれる。

黄褐色粘土ブロックが、均質ではなく斑に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると推定される。

土師器の壺(21)が1点出土している。遺構の時期は古墳時代前期と推定される。

第38号井戸跡(第302図)

J-8・9グリッドに位置する。北側部分は、調査区外に続く。第43号井戸跡より新しいと推定される。平面形は円形または楕円形、断面形はロート状と推定される。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。

遺物は出土しなかった。遺構の時期は不明であるが、中世の可能性が高いと考えられる。

第39号井戸跡(第301・313・323図)

J-9グリッドに位置する。重複遺構はない。

平面形は楕円形、断面形はロート状に近い。ロート状を呈すのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。

土師器の台付甕1点(23)、と木製(スギ)の椅子(20)が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期と推定される。

第40号井戸跡(第302図)

I-9グリッドに位置する。第75号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形、断面形はやや開く筒形である。開口部が開くのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度ともに規模の小さな部類に含まれる。

土師器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。遺構の時期は不明であるが、古墳時代前期の可能性が考えられる。

第41号井戸跡(第302・313図)

J-9グリッドに位置する。第88号溝跡よりも新しい。平面形は不整形、断面形はロート状に近い。ロート状を呈すのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。

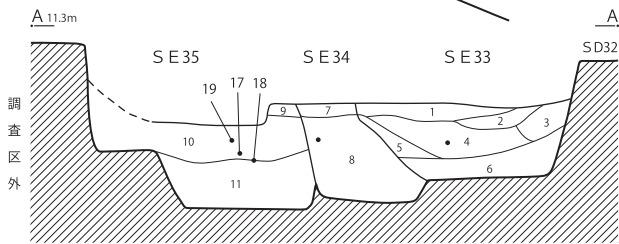
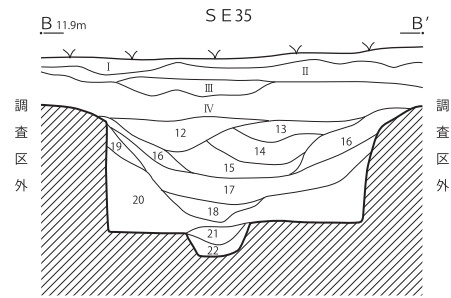
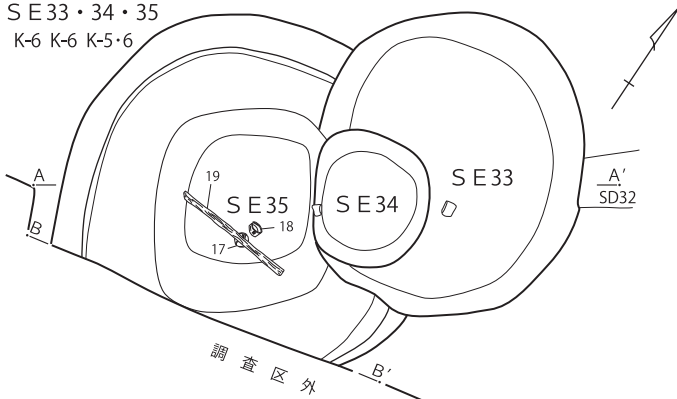
本遺構は、今回確認された中でも、深度の小さな部類に含まれる。自然堆積と考えられる。

土師器の埴や壺など、計4点(24~27)が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期と推定される。

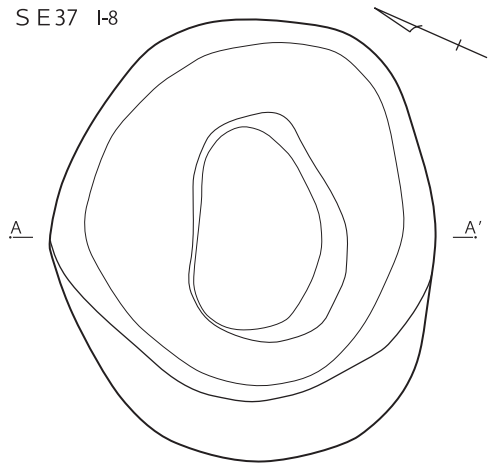
第42号井戸跡(第302・313図)

J-10グリッドに位置する。第21号周溝状遺構、第14号掘立柱建物跡よりも古い。平面形は楕円形、断面形はロート状に近い。ロート状を呈すのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。

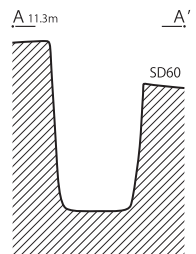
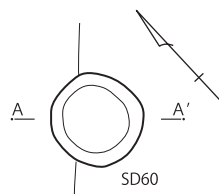
SE33・34・35
K-6 K-6 K-5・6



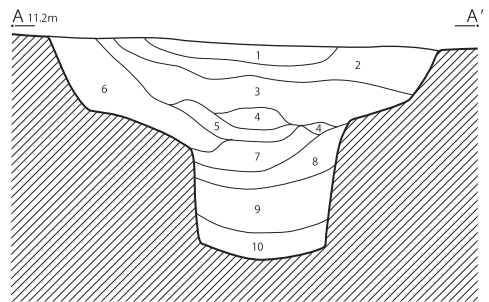
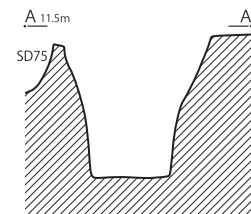
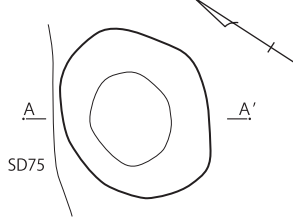
SE37 I-8



SE36 K-6



SE39 J-9



0 2m
1:60

SE33・34・35

- I 灰褐色土 耕作土
- II 灰褐色土 浅間A軽石・焼土粒子・炭化物粒子少
- III 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多 古墳時代包含層
- IV 黄灰色土 黄灰色粘土ブロック・鉄分粒子多
- 1 褐色土 褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多 酸化土少 しまり強
- 2 暗褐色土 褐色粘土粒子(0.2~0.4cm)微量 粘性強
- 3 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック(5~10cm)多 シルト質
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.6cm)多 シルト質
- 5 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック(1cm)少 粘性強
- 6 暗褐色土 青灰色粘土ブロック(2~10cm)少
- 7 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)少 しまり強
- 8 褐色土 褐色粘土ブロック(0.7cm)微量
- 9 暗褐色土 灰褐色粘土ブロック(2~5cm)やや多 酸化土少 粘性強
- 10 暗褐色土 褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多 酸化土少 しまり強
- 11 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック(1cm)やや多 粘性強
- 12 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック(1~15cm)多
- 13 暗褐色土 IV層と近似 黒褐色土ブロック(1cm)若干
- 14 黒褐色土 黒褐色土ブロック(1cm)多
- 15 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(3~5cm)多 埋戻し土
- 16 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)を均質に少

- 17 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~1cm)多 埋戻し土
- 18 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(2~3cm)多 埋戻し土
- 19 黄褐色土 黒褐色土ブロック(0.5~0.8cm)少 埋戻し土
- 20 黄褐色土 褐色土をブロック状(1cm)疎らに少 埋戻し土
- 21 淡緑灰色土 黄褐色粘土ブロック(1cm)多 埋戻し土
- 22 淡緑灰色土 黄褐色粘土ブロック(1cm)多 埋戻し土

SE37

- 1 黄灰色土 黒褐色土ブロック(0.5~0.8cm)微量 殆ど地山と見分けがつかない 埋戻し土
- 2 黄灰色土 黒色土ブロック(1~2cm)を不均一に少
- 3 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック(3~5cm)多 部分的に粘土が密
- 4 黒褐色土
- 5 黒褐色土 黒色土ブロック少 埋戻し土
- 6 黒褐色土 黒色土ブロックやや多 埋戻し土
- 7 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック少 埋戻し土
- 8 黒褐色土 黄灰色粘土ブロックやや多 埋戻し土
- 9 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック多 埋戻し土
- 10 黒褐色土 黒色土ブロック・黄灰色粘土ブロック多 埋戻し土

第301図 井戸跡(6)

可能性としては、前者の方が高いと推定される。本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。

底部付近から、土師器の壺・台付甕などが計6点(28~33)出土している。5点は混入と考えられるが、その内の1点(30)は、出土状況からみて、意図的に置かれたものと推定される。遺構の時期は、古墳時代前期と推定される。

第43号井戸跡(第302・313図)

J-9グリッドに位置する。北側部分は、調査区外に続く。第38号井戸跡より古いと推定されるが、第41号土壙との新旧関係については確認できなかった。平面形は楕円形、断面形は開口部でやや開く筒形。開口部で開くのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、後者の方が高いと推定される。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。

瓦質土器の鉢(34)と、刀子と考えられる鉄製品(35)が出土している。遺構の時期は、中・近世と推定される。

第44号井戸跡(第302・313図)

J-11グリッドに位置する。南側部分は、調査区外に続く。第84号溝跡より新しく、第85号溝跡より古い。平面形は楕円形と推定される。断面形は開口部でやや開く筒形である。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。本遺構は、黄褐色粘土ブロックが層状ではなく、斑状態で含まれているため、人為的埋め戻しがされていると推定される。

土師器の壺が1点(36)出土しているが、混入と考えられるため、時期決定には至らなかったが、中世の可能性が高いと考えられる。

第45号井戸跡(第302図)

J-11・12グリッドに位置する。平面形は楕円形、断面形は開口部でやや開く筒形。

本遺構は、今回確認された中でも、深度が最小規模の部類に含まれる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

D区第1号井戸跡(第303・313図)

F-11グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は円形、断面形は筒形。危険防止のため、完掘には至らなかった。

完掘してはいないものの、ほぼ底面に達した時点で、土師器の壺が上(38)下(37)に重なった状態で検出された。覆土は、黒色土粒子・黄褐色土粒子のブロックや、暗褐色土ブロックを層状ではなく斑に混入していること、さらに壺の出土状況からみて、壺2点を重ねて納めた後、埋め戻されたと推測される。また、この他に炭化が著しく図化には至らなかったが、杭(モミ属)と思われる木製品が1点出土している。遺構の時期は、古墳時代前期と推定される。

D区第2号井戸跡(第303図)

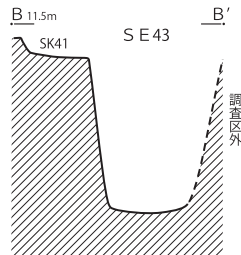
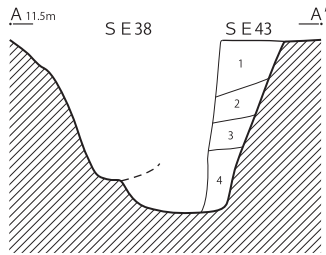
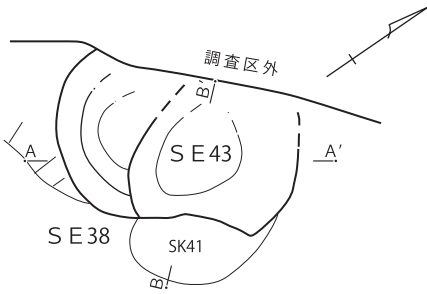
H-16グリッドに位置する。D区第13号溝跡より新しいと推定される。平面形は円形、断面形はロート状に近い。開口部で開くのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、前者の方が高いと推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。部分的(第1層)に埋め戻しが行われていると考えられる。

遺物は出土していない。遺構の時期は中・近世以前の遺構と推定される。

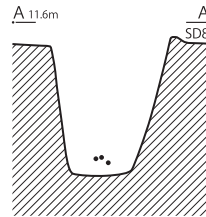
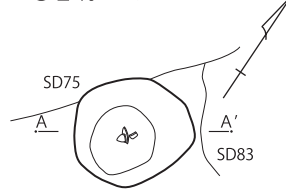
D区第3号井戸跡(第303図)

H-14グリッドに位置する。D区第2号周溝状遺構、D区第1号墳より新しいと推定される。平面形は楕円形、断面形は筒形。開口部で僅かに開くのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、後者の方が高いと推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

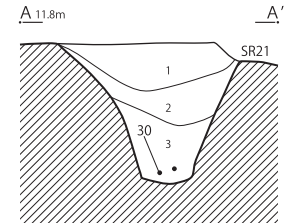
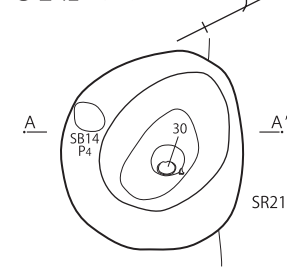
S E 38・43 J-8・9 J-9



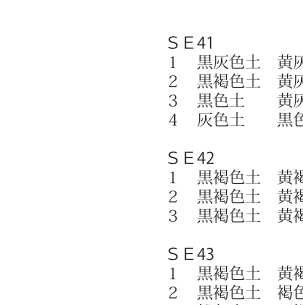
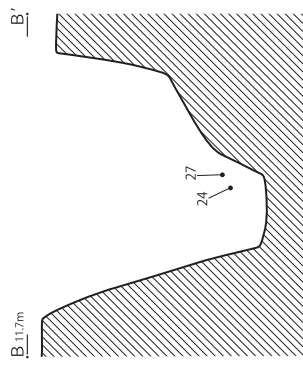
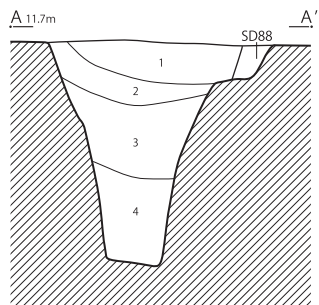
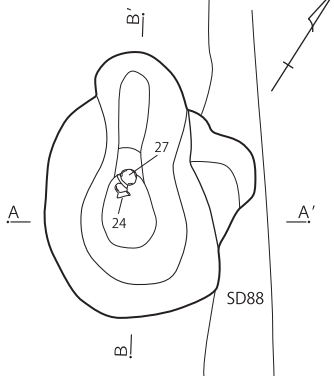
S E 40 I-9



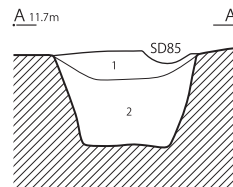
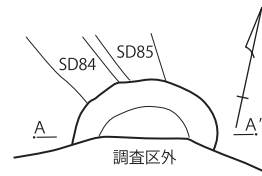
S E 42 J-10



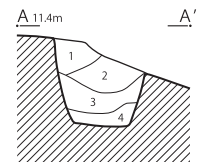
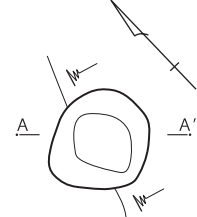
S E 41 J-9



S E 44 J-11



S E 45 J-11・12



S E 41

- 1 黒灰色土 黄灰色粘土ブロック(1cm)少 自然堆積か
- 2 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック(3cm)疎ら 自然堆積か
- 3 黒色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)疎ら 自然堆積か
- 4 灰褐色土 黒色土をブロック状に少 粘土質 自然堆積か

S E 42

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック(1~2cm)・鉄分少 土器片混入
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック(2~5cm)・赤色土粒子多
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック(1~2cm)微量

S E 43

- 1 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~5cm)やや多
- 2 黒褐色土 褐色粘土ブロック(1~3cm)やや多
- 3 橙色土 灰褐色粘土ブロック(1cm)少 シルト質
- 4 灰褐色土 橙色土ブロック(1~3cm)やや多 シルト質

S E 44

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~5cm)やや多 埋戻し土
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~10cm)多 埋戻し土

S E 45

- 1 黒褐色土 黒褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1~2cm)・鉄分多
- 2 黒褐色土 黒褐色土粒子(0.1~0.2cm)多 黄褐色土が带状に混入
- 3 黒褐色土 黒褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土粒子多
- 4 黒褐色土 黒褐色土粒子(0.1~0.2cm)多 黄褐色土ブロック(1~2cm)少



第302図 井戸跡(7)

遺物は出土していない。遺構の時期は、古墳時代後期以降の可能性が考えられる。

D区第4号井戸跡 (第303・313図)

H-14グリッドに位置する。D区第2号周溝状遺構、D区第1号墳より新しいと推定される。平面形は楕円形、断面形は筒形。開口部で僅かに開くのは、開口部の壁面が崩落した結果と判断した。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。各土層が極端に厚いという覆土の堆積状況から、埋め戻しが行われたと考えられる。

土師器の壺(39・40)と台付甕(41)が計3点出土したが、時期の特定には至らなかった。

D区第5号井戸跡 (第303・313図)

I-13グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形、断面形はロート状。開口部で開くのは、意図的な掘削の結果と推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

土師器片が3点出土したが、図化できたのは1点(42)である。遺構の時期は古墳時代前期と推定される。

D区第6号井戸跡 (第303図)

I-15グリッドに位置する。D区第2号周溝状遺構、D区第1号墳より新しいと推定される。平面形は楕円形、断面形は開口部で開く筒形。開口部で開くのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、後者の方が高いと推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。覆土は自然堆積と考えられる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、中世以降の可能性が考えられる。

D区第7号井戸跡 (第303図)

H-14グリッドに位置する。D区第2号周溝状遺構、D区第7号溝跡、D区第1号墳より新しいと推定される。平面形は楕円形、断面形は開口部

が僅かに開く筒形。開口部で僅かに開くのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、後者の方が高いと推定される。

今回確認された中では、深度の規模が小さな部類に含まれる。

黄褐色粘土ブロックが斑に混入していることから、埋め戻しが行われていると推定される。

円筒埴輪が2点出土しているが、落ち込んだものと考えられ、他の遺構との重複関係から、遺構の時期は、中・近世と推定される。

D区第8号井戸跡 (第304図)

H-16グリッドに位置する。D区第2号墳より新しいと推定される。平面形は楕円形、断面形はロート状。ロート状を呈するのは、意図的な掘削であると推定される。

遺物は出土していないが、覆土の色調から遺構の時期は中世と推定される。

D区第9号井戸跡 (第304・314図)

F-13グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形、断面形は筒形。

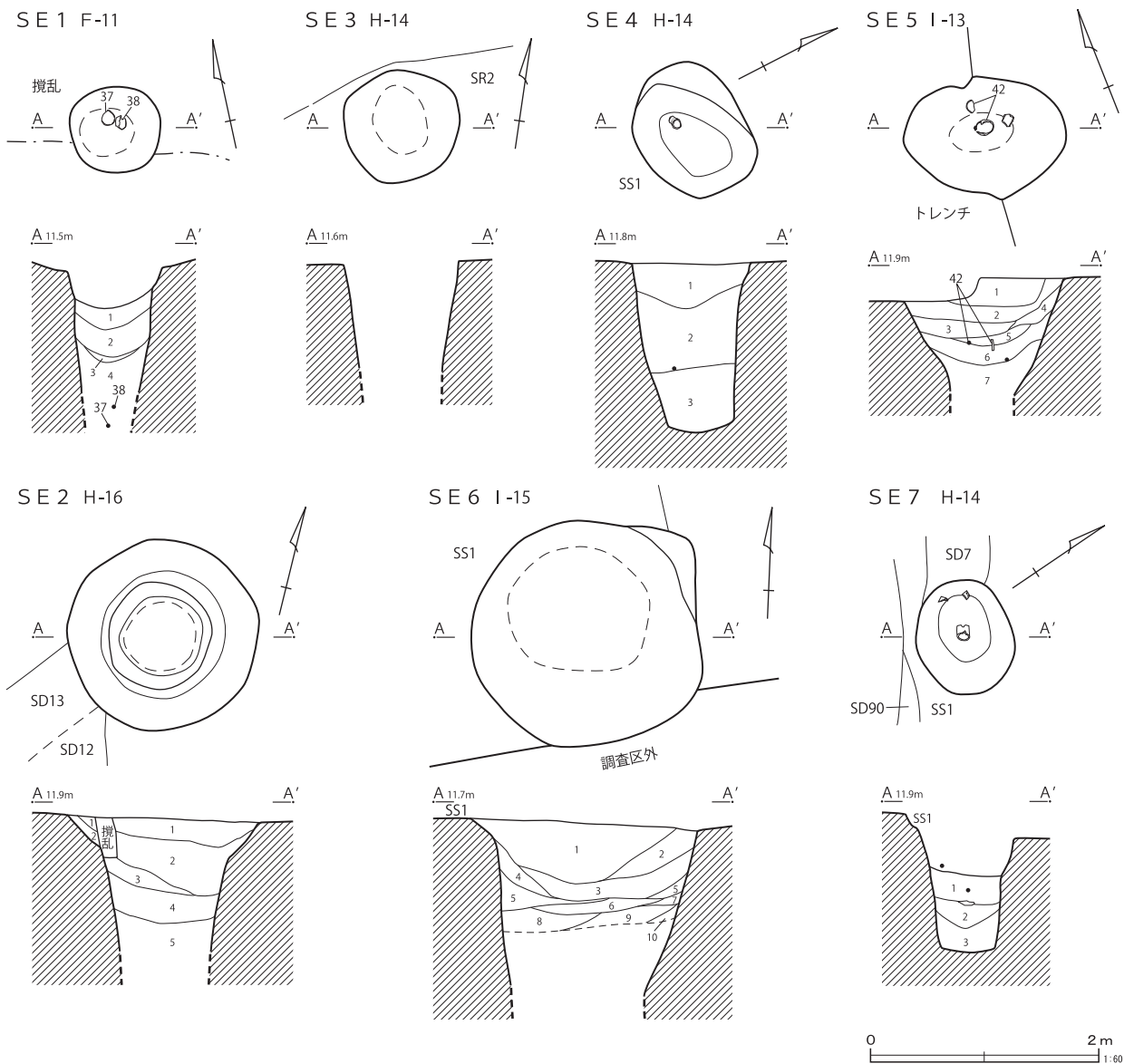
底部付近から、土師器の壺・台付甕などが計5点(47~51)出土している。1点(47)は混入と考えられるが、その他の4点(48~51)は、その出土状況からみて、意図的に置かれたものと推定される。遺構の時期は、古墳時代前期と推定される。

D区第10号井戸跡 (第304図)

G-15グリッドに位置する。D区第32号周溝状遺構より新しい。平面形は楕円形、断面形はロート状。開口部で僅かに開くのは、意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、前者の方が高いと推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

第4・5層は、黄褐色土ブロックが斑状に混入しており、埋め戻しによるものと考えられる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、古墳時



SE 1

- 1 暗褐色土 黒色土粒子・黄褐色土粒子をブロック状(1 cm)に少 埋戻し土
- 2 黒褐色土 暗褐色土との混土層 黄褐色粘土粒子(0.3~0.5 cm)少
- 3 黒色土 炭化物層 炭化物ブロック(0.5~0.8 cm)多 土器片少
- 4 黒褐色土 暗褐色粘土ブロック(1 cm)少 粘性強 埋戻し土

SE 2

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~2 cm)多 埋戻し土
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5 cm)少
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~5 cm)やや多
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~3 cm)・褐色粘土ブロック(1 cm)少
- 5 暗灰色土 黄褐色粘土ブロック(5 cm)微量 粘性強

SE 4

- 1 暗褐色土 褐色粘土粒子(0.1~0.5 cm)・黄褐色粘土粒子(0.1~0.3 cm)多 鉄分少
- 2 黒褐色土 褐色粘土粒子(0.1~0.5 cm)・黄褐色粘土ブロック(0.5 cm・1~3 cm)少
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(1 cm)少 粘性強

SE 5

- 1 暗褐色土 褐色粘土粒子(0.2~0.3 cm)多 炭化物粒子(0.2~0.4 cm)微量
- 2 黒褐色土 褐色粘土ブロック(0.5 cm)やや多
- 3 黒灰色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8 cm)均質に少
- 4 黒褐色土 褐色粘土ブロック(0.5~0.8 cm)少
- 5 黄灰色土 黒褐色土ブロック(1 cm)との混土層 埋戻し土
- 6 黒褐色土 黄灰色粘土粒子(0.3~0.5 cm)均質に少
- 7 暗褐色土 黄灰色土シルトブロック(1 cm)多

SE 6

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2 cm)多 黄褐色土ブロック(2~10 cm)微量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2 cm)・黄褐色土ブロック(2~3 cm)多
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2 cm)微量 黄褐色土ブロック(2~5 cm)微量
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2 cm)多
- 5 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2 cm)・黄褐色土ブロック(5~15 cm)多 崩落土
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2 cm)多 黄褐色土ブロック(1~3 cm)微量
- 7 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2 cm)多 黄褐色土ブロック(5~15 cm)少
- 8 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2 cm)・黄褐色土ブロック(5~15 cm)微量 崩落土
- 9 黄褐色土 黄褐色土粒子極多 黒色土ブロック少 崩落土
- 10 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2 cm)多 黄褐色土ブロック(15~20 cm)少 崩落土

SE 7

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~2 cm)・褐色粘土ブロック(0.5 cm)多 埋戻し土
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.2 mm)・褐色粘土粒子(0.2~0.5 cm)やや多
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~2 cm)多 粘性強

第303図 D区井戸跡(1)

代前期の可能性が高いと推定される。

D区第11号井戸跡（第304図）

G-16グリッドに位置する。D区第32号周溝状遺構より新しい。平面形は円形、断面形は筒形。危険防止のため、完掘には至らなかった。

第1層は、黄褐色粘土ブロックが斑状に混入しており、埋め戻しによるものと考えられる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、中世の可能性が高いと推定される。

D区第12号井戸跡（第304図）

I-13グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形、断面形はロート状である。ロート状なのは、意図的なものと推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

D区第13号井戸跡（第304図）

H-18グリッドに位置する。D区第37号周溝状遺構より新しい。平面形は円形、断面形は僅かに開く筒形。これは、開口部の壁面が崩落した結果と考えられる。

第3層は、黄褐色土ブロックが斑状に混入しており、埋め戻しによるものと考えられる。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が極めて小さな部類に含まれる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

D区第14号井戸跡（第304・315～317図）

F-18グリッドに位置する。D区第42号周溝状遺構、D区第59号溝跡よりも新しい。平面形は歪な円形、断面形はロート状。開口部で開くのは、意図的な掘削であると推定される。

開口部の平面形は円形であるが、井戸側・底面では隅丸方形を呈している。そして、その四隅は壁面に向かって半円状に窪んでいる。また、覆土内には、取り上げることができない程に劣化した板状・棒状の木質が出土している。これらは、並

ぶような状態で重なり合っていた。

以上の点から、この井戸跡は隅柱を有する横板組みの井戸枠が存在していたのではないかと考えられる。出土した木質はその井戸枠を構成していたものと推定される。

また、この井戸跡の北西部分には、隅丸方形の一辺に直交する形で、段状に窪む施設がみられる。これについては、機能的にみて、揚水の際の立ち位置であったと推測される。

各土層から多数の土器が出土した。土師器の罎・壺・高坏・台付甕・貝巢穴痕泥岩など計45点（52～96）であるが、壺の点数が大部分を占めている。遺構の時期は、古墳時代前期と推定される。

D区第15号井戸跡（第304・313図）

H・I-14・15グリッドに位置する。D区第24号土壇より新しく、D区第1号墳よりも古い。平面形は歪な楕円形、断面形は僅かに開く筒形。これは、開口部の壁面が崩落した結果と考えられる。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。

土師器の台付甕が1点（43）出土している。遺構の時期は、古墳時代前期と推定される。

D区第16号井戸跡（第305図）

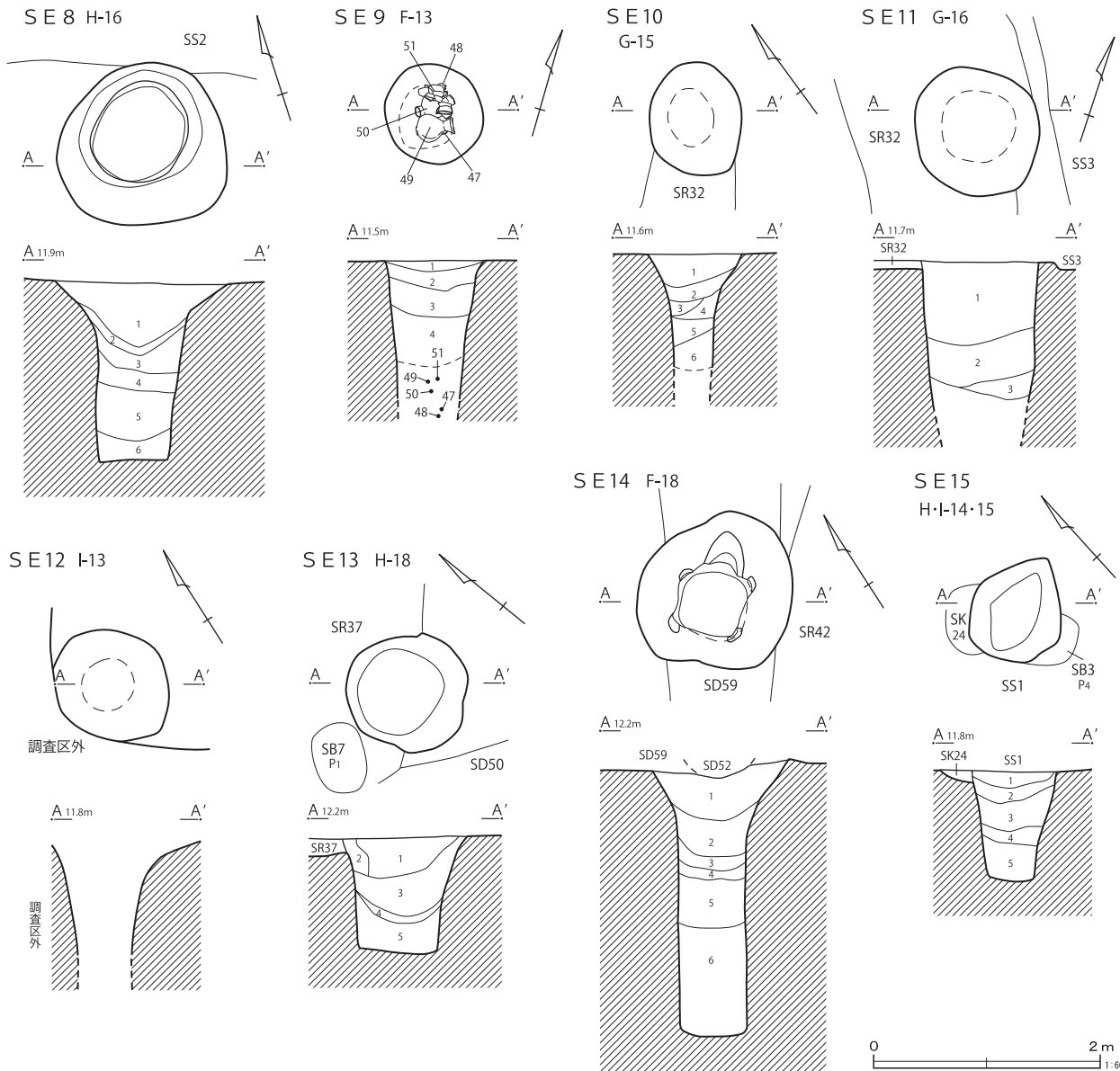
G-17グリッドに位置する。D区第3号墳、D区第59号溝跡よりも古い。平面形は楕円形、断面形は開口部が僅かに開く筒形である。これは、開口部の壁面が崩落した結果と考えられる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

褐色粘土ブロックや黄褐色粘土ブロックが層状ではなく、斑状に混入している第1・3層は、人為的埋め戻しと推定される。

遺物は出土していないが、遺構の時期は古墳時代前期の可能性はある。

D区第17号井戸跡（第305・313図）

F-17・18グリッドに位置する。D区第3号墳よりも新しい。平面形は円形、断面形はロート状である。開口部が開くのは意図的な掘削であるのか、



- SE 8**
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多
 - 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック (2 ~ 4 cm) 微量 暗灰色土をブロック状に少
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 極多
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少 鉄分多
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少 黄褐色土、暗灰色土が带状に互層に入る
 - 6 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少 暗青灰色粘土粒子多
- SE 9**
- 1 黒褐色土 褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多 褐色粘土ブロック (1 cm) やや多
 - 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) やや多
 - 3 黒色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) ・黄褐色粘土ブロック (1 cm) やや多
 - 4 黒灰色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 3 cm) 多 粘性強
- SE 10**
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子少 鉄分多
 - 2 黒褐色土 黄褐色土粒子多 鉄分少
 - 3 黒褐色土 黄褐色土粒子微量 鉄分少
 - 4 黒褐色土 黄褐色土粒子極多 黄褐色土ブロック (1 cm) 多 埋戻し土
 - 5 黒褐色土 黄褐色土粒子極多 黄褐色土ブロック (2 ~ 3 cm) 多 埋戻し土
 - 6 黒褐色土 黄褐色土粒子少
- SE 11**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2 ~ 15 cm) 多 埋戻し土
 - 2 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック (0.5 cm ~ 1 cm) やや多
 - 3 灰褐色土 灰褐色粘土 黒褐色土ブロック (0.5 cm) 少

- SE 13**
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック (1 ~ 4 cm) 微量
 - 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック層 崩落土
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック (1 ~ 4 cm) 極多 埋戻し土
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子少
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粒子多
- SE 14**
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・焼土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・炭化物粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多
 - 2 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 極多 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多 炭化物粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.2 cm) ・酸化土 (0.1 ~ 0.2 cm) ・有機物少
 - 4 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック (1 cm) やや多 粘性強
 - 5 暗褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多 鉄分均質にやや多 埋戻し土か 5層は、枠の裏込め土か
 - 6 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) やや多
- SE 15**
- 1 灰褐色土 黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 極多 鉄分を均質に多
 - 2 灰褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・鉄分を均質に多 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) ・黒褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少
 - 3 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 少
 - 4 黒褐色土 灰褐色土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) 多 灰褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 少
 - 5 黒褐色土 灰褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 極多 灰褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 下層に極多

第304図 D区井戸跡 (2)

開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、後者の方が高いと推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

土師器の高坏(44)が出土しているが、流れ込みと考えられるため、時期決定には至らなかったが、中世以降の可能性が高いと推定される。

D区第18号井戸跡(第305図)

E・F-17グリッドに位置する。D区第33号周溝状遺構、D区第3号墳よりも新しい。平面形は円形、断面形はロート状に近い。開口部が開くのは意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、後者の方が高いと推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

黄褐色土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。

遺物は出土していない。遺構の時期は不明であるが、中世以降の可能性が高いと推定される。

D区第19号井戸跡(第305図)

G-15・16グリッドに位置する。D区第3号墳よりも新しいと推定される。平面形は円形、断面形はロート状である。ロート状なのは、意図的な掘削と推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

柱材と推定される小木片(コナラ属コナラ節)が出土しているが、図化には至らなかった。遺構の時期は、中世の可能性が高いと考えられる。

D区第20号井戸跡(第305図)

H-17グリッドに位置する。D区第59号溝跡より古い。平面形は楕円形、断面形はU字形。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度とも規模が小さな部類に含まれる。

遺構の時期は、古墳時代前期の可能性が高いと推定される。

D区第21号井戸跡(第305図)

G-16グリッドに位置する。直接には重複して

いないものの、間接的に重複関係にあるD区第16号周溝状遺構、D区第3号墳との新旧関係は不明である。平面形は歪んだ楕円形、断面形はU字形。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度とも規模が小さな部類に含まれる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、中世の可能性が高いと推定される。

D区第22号井戸跡(第306・313図)

G-14グリッドに位置する。D区第10号溝跡よりも新しい。平面形は円形、断面形は筒形。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度とも規模が小さな部類に含まれる。

土師器の高坏が1点(45)出土している。遺構の時期は、古墳時代前期と推定される。

D区第23号井戸跡(第306図)

G-18・19グリッドに位置する。D区第1号住居跡よりも新しい。平面形は楕円形、断面形はU字形。黄褐色土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度とも規模の小さな部類に含まれる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

D区第24号井戸跡(第306図)

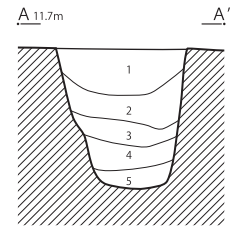
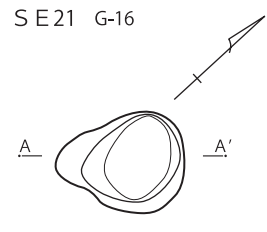
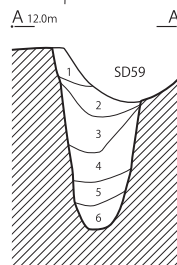
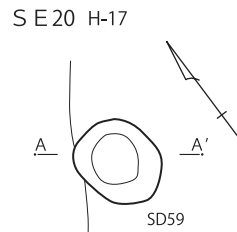
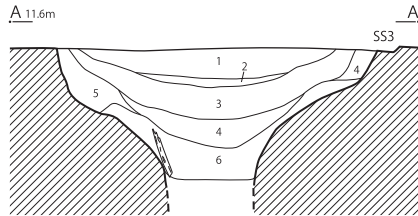
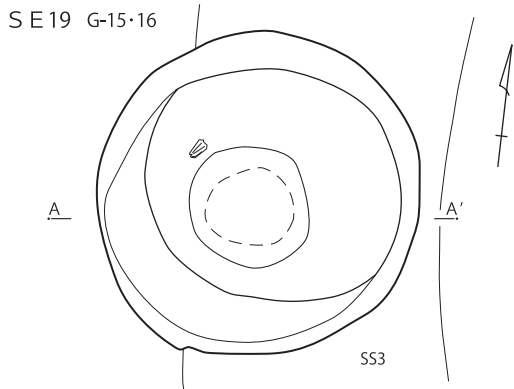
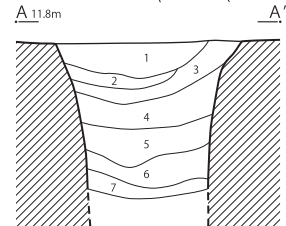
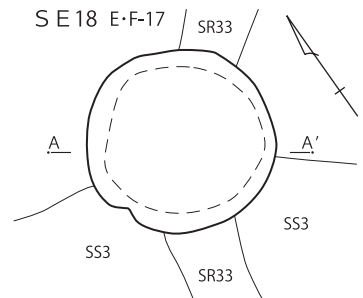
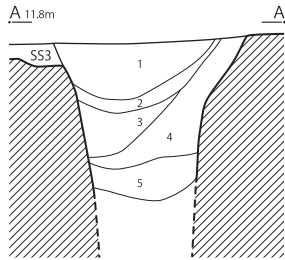
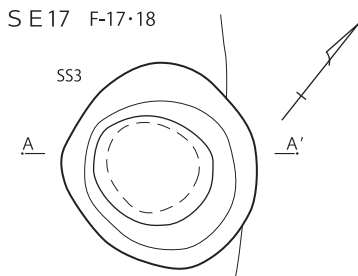
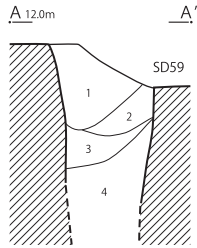
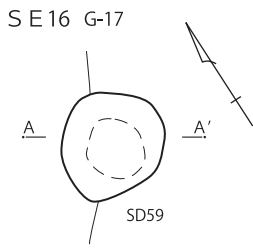
G-17グリッドに位置する。D区第3号墳、D区第59号溝跡より新しい。平面形は楕円形、断面形はU字形に近い。第1・2層は、黄褐色土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度とも規模の小さな部類に含まれる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、覆土の色調から、中世の可能性が高いと考えられる。

D区第25号井戸跡(第306図)

E・F-16グリッドに位置する。D区第3号墳、D区第44号周溝状遺構よりも新しい。平面形は歪



- SE 16
- 1 暗褐色土 褐色粘土ブロック (0.5 ~ 3 cm) 多
黄褐色粘土ブロック (2 cm) やや多 焼土粒子 (0.2 cm) 微量 埋戻し土
 - 2 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) やや多
 - 3 黒褐色土 褐色粘土ブロック (5 cm) やや多 埋戻し土
 - 4 黒褐色土 褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 少

- SE 17
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.2 ~ 3 cm) やや多 焼土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 微量
 - 2 暗褐色土 褐色粘土ブロック (2 ~ 3 cm) 多
 - 3 暗褐色土 褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
 - 4 暗褐色土 褐色粘土ブロック (0.2 ~ 0.8 cm) ・黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 1 cm) 多
 - 5 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) やや多

- SE 18
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) ・黄褐色土ブロック (10 cm) 少
埋戻し土
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多
黄褐色土ブロック (1 cm) 少 埋戻し土
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少
黄褐色土ブロック (2 ~ 10 cm) 多 埋戻し土
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) ・黄褐色土ブロック (2 ~ 10 cm) 多
埋戻し土
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少
黄褐色土ブロック (5 ~ 10 cm) 多 埋戻し土
 - 6 暗褐色土 黄褐色土ブロック層 埋戻し土
 - 7 黒色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 微量

- SE 19
- 1 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 多
 - 2 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック含まず砂質感強い 水成質の堆積
 - 3 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック (1 cm) 多
 - 4 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 少
 - 5 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 多
 - 6 灰黄褐色土 灰黄褐色土ブロック 埋戻し土か

- SE 20
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少
鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3) 均質に少
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少
黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 微量
鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3) 均質に少
 - 3 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 極多
鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3) 均質に少 粘土質
 - 4 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 粘土質
 - 5 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多
黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 極多 粘土質
 - 6 黒褐色土 灰褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少 粘土質

- SE 21
- 1 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 少
 - 2 黒褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 少
 - 3 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 少
 - 4 暗褐色土 灰黄褐色土粒子 (0.2 cm) 多 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 少
 - 5 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) ・青灰色粘土ブロック混じる

第305図 D区井戸跡 (3)

な楕円形、断面形はロート状。ロート状であるのは、意図的な掘削と推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

第1～4層は、黄褐色土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。

本遺構は、井戸枠と推定される木片が出土していることから、井戸枠をもっていたと推定される。

そして、第7層は井戸枠の裏込め土と考えられる。

遺物は出土していない。遺構の時期は不明であるが、中世以降の可能性が高いと推定される。

D区第26号井戸跡（第306・313図）

F-19グリッドに位置する。直接には重複していないものの、間接的に重複関係にあるD区第42号周溝状遺構との新旧関係は不明である。平面形は楕円形、断面形はロート状に近い。開口部が開くのは意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、後者の方が高いと推定される。

第2～5層は、黄褐色土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。

土師器の高坏が1点(46)出土しているが、流れ込みと考えられるため、時期決定には至らなかったが、中・近世以前の可能性が高いと推定される。

D区第27号井戸跡（第306・318図）

D・E-17グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形で、北側に10cm程の段差を有する。断面形は筒形。開口部で僅かに開くのは、開口部の壁面が崩落した結果と判断した。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。

底面において、口縁上半を欠いた壺1点(97)と、胴部下半部のみ壺2点(98・99)の、計3点の土

師器が検出された。これらの土器は、正位の状態と並んで出土しており、出土状況からみて、人為的に納められたものと推測される。遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

D区第28号井戸跡（第307・318図）

D・E-17グリッドに位置する。D区第16号土壙、D区第80号溝跡、D区第30号井戸跡よりも新しい。平面形は楕円形、断面形はロート状である。ロート状であるのは、意図的な掘削と推定される。

土師器の壺・甕・高坏(100～104)と、砥石と思われる石製品(105)など、計6点が出土している。遺構の時期は古墳時代前期と推定される。

D区第29号井戸跡（第307・318図）

H-17グリッドに位置する。D区第8号掘立柱建物跡よりも新しい。平面形は歪んだ長楕円形、断面形は筒形。開口部で僅かに開くのは、開口部の壁面が崩落した結果と判断した。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。

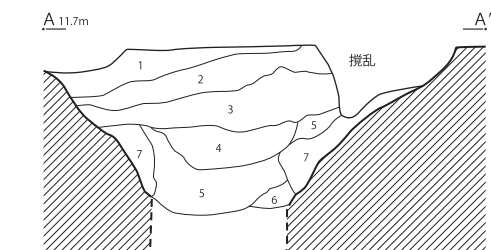
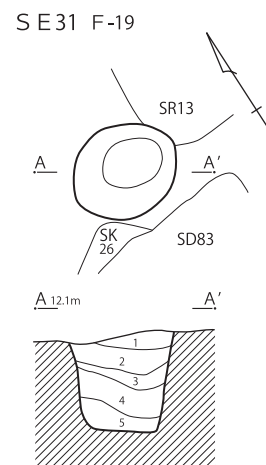
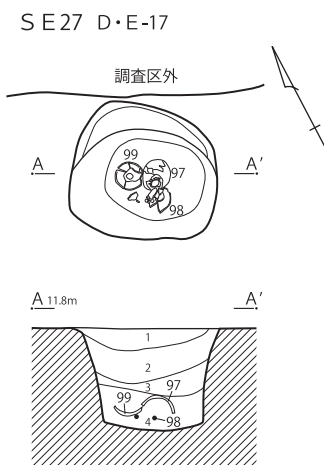
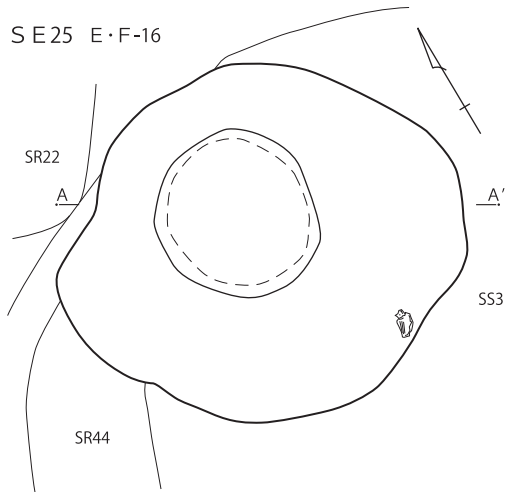
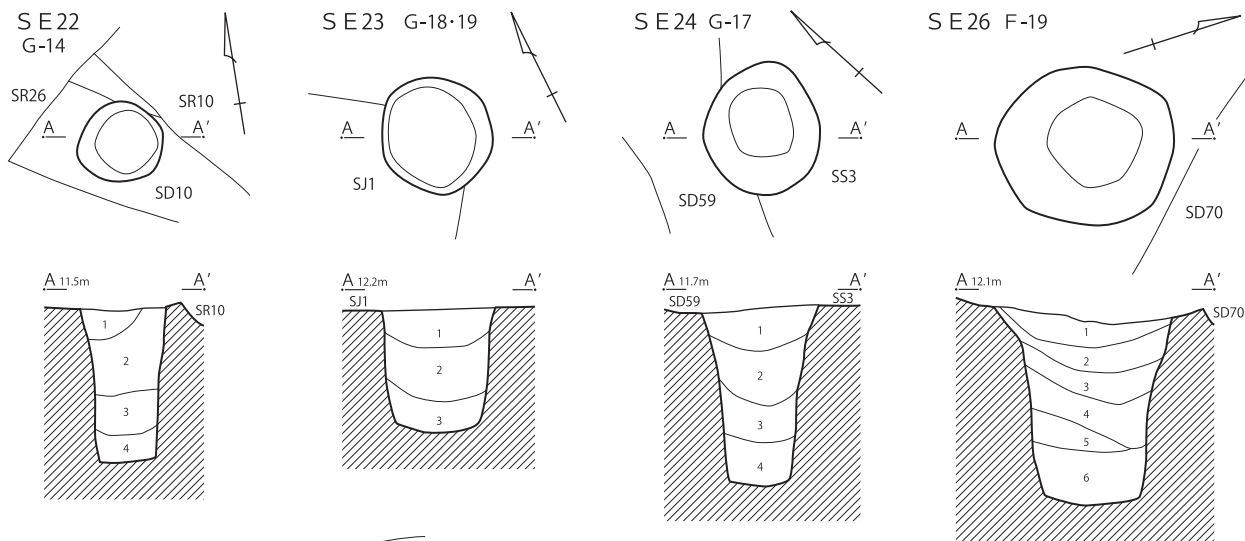
底面において、口縁上半を欠いた壺(106)1点が口縁を斜め下に向けた状態で出土した。そして、底面からやや浮いた状態で鉢(107)が、さらに底面から60cmほどの位置からは、高坏の坏部(108)が出土するなど計3点の土師器が検出された。出土状況からみて、壺(106)は、井戸内に人為的に納められたものと判断した。遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

D区第30号井戸跡（第307・318図）

E-17グリッドに位置する。D区第28号井戸跡よりも古い。平面形は楕円形、断面形はU字形である。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。

開口部付近で、土師器の壺や台付甕など計4点(109～112)が、比較的まとまった状態で出土した。遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



- SE25
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック (5 ~ 10 cm) 極多 埋戻し土
 - 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック (5 ~ 10 cm) 多 埋戻し土
 - 3 黄褐色土 黄褐色土ブロック多 埋戻し土
 - 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック (5 ~ 20 cm) 極多 埋戻し土
 - 5 黒色土 黄褐色土ブロック層中に壁面の崩落土が混入
 - 6 灰褐色土 壁面の崩落土 粘性強
 - 7 黄褐色土 黄褐色土ブロック極多 井戸枠の裏込め土

- SE26
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子少
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 少 埋戻し土
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック (1 ~ 2 cm)・黄褐色土ブロック (1 cm) 微量 埋戻し土
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック (1 ~ 5 cm) 少 埋戻し土
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック (1 ~ 5 cm) 多 埋戻し土
 - 6 暗褐色土 黄褐色土粒子少 粘性強

- SE27
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子・鉄分多 黄褐色土ブロック (2 ~ 10 cm)・マンガン少
 - 2 黒褐色土 黄褐色土粒子少 黄褐色土ブロック (2 ~ 3 cm) 微量
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子極多 黄褐色土ブロック (1 ~ 10 cm) 多
 - 4 黄褐色土 黄褐色土粒子がブロック状に多 黒褐色土粒子がブロック状 (1 ~ 2 cm) に少

- SE22
- 1 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 少
 - 2 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 極多
 - 3 黒褐色土 灰黄褐色土ブロック (5 cm) 少
 - 4 暗褐色土 灰黄褐色土粒子 (0.2 cm) 多 自然堆積

- SE23
- 1 黒色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・黄褐色土ブロック (5 ~ 10 cm) 極多 埋戻し土
 - 2 黒色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 多 埋戻し土
 - 3 黒灰色土 黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 少 埋戻し土

- SE24
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多 黄褐色土ブロック (3 ~ 10 cm) 少 埋戻し土
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm)・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多 埋戻し土
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少 黄褐色土ブロック (1 cm) 微量
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少

- SE31
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm)・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 多
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 微量
 - 4 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 極多
 - 5 黄褐色土 黒褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・黒褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多



第306図 D区井戸跡 (4)

D区第31号井戸跡（第306図）

F-19グリッドに位置する。直接には重複していないものの、間接的に重複関係にあるD区第42号周溝状遺構との新旧関係は不明である。平面形は楕円形、断面形は筒形。

本遺構は、今回確認された中でも、径・深度とも規模の小さな部類に含まれる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、古墳時代前期の可能性が考えられる。

D区第32号井戸跡（第307図）

E-20グリッドに位置する。E区第2号墳よりも新しい。平面形は楕円形、断面形は筒形。

本遺構は、今回確認された中でも、深度の規模が小さな部類に含まれる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、覆土の色調から、中世の可能性が高いと考えられる。

D区第33号井戸跡（第307・319図）

E-17グリッドに位置する。D区第16号土壇、D区第80号溝跡よりも新しい。平面形は隅丸長方形、断面形は筒形。底面中央にごく小さな窪みがあるが、水溜（上径12×18cm、下径7×10cm、深さ12cm）の可能性が考えられる。第1層は、黄褐色粘土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると推定される。

底面付近ではほぼ完形の土師器壺1点（116）と、壺の破片3点（113～115）が検出された。出土状況からみて、116の壺は井戸内に人為的に納められたものと推定される。遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

D区第34号井戸跡（第307図）

F-18・19グリッドに位置する。平面形は楕円形、断面形は筒形。危険防止のため、完掘には至らなかった。

第1～3層は黄褐色土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、古墳時

代前期の可能性が考えられる。

E区第1号井戸跡（第308・319図）

D-19グリッドに位置する。E区第1・5号周溝状遺構より新しい。平面形は楕円形、断面形はロート状である。意図的に、ロート状に掘削されていると考えられる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

陶器の鉢（117）が出土した。中世の遺構と推定される。

E区第2号井戸跡（第308図）

C-18・19グリッドに位置する。本遺構は、北側部分が調査区外に続いている。平面形は楕円形、断面形はロート状と推定される。意図的に、ロート状に掘削されていると考えられる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

遺物は出土していない。遺構の時期は、覆土の色調から、中世の可能性が高いと考えられる。

E区第3号井戸跡（第308・319図）

D-20グリッドに位置する。E区第7号溝跡よりも古い。平面形は楕円形、断面形は筒形。危険防止のため、完掘には至らなかった。

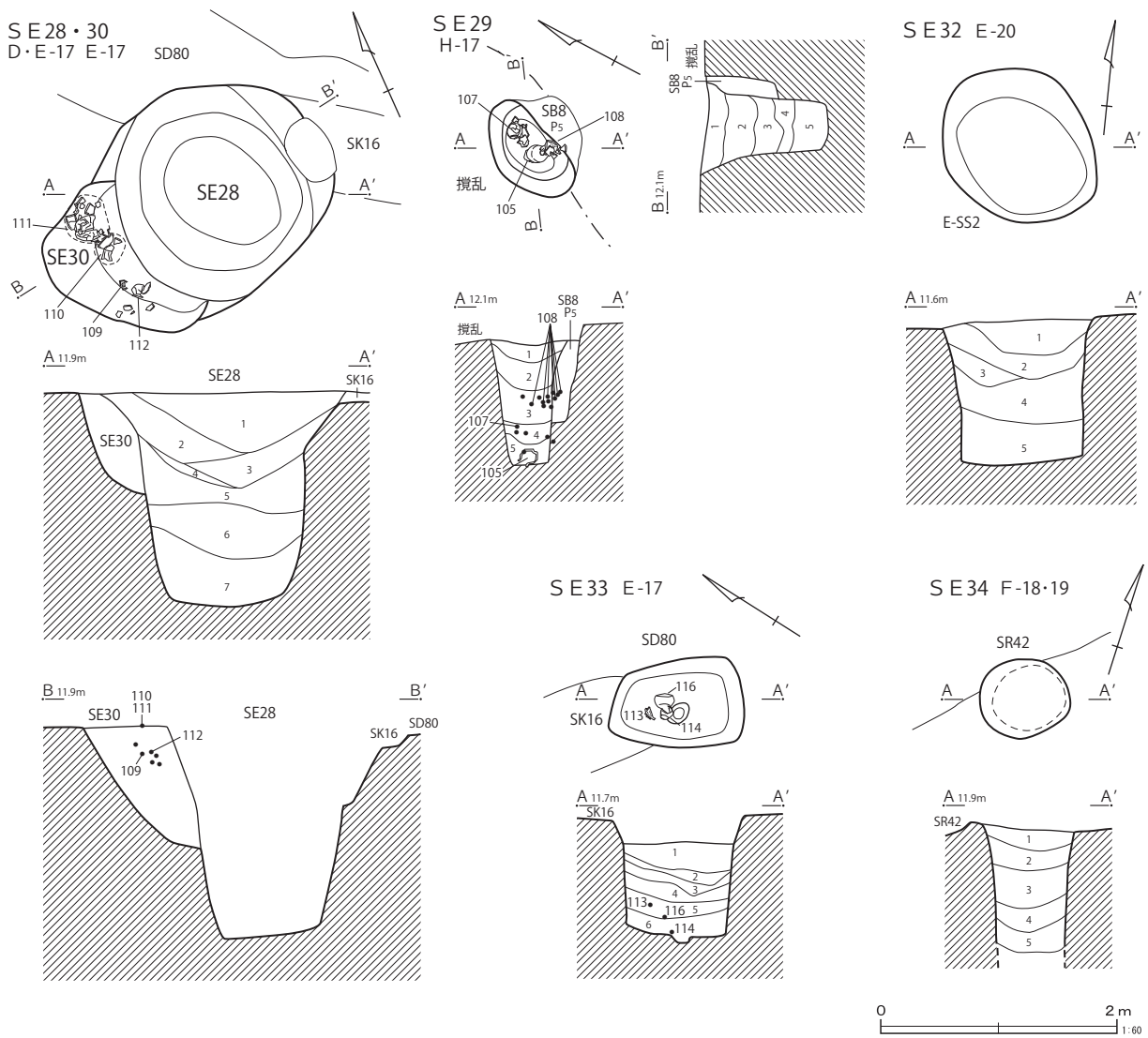
本遺構は、今回確認された中でも、径の規模が小さな部類に含まれる。

ほぼ底面と思われる位置から、土師器の壺（119・120）が、正位の状態と、並んで出土した。出土状況からみて、壺は井戸内に人為的に納められたものと判断した。その他に、土師器壺（118）が出土した。遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

E区第4号井戸跡（第308・319・323図）

D-21グリッドに位置する。E区第9号周溝状遺構よりも新しい。平面形は長楕円形、断面形は開口部が開く筒形。開口部で開くのは、開口部の壁面が崩落した結果と判断した。危険防止のため、完掘には至らなかった。

ほぼ底面と思われる位置から、土師器の壺3点（121～123）が出土した。121は正位で、122は横たわった状態で並んで出土した。123はやや離れた位



SE28

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) ・
焼土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) ・炭化物粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多
黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) ・焼土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少
- 4 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) ・黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 極多
- 5 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) ・黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多
鉄極多
- 6 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) 多
黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 極多 下層に鉄分沈殿
- 7 青灰色土 黒褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多 シルト質

SE29

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) やや多
褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 少 自然堆積
- 2 黒灰色土 黄褐色粘土ブロック (0.1 ~ 0.7 cm) 微量 自然堆積
- 3 黒灰色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) やや多 自然堆積
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 少 自然堆積
- 5 黒色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 微量 褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 少
灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) やや多 埋戻し土か

SE32

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多 褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) 多
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 少
- 4 暗灰色土 褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 粘性強
- 5 暗灰色土 灰褐色粘土ブロック (0.5 ~ 2 cm) 少 粘性強

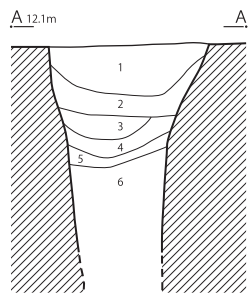
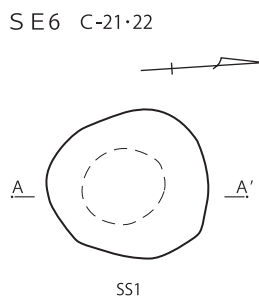
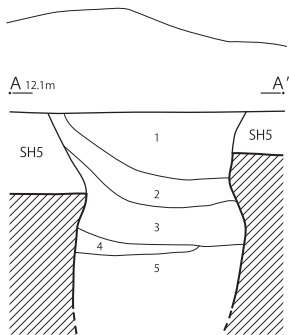
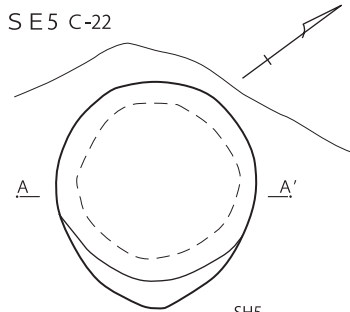
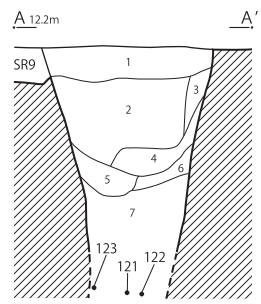
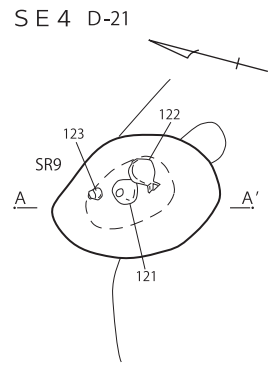
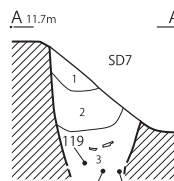
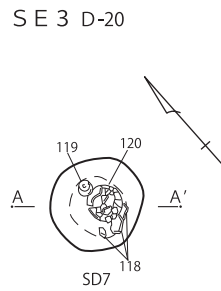
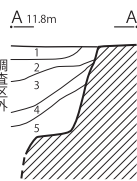
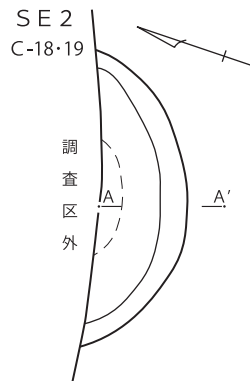
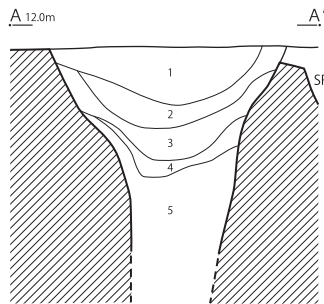
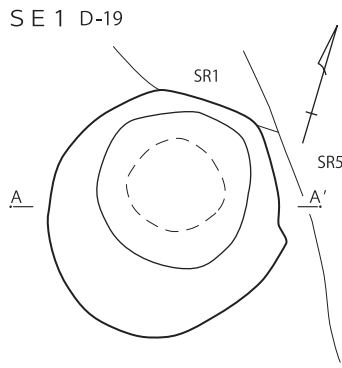
SE33

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.1 ~ 0.8 cm) 多
褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) やや多 埋戻し土
- 2 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック (1 cm) 微量
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) 多
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 3 cm) 多
黄褐色粘土と黒褐色土の互層
- 5 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック (0.1 ~ 1 cm) 微量
- 6 黒灰色土 黄灰色粘土ブロック (0.1 ~ 2 cm) やや多

SE34

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・
黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 極多 埋戻し土
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) ・
黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 少 埋戻し土
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量
黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 多 埋戻し土
- 4 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 極多
鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 自然堆積
- 5 黄褐色土 黒褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 自然堆積

第307図 D区井戸跡 (5)



- SE 3
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
赤褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 極多
黒褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 少
 - 2 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
赤褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多
黒褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 多
 - 3 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多
赤褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多
黒褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 少

- SE 4
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 微量
 - 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 多
黄褐色粘土ブロック (3 ~ 5 cm) 多
炭化物粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少 埋戻し土
 - 3 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 少
 - 4 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) やや多
黄褐色土ブロック (1 cm) 微量
 - 5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) やや多
灰褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 少 粘性強
 - 6 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 少 粘性強
 - 7 暗灰色土 灰褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少 粘性強

- SE 5
- 1 褐色土 灰褐色粘土ブロック (1 cm) 微量
 - 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.1 ~ 0.7 cm・1 ~ 5 cm) 多
 - 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 5 cm) 多
黒褐色土ブロック (1 cm) やや多 埋戻し土
 - 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) やや多
鉄分粒子均質に少
 - 5 暗褐色土 褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 少 粘性強

- SE 1
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少
赤色土粒子 (0.3 ~ 0.4 cm) 微量
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 微量
赤色土粒子 (0.3 ~ 0.4 cm) 微量
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 微量
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 微量
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) ・黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多

- SE 2
- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック (2 ~ 3 cm) 多
 - 2 黒褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 少 黄褐色土粒子多 焼土ブロック微量
 - 3 黒褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 10 cm) 多 黄褐色土粒子多
 - 4 黒褐色土 黄褐色土粒子多
 - 5 黒褐色土 黄褐色土粒子ブロック状に多

- SE 6
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) 多
灰色粘土ブロック (0.5 cm) やや多
埋戻し土
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 少
灰色粘土ブロック (3 ~ 5 cm) 多
 - 3 暗褐色土 褐色粘土ブロック (1 cm) 少
黒褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 微量
 - 4 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 少 粘性強
 - 5 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 粘性強
 - 6 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微 粘性強



第308図 E区井戸跡(1)

置で正位の状態であった。なおこの3点は、ほぼ同レベルに位置していた。出土状況からみて、壺は井戸内に人為的に納められたものと判断した。その他に、柱材(21)、土師器の器台(124)が出土した。遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

E区第5号井戸跡(第308・320図)

C-22グリッドに位置する。E区第5号方形周溝墓より新しい。平面形は楕円形、断面形については本来は筒形であったが、開口部と中位の壁面が崩落したものと推定される。第3層は、黒褐色土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

凝灰岩製の砥石(125)が1点出土している。遺構の時期は、覆土の色調から、中世または近世の可能性が高いと考えられる。

E区第6号井戸跡(第308図)

C-21・22グリッドに位置する。E区第1号墳より新しい。平面形は楕円形、断面形については本来筒形であったが、開口部の壁面が崩落したため広がったと推定される。第1層は、黄褐色粘土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

側板(ヒノキ)の小木片が出土しているが、図化には至らなかった。遺構の時期は、平安時代以降と推定される。

E区第7号井戸跡(第309・320図)

C-21グリッドに位置する。E区第11号周溝状遺構より新しい。平面形は隅丸長方形、断面形については本来は筒形であったが、開口部の壁面が崩落したものと推定される。第6・7・9層は灰褐色土ブロックが、第8層は黒褐色土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

ほぼ底面と思われる位置から、土師器の壺3点

(129・130・132)が出土した。130は正位のものが土圧で潰れたかのような状態で検出された。出土状況からみて、130の壺は井戸内に人為的に納められたものと判断したが、他の2点については特定できなかった。この土器は、人為的埋め戻し(第6～8層)の際に潰れた可能性を指摘しておきたい。その他に、土師器壺・埴(126～128・131・133)などが出土した。遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

E区第8号井戸跡(第309図)

D-24グリッドに位置する。E区第17号溝跡と重複しているが、新旧関係は確認できなかった。また、同溝跡の調査の過程で本遺構の上部が失われている可能性も考えられる。平面形は楕円形、断面形はU字形に近い。

本遺構は、今回確認された中でも、径の規模が小さな部類に含まれる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、覆土の色調から、中世または近世の可能性が高いと考えられる。

E区第9号井戸跡(第309図)

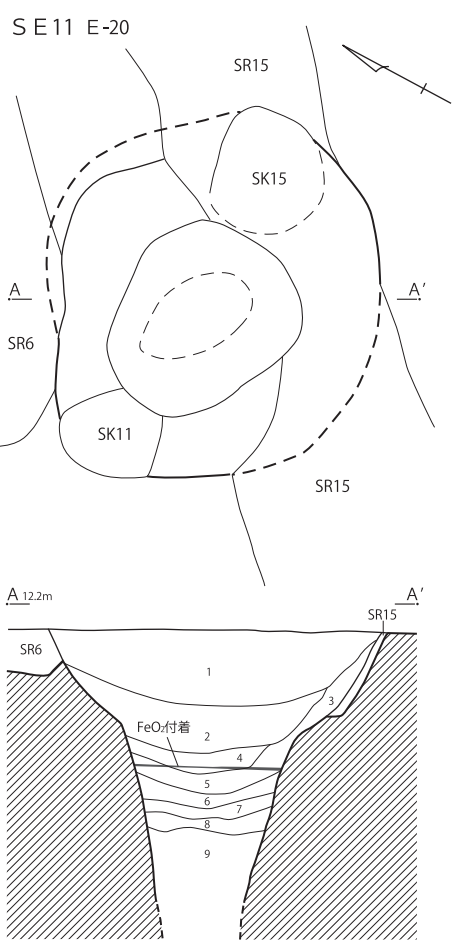
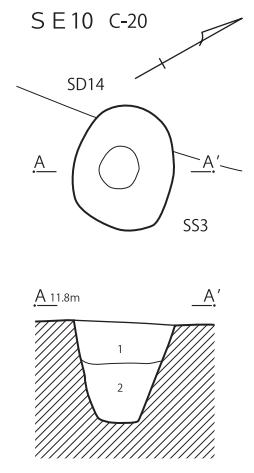
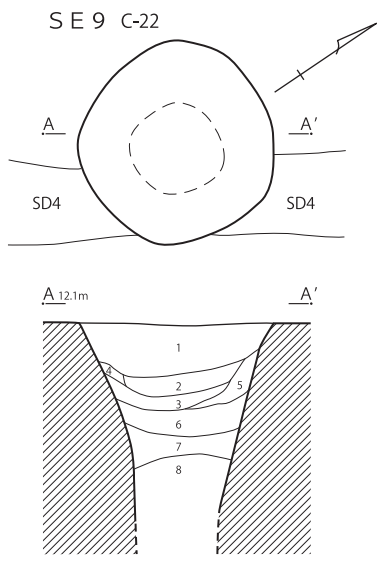
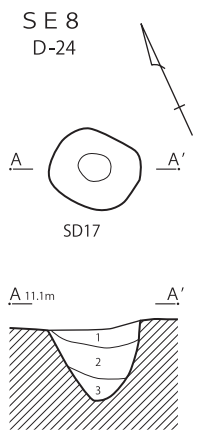
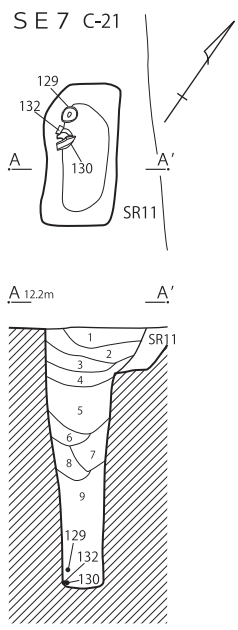
C-22グリッドに位置する。E区第4号溝跡より新しい。平面形は円形、断面形はロート状に近い。開口部が開くのは意図的な掘削であるのか、開口部の壁面が崩落した結果であるのか特定できなかった。可能性としては、後者の方が高いと推定される。

第1層は、黄褐色土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

遺物は出土していない。遺構の時期は、覆土の色調から、中世または近世の可能性が高いと考えられる。

E区第10号井戸跡(第309図)

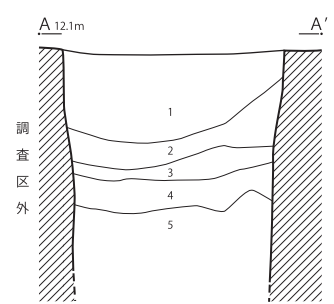
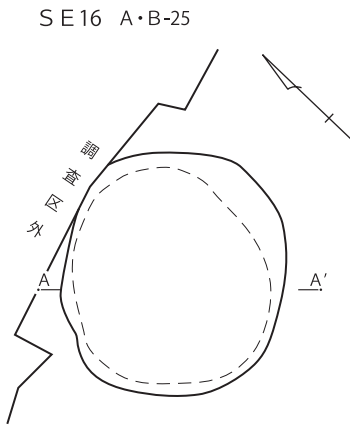
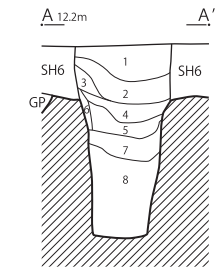
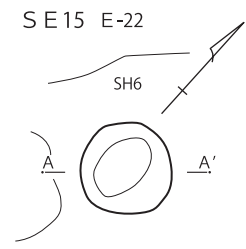
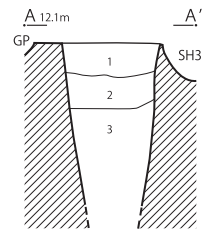
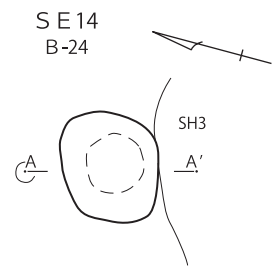
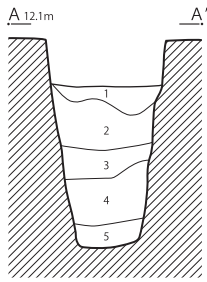
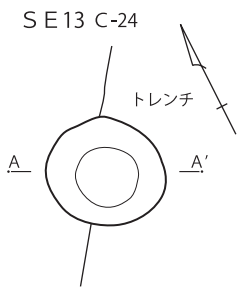
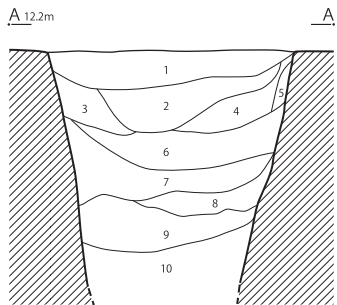
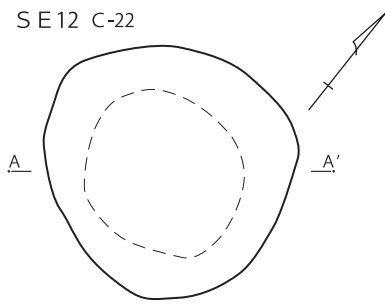
C-20グリッドに位置する。E区第14号溝跡、E区第3号墳よりも古い。両遺構の調査の過程で、



- SE 7**
- 1 暗褐色土 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 自然堆積
 - 2 暗褐色土 褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) ・鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 極多 自然堆積
 - 3 暗褐色土 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多 自然堆積
 - 4 黒褐色土 鉄分粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) ・黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 微量 自然堆積
 - 5 黒褐色土 鉄分粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) ・黒褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 少 自然堆積
 - 6 黒褐色土 鉄分ブロック (0.3 ~ 0.7 cm) 極多 灰褐色土ブロック (5 ~ 10 cm) 多 埋戻し土か
 - 7 黒褐色土 鉄分ブロック (0.3 ~ 0.7 cm) 極多 灰褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多 灰褐色土ブロック (5 ~ 10 cm) 少 埋戻し土か
 - 8 灰褐色土 鉄分粒子 (3 ~ 5 cm) ・黒褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 黒褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 少 埋戻し土か
 - 9 黒褐色土 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・灰褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多 灰褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 極多 粘性強 埋戻し土か
- SE 8**
- 1 暗灰色土 褐色粘土ブロック (1 cm) 少 鉄分粒子均質に少 粘性強
 - 2 暗灰色土 灰褐色粘土ブロック (0.5 cm) 少 粘性強
 - 3 灰褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) やや多 粘性強
- SE 9**
- 1 黄褐色土 黄褐色土ブロック 極多 埋戻し土
 - 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 10 cm) ・黄褐色土粒子多
 - 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック (1 cm) 微量 黄褐色土粒子多
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子少
 - 5 暗褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少 黄褐色土粒子多
 - 6 暗褐色土 黄褐色土粒子多
 - 7 暗褐色土 黄褐色土粒子多
 - 8 暗灰色土 黄褐色土粒子少 粘性強
- SE 10**
- 1 暗褐色土 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 微量
 - 2 灰褐色土 鉄分粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 極多 黒褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 少 粘性強
- SE 11**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3 ~ 10 cm) 不均一に多 埋戻し土
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) 均質に少 自然堆積か
 - 3 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多 壁崩落土
 - 4 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) ・炭化物少 自然堆積か
 - 5 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少 自然堆積か
 - 6 褐色土 黄褐色粘土ブロック (5 cm) 少 自然堆積か
 - 7 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) を均質に少 自然堆積か
 - 8 暗灰色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) を均質に少 シルト質
 - 9 暗灰色土 褐色土をブロック状 (1 cm) 少 シルト質



第309図 E区井戸跡(2)



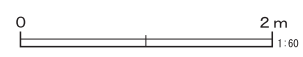
- SE 12
- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) ・鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黒褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少 灰褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多 自然堆積か
 - 2 灰褐色土 鉄分粒子 (1 ~ 3 cm) 多 黒褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 微量 自然堆積か
 - 3 暗褐色土 灰褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 灰褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) ・黒褐色土ブロック (1 cm) 少 自然堆積か
 - 4 暗褐色土 灰褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・灰褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多 自然堆積か
 - 5 灰褐色土 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 黒褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少 壁崩落土
 - 6 褐灰色土 灰褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 灰褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 極多 黒褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少 自然堆積か
 - 7 暗褐色土 灰褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 灰褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 極多 自然堆積か
 - 8 黒褐色土 灰褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) ・鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黒褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少 灰褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多 粘性強 自然堆積か
 - 9 褐灰色土 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 黒褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 自然堆積か
 - 10 黒褐色土 灰褐色土粒子 (0.5 ~ 0.7 cm) 極多 灰褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多 鉄分ブロック (3 ~ 5 cm) 少 粘性やや強 自然堆積か

- SE 13
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多 自然堆積
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 疎らに少 自然堆積
 - 3 暗褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 疎らに少 自然堆積
 - 4 暗褐色土 黄灰色シルト粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 疎らに少 自然堆積
 - 5 黒褐色土 黄灰色シルト粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 疎らに少 自然堆積

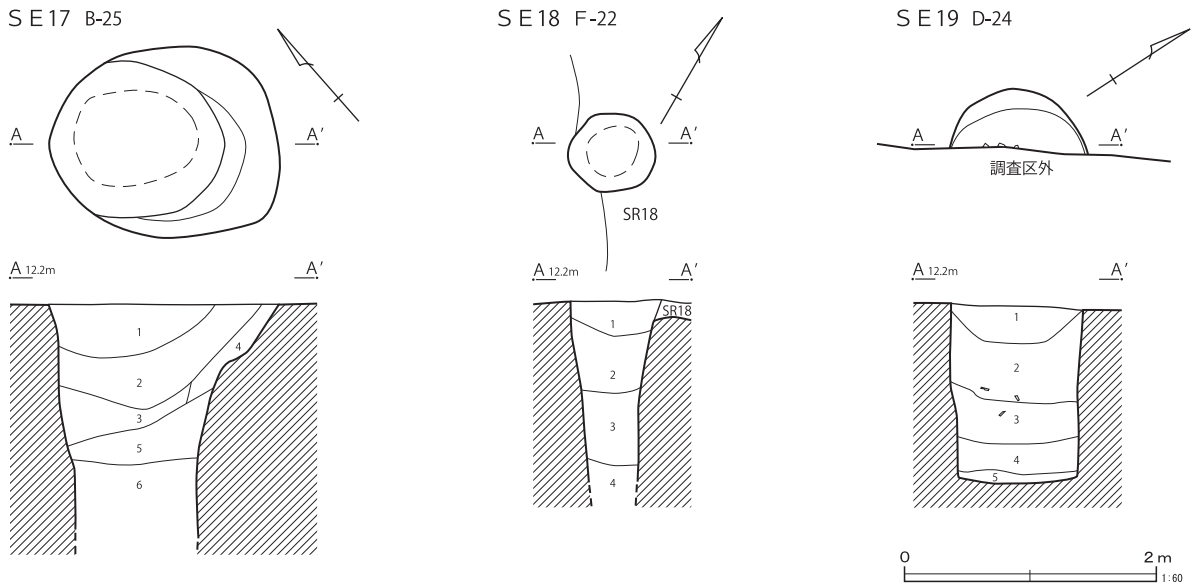
- SE 14
- 1 暗褐色土 褐色粘土ブロック (1 ~ 10 cm) 多 埋戻し土
 - 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック (5 ~ 10 cm) やや多 埋戻し土
 - 3 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) やや多

- SE 15
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子少
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多 黄褐色土の流れ込み
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子多
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多 黄褐色土ブロック (1 cm) ・炭化物少
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) ・黄褐色土ブロック (1 cm) 多
 - 6 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 微量
 - 7 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) ・黄灰色粘土ブロック多
 - 8 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) ・黄灰色粘土ブロック少

- SE 16
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) ・黄褐色土粘土ブロック (2 ~ 3 cm) 多 埋戻し土
 - 2 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) ・灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) ・暗褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多
 - 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) やや多 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 10 cm) 少
 - 4 黒褐色土 褐色粘土ブロック (1 cm) ・鉄分粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 少 粘性強
 - 5 暗灰色土 灰色粘土ブロック (1 ~ 10 cm) やや多 マンガン均質に少 粘性強



第310図 E区井戸跡 (3)



- SE17
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) やや多 焼土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 微量
 - 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) やや多
黄褐色粘土ブロック (2 ~ 4 cm) 多 埋戻し土
 - 3 暗灰色土 灰色粘土ブロック (5 ~ 20 cm) 少
 - 4 褐色土 橙色土ブロック (0.5 cm) 微量 焼土か
 - 5 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) 多 酸化土均質に少
灰色粘土ブロック (1 ~ 10 cm) やや多 埋戻し土又は崩落土
 - 6 暗灰色土 黄褐色粘土 (1 cm) 少 粘性強

- SE18
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 1 cm) 少
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 1 cm) やや多
 - 3 黒褐色土 褐色粘土ブロック (1 cm) 少 鉄分粒子を均質にやや多
 - 4 黒褐色土 褐色粘土ブロック (1 cm) 少 粘性強

- SE19
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 極多
炭化物粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 疎らに少
鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量
 - 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) ・
炭化物粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 疎らに少
鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
 - 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック (5 ~ 10 cm) ・
灰褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多
 - 5 青灰色土 青灰色粘土層

第311図 E区井戸跡 (4)

本遺構の上部が失われた可能性が考えられる。平面形は楕円形、断面形については本来筒形であったが、開口部の壁面が崩落したため広がったと推定される。

遺物は出土していない。遺構の時期は、古墳時代前期の可能性が考えられる。

E区第11号井戸跡 (第309図)

E-20グリッドに位置する。E区第6・15号周溝状遺構、E区第11・15号土壌より新しい。平面形は歪んだ楕円形、断面形はロート状。意図的に、ロート状に掘削されていると考えられる。

第1層は、黄褐色粘土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

遺物は出土していない。覆土の色調から、遺構の時期は中世と想定される。

E区第12号井戸跡 (第310・320図)

C-22グリッドに位置する。第5号方形周溝墓より新しい。平面形は楕円形、断面形については本来筒形であったが、開口部の壁面が崩落したため広がったと推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。自然堆積であると推定される。

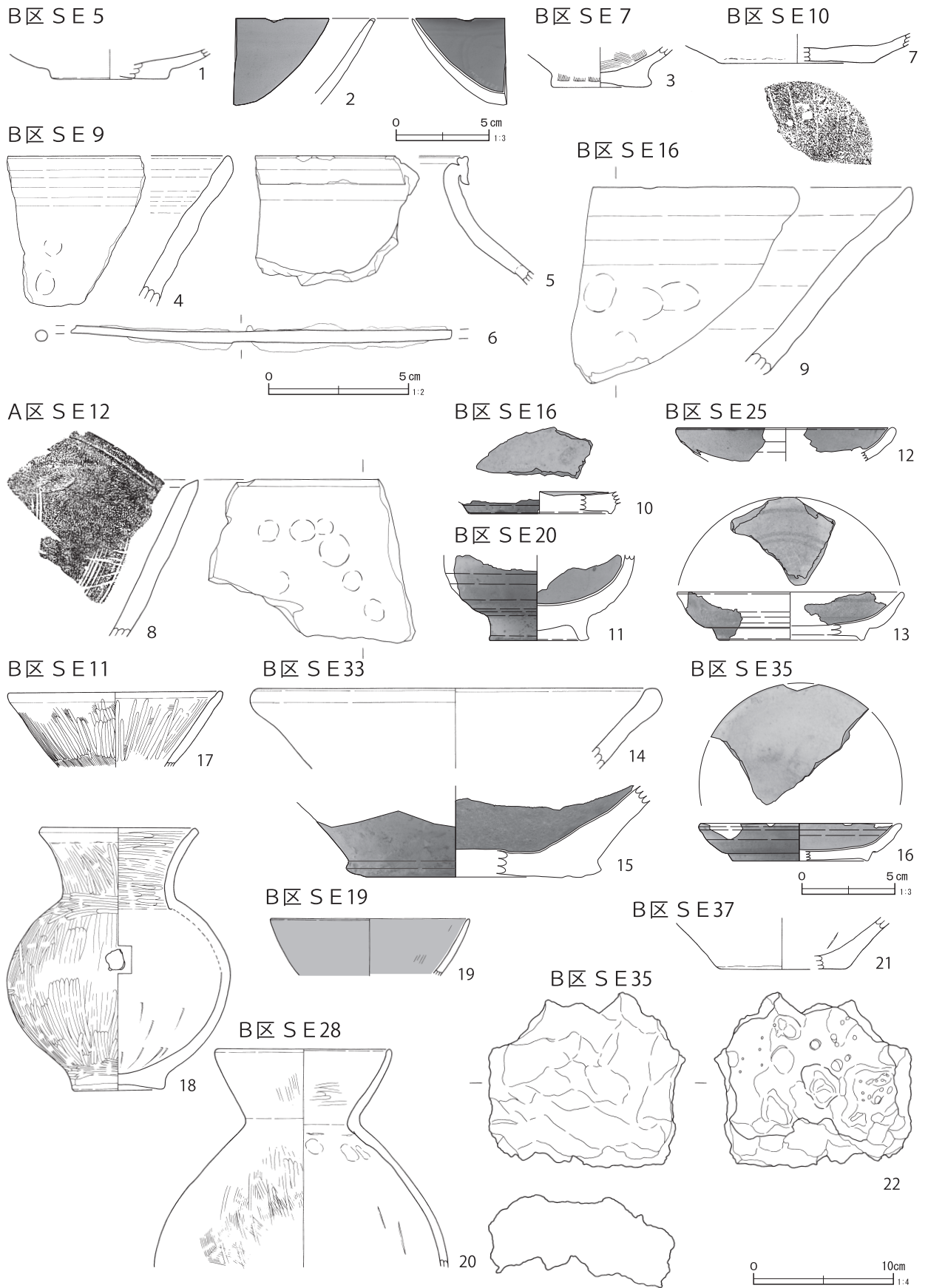
瓦質土器の鉢 (I34) が出土した。覆土の色調から、遺構の時期は中世と想定される。

E区第13号井戸跡 (第310図)

C-24グリッドに位置する。平面形は楕円形、断面形については本来筒形であったが、開口部の壁面が崩落したため広がったと推定される。自然堆積であると考えられる。

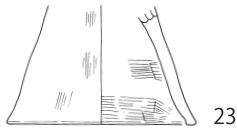
第77表 井戸跡計測表

遺構	区	グリッド	径 (確認面 cm)	径(底面または最下面 cm)	深さ (cm)	遺構	区	グリッド	径 (確認面 cm)	径(底面または最下面 cm)	深さ (cm)
SE1	B	G-5	214×193	130×116	141	SE5	D	I-13	143×107	[60]×[36]	[105]
SE2	B	G-5	125×116	75×65	168	SE6	D	I-15	222×205	[127]×[118]	[153]
SE3	B	G-5	77×76	[68]×[65]	[145]	SE7	D	H-14	102×85	57×47	122
SE4	B	F・G-5・6	(200)×(158)	[185]×[140]	[118]	SE8	D	H-16	153×147	85×75	160
SE5	B	F-8	104×102	73×67	160	SE9	D	F-13	89×85	[55]×[46]	142
SE6	B	F・G-8	106×100	66×64	106	SE10	D	G-15	102×87	[51]×[41]	[100]
SE7	B	H-8	292×269	[205]×[175]	[138]	SE11	D	G-16	132×111	[67]×[65]	[126]
SE8	B	G-8	186×164	[133]×[112]	[192]	SE12	D	I-13	113×98	[47]×[44]	[92]
SE9	B	G-7・8	316×287	[163]×[160]	[189]	SE13	D	H-18	106×106	76×75	105
SE10	B	G・H-7・8	222×198	[160]×[145]	[145]	SE14	D	F-18	142×138	[60]×[60]	247
SE11	B	H-8	85×80	58×55	[140]	SE15	D	H・I-14・15	100×83	76×41	98
SE12	A	H-2・3	97×90	39×35	130	SE16	D	G-17	89×80	[50]×[45]	[125]
SE13	B	H-8	91×74	72×65	120	SE17	D	F-17・18	165×155	[75]×[67]	[126]
SE14	B	H-5	119×88	90×65	140	SE18	D	E・F-17	153×149	[127]×[117]	[124]
SE15	B	H-4・5	146×141	75×73	88	SE19	D	G-15・16	268×253	[70]×[60]	[105]
SE16	B	I-8	270×260	60×52	150	SE20	D	H-17	72×58	40×36	145
SE17	B	H-8	114×100	80×76	200	SE21	D	G-16	104×80	66×48	110
SE18	B	I-7	106×96	[74]×[65]	[129]	SE22	D	G-14	65×63	46×45	120
SE19	B	J-7	165×160	[85]×[79]	[95]	SE23	D	G-18・19	95×89	80×68	97
SE20	B	J-6	126×116	74×70	165	SE24	D	G-17	105×92	55×47	90
SE21	B	I-8	75×70	70×65	105	SE25	D	E・F-16	331×284	[119]×[110]	[134]
SE22	B	I-6	81×79	45×40	105	SE26	D	F-19	141×124	70×67	152
SE23	B	I-5	80×75	72×64	134	SE27	D	D・E-17	118×107	78×62	80
SE24	B	I-7	106×105	60×60	161	SE28	D	D・E-17	187×172	106×77	181
SE25	B	J-5・6	70×61	50×46	156	SE29	D	H-17	95×50	52×32	118
SE26	B	I-5	107×97	[90]×[85]	[152]	SE30	D	E-17	144×[72]	[115]×[27]	100
SE27	B	J-5	132×117	98×84	147	SE31	D	F-19	90×75	50×37	80
SE28	B	J-6	117×107	57×47	107	SE32	D	E-20	145×120	112×87	122
SE29	B	I-5	150×137	[66]×[59]	[148]	SE33	D	E-17	112×76	90×55	85
SE30	B	K-4	(114)×92	78×71	132	SE34	D	F-18・19	75×65	[62]×[53]	[110]
SE31	B	K-4	(190)×(150)	[150]×[143]	[118]	SE1	E	D-19	201×188	[79]×[72]	[165]
SE32	B	K-5	245×[142]	[80]×(70)	186	SE2	E	C-18・19	231×[70]	[90]×[18]	[85]
SE33	B	K-6	250×210	205×165	94	SE3	E	D-20	76×71	[46]×[40]	[99]
SE34	B	K-6	111×95	77×72	117	SE4	E	D-21	135×96	[72]×[47]	[165]
SE35	B	K-5・6	303×[263]	102×98	127	SE5	E	C-22	180×161	[126]×[124]	[157]
SE36	B	K-6	73×71	53×50	135	SE6	E	C-21・22	127×127	[68]×[59]	[168]
SE37	B	I-8	352×308	158×98	172	SE7	E	C-21	115×58	[85]×[35]	[203]
SE38	C	J-8・9	[121]×[90]	[47]×[40]	110	SE8	E	D-24	69×60	26×22	65
SE39	C	J-9	142×118	73×64	114	SE9	E	C-22	163×158	[77]×[72]	[157]
SE40	C	I-9	97×84	54×51	107	SE10	E	C-20	98×80	33×30	82
SE41	C	J-9	212×166	61×42	178	SE11	E	E-20	296×(286)	[99]×[56]	[218]
SE42	C	J-10	162×154	26×24	111	SE12	E	C-22	205×194	[140]×[123]	[194]
SE43	C	J-9	[130]×123	73×61	137	SE13	E	C-24	96×86	50×48	165
SE44	C	J-11	115×[47]	70×[25]	77	SE14	E	B-24	98×81	[47]×[46]	[131]
SE45	C	J-11・12	87×80	47×42	68	SE15	E	E-22	76×75	55×35	154
SE1	D	F-11	80×76	[50]×[47]	[112]	SE16	E	A・B-25	196×181	[178]×[153]	[186]
SE2	D	H-16	170×166	[64]×[60]	[117]	SE17	E	B-25	183×161	[98]×[76]	[186]
SE3	D	H-14	102×100	[62]×[48]	[100]	SE18	E	F-22	68×65	[44]×[37]	[146]
SE4	D	H-14	121×95	74×47	150	SE19	E	D-24	109×[47]	103×[32]	145



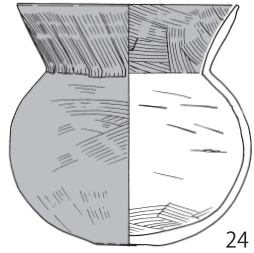
第312図 井戸跡出土遺物 (1)

C区 SE39

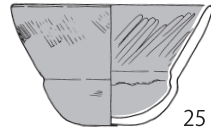


23

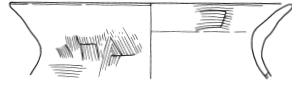
C区 SE41



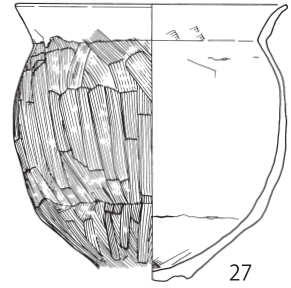
24



25

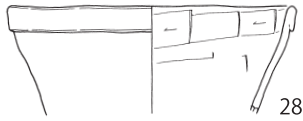


26

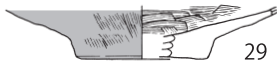


27

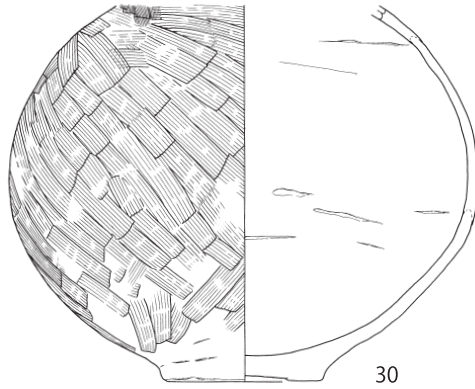
C区 SE42



28



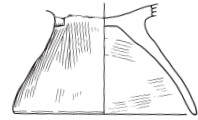
29



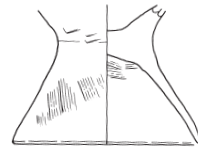
30



31



32



33

C区 SE43



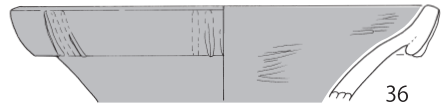
34



35

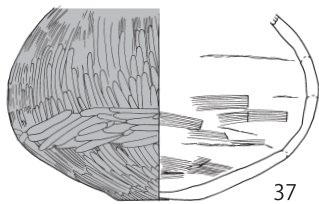


C区 SE44

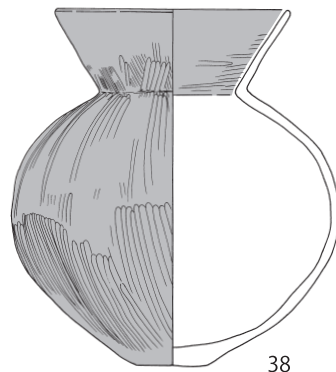


36

D区 SE 1

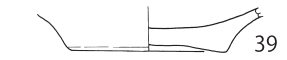


37

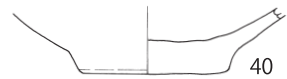


38

D区 SE 4



39

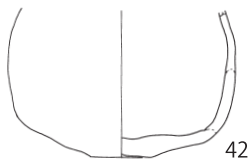


40



41

D区 SE 5



42

D区 SE 15



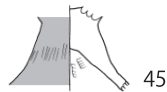
43

D区 SE 17



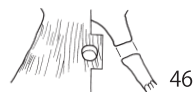
44

D区 SE 22



45

D区 SE 26

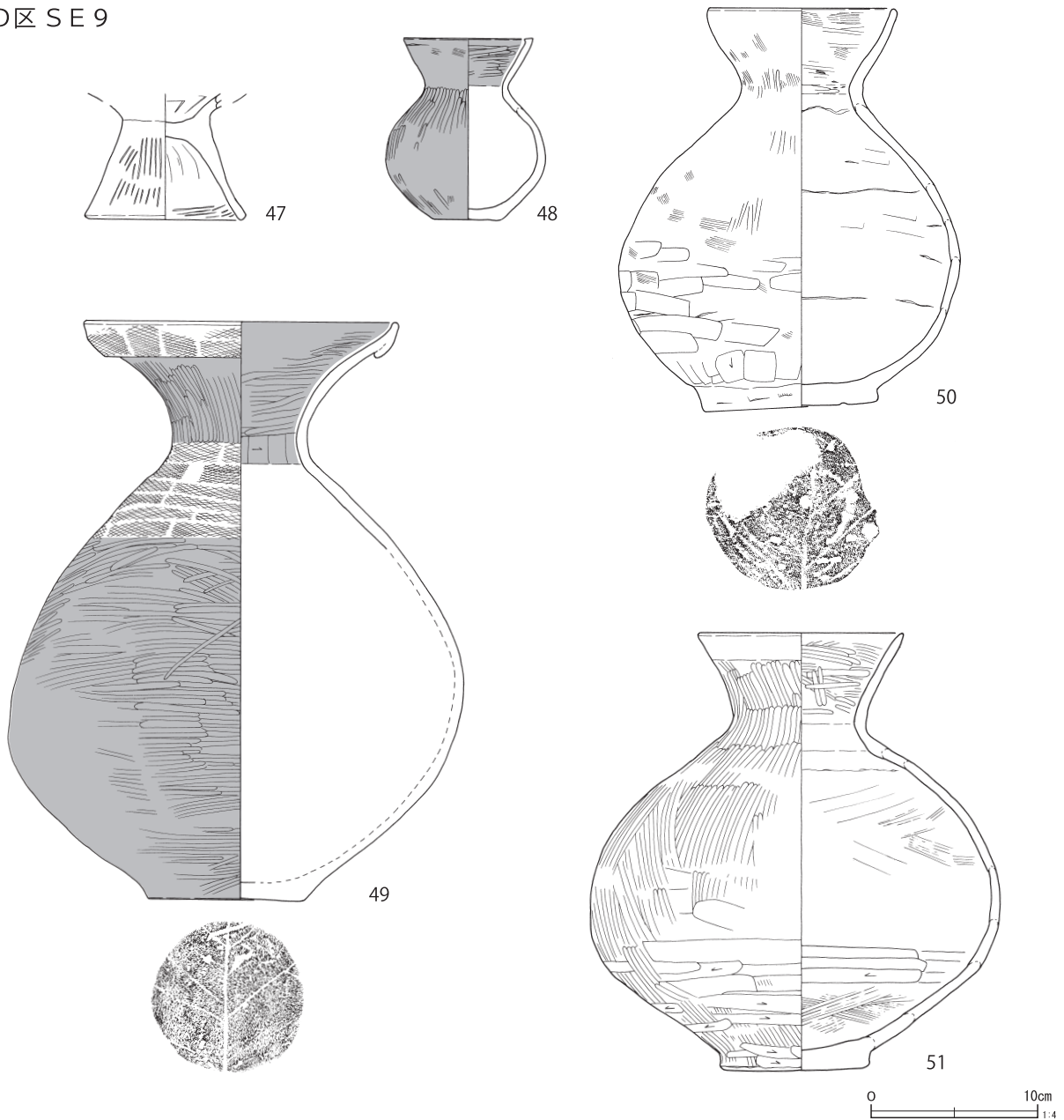


46



第313图 井戸跡出土遺物(2)

D区SE9



第314図 井戸跡出土遺物（3）

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

E区第14号井戸跡（第310図）

B-24グリッドに位置する。第3号方形周溝墓より新しい。平面形は楕円形、断面形については本来筒形であったが、開口部の壁面が崩落したため広がったと推定される。

第1層は褐色粘土ブロック、第2層は黄褐色粘

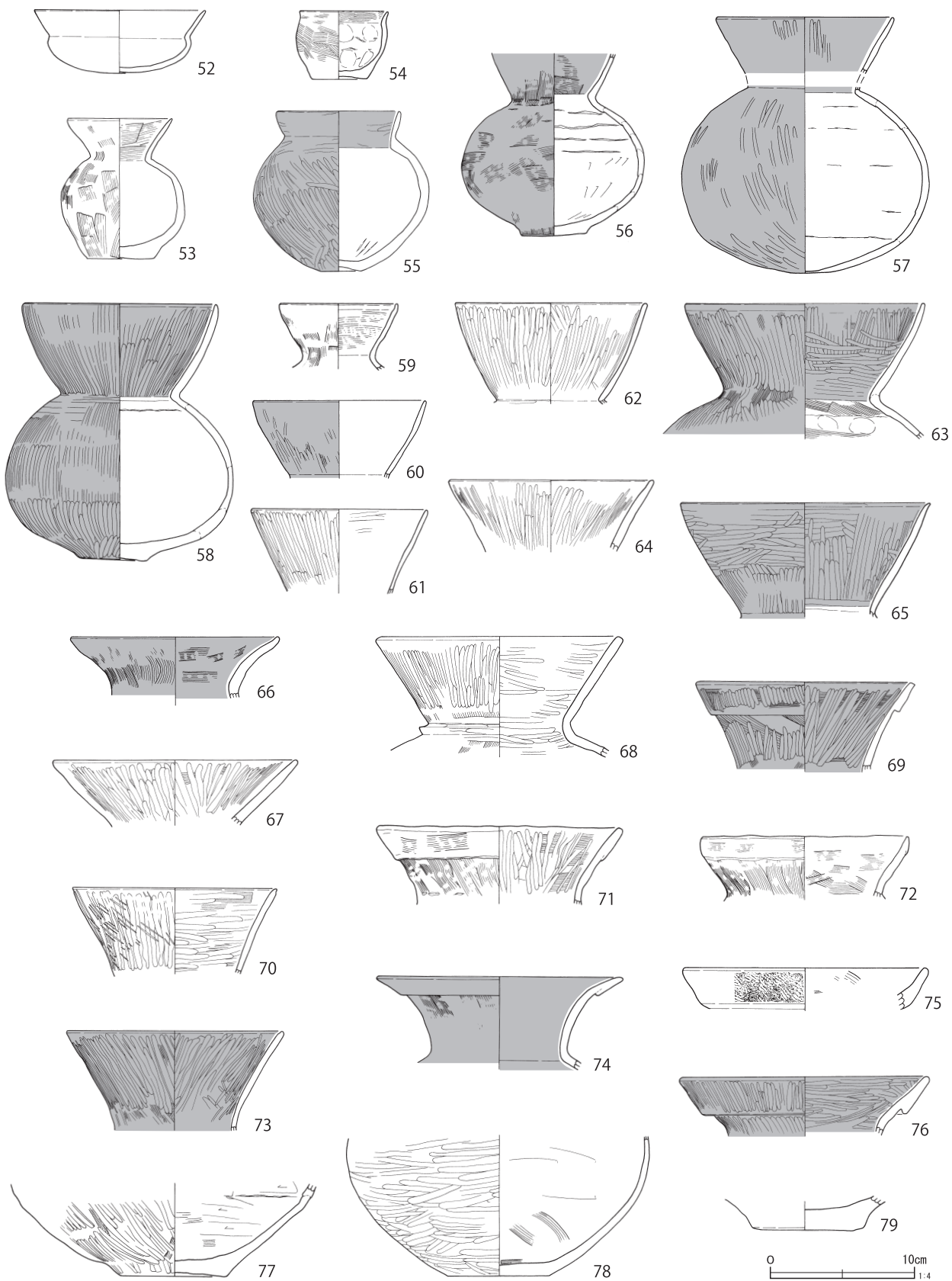
土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

遺物は出土していない。覆土の色調から、遺構の時期は近世と想定される。

E区第15号井戸跡（第310図）

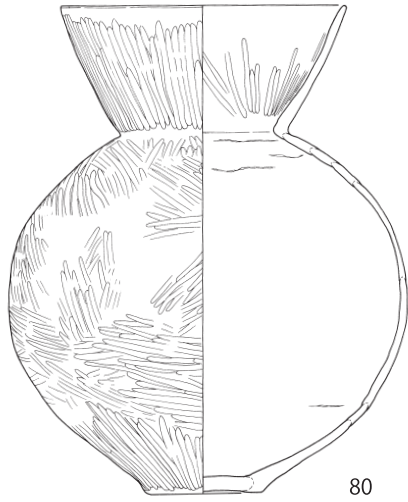
E-22グリッドに位置する。第6号方形周溝墓より新しい。平面形は楕円形、断面形は筒形。

D区 SE14

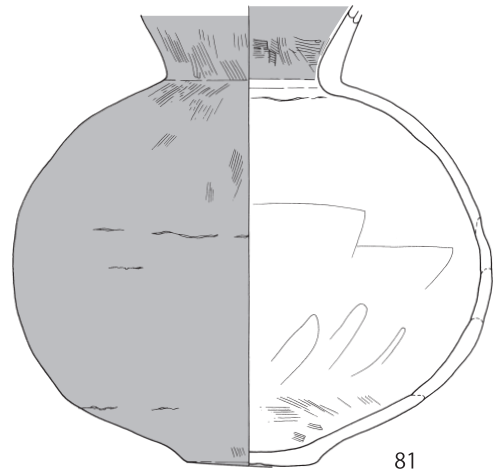


第315图 井戸跡出土遺物（4）

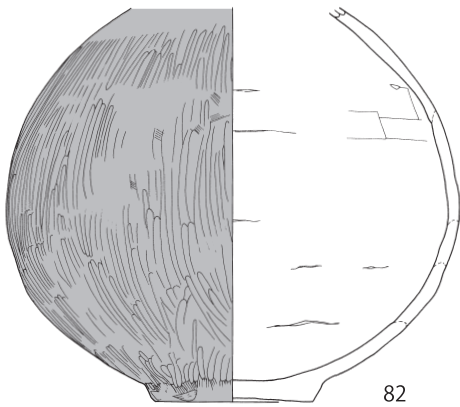
D区 SE14



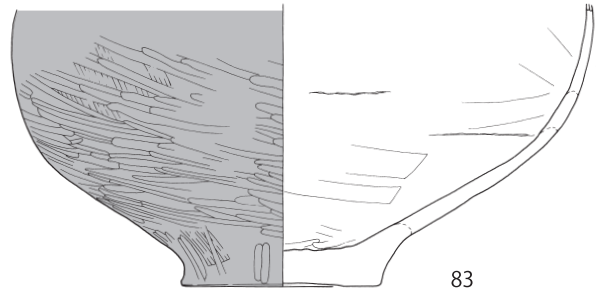
80



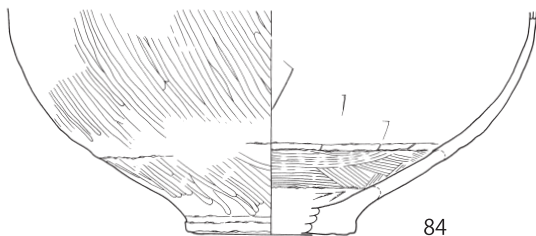
81



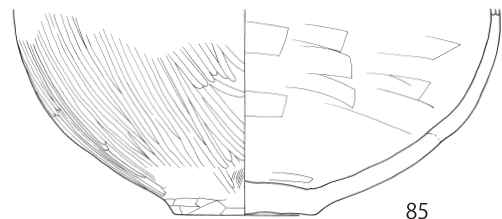
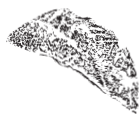
82



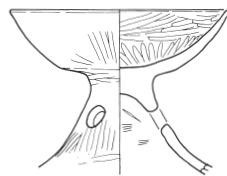
83



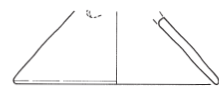
84



85



86

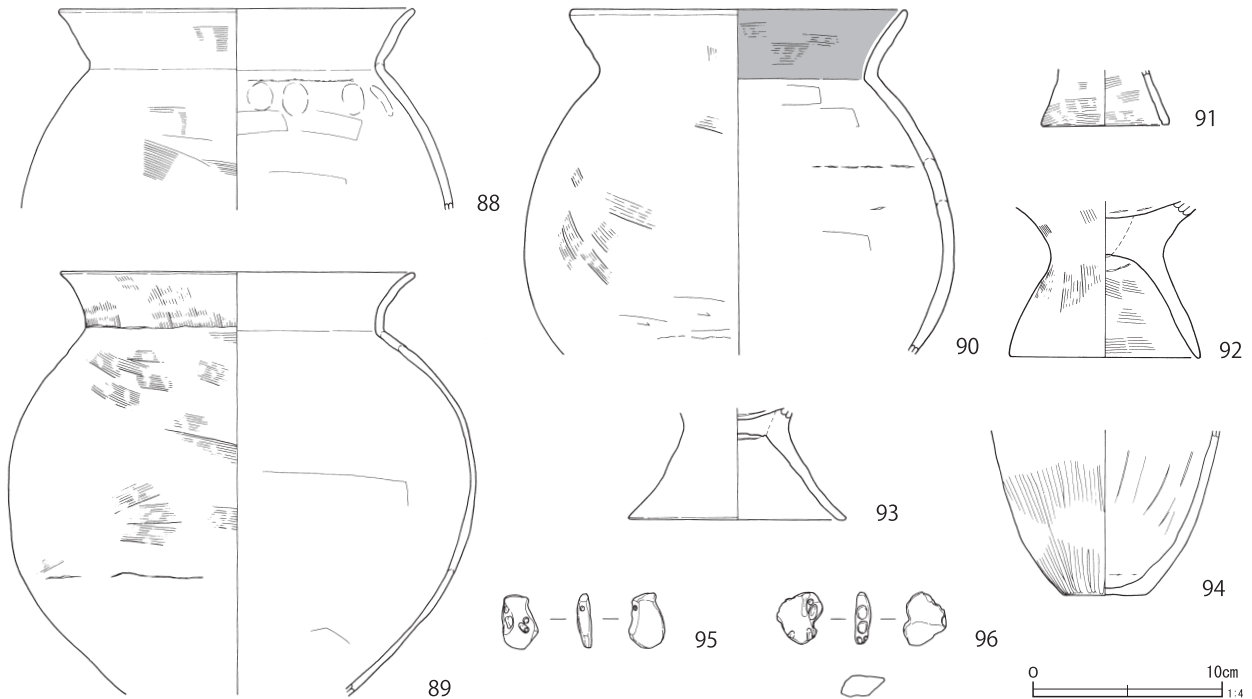


87



第316图 井戸跡出土遺物 (5)

D区 SE14



第317図 井戸跡出土遺物（6）

本遺構は、今回確認された中でも、径の規模が小さな部類に含まれる。

遺物は出土していない。遺構の時期は、古墳時代前期の可能性が高いと推定される。

E区第16号井戸跡（第310図）

A・B-25グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形、断面形は筒形。

第1層は、黄褐色粘土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。危険防止のため、完掘には至らなかった。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

E区第17号井戸跡（第311・323図）

B-25グリッドに位置する。重複遺構はない。平面形は楕円形、断面形は筒形。

第2層は、黄褐色粘土ブロックが斑状に混入していることから、人為的埋め戻しが行われていると考えられる。危険防止のため、完掘には至らな

かった。

漆椀(22)が出土しているが、遺構の時期を特定するには至らなかった。

E区第18号井戸跡（第311図）

F-22グリッドに位置する。E区第18号周溝状遺構より新しい。平面形は楕円形、断面形については本来筒形であったが、開口部の壁面が崩落したため広がったと推定される。危険防止のため、完掘には至らなかった。

遺物は出土していないが、遺構の時期は、古代以降と推定される。

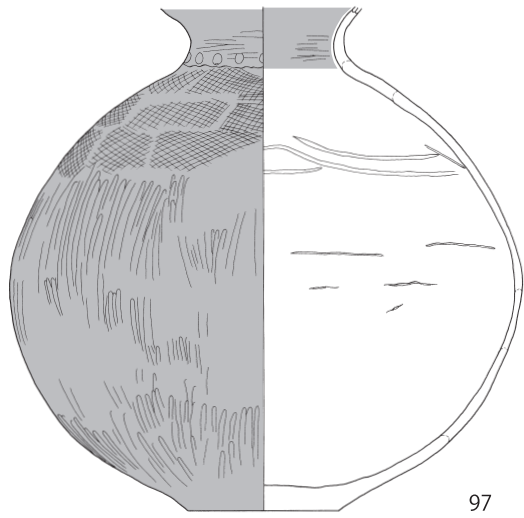
E区第19号井戸跡（第311図）

D-24グリッドに位置する。重複遺構はない。東部分は、調査区外に続く。平面形は円形、もしくは楕円形と推定される。断面形は筒形である。

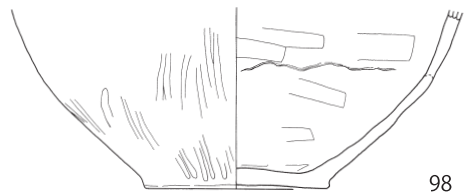
本遺構は、今回確認された中でも、浅い部類に含まれる。

遺物は出土していない。覆土の色調から、遺構の時期は中世と想定される。

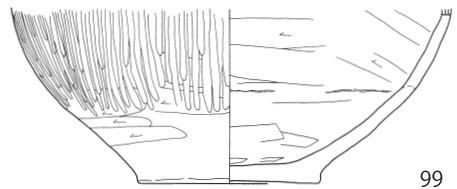
D区 SE27



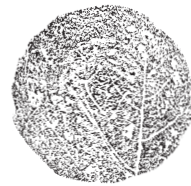
97



98



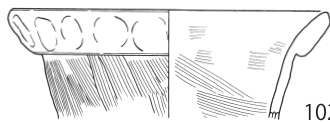
99



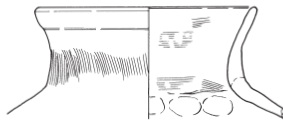
D区 SE28



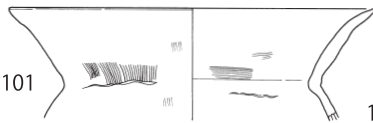
100



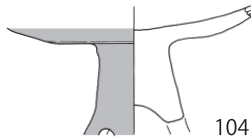
102



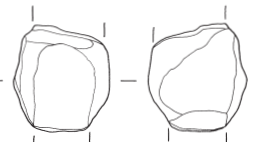
101



103



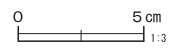
104



105

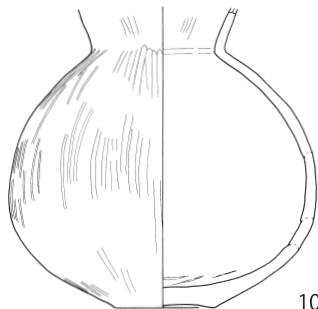


10cm
1:4

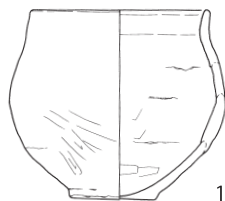


5cm
1:3

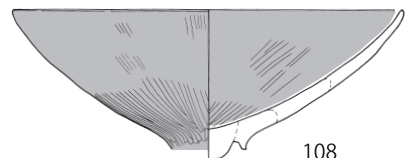
D区 SE29



106

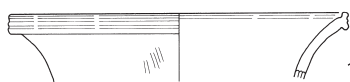


107



108

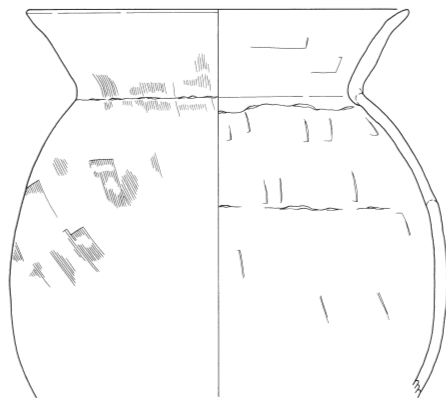
D区 SE30



109



110



111



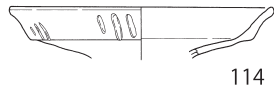
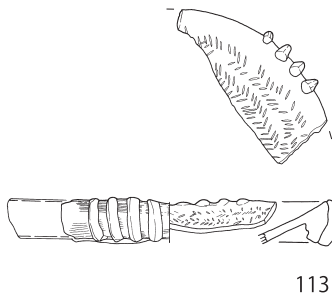
112



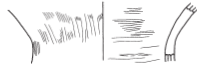
10cm
1:4

第318図 井戸跡出土遺物 (7)

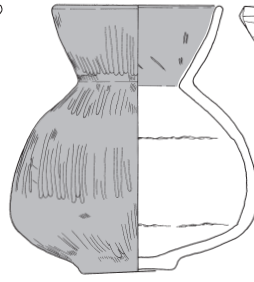
D区 SE33



114



115



116

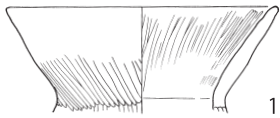
E区 SE1



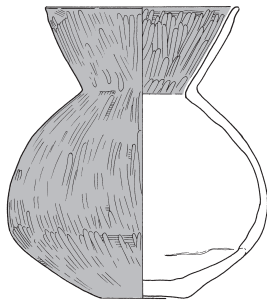
117



E区 SE3



118

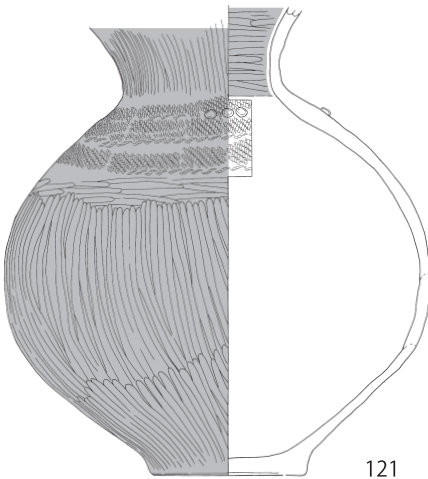


119

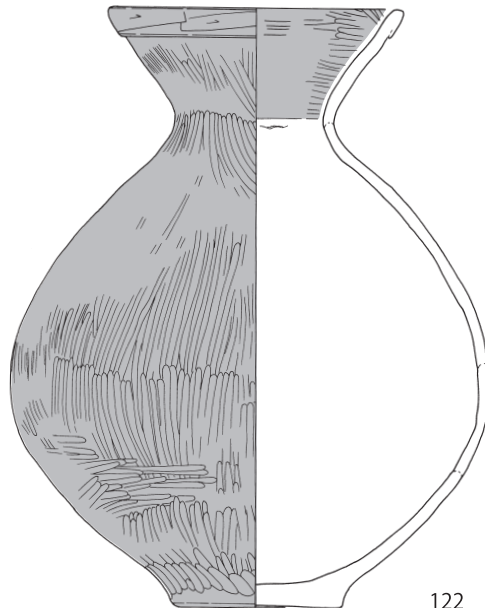


120

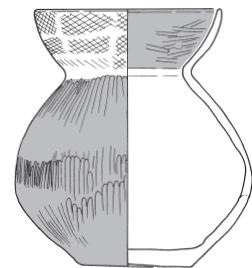
E区 SE4



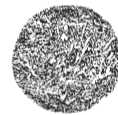
121



122



123

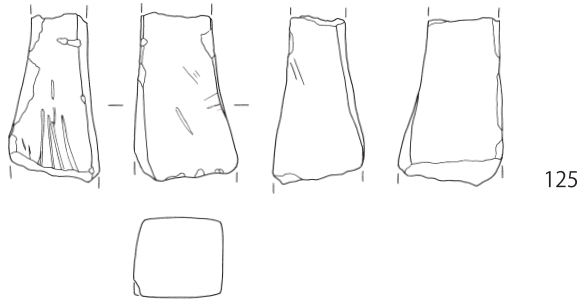


124

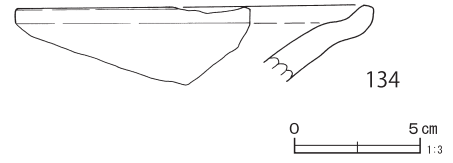


第319图 井戸跡出土遺物(8)

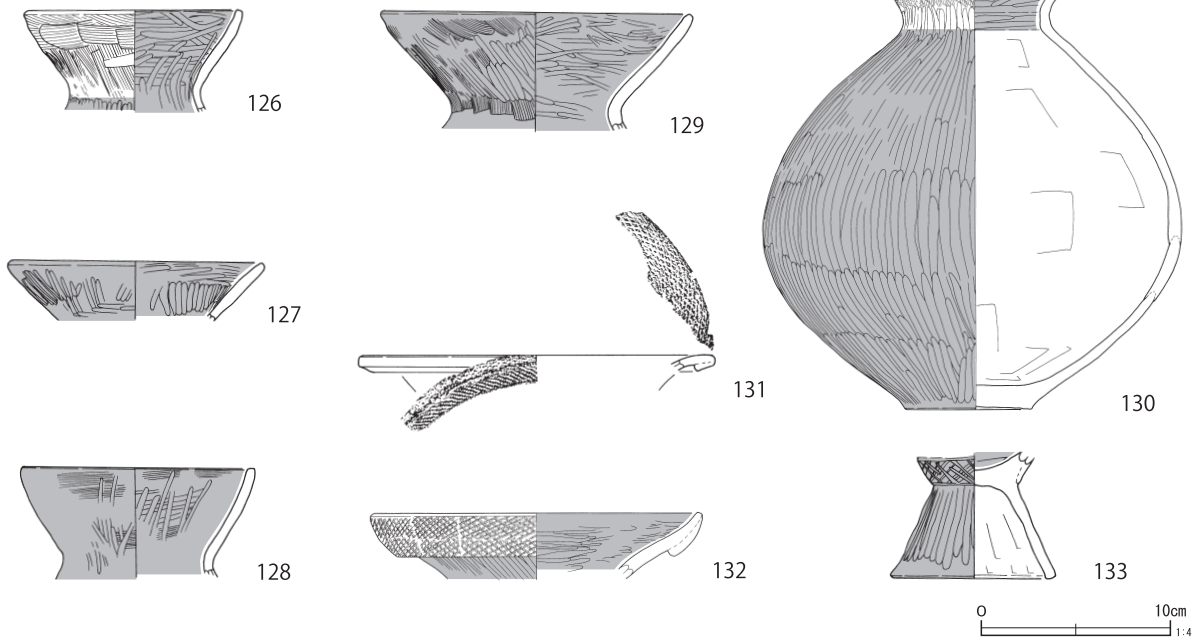
E区 SE 5



E区 SE 12



E区 SE 7



第320図 井戸跡出土遺物 (9)

第78表 井戸跡出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
1	SE5	B	土師器	壺	25		(8.4)	[2.1]	A C D F	普通	灰白		上層 器面風化著しく調整はみえない
2	SE5	B	磁器	碗	5			[4.6]	G	良好	灰白 緻密	轆轤 型打	青磁 上層 内側花卉(線刻)あり 搬載品か 中世か 輪花(蓮弁)
3	SE7	B	土師器	壺	70		6.7	[2.8]	A D F G	普通	橙		底面内側ナデ 内外面ハケ 器面風化著しい
4	SE9	B	瓦質土器	鉢	5			[10.6]	A C F G	良好	白灰		上層 口縁内外面とも轆轤ナデ 体部外面指押さえ 内面ナデ
5	SE9	B	陶器	甕	5			[9.1]	A C D F G	良好	灰赤		外面ナデ・自然釉 内面指押さえ 常滑 13C前半 上層
6	SE9	B	鉄製品	棒状鉄製品		長さ13.8cm 径0.4cm 重さ11.6g							No.4 両端部欠損 錆化著しい 僅かに反っている
7	SE10	B	土師器	壺	20		(11.2)	[2.1]	A D F G	普通	白灰		器面風化著しい 内面ヘラナデか 外面ヘラ磨きか
8	SE12	A	瓦質土器	搦鉢	5			[8.4]	A D F G	普通	にぶい 黄橙		口縁ナデ 外面指押さえ
9	SE16	B	瓦質土器	鉢	5			[10.0]	A C	普通	灰白		口縁部ロクロナデ 外面指ナデ 内面使用により摩滅

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
10	SE16	B	陶器	皿	10		(7.6)	[1.2]	A	普通	浅黄	轆轤	貫入・気泡あり 畳付施釉 内外面長石釉 削出し高台 見込み円錐ピン跡あり 高台内輪トチ跡あり 瀬戸・美濃系 志野 16C末～17C初
11	SE20	B	陶器	碗	40		5.3	[4.6]	A	普通	淡黄	轆轤	内外面灰釉 貼付け高台 底部回転系切か 気泡あり 瀬戸・美濃系 18C中～後葉
12	SE25	B	陶器	皿	20	(11.4)		[1.8]	A	普通	灰白	轆轤	下層 内外面灰釉 気泡少しあり 小皿 瀬戸・美濃系 17C後半か
13	SE25	B	陶器	皿	15	(12.0)	(7.5)	2.6	A		灰白	轆轤	下層 畳付釉・高台内釉あり(部分的にない箇所あり) 内外面長石釉 見込み二重圏線 口縁内部一重圏線 削出し高台 見込み円錐ピン跡あり 気泡あり 見込みに黒ずみあり断面に迄染み込んでいる 灯明皿に転用したものか 瀬戸・美濃系 志野か 16C末～17C初頭
14	SE33	B	瓦質土器	土鍋または鉢	15	(27.6)		[5.7]	A C	普通	灰白		口縁横ナデ
15	SE33	B	陶器	鉢	40		(13.7)	[4.9]		普通	灰白	輪積	内面全体に自然釉 焼締 底面焼台跡あり 備前
16	SE35	B	陶器	皿	25	(10.7)	(7.2)	2.0	A	普通	灰白	轆轤	畳付釉あり 高台内一部釉あり 内外面に灰釉 削出し高台 底部へラ削りか 見込み円錐ピン跡 貫入多 気泡あり 見込みが一部黒っぽくなっている(断面にまで染み込んでいる) 灯明皿に転用 瀬戸・美濃系 17C後半
17	SE11	B	土師器	壺	30	(15.3)		[5.3]	A F D	普通	にぶい黄橙		No.3 内外面ハケの後へラ磨き 口縁ヨコナデ 器面風化している
18	SE11	B	土師器	壺	100	10.9	6.3	18.8	C D E	良好	にぶい黄橙		胴部の孔は焼成後穿孔 孔周辺には穿孔時のヒビが認められる 胴部外面に大黒斑あり
19	SE19	B	土師器	埴	5	(14.2)		[4.0]	C F E	普通	淡黄		器面風化著しい 内面赤彩 外面赤彩
20	SE28	B	土師器	壺	60	(12.3)		[15.5]	A F G	普通	にぶい黄橙		口縁内外面横ナデ 外面へラ磨き 内面へラ磨きとへラナデ
21	SE37	B	土師器	壺	45		9.0	3.6	F G	普通	にぶい橙		器面風化著しい 外面へラ磨きか 内面・底面へラナデか
22	SE35	B		鉄滓		縦12.4cm 横14.1cm 厚さ5.5cm 重さ746.9g							溶解炉 溶解面側一部木質付着 大小の気泡多
23	SE39	C	土師器	台付甕	40		(9.8)	[6.2]	A C F G I	普通	灰白		内外面ハケ 器面風化著しい
24	SE41	C	土師器	小型壺	100	11.5	3.7	12.7	B C D F	良好	にぶい黄橙		No.2 胴部内面上中位へラナデ 口縁上部内外面横ナデ 外面・口縁部内面赤彩
25	SE41	C	土師器	埴	90	(10.4)	2.7	6.3	A B C D	普通	灰黄褐		上層 口縁部外面ハケ後横ナデ 体部外面ハケ 内面へラナデ 内外面赤彩 器面風化している
26	SE41	C	土師器	甕	20	14.7		[4.0]	A D	普通	灰黄褐		口縁部内外面横ナデ 頸部内面へラナデ 外面ハケ
27	SE41	C	土師器	台付甕	95	14.2		[14.6]	B D F G	普通	黄褐		No.1 口縁部内外面横ナデ 外面全体に煤付着
28	SE42	C	土師器	壺	20	(14.8)		[5.7]	C D F G	普通	にぶい橙		内面へラ削りとへラナデ 器面風化している
29	SE42	C	土師器	壺	25		(6.8)	[2.8]	A C F	普通	灰黄褐		外面赤彩
30	SE42	C	土師器	壺	95		8.0	[19.8]	A C D F G	普通	にぶい黄橙		No.1 内面へラナデとナデ 底部木葉痕あり
31	SE42	C	土師器	器台	60			[4.2]	A C F G I	普通	浅黄橙		器面風化著しく調整痕は見えない
32	SE42	C	土師器	台付甕	90		9.4	[5.8]	A C D E F G	普通	にぶい黄橙		内外面風化著しい
33	SE42	C	土師器	台付甕	90		9.8	[7.3]	A B E F G	普通	にぶい黄橙		端部内外面横ナデ 脚部内面ハケとナデか 器面摩滅 調整不明瞭
34	SE43	C	瓦質土器	鉢	5			[3.9]	A F J	普通	灰白		口縁上部横ナデ 口縁部内面ナデ 中世か
35	SE43	C	鉄製品	不明		長さ3.4cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 重さ4.0g							錆著しい 両端部欠損 刀子の柄か
36	SE44	C	土師器	壺	10	(21.4)		[5.0]	A F	普通	にぶい黄橙		内外面赤彩 内面へラミガキ 外面は調整がみえない 風化著しい
37	SE1	D	土師器	小型壺	85		4.4	[9.9]	B C D	普通	にぶい橙		No.2 外面ハケ後へラ磨き 内面ハケナデとナデ 外面赤彩

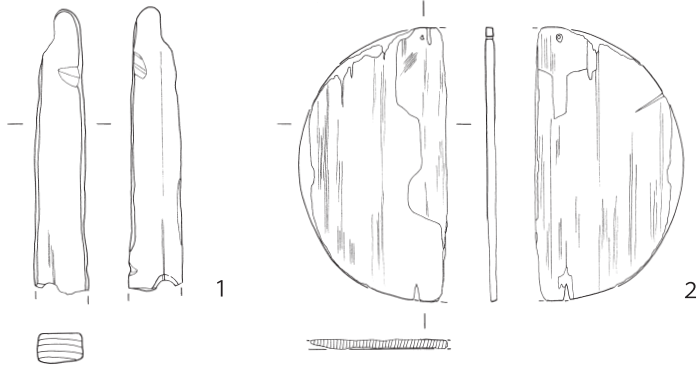
番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
38	SE1	D	土師器	壺	90	12.1	3.7	18.8	A C D F G I	普通	橙		No.1 口縁部外面ハケ後ヘラ磨き 口縁部内面・胴部外面ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデとナデか 外面・口縁部内面赤彩
39	SE4	D	土師器	壺	75		8.4	[2.2]	A C D F J	普通	橙		器面風化著しい
40	SE4	D	土師器	壺	75		7.8	[3.6]	A C D F J	普通	にぶい 橙		器面風化著しい
41	SE4	D	土師器	台付甕	90		9.8	[6.4]	A C D F J	普通	にぶい 橙		No.1 外面ハケとナデか 底部内面・脚部内面ハケナデ 被熱のため外面は一部赤色化している 外面煤付着
42	SE5	D	土師器	小型壺	65		3.2	[7.7]	A C D F J	普通	にぶい 黄橙		No.1・2 器面風化著しく調整痕不明瞭
43	SE15	D	土師器	台付甕	75			[4.3]	CJ	普通	灰褐		外面ハケ 底部内面・脚部内面ヘラナデ 外面煤付着
44	SE17	D	土師器	高坏	70			[4.0]	A C F	普通	にぶい 褐		脚部内面ヘラナデか 器面風化著しく調整不明瞭
45	SE22	D	土師器	高坏	80			[4.4]	A C J	普通	にぶい 黄橙		外面ヘラ磨き 脚部内面ハケナデか 外面赤彩 器面風化著しい
46	SE26	D	土師器	高坏	75			[4.2]	A C F J	普通	にぶい 黄橙		外面ヘラ磨き 脚部内面ヘラナデ 穿孔4ヶ所(外面からの穿孔) 器面風化している
47	SE9	D	土師器	台付甕	95		9.3	[7.5]	A C D G	良好	橙		No.4 外面ハケ 底部内面ヘラナデ 脚部上位内面絞り 端部内面ハケ 被熱により器面赤色化 外面煤付着 内面炭化物わずかに付着
48	SE9	D	土師器	小型壺	85	(7.6)	4.0	10.9	A C F G	普通	灰黄		No.5 外面ハケ後ヘラ磨き 口縁部内面ヘラ磨き 胴部内面ナデとヘラナデか 磨きは丁寧 外面に黒斑あり 外面・口縁部内面赤彩
49	SE9	D	土師器	壺	95	(18.6)	9.3	34.8	A C D F	普通	橙		No.1 口縁上部・肩部外面擦糸文 頸部内外面・胴部ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデか 頸部外面・胴部外面・口縁部へ頸部内面赤彩 底部木葉痕あり
50	SE9	D	土師器	壺	95	11.0	10.3	23.8	BCE	普通	灰白		No.2 上半ハケ後ヘラ磨き 下半ハケ後削りに近いヘラナデ痕あり 器面風化著しく調整痕不明瞭 胴部外面に大黒斑3ヶ所あり 底部木葉痕あり
51	SE9	D	土師器	壺	95	12.0	9.0	26.2	A C F G	普通	灰白		No.3 口縁上部外面横ナデ 口縁部内面ハケ後ヘラ磨き 胴部外面ヘラ磨き 胴部内面ハケナデとヘラナデ 胴部外面に大黒斑あり
52	SE14	D	土師器	埴	25	(11.7)		4.3	A	普通	にぶい 橙		No.2 器面風化著しく調整痕はみえない 内面黒斑あり
53	SE14	D	土師器	小型壺	95	7.2	4.7	9.7	A C D F J	普通	にぶい 褐		No.70 口縁上部内外面ハケ後横ナデ 胴部外面ハケ 胴部内面ヘラナデか 胴部上半は手擦れのためかハケが不明瞭 胴部外面に黒斑あり
54	SE14	D	土師器	手捏ね	90	6.0	3.8	4.7	A C D J	普通	灰褐		No.11 口縁部内外面ハケ後横ナデ 胴部内面指頭圧痕 外面黒斑あり 遺存状況は良好
55	SE14	D	土師器	小型甕	95	8.2	2.9	11.1	A C D F	普通	にぶい 黄橙		No.72 外面・口縁部内面ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデ 遺存状況比較的良好 外面・口縁部内面赤彩
56	SE14	D	土師器	小型壺	80		4.4	[12.6]	A B C F G	普通	にぶい 橙		No.53 外面・口縁部内面ハケ 胴部内面ヘラナデとナデか 外面・口縁部内面赤彩 肩部内面開裂痕顕著
57	SE14	D	土師器	壺	80	(12.0)		17.7	D F G	普通	橙		No.50 外面・口縁部内面ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデとナデか 外面・口縁部内面赤彩
58	SE14	D	土師器	壺	85	(13.2)	4.6	17.7	A C D F	普通	にぶい 橙		下層 No.60 外面・口縁部内面ヘラ磨き 胴部～底部・口縁部内面に黒斑あり 遺存状況比較的良好 外面・口縁部内面赤彩
59	SE14	D	土師器	壺	30	(8.2)		[4.5]	A C D F J	普通	にぶい 黄橙		No.55・56 口縁部内外面ハケ後横ナデ 器面風化している
60	SE14	D	土師器	壺	55	11.8		[5.3]	A C F	普通	にぶい 橙		No.52 外面ハケ後ヘラ磨き 内面ヘラ磨きか 器面風化著しい 外面赤彩 内面赤彩か
61	SE14	D	土師器	埴	80	12.0		[5.8]	A F G	普通	橙		No.51 外面ヘラ磨き 内面殆ど剥離している

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型 技法	備考
62	SE14	D	土師器	壺	90	13.1		[7.0]	A B D F G	普通	にぶい 橙		下層 内外面へら磨き 内面に黒斑あり
63	SE14	D	土師器	壺	60	16.4		[9.4]	A C D	普通	灰白		下層 外面・口縁部内面ハケ後へら磨き 肩部内面ハケナデと指頭圧痕 外面・口 縁部内面赤彩
64	SE14	D	土師器	罎	20	(14.0)		[5.0]	A C D	良好	にぶい 黄橙		下層 内外面へら磨き
65	SE14	D	土師器	壺	50	(17.3)		[7.9]	C F G	普通	橙		№66・75 内外面へら磨き 内外面赤彩
66	SE14	D	土師器	壺	65	14.3		[4.3]	A C D F J	普通	にぶい 黄橙		№69 口縁部内外面横ナデ後ハケとへら ナデか 内外面黒斑・赤彩あり 器面風 化著しい
67	SE14	D	土師器	壺	25	(16.8)		[4.6]	A C D	普通	明黄褐		№82・86 内外面ハケ後へら磨き
68	SE14	D	土師器	壺	40	(16.2)		[8.3]	A C D	普通	橙		下層 №61 内外面ハケ後へら磨き
69	SE14	D	土師器	壺	90	14.5		[6.2]	A C	普通	にぶい 黄橙		下層 内外面ハケ後へら磨き 遺存状況 は比較的良好 内外面赤彩(井戸内に あったため赤彩の大部分が失われたと思 われる)
70	SE14	D	土師器	壺	70	(13.9)		[6.0]	A C D F J	普通	灰黄		下層 №86 外面幅広な木目のハケ後へ ら磨き 内面ハケ後粗いへら磨き
71	SE14	D	土師器	壺	25	(17.1)		[5.4]	C D F J	普通	黄褐		№74 口縁上部内面横ハケ後横ナデ 口 縁上部内面横ナデ
72	SE14	D	土師器	壺	20	(14.2)		[4.4]	A C D F J	普通	灰オ リーブ		下層 口縁上部内外面ハケ後横ナデ
73	SE14	D	土師器	壺	15	(14.9)		[6.9]	A C D F J	普通	明黄褐		下層 内外面ハケ後へら磨き 全面赤彩
74	SE14	D	土師器	壺	35	(16.8)		[6.4]	A C D F G	普通	にぶい 橙		№21 口縁上部内外面横ナデ 口縁下部 外面ハケのへら磨きか 口縁下部内面へ ら磨きか 内外面赤彩 器面風化著しい
75	SE14	D	土師器	壺	25	(16.8)		[2.9]	A C D F	普通	にぶい 黄橙		1層下位 口縁部外面縄文 口縁部内面 ハケか
76	SE14	D	土師器	壺	20	(17.1)		[4.1]	A C D F J	良好	にぶい 黄橙		下層 内外面へら磨き・赤彩
77	SE14	D	土師器	壺	65		7.2	[6.5]	A C D	普通	にぶい 黄		№71・79 外面ハケ後へら磨き 内面へ ら削りとへらナデ 遺存状況は比較的良好 胴～底部外面に大黒斑あり
78	SE14	D	土師器	壺	20		(7.0)	[9.6]	A C D J	普通	橙		№68 外面へら磨き 内面ハケナデとへ らナデ 底部へら削り 外面に黒斑あり
79	SE14	D	土師器	壺	80		7.8	[2.0]	A C D F J	普通	にぶい 橙		3層 内面・底部へらナデか 器面風化 著しい
80	SE14	D	土師器	壺	75	14.8	6.0	25.8	C D E F	普通	にぶい 黄橙		下層 №66～68・75 外面・口縁部内面 へら磨き 胴部内面へらナデか 比較的 遺存状況は良いが、口縁内面は風化著 しい 胴部～底部外面に黒斑あり
81	SE14	D	土師器	壺	90		6.6	[24.4]	A C D F	普通	浅黄		№62 外面・口縁部内面ハケ後へら磨き か 胴部内面へらナデとハケナデ 胴部 内面下位に指ナデか 器面風化著しい 胴～底部外面に大黒斑あり 外面・口縁 部内面赤彩
82	SE14	D	土師器	壺	70		8.4	[20.8]	A C D G	普通	にぶい 橙		下層 №74・76・78・85 外面ハケ後へ ら磨き 内面へらナデ 遺存状況は比較 的良好 外面に黒斑・赤彩あり 底部に 木葉痕あり
83	SE14	D	土師器	壺	75		10.5	[14.9]	C F G	普通	にぶい 黄橙		№65 外面ハケ後へら磨き 内面へらナ デとナデ 器面の遺存状況は比較的良好 である 外面赤彩 底部に木葉痕あり
84	SE14	D	土師器	壺	25		(8.8)	[11.8]	C D E G	普通	にぶい 黄橙		下層 №80・84・86 外面粗いへら磨き 内面ハケナデとへらナデ 底部木葉痕か
85	SE14	D	土師器	甕	60		7.6	[10.8]	D F	良好	灰黄		下層 №65・66・73・81 外面ハケ後へ ら磨き 内面へらナデ 胴部外面に黒斑 あり 遺存状況は比較的良好
86	SE14	D	土師器	高坏	90	11.4		[8.7]	A B C F G	普通	にぶい 赤褐		№25 口縁上部内外面横ナデ 坏部内 面・外面へら磨き 脚部内面へらナデ 穿孔3ヶ所(外面からの穿孔)
87	SE14	D	土師器	高坏	15		(10.6)	[3.8]	A C D F	普通	にぶい 橙		№39 外面へら磨きか 器面風化著しい 内外面に黒斑あり 残る孔が1ヶ所のため 3孔か4孔か不明

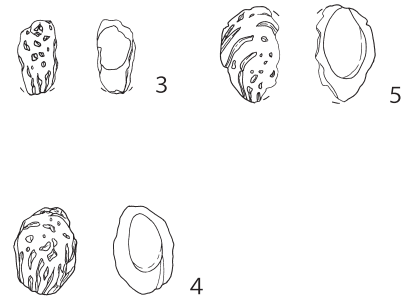
番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
88	SE14	D	土師器	甗	30	(18.6)		[10.6]	C D F	普通	にぶい 橙		No.19 口縁部内外面ハケ後横ナデ 内面ヘラナデと指頭圧痕 口縁～胴部外面に黒斑あり
89	SE14	D	土師器	甗	70	18.4		[22.4]	A C F J	普通	にぶい 黄橙		No.39 口縁部内外面横ナデ 胴部外面ハケ 胴部内面ヘラナデか 器面風化著しい 被熱のため器面は著しく赤色化している
90	SE14	D	土師器	甗	20	(17.6)		[18.2]	A C F	普通	灰黄褐		No.24 口縁部内外面ハケ後横ナデ 胴部内面ヘラナデ 器面風化著しい 外面に黒斑あり 口縁部内面に赤彩 外面赤彩か
91	SE14	D	土師器	台付甗	25		(6.7)	[3.0]	A C D F J	普通	浅黄橙		No.39 外面ハケ 内面ハケナデ 器面風化している 外面に黒斑あり
92	SE14	D	土師器	台付甗	85		9.8	[8.2]	A C F G	普通	橙		外面・脚部内面ハケ 底部内面ヘラナデ 摩擦著しい
93	SE14	D	土師器	台付甗	85		11.4	[5.9]	A C D G	普通	橙		No.20・21 底部内面ヘラナデ 端部内外面横ナデか 脚部内面ナデか 器面風化著しい
94	SE14	D	土師器	甗	75		4.4	[8.7]	A D F	普通	黒褐		下層 外面ヘラ磨き 内面・底部ヘラナデ 外面に黒斑あり
95	SE14	D	貝巢穴 痕泥岩			長さ2.9cm 重さ3.7g	幅1.8cm	厚さ0.9cm			にぶい 黄橙		被熱のため極くわずかに赤色化している 5孔か
96	SE14	D	貝巢穴 痕泥岩			長さ2.7cm 重さ3.6g	幅2.4cm	厚さ0.9cm			にぶい 黄橙		被熱のため極くわずかに赤色化している 4孔か
97	SE27	D	土師器	壺	90		8.0	[26.5]	A C D	普通	にぶい 黄橙		No.2 口縁部内外面ヘラ磨き 肩部外面擦糸文あり 胴部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 頸部に円形浮文21コあり 外面・口縁部内面赤彩(比較的遺存状況が良いが赤彩はあまり残っていない) 胴部外面に大黒斑あり
98	SE27	D	土師器	壺	70		9.6	[9.5]	A C F J	普通	灰黄褐		No.3 外面粗いヘラ磨き 内面・底部ヘラナデ 外面はやや摩滅している 外面に黒斑あり
99	SE27	D	土師器	壺	80		9.5	[9.1]	A C F J	普通	灰黄		No.1 外面上半ヘラ削り後ヘラ磨き 外面下半ヘラ削り後ナデか 内面ヘラ削りとナデ 胴～底部外面に黒斑あり 底部に木葉痕あり
100	SE28	D	土師器	壺	45	(7.8)	4.1	3.4	C D F J	普通	にぶい 橙		器面風化著しく調整不明 胴～底部外面に黒斑あり
101	SE28	D	土師器	壺	55	(11.6)		[5.9]	A C J	普通	にぶい 黄橙		E-17G 口縁部内外面ハケ後横ナデ 頸部内面指頭圧痕あり 器面風化している 器面に鉄分付着
102	SE28	D	土師器	壺	5	(16.8)		[5.6]	A C D F	普通	浅黄		口縁部外面僅かに指頭圧痕あり 口縁部内外面横ナデ
103	SE28	D	土師器	甗	5	(19.4)		[5.9]	A C D J	普通	にぶい 黄橙		口縁部内外面横ナデ 器面風化している
104	SE28	D	土師器	高坏	55			[6.7]	A C F J	普通	にぶい 橙		1～6層 器面風化著しく調整不明 穿孔3ヶ所(外面からの穿孔) 外面赤彩 内面赤彩か
105	SE28	D	石製品	用途 不明		長さ4.1cm 重さ24.7g	幅3.8cm	厚さ2.3cm					砥石か 両端部とも欠損していると思われる 表面に鉄分・マンガン付着
106	SE29	D	土師器	壺	85		5.2	[15.7]	A C D F J	普通	浅黄		No.22 口縁部内面・外面ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデか 器面風化著しい
107	SE29	D	土師器	鉢	80	9.0	4.4	10.0	A F	普通	にぶい 橙		No.15 口縁部内外面横ナデ 胴部外面ヘラ削りとヘラナデ 内面ヘラナデ 器面風化している 胴～底部外面に大黒斑あり
108	SE29	D	土師器	高坏	50	(20.4)		[7.9]	A D F	普通	にぶい 黄橙		No.8～14・16 内外面ヘラ磨き 器面風化している 内面に大黒斑・内外面赤彩
109	SE30	D	土師器	壺	5	(17.6)		[3.5]	A C D F	普通	明黄褐		No.3 内外面ヘラ磨きか
110	SE30	D	土師器	壺	20		(6.0)	[4.2]	A C D F J	普通	にぶい 黄橙		No.1 外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 器面風化著しい
111	SE30	D	土師器	甗	70	20.2		[20.3]	A C D F	普通	灰黄褐		No.1 口縁部内外面ヘラナデと横ナデか 胴部外面ハケとヘラナデか 口縁～胴部内外面に大黒斑あり
112	SE30	D	土師器	台付甗	75			[6.0]	A C F J	普通	明褐灰		No.2 底部内面・脚部内面ハケナデ 器面風化著しい 外面は被熱のため赤色化している

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型 技法	備考
113	SE33	D	土師器	壺	5	(16.8)		[2.3]	A C D F	普通	にぶい 橙		No.1 棒状浮文(4本1単位何単位あるかは不明) 内面に羽状の細かな線刻器面風化著しい
114	SE33	D	土師器	壺	30	(13.8)		[2.7]	A C D F J	普通	にぶい 黄橙		No.1・3 器面風化著しく調整不明
115	SE33	D	土師器	壺	60			[3.1]	A C F J	普通	明黄褐		内外面ハケ後粗いヘラ磨き 器面風化している 内面に炭化物付着か
116	SE33	D	土師器	壺	95	8.4	4.7	14.0	A C	普通	にぶい 黄橙		No.2 外面ハケ後ヘラ磨き 口縁部内面ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデか 胴部外面に黒斑あり 外面・口縁部内面赤彩
117	SE1	E	陶器	鉢	5			[3.8]	CHJ	普通	黄灰	轆轤	焼締 全面轆轤ナデか 中世か
118	SE3	E	土師器	壺	90	14.0		[5.6]	A C D F J	普通	淡黄		No.3 内外面ヘラ磨き 器面風化している
119	SE3	E	土師器	小型壺	100	10.0	4.6	15.3	A C F	普通	にぶい 橙		No.1 外面・口縁部内面ハケ後ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデとナデか 底部ヘラ削り 外面・口縁部内面赤彩
120	SE3	E	土師器	壺	90	14.8	7.7	28.7	A C D F	普通	淡黄		No.2 外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 器面風化著しい 胴部外面に黒斑あり 口縁は歪んでいる
121	SE4	E	土師器	壺	95		8.0	[24.9]	A C F J	良好	赤褐		No.1 口縁部内外面・胴部外面ヘラ磨き 肩部原体 RL 縄文施文後結節回転 胴部内面ヘラナデか 遺存状況は比較的良好 3個単位の貼付文は3ヶ所と思われる 胴部外面に黒斑あり 外面・口縁部内面赤彩
122	SE4	E	土師器	壺	95	15.6	8.6	31.8	A D F J	普通	赤褐		No.2 口縁上部内面ヘラ磨き 口縁上部外面ヘラナデ 胴部外面ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデか 内外面とも鉄分が沈着した植物質(葉や根か)が広い範囲に渡って付着している 外面・口縁部内面赤彩
123	SE4	E	土師器	壺	95	9.9	6.1	13.6	A C D F J	普通	にぶい 黄橙		No.3 口縁部外面擦糸文 口縁部内面・胴部外面ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデか 胴部外面・口縁部内面赤彩 底部木葉痕
124	SE4	E	土師器	器台か	5	(9.6)		[1.2]	A C F	普通	黒		器面風化著しい 内外面に煤付着
125	SE5	E	石製品	砥石		長さ[6.6]cm 重さ117.9g	幅4.1cm	厚さ3.1cm					凝灰岩 両端部欠損 4面使用 全面に鉄分・マンガ付着
126	SE7	E	土師器	壺	80	11.0		[5.4]	A D J	普通	にぶい 黄橙		口縁部外面ハケ・横ナデ・ヘラ磨き 口縁部内面ヘラ磨き 頸部外面・口縁部内面赤彩
127	SE7	E	土師器	柑	10	(13.2)		[3.2]	A C D F	良好	明赤褐		外面ヘラ磨き 内面ハケ後ヘラ磨き 内外面赤彩
128	SE7	E	土師器	壺	85	12.4		[5.8]	A C D F J	普通	褐灰		内外面ハケ後粗いヘラ磨き 内外面赤彩
129	SE7	E	土師器	壺	85	16.5		[6.2]	A C D F J	普通	褐灰		No.1 外面ハケ後粗いヘラ磨き 内面ヘラ磨き 器面風化している 内面に黒斑あり 内外面赤彩
130	SE7	E	土師器	壺	90	13.1	6.7	25.9	A F G	良好	にぶい 黄橙		No.2 非結束羽状縄文 原体 RL 原体 LR 口唇部〜口縁部外面縄文 胴部外面ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデ 遺存状況は比較的良好 胴部外面・頸部内外面に黒斑あり 胴部外面・口縁部内面赤彩
131	SE7	E	土師器	壺	15	(18.2)		[0.9]	A C F	普通	灰黄		口縁上部内外面擦糸文
132	SE7	E	土師器	壺	25	(17.0)		[3.5]	A D	普通	橙		No.2 口縁部外面擦糸文 口縁部内面・頸部外面赤彩
133	SE7	E	土師器	台付甕	95		8.3	[6.7]	A C D F J	普通	にぶい 橙		底部外面突帯にヘラによる格子目 脚部外面ヘラ磨き 脚部内面ヘラナデ 脚部内面黒斑あり 脚部外面・底部内面赤彩
134	SE12	E	瓦質 土器か	鉢	5			[4.0]	BDJ	普通	灰白		口縁部内外面横ナデ 中世か

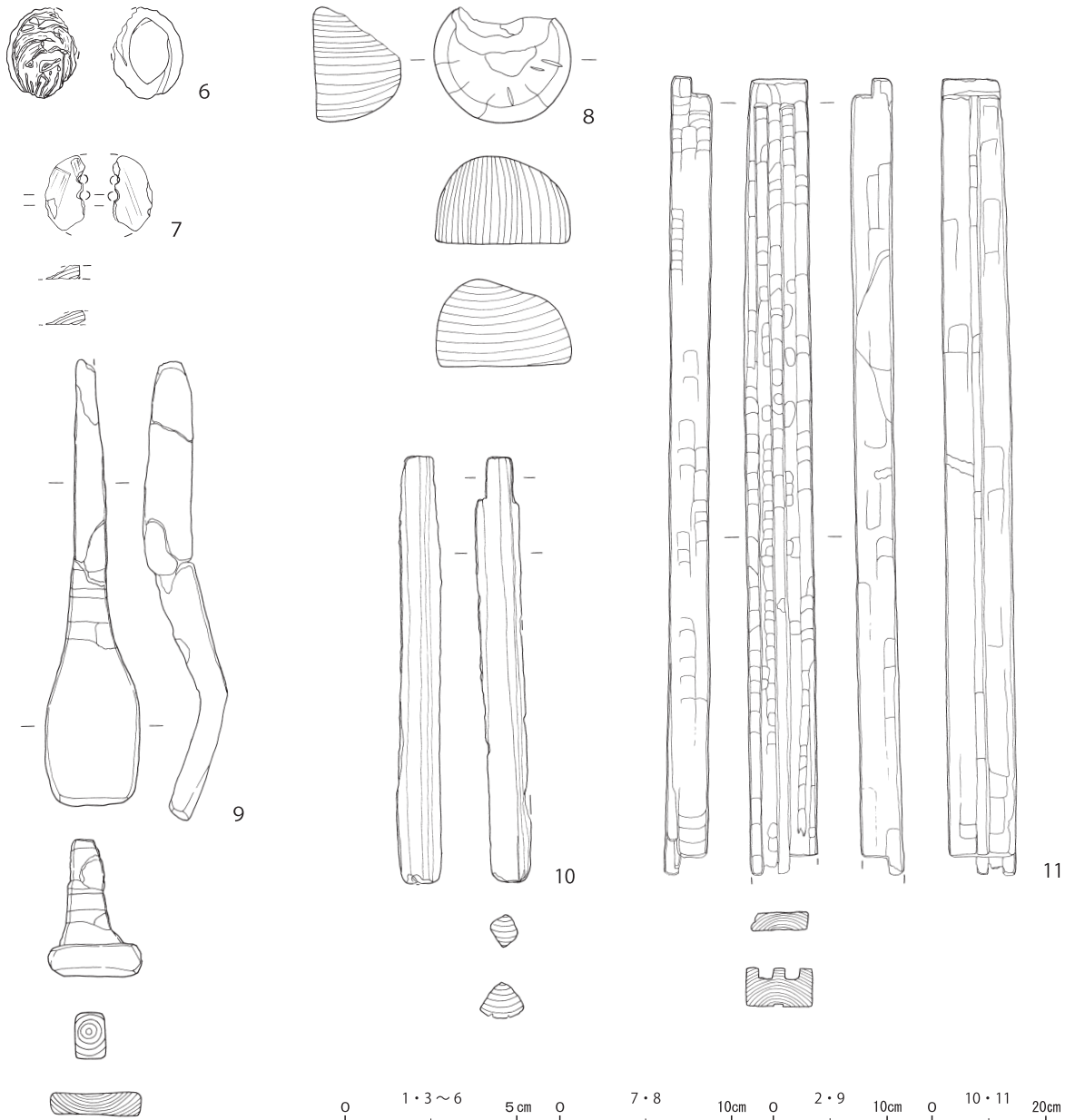
B区 SE 2



B区 SE 8

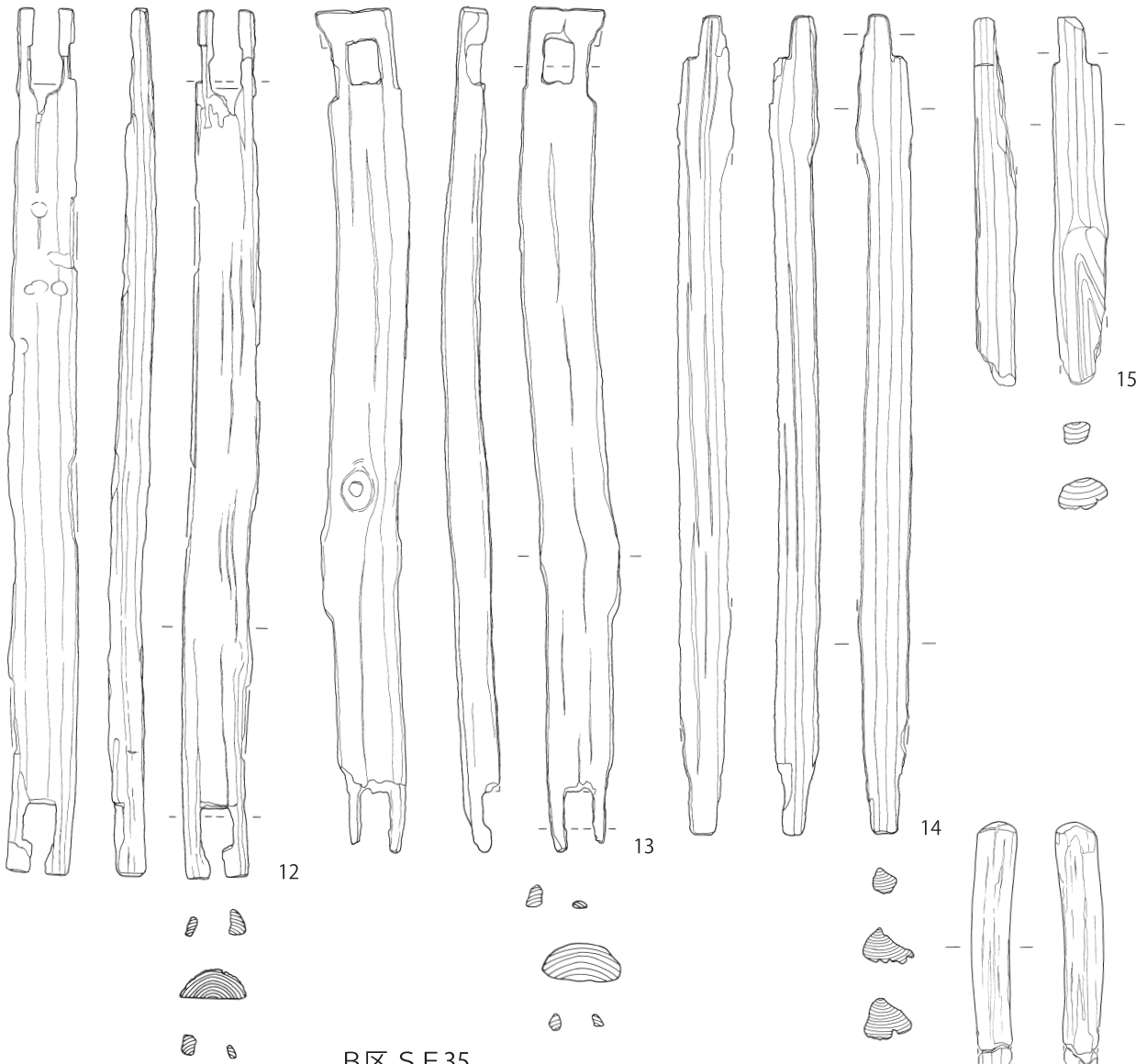


B区 SE 9



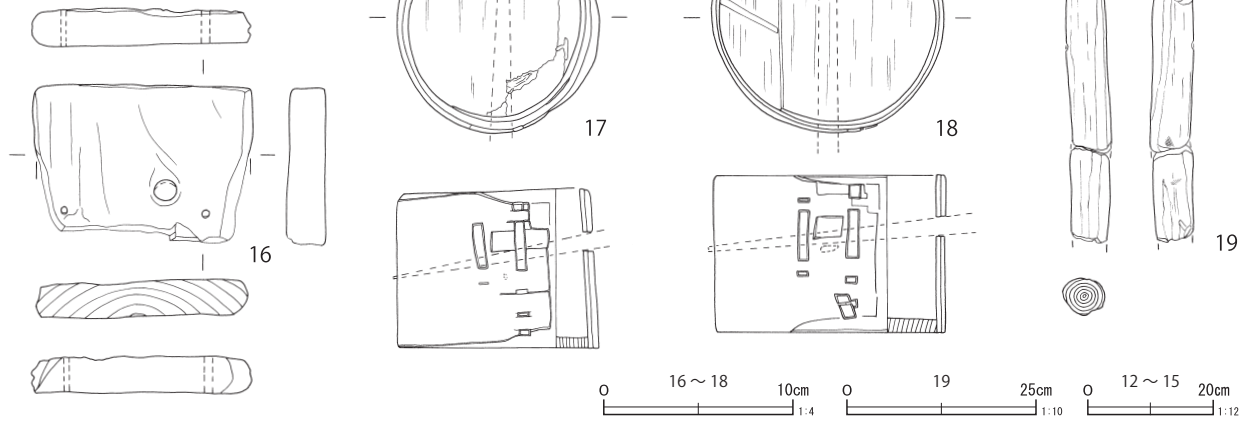
第321图 井戸跡出土木製品 (1)

B区 SE 9



B区 SE 35

B区 SE 33

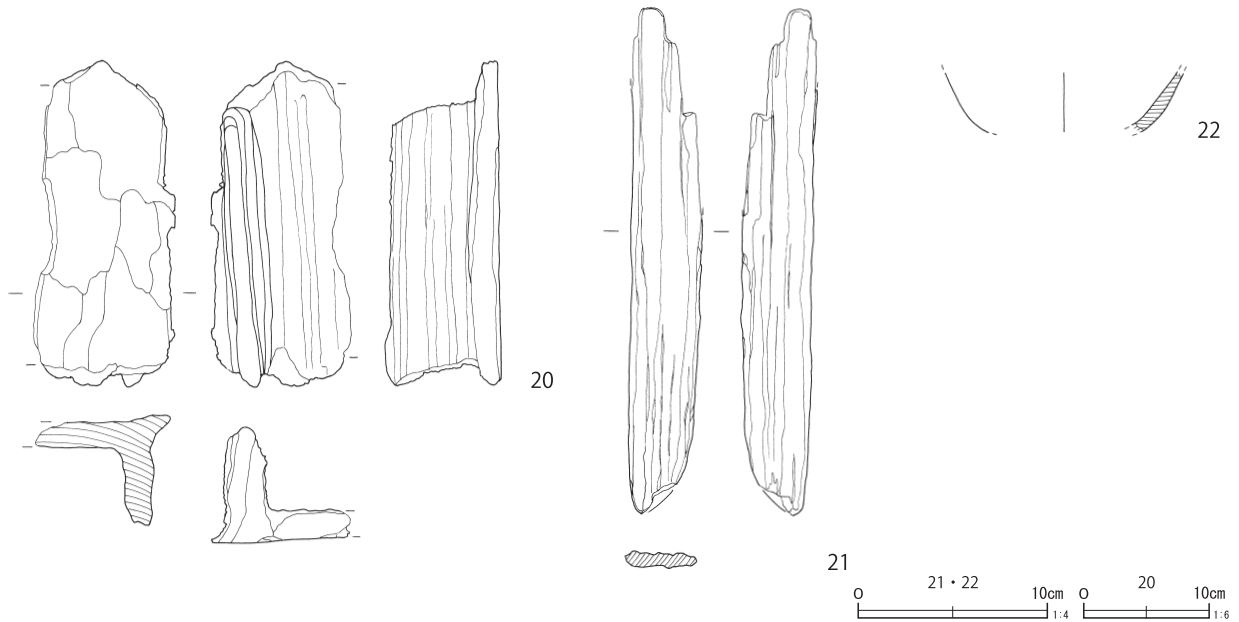


第322图 井戸跡出土木製品 (2)

C区 SE39

E区 SE4

E区 SE17



第323図 井戸跡出土木製品 (3)

第79表 井戸跡出土木製品観察表

番号	遺構	区別	機種	計測値(cm)	備考	番号	遺構	区別	機種	計測値(cm)	備考
1	SE2	B	不明品	長さ[7.5]cm 幅1.3cm 厚さ0.8cm	板目	12	SE9	B	井戸枠	長さ146.7cm 幅11.8cm 厚さ5.3cm	No.7 半割 中世
2	SE2	B	底板	長さ21.8cm 幅11.0cm 厚さ0.8cm	No.1 柾目	13	SE9	B	井戸枠	長さ143.5cm 幅13.3cm 厚さ6.5cm	No.9 半割 転用材 中世
3	SE8	B	種子	長さ[1.9]cm 幅[1.0]cm 厚さ[0.7]cm	桃の種子	14	SE9	B	井戸枠	長さ137.5cm 幅9.5cm 厚さ7.0cm	みかん割り 中世
4	SE8	B	種子	長さ2.3cm 幅1.6cm 厚さ[0.7]cm	桃の種子	15	SE9	B	井戸枠	長さ[62.7]cm 幅8.4cm 厚さ5.4cm	No.6 みかん 割り 中世
5	SE8	B	種子	長さ[2.5]cm 幅[1.5]cm 厚さ[0.7]cm	桃の種子	16	SE33	B	板状 木製品	長さ[8.4]cm 幅11.3cm 厚さ2.0cm	No.1 板目 転用材
6	SE9	B	種子	長さ2.6cm 幅[2.0]cm 厚さ[0.82]cm	下層 桃の種子	17	SE35	B	側板 底板	側板径10.2cm 底板径10.7cm 高さ8.4cm 底板の厚さ0.6cm	No.3 柾目
7	SE9	B	不明品	長さ[4.3]cm 幅[2.2]cm 厚さ[0.8]cm	No.3 追柾目 2箇所穿孔 中世	18	SE35	B	側板 底板	側板径[12.0]cm 底板径 [12.0]cm 高さ[8.2]cm 底板の厚さ0.7cm	No.1 柾目
8	SE9	B	半球状 木製品	径7.7cm×[5.7]cm 厚さ5.0cm	下層 芯なし 削り出し 中世	19	SE35	B	建築材	長さ[81.6]cm 幅5.5cm 厚さ4.9cm	No.2 芯持丸木
9	SE9	B	へら状 木製品	長さ38.7cm へら部幅8.0cm へら部厚さ2.1cm	下層 芯なし 削り出し 中世	20	SE39	C	椅子	長さ25.5cm 幅[11.0]cm 高さ8.7cm	下層 芯なし 削り出し 古墳前期
10	SE9	B	井戸枠	長さ73.7cm 幅7.4cm 厚さ6.3cm	No.6 みかん割り 中世	21	SE4	E	柱材	長さ[40.5]cm 幅5.7cm 厚さ1.3cm	柾目
11	SE9	B	井戸枠 鴨居	長さ[135.8]cm 幅11.4cm 厚さ6.5cm	No.5 板目 転用材 中世	22	SE17	E	漆椀	高さ[3.1]cm	横木取り 内外面に黒漆

(8) 古墳跡

古墳跡は、D・E区それぞれ3基ずつの計6基が検出された。調査時、両調査区を同時進行で調査していたため、遺構名の重複を避けるべく、遺構名の前に調査区名を冠して、D区第1号墳……、E区第1号墳……と表記した。なお、調査区の制約のために明らかにできなかったが、E区第1号墳とE区第3号墳の2基を、同一の遺構として捉えた調査担当者もいたが、ここではその可能性を指摘するにとどめ、個々の古墳跡として報告する。

D区第1号墳 (第325・326図)

H-13~15、I-14・15グリッドに位置する。D区第2号墳とは、極めて近い位置(0.90m)に検出された。D区第2~4・6・8~10・13・15・17号周溝状遺構、D区第15号井戸跡、D区第4・90号溝跡、D区第24号土壇を壊し、D区第2・3号掘立柱建物跡、D区第3・4・6・7号井戸跡に壊されている。同様にD区第7号溝跡についても壊されているほか、その他の溝跡にも基本的には壊されているものと推定される。

南側部分は、調査区外に続いている。西側部分については、重複遺構の調査の過程で失われてしまった。なお、遺構確認時に検出できたプランに

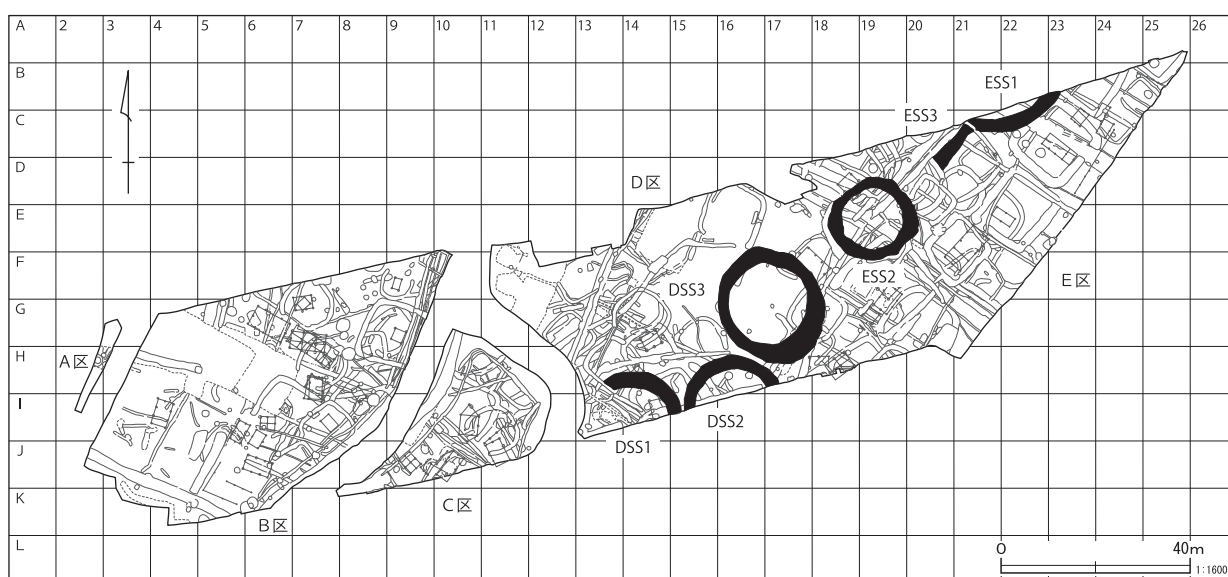
ついては破線で図示したが、それを含めても古墳全体の4分の1程度を検出できたにとどまる。

円墳と推定されるが、墳丘や主体部は検出されていない。周溝の規模は、上場幅2.90~3.50m、下場幅2.60~3.25m、深さは0.12~0.22mである。

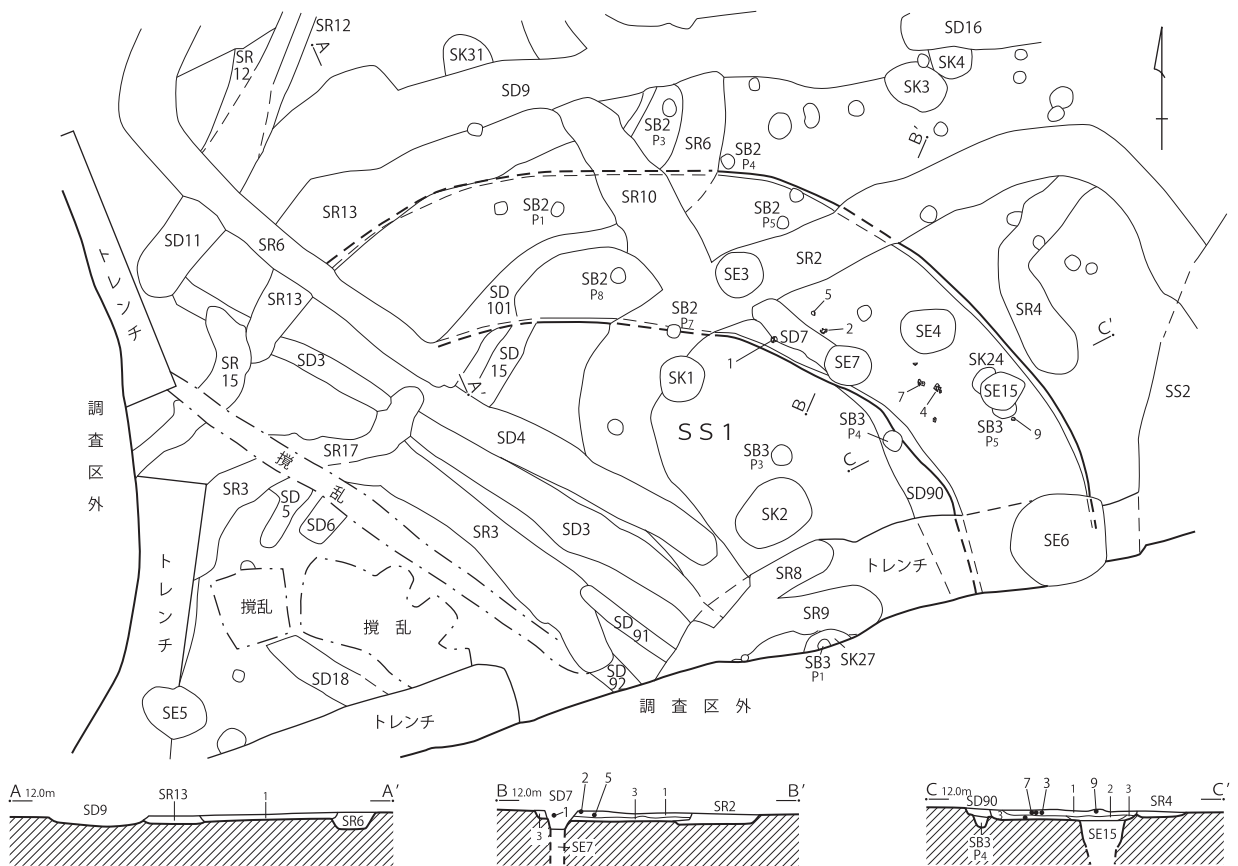
検出された周溝の円弧から推定される直径は、外周で22.04m、内周で15.50mである。周溝の底面は、比較的平坦である。周溝壁面の立ち上がりは緩やかで、断面形は皿状である。

出土遺物はきわめて少なく、いずれも周溝からの出土である。1は古墳時代前期の台付甕の脚台部で、重複する遺構から混入したものであろう。古墳に伴う遺物には、2~7の円筒埴輪、8・9の形象埴輪(盾・家)がある。

円筒埴輪は破片のみで全体の形が把握できるものはないが、外面一次調整タテハケの2条突帯3段構成と推定される。2~4は口縁部の破片である。口唇部の形態は細部で異なるが、基本的に緩やかに外反する。3は口唇端部が尖り、内側が匙面状に浅くくぼんでいる。5~7は胴部の破片である。6・7は円形の透孔を突帯に接するように穿っている。突帯は低平なものが主体で、5は突



第324図 古墳跡分布図



- SS 1
 1 暗褐色土 褐色粘土ブロック (0.3 ~ 0.7 cm) やや多 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 1 cm) 微量
 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) やや多 酸化土均質に少
 3 暗褐色土 褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.7 cm) 多 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 3 cm) 微量



第325図 D区第1号墳

帯の上部に横方向のヘラ描き（ヘラ記号か）が一部認められる。

8は盾形埴輪の盾面頂部付近の破片で、山形の盾面になる。盾面はハケ調整の後、ヘラ描きにより三角文を基調とする幾何学文が施文される。裏面には円筒部との接合部が僅かに残る。9は寄棟造り家形埴輪の妻側の屋頂部付近の破片である。外面はハケ調整の後、上端部に妻隠板を表現した幅広の粘土帯を貼付する。屋根部外面にはヘラ描きにより三角文を3段に施文し、上位に行くに従い三角文を小さく描き分けている。なお、D区第9号溝跡から出土した家形埴輪の屋根部片(第346図6)は同一個体の可能性が高い。

このように古墳に伴う土器が出土していない

め古墳の築造時期を明確にすることは難しい。しかし、円筒埴輪の形態的・技法的特徴が、隣接するD区第2号墳のものに共通していることから、本墳の築造時期についても、ほぼ同時期の6世紀中葉に位置づけておきたい。

D区第2号墳 (第327~334図)

H-15~17、I-15グリッドに位置する。D区第1号墳とは、0.90m、D区第3号墳とは1.15mという極めて近い位置に検出された。

D区第1・2・16号周溝状遺構より新しく、D区第2・12・13号溝跡、D区第8号井戸跡に壊されている。重複するD区第12・13号溝跡との新旧関係は不明である。

南側部分は調査区外に続いており、検出できた

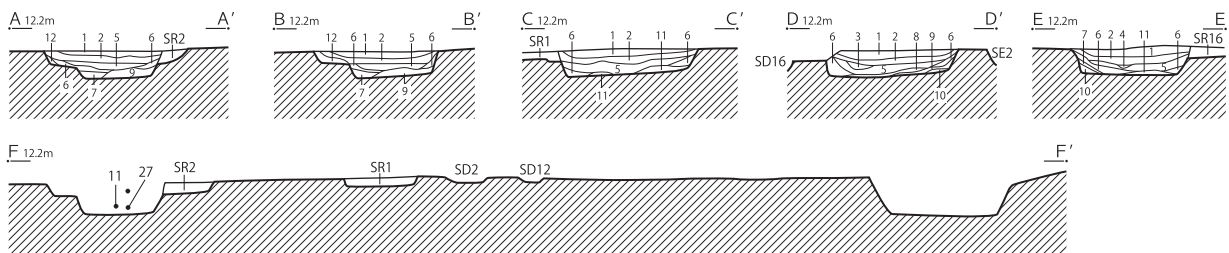
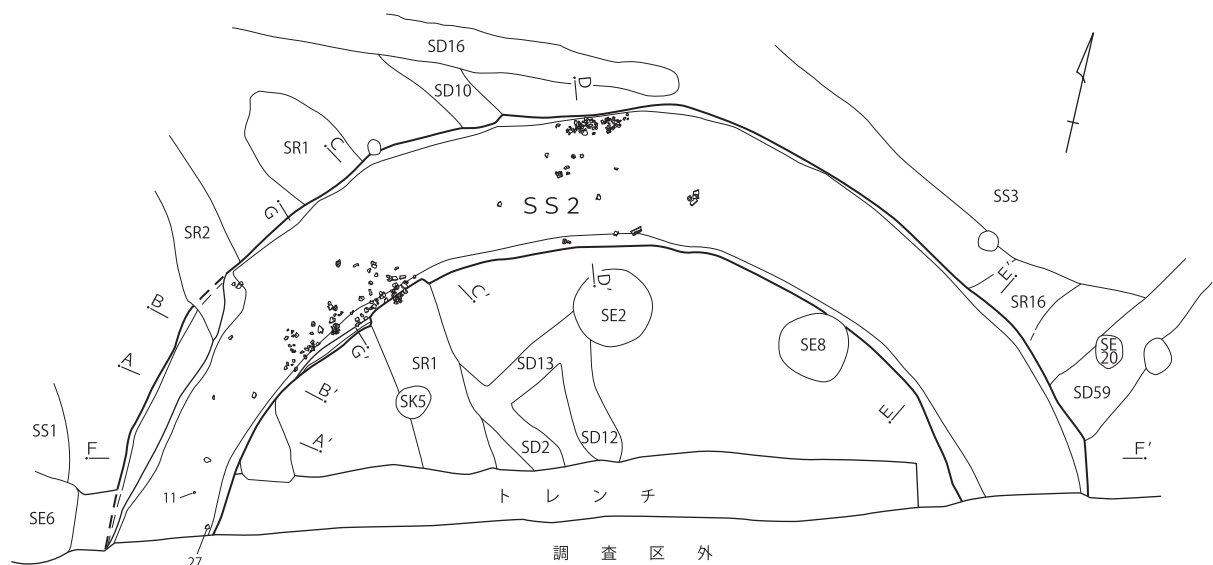


第326図 D区第1号墳出土遺物

第80表 D区第1号墳出土遺物観察表

番号	区別	種別	器種	残存率(%) 残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	D	土師器	台付甕	45		(10.5)	[7.4]	A C D F	普通	橙	No.8 坏部内面・脚部内面ヘラナデか 外面ハケ 器面風化著しい
2	D	埴輪	円筒	口縁部		[7.6]		A B C J	普通	明赤褐	No.6 外面はタテハケ後、端部ヨコナデ、内面はヨコハケ後、端部ヨコナデを施す。器面風化著しい ハケメ12
3	D	埴輪	円筒	口縁部		[8.7]		A C F G J	普通	橙	No.1 外面はタテハケ後、端部ヨコナデ、内面はヨコ～ナメの粗いハケを施す。ハケメ12
4	D	埴輪	円筒	口縁部		[3.4]		C D F G	普通	橙	外面・内面ヨコナデを施す 器面風化著しい ハケメ8
5	D	埴輪	円筒	胴部片		[6.5]		A C F G J	普通	橙	No.7 突帯幅0.4cm 高さ2.2cm 外面にヘラ記号 器面風化著しい 突帯低三角形

番号	区別	種別	器種	残存率(%) 残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
6	D	埴輪	円筒	胴部片		[10.4]		A B C D J	普通	にぶい 赤褐	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメの粗いハケを施す。突帯幅0.5cm 高さ2.5cm 内面に輪積み痕あり 突帯低台形 ハケメ9
7	D	埴輪	円筒	胴部片		[9.1]		A B C J	普通	橙	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメの粗いハケを施す。突帯幅0.6cm 高さ1.6cm 突帯裏に指頭圧痕あり、内面に輪積み痕あり 突帯低M字形 ハケメ16
8	D	埴輪	盾		高さ[9.7]cm 幅 [12.1]cm 厚さ2.8cm			A C F	普通	にぶい 橙	内面ヨコ方向の指ナデハケの後、端部指ナデ
9	D	埴輪	家の 屋根	破片	高さ[14.1]cm 幅 [10.3]cm 厚さ8.2cm			A C F G	普通	橙	No.1

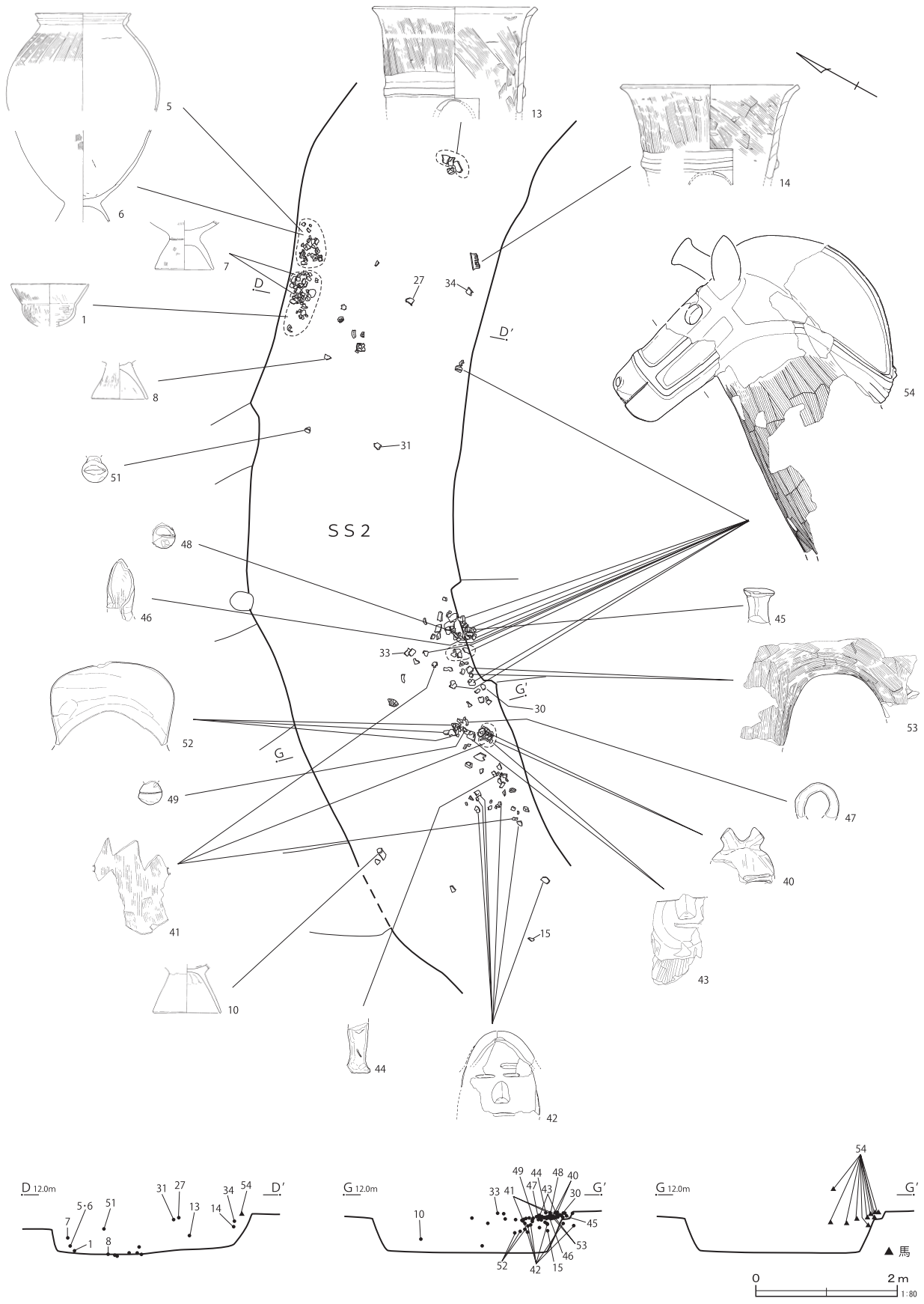


SS 2

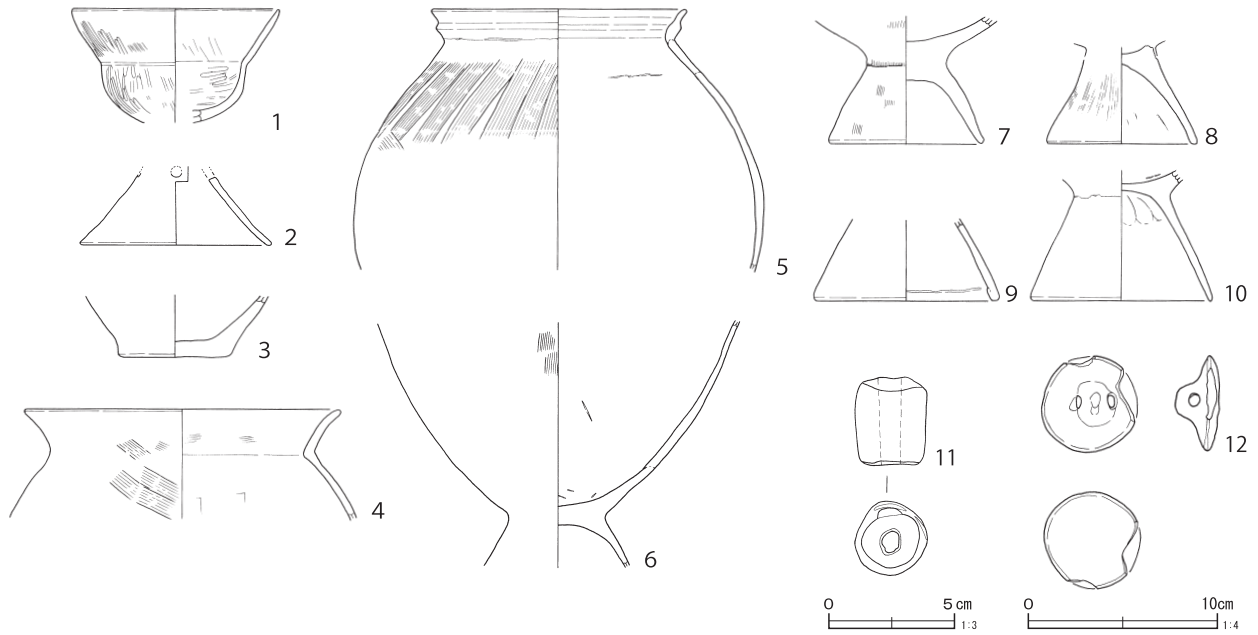
- 1 黒褐色土 浅黄褐色粘土粒子 (0.1 cm) 少 黒色土ブロック (0.5 cm) 微量
- 2 黒褐色土 黄灰色粒子やや多 黄灰色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 F Aか
- 3 黒褐色土 灰色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 微量 黒色土ブロック (0.5 ~ 0.7 cm) 少
- 4 黄灰色土 F Aか
- 5 黒色土 灰色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm)・黄灰色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少
- 6 黒褐色土 灰色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm)・黄灰色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多
- 7 黒色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.4 cm) 少
- 8 黒色土 浅黄褐色粘土ブロック (1 ~ 3 cm) やや多 褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 少
- 9 黒褐色土 浅黄褐色粘土ブロック (0.1 ~ 0.7 cm, 1 ~ 4 cm)・褐色粘土ブロック (0.5 cm) 少
- 10 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 多
- 11 黄灰色土 黒褐色土ブロック (0.5 ~ 2 cm) 多
- 12 暗褐色土 褐色粘土ブロック (0.5 cm) 多 黒褐色土ブロック (0.5 cm) やや多



第327図 D区第2号墳



第328図 D区第2号墳遺物出土状況



第329図 D区第2号墳出土遺物(1)

のは古墳跡全体の3分の1程度にとどまる。

円墳と推定されるが、墳丘や主体部は検出されていない。周溝の規模は、上場幅2.35～3.00m、下場幅1.95～2.70m、深さは0.28～0.62mである。

検出された周溝の円弧から推定される直径は、外周で径22.60m、内周は径16.70mである。周溝の底面は平坦である。周溝壁面の立ち上りは比較的急で、断面形は逆台形である。

遺物の出土量は、今回の調査で検出された6基の古墳跡の中では最も多い。遺物の出土状況を見ると、土器類の集中分布が2箇所あり、一方は外周部分、いま一方は内周部分に認められる。前者は、古墳時代前期の土師器が主な内容である。これは、本遺構が切っている周溝状遺構などからの流れ込みの可能性が高い。後者は、周溝内の墳丘側に分布しており、円筒埴輪や形象埴輪が出土している。この点については、墳丘からの流れ込みの可能性も想定できるが、接合率が極めて低いことから、後世の耕作などによる撤去の際に破碎し、投棄された結果とも考えられる。

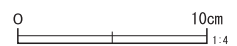
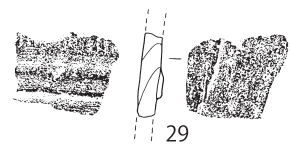
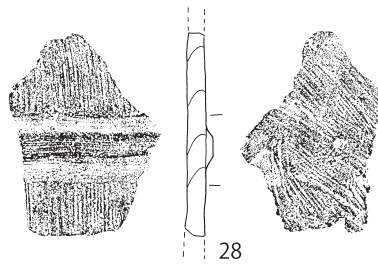
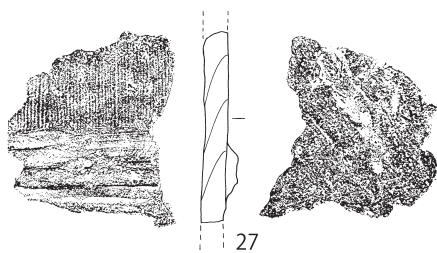
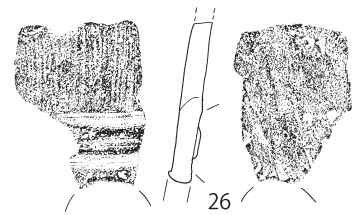
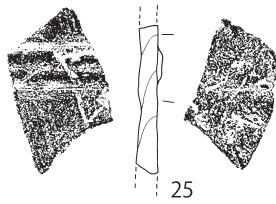
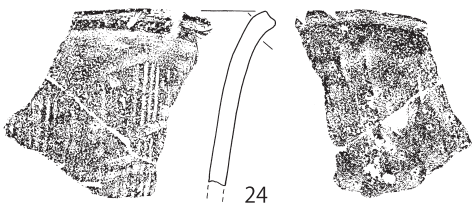
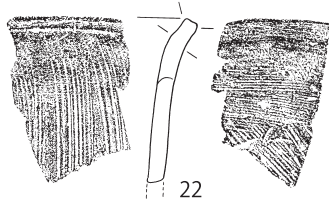
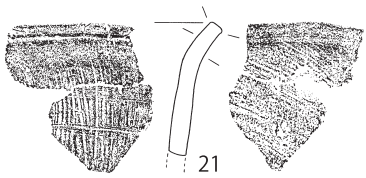
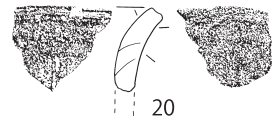
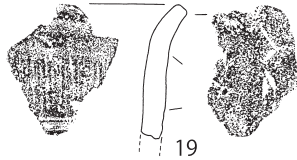
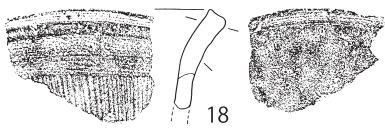
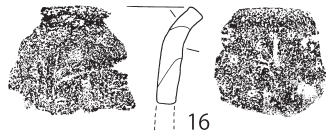
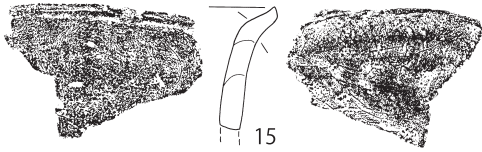
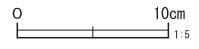
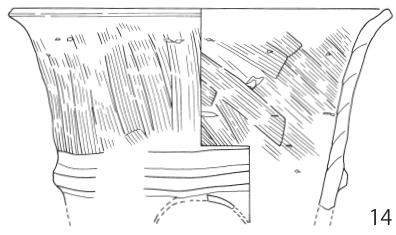
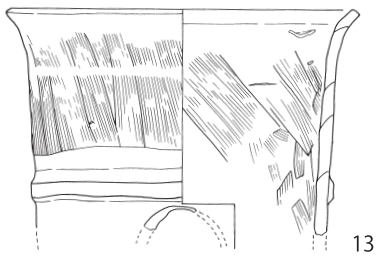
なお、この範囲内では形象埴輪の比率が高いと

いう点も特徴として挙げられる。また、土製の模造鏡(12)が1点検出されている。

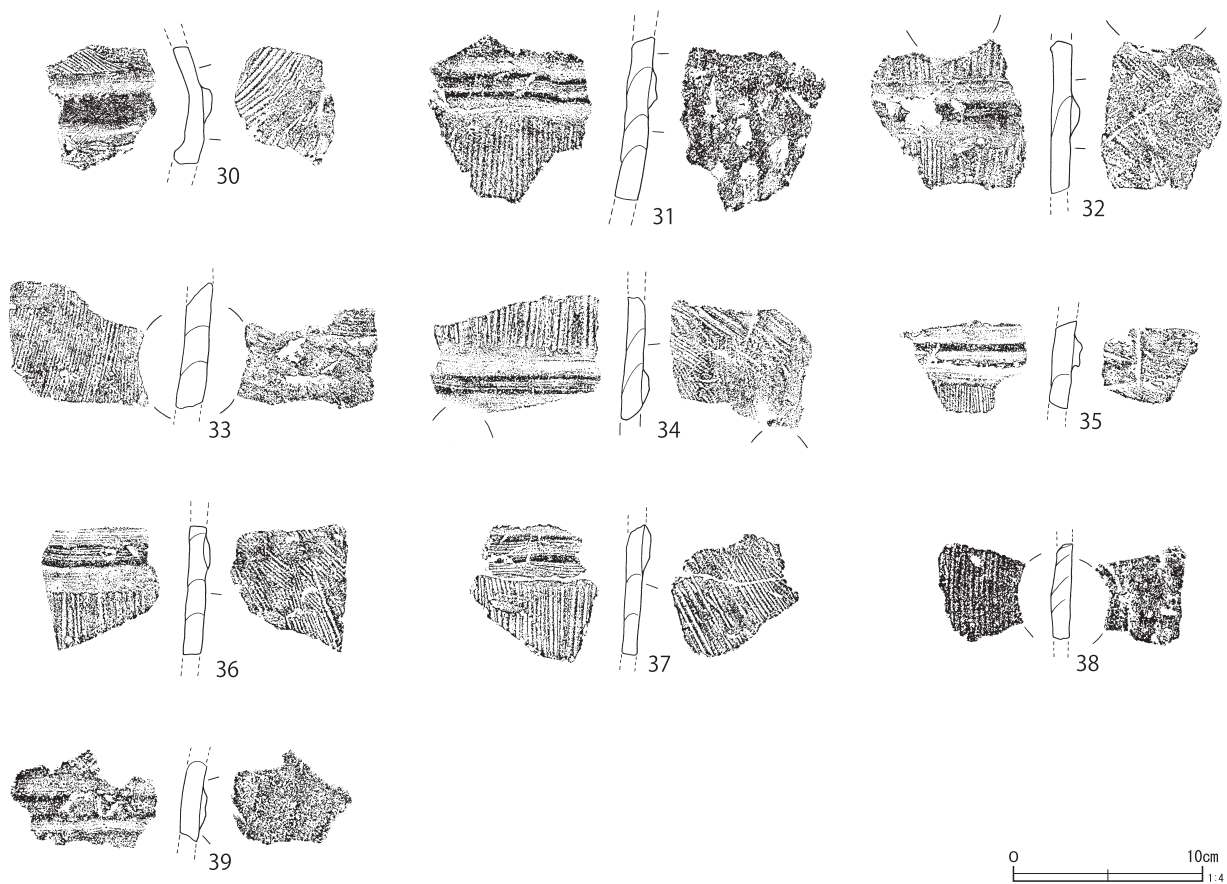
13～39は円筒埴輪である。このうち30は朝顔形埴輪の肩部であるが、それ以外は普通円筒埴輪である。破片が多く、全体の形の分かるものはないが、上から2段目までを残す13・14から見て、基本的に2条突帯3段構成と考えられる。大きく外反した口縁部に幅広のヨコナデを施し、口縁部内側に浅い匙面をもつ。突帯は低平な台形が主体である。透孔は円形を呈し、穿孔後に丁寧なナデを施す。こうした円筒埴輪の形態的・技法的な特徴と胎土中に白色針状物質が含まれていることを考え合わせると、遺跡から西へ約9km離れた桜山窯跡群から供給された製品の可能性が高い。

なお、27・33は大型円筒埴輪の破片であることから隣接するD区第3号墳からの混入であろう。

40～54は形象埴輪である。40～44は人物埴輪、45～54は馬形埴輪の部分と考えられる。40はいわゆる稚子鬚の男子である。顔のつくりは、粘土紐を貼り付けた細長い眉毛と切れ長の眼が特徴的で、頭頂部の稚子鬚は円筒形の粘土塊をくの字に



第330图 D区第2号墳出土遺物(2)

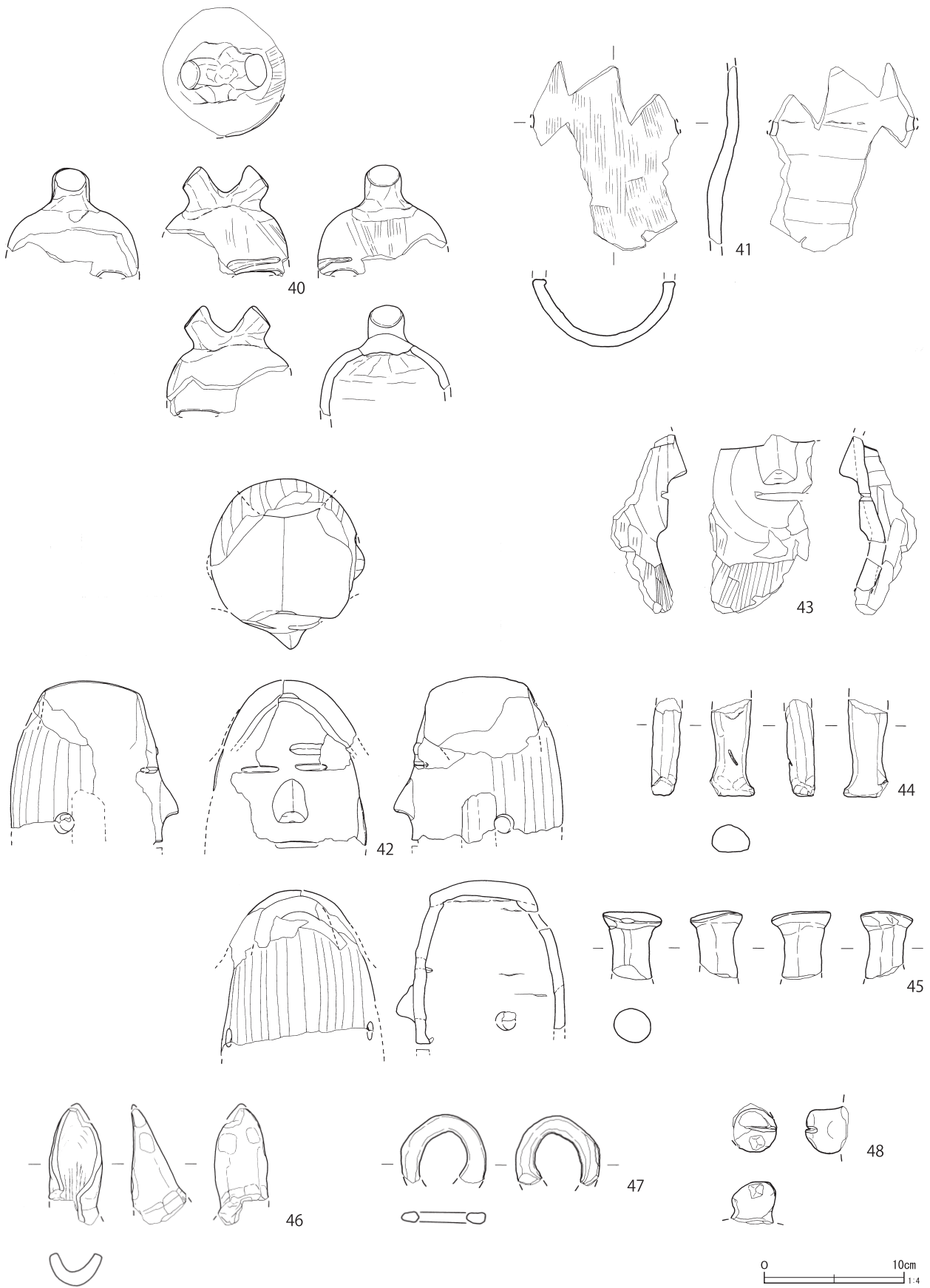


第331図 D区第2号墳出土遺物(3)

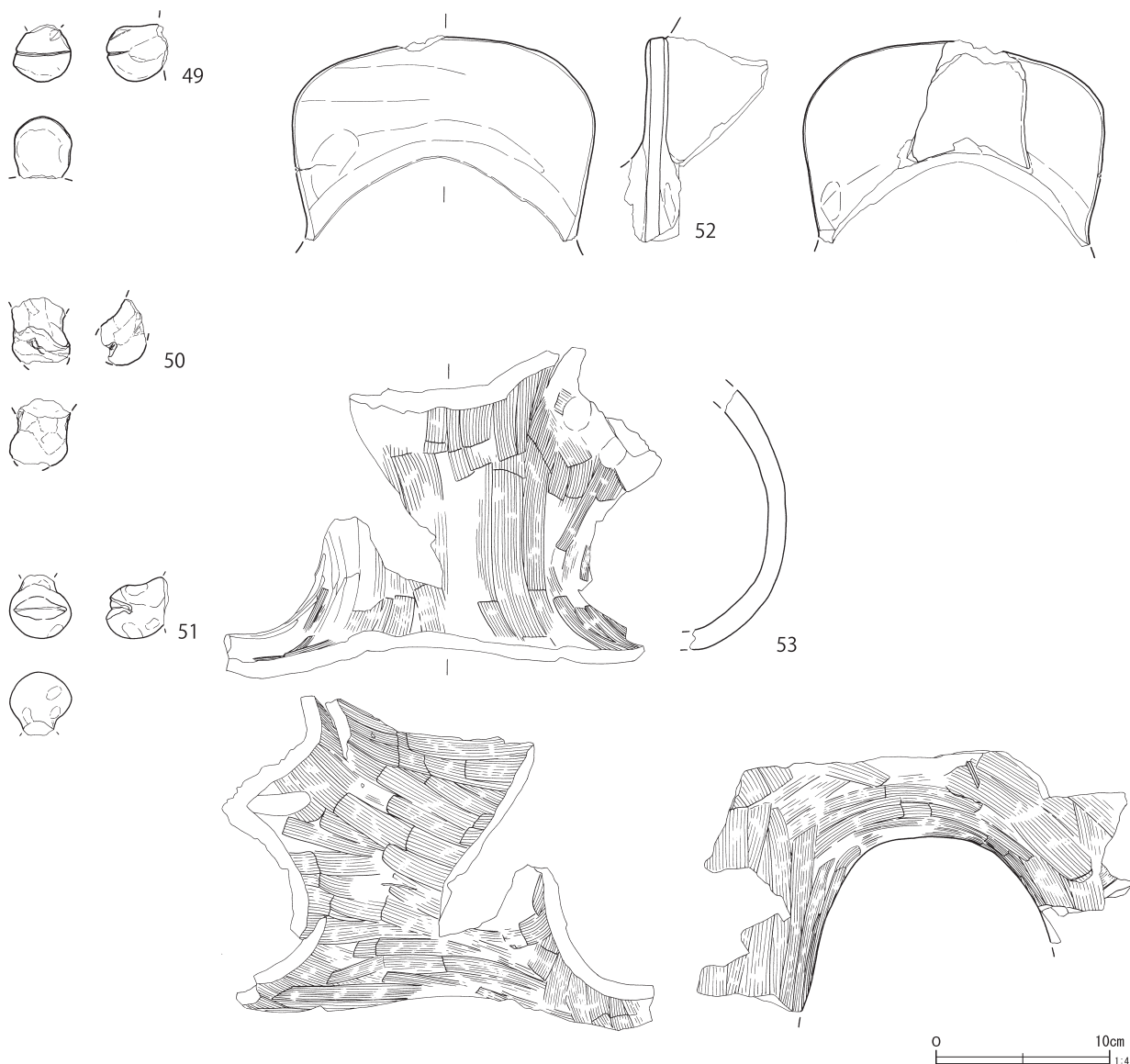
折り曲げて、頭頂部に押し込んでいる。41は両側に小円孔の耳孔を残す人物埴輪の後頭部の破片で、被り物などの表現はない。42は振り分け髪の男子である。本来は左右に振り分けた髪の先端が大きく反り返るように表現されるが、その大半を欠損している。僅かに左側の下げ美豆良の付け根だけを残し、後頭部に垂髪の表現はない。43は人物埴輪の顔面から頸部にかけての破片である。下顎部分に粘土を貼り付けて顔の輪郭を作り出している。44は先端部がT字形となる下げ美豆良である。外面の上端に剥落痕が見られることから、髪を結った結び紐の表現があったものと考えられる。

45は馬形埴輪の角状立髪である。円筒形を呈し、端部は円板状に肥厚する。46は馬形埴輪の右耳で、先端部が尖っている。付け根部分には面繫の粘土紐が剥離した痕跡が残る。47は環状鏡板付轡の鏡

板と考えられる楕円形の粘土紐である。48～51は小型の鈴である。馬形埴輪の胸繫や尻繫につけられた飾りであろう。球形に丸めた粘土塊に横方向に鈴口を刻んでいる。52は鞍の前輪と立髪の一部である。53は馬形埴輪の腹部から脚部のつけ根にかけての胴部片である。腹部はアーチ状に成形されている。腹部側面には障泥などの剥離痕がないことから、後述するように裸馬の可能性が高い。色調は灰褐色を呈し須恵質に焼き上がる。54は馬形埴輪の頭部から頸部にかけての破片である。左顔面から立髪の一部を欠損しているが、比較的残りの良好なものである。この馬形埴輪の大きな特徴は、革帯のみの簡略化された頭絡表現であること、胸繫表現を欠き、かつ立髪が鞍に接合していた痕跡が見られないことから、本来背中に鞍を置いていない裸馬を表現していたと考えられること



第332图 D区第2号墳出土遺物(4)

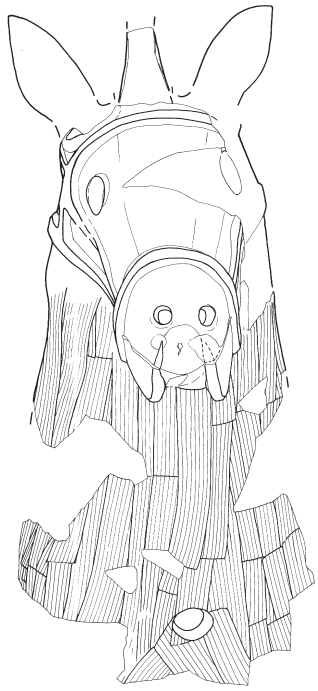


第333図 D区第2号墳出土遺物(5)

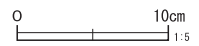
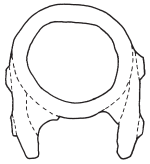
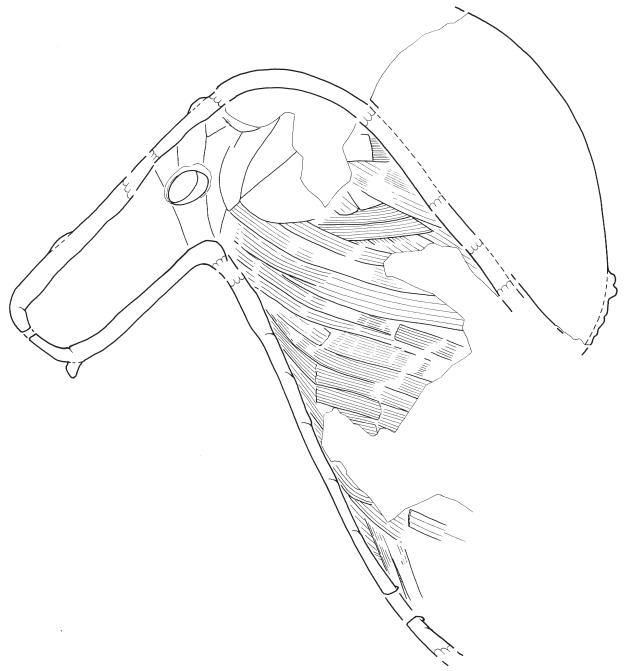
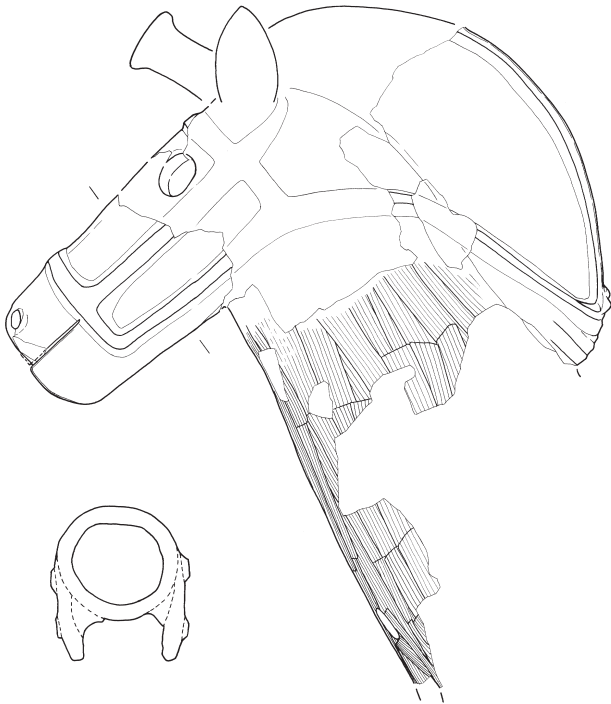
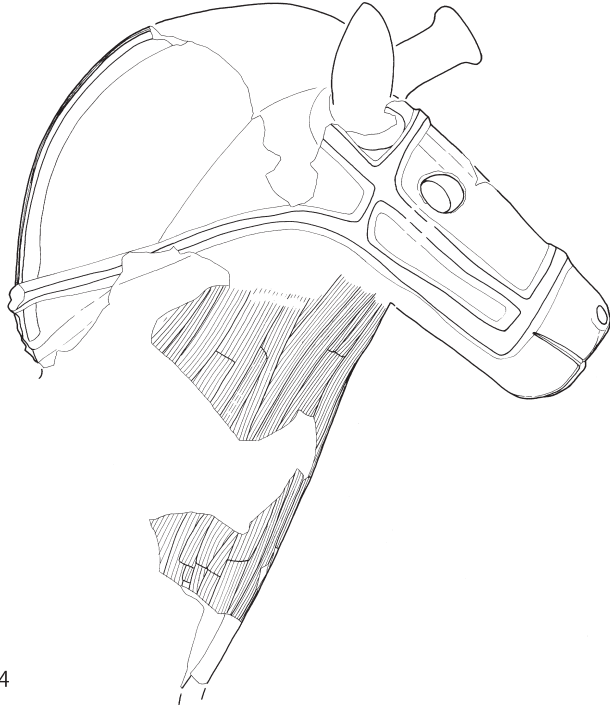
である。但し、手綱表現が裸馬に多い片手綱ではなく、両手綱であることは留意される。頭部の成形技法は円筒側板式で、側板が大きく発達した形態である。円筒部の先端は閉塞され、へら先の切り込みにより口先を表現する。頸部は頭部を支えるように太く作られ、前述したように胸部には胸繫表現を欠き、やや小振りの円孔が穿たれている。なお、明確な接合関係はなかったが、53の胴部と同一個体になる可能性が高い。

形象埴輪の組成については、断片的なものが多

く明確にし得ないが、手綱のみの馬と鞍をのせた飾り馬の2体が樹立され、それに馬飼と推定される稚子髻の男子がセットで樹立された。さらに、上位階層の振り分け髪の男子が伴っていたものと推定される。このように古墳に伴う土器がなく、築造時期を明確にすることは難しいが、円筒埴輪だけでなく、人物や馬などの形象埴輪の大半が桜山窯産の製品と形態的・技術的に高い共通性がうかがわれることから、桜山窯の最盛期にあたる6世紀中葉頃に築造されたものと考えられる。



54



第334图 D区第2号墳出土遺物(6)

第81表 D区第2号墳出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	SS2	D	土師器	埴	55	(10.8)		[6.0]	A C D F G	普通	明黄褐	No.15 H-15G
2	SS2	D	土師器	高坏	50		10.0	[3.7]	A F G	普通	にぶい 橙	穿孔4ヶ所 内外面に黒斑 風化著しく調整不明瞭
3	SS2	D	土師器	壺	60		6.1	[3.2]	A C D	普通	にぶい 黄橙	外面に黒斑 器面風化著しく調整不明
4	SS2	D	土師器	甗	15	(16.6)		[5.8]	A F	普通	橙	H-15G 口縁部内外面横ナデ 内面ヘラナデ 器面風化著しい
5	SS2	D	土師器	台付甗 (S字)	50	13.4		[13.8]	C F I	普通	灰黄褐	一括 No.13 口縁部上部内外面横ナデ 外面ハケ 内面ヘラナデか 器面は比較的厚めである 外面に黒斑あり 器面風化著しい
6	SS2	D	土師器	台付甗 (S字)	30			[12.8]	A C D F	普通	にぶい 赤褐	No.13 内面ヘラナデか 底部と脚天井部に砂粒を多く含む土を貼付している 被熱のため赤色化著しい 器面風化著しい
7	SS2	D	土師器	台付甗	80		8.0	[6.7]	C D F G	普通	橙	No.14 外面ハケ 内面ナデ 被熱により風化・赤色化 器面風化著しい
8	SS2	D	土師器	台付甗	75		(7.8)	[5.1]	A B C D F G	普通	にぶい 橙	No.9 外面ハケ 内面ヘラナデ
9	SS2	D	土師器	台付甗	30		(9.6)	[4.3]	A C F	普通	明赤褐	器面は被熱のため風化・赤色化著しく調整見えず
10	SS2	D	土師器	台付甗	40		(9.4)	[6.8]	A C D F	普通	灰黄	No.99 脚部内面上位指頭圧痕あり 器面風化著しく外面不明・内面ナデか
11	SS2	D	土製品	土錘	95	長さ3.4cm 最大径2.8cm 孔径0.8cm 重さ31.6g			A C F	普通	灰白	No.18
12	SS2	D	土製品	鏡	80	縦3.8cm 横(3.8)cm 高さ1.7cm			A B C F G	普通	にぶい 黄橙	H-15G 孔径0.4cm×0.4cm 紐幅1.3cm

番号	器種	残存部位	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	備考
13	円筒	口縁	口径(22.4)cm 器高[14.8]cm 口縁長12.0cm	SS2 No.1 H-16G	①A B C D ②橙③普通	低台形	8	外面タテハケ、内面はナナメのハケを施す。突帯幅0.6cm 高さ2.2cm	
14	円筒	口縁	高[6.9]	SS2 No.20	①A C F G J ②にぶい橙 ③普通		12	外面・内面ともに端部ヨコナデ、他はナデを施す。	
15	円筒	口縁	口径(13.2)cm 高[13.2]cm 口縁長11.3cm	SS2 No.2 H-15G	①A B C F G ②にぶい赤褐 ③普通	低台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメのハケを施す。突帯幅0.7cm 高さ2.0cm	
16	円筒	口縁	高[5.0]	H-16G	①A B C J ②にぶい褐 ③普通		7	外面はハケ後ヨコナデ、内面は端部ヨコナデ、他ナナメのナデを施す。	器面は摩滅している
17	円筒	口縁	高[3.8]		①A B C D J ②橙③普通			外面はタテハケ後ヨコナデ、内面は端部ヨコナデ、他はタテナデを施す。	器面は風化している
18	円筒	口縁	高[5.2]		①A C F G J ②にぶい橙 ③普通		7	外面はタテハケ後ヨコナデ、内面は端部ヨコナデ、他はタテの指ナデ。	
19	円筒	口縁	高[7.1]		①A F F G J ②にぶい橙 ③普通			外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はタテの指ナデを施す。	器面は風化している
20	円筒	口縁	高[4.5]		①A C D J ②橙③普通		4	外面はタテハケ後ヨコナデ、内面は端部ヨコナデ、他はヨコ方向のナデを施す。	
21	円筒	口縁	高[7.0]		①A C F G J ②にぶい橙 ③普通		8	外面はタテハケ後ヨコナデ、内面は端部ヨコナデ、他は粗いナナメのハケを施す。	

番号	器種	残存部位	法量(cm)	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	備考
22	円筒	口縁	高[8.8]	H-16G	①ACFJ ②にぶい橙 ③普通		11	外面はタテハケ後、端部ヨコナデ、内面は端部ヨコナデ、他はナナメのハケ後ヨコのハケを施す。	内面に輪積み痕あり
23	円筒	口縁	高[4.7]	I-15G	①ACD ②にぶい褐 ③普通		10	外面はタテハケ後ヨコナデ、内面は端部ヨコナデ、他はナナメのハケを施す。	内面に輪積み痕あり
24	円筒	口縁	高[9.3]	SS2 北西	①ACFGJ ②にぶい橙 ③普通		7	外面はタテハケ後ヨコナデ、内面は端部ヨコナデ、他はナナメのヘラナデ	
25	円筒	胴部片	高[7.7]	H-16G	①ACDJ ②にぶい橙 ③普通	低台形		外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナデを施す。突帯幅0.4cm 高さ1.9cm	内面に輪積み痕あり 器面は風化している
26	円筒	胴部片	高[8.4]	SS2 H-17G	①ACFJ ②橙③普通	低台形	10	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメの指ナデを施す。突帯幅0.3cm 高さ1.9cm	透孔あり
27	円筒	胴部片	高[9.9]	SS2 No.6	①ABCDJ ②明赤褐 ③普通	低台形	11	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメの指ナデを施す。突帯幅0.7cm 高さ3.0cm	
28	円筒	胴部片	高[10.7]	SS2 No.16	①ABCDH ②にぶい赤褐 ③普通	低台形	10	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメの粗いハケを施す。突帯幅0.5cm 高さ2.2cm	
29	円筒	胴部片	高[4.5]		①BCFHJ ②にぶい褐 ③普通	低台形		外面はハケ見えない、内面はナデか。突帯幅0.3cm 高さ1.9cm	器面は風化している
30	円筒	胴部片	高[6.1]	SS2 No.63	①ACDFJ ②橙③普通	低台形	12	外面はナナメのハケ後、突帯貼付、内面はナナメのハケ後、ナナメの指ナデを施す。突帯幅0.5cm 高さ2.0cm	
31	円筒	胴部片	高[8.5]	SS2 No.104	①ACDFI J②橙 ③普通	低台形	7	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はタテの指ナデを施す。突帯幅0.5cm 高さ2.2cm	内面に輪積み痕あり
32	円筒	胴部片	高[8.0]		①ABCD ②にぶい橙 ③普通	低台形	9	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面は粗いナナメハケを施す。突帯幅0.4cm 高さ2.1cm	器面は風化している
33	円筒	胴部片	高[5.6]	SS2 No.75	①ACFJ ②橙③普通		11	外面はタテハケ、内面はナナメのヘラナデを施す。	ハケ目は不明瞭である。内面に輪積み痕あり
34	円筒	胴部片	高[6.4]	SS2 No.3	①ABCDJK ②明褐 ③普通	低台形	7	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメハケを施す。突帯幅0.4cm 高さ1.9cm	透孔あり
35	円筒	胴部片	高[4.6]	H-15G	①ACFJ ②明赤褐 ③普通	低台形	14	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面は粗いナナメハケを施す。突帯幅0.5cm 高さ2.3cm	内面に輪積み痕あり
36	円筒	胴部片	高[7.8]	SS2 No.1	①ABCDJ ②にぶい橙 ③普通	低台形	12	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメ方向のハケを施す。突帯幅0.4cm 高さ1.8cm	内面粘土紐の積み痕あり
37	円筒	胴部片	高[6.7]	H-15G	①ADF ②にぶい橙 ③普通	低台形	10	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメハケを施す。突帯幅0.6cm 高さ2.4cm	
38	円筒	胴部片	高[4.9]	H-15G	①ACDJ ②赤褐 ③普通		7	外面はタテハケ、内面はタテ方向の指ナデを施す。	器面は風化している
39	円筒	胴部片	高[4.1]		①AGJ ②にぶい赤褐 ③普通	低台形		外面はハケ目部分なし、内面はタテ方向の指ナデを施す。突帯幅0.3cm 高さ2.6cm	器面は風化している

番号	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
40	D	埴輪	形象		長さ[7.9]cm 厚さ[9.1]cm		幅[8.7]cm	A B C F G	普通	にぶい赤褐	No.49・50 人物(頭部)男子
41	D	埴輪	形象		長さ[13.3]cm 厚さ[2.2]cm		幅[10.2]cm	A B C F G	普通	にぶい赤褐	No.24・47・49・78 人物(後頭部～首) 外面ハケ後、粗い指ナデ 内面ヨコ方向の指ナデ
42	D	埴輪	形象		長さ[11.9]cm 幅[12.0]cm		幅[10.9]cm	A C D F	普通	にぶい橙	No.22・23・28・31・34・35 人物
43	D	埴輪	形象		長さ[12.6]cm 厚さ[5.4]cm		幅[7.1]cm	A B C E F G	普通	にぶい橙	No.49・51 人物の顔
44	D	埴輪	形象		長さ[6.9]cm 厚さ2.1cm		幅3.2cm	A B C F G	普通	明赤褐	No.44 人物(男子)美豆良
45	D	埴輪	形象		長さ4.7cm 厚さ2.4cm		幅4.1cm	A C F	普通	浅黄橙	No.84 馬の立髪 全面指ナデ
46	D	埴輪	形象		長さ[8.4]cm 厚み3.9cm		幅3.8cm	A C F	普通	橙	No.86 馬の耳 全面指ナデか
47	D	埴輪	形象		長さ4.9cm 厚さ0.7cm		幅6.0cm	F G J	普通	にぶい橙	No.52 馬の鬚 全面指ナデ
48	D	埴輪	形象		高さ[3.0]cm 幅3.1cm		長さ[3.4]cm	A C F	普通	橙	No.85 馬の鈴 全面指ナデ
49	D	埴輪	形象		高さ[3.5]cm 幅3.3cm		長さ[3.3]cm	A C E F G	普通	橙	No.54 馬の鈴 全面指ナデ
50	D	埴輪	形象		高さ[2.5]cm 幅[3.8]cm		長さ[3.8]cm	C F J	普通	にぶい橙	馬の鈴 全面指ナデ
51	D	埴輪	形象		高さ[3.6]cm 幅3.5cm		長さ[3.6]cm	A C F G	普通	浅黄橙	No.17 馬の鈴 全面指ナデ
52	D	埴輪	形象		高さ11.8cm 厚さ8.1cm		幅17.3cm	A C F	普通	浅黄橙	No.55～57 馬の鞍 全面指ナデ
53	D	埴輪	形象		高さ[15.1]cm 幅[25.0]cm		長さ[19.1]cm	A C E F	良好	にぶい橙	No.66・67 SR10 SD9 H-15 G-12 H-12G 馬の腹 全面ハケ 須恵質
54	D	埴輪	形象		高さ[43.0]cm 幅[21.0]cm			C D F G	普通	浅黄橙	No.4・64・71・77・79・81・87・88・98 H-15G 馬 首～胸外面タテハケ、内面ナメとタテのハケ 顔・立髪・馬具内外面指ナデ 鼻先に小さな穿孔あり

D区第3号墳 (第335～340区)

E-16・17、F・G・H-16～18グリッドに位置する。D区第2号墳とは、極めて近い位置(1.15m)に検出された。

D区第16・33・35・36・44号周溝状遺構、D区第25号土壇、D区第8号掘立柱建物跡、D区第16号井戸跡より新しく、D区第17～19・24・25号井戸跡、D区第12号掘立柱建物跡に壊されている。また、D区第49・59号溝跡よりも古いと推定される。但し、D区第67号溝跡との新旧関係については不明である。

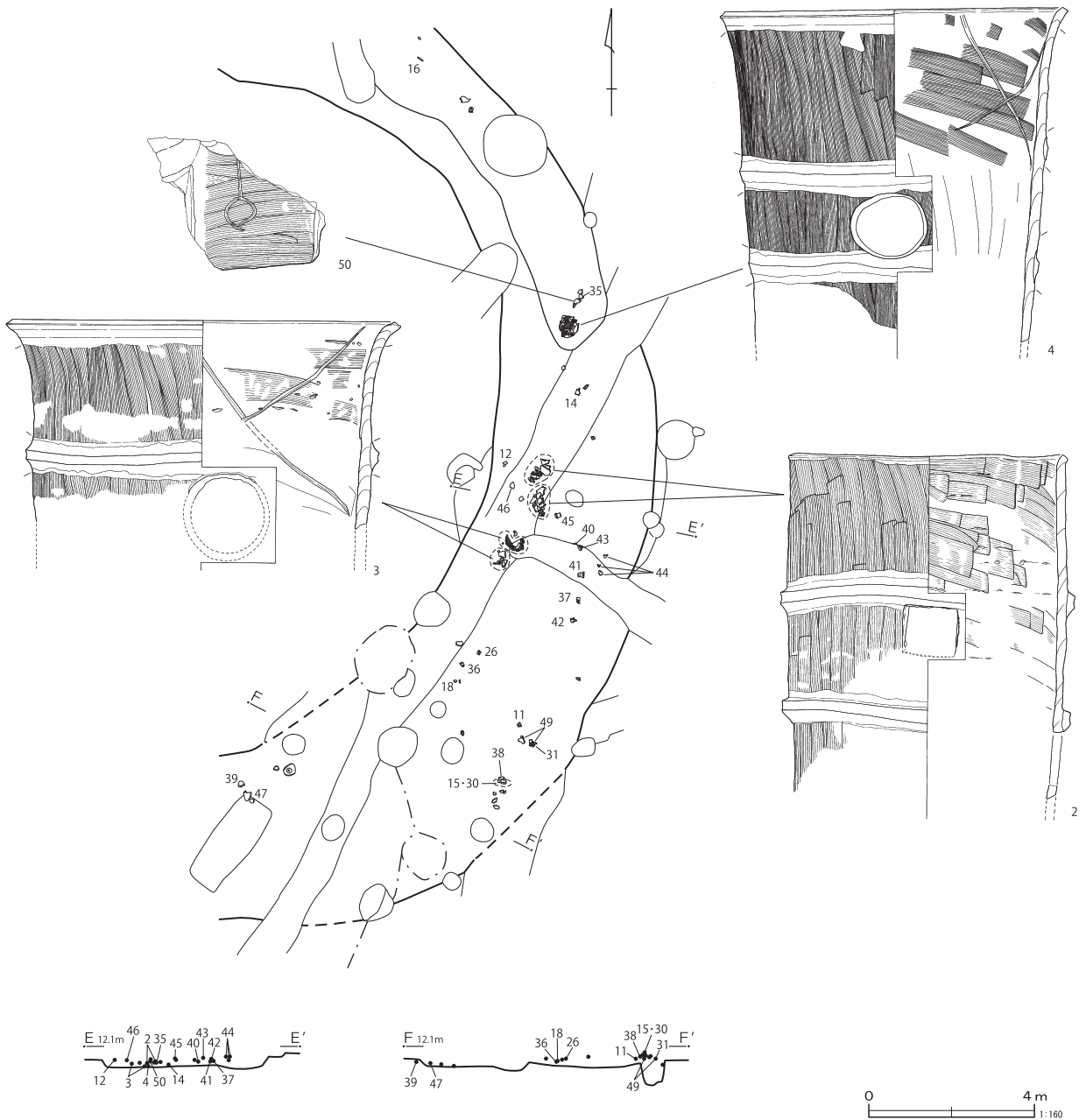
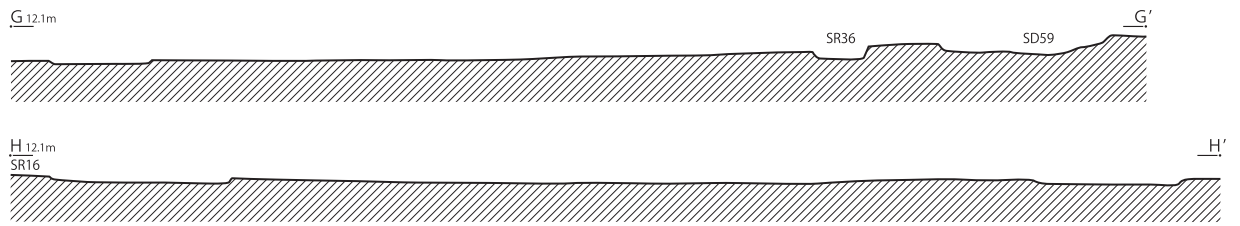
今回の調査で検出された6基の古墳跡の中で、E区第2号墳とともに、全周が確認できた2基のうちの1基である。比較的円に近い円墳で、墳丘や主体部は検出されていない。周溝の規模は、上場幅2.08～4.64m、下場幅1.92～4.16m、深さは

0.06～0.48mである。

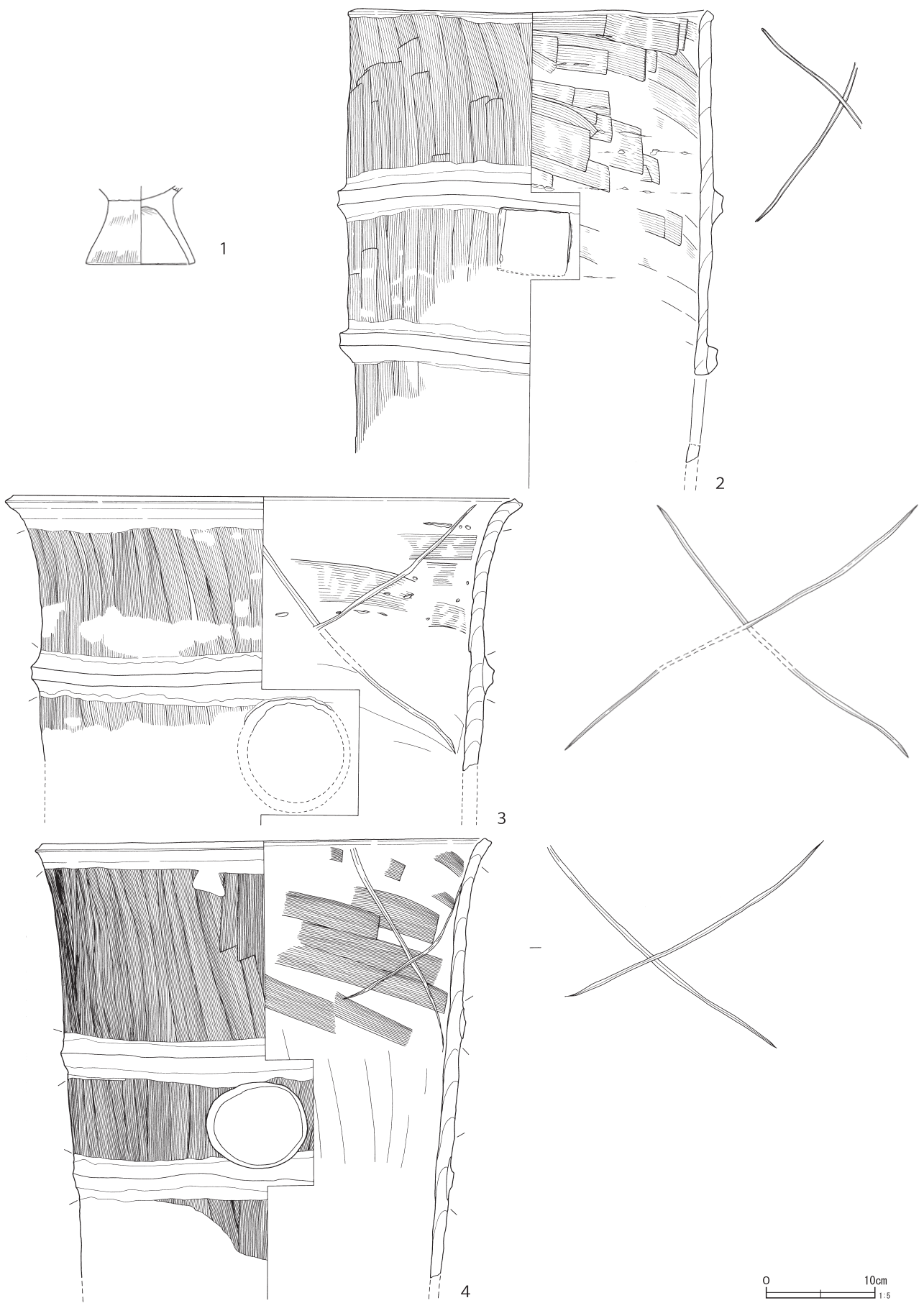
周溝の外周径は21.80×25.22m、墳丘径は16.60×17.12mである。周溝の底面は、比較的平坦である。周溝壁面の立ち上がりは緩やかで、断面形は皿状である。周溝の幅は一定しておらず、プラン的にもやや歪みを有している。北東部分には、全長10.48m、上場幅1.40～2.00m、下場幅1.21～1.88m、深さ0.22mの規模をもつ溝状の掘り込みが認められた。

遺物は、周溝の東側から南側の比較的狭い範囲にかけて大型円筒埴輪がまとまった状態で出土した。但し、後世の溝跡や井戸跡などの重複のために本来の樹立状況を復元することは難しい。

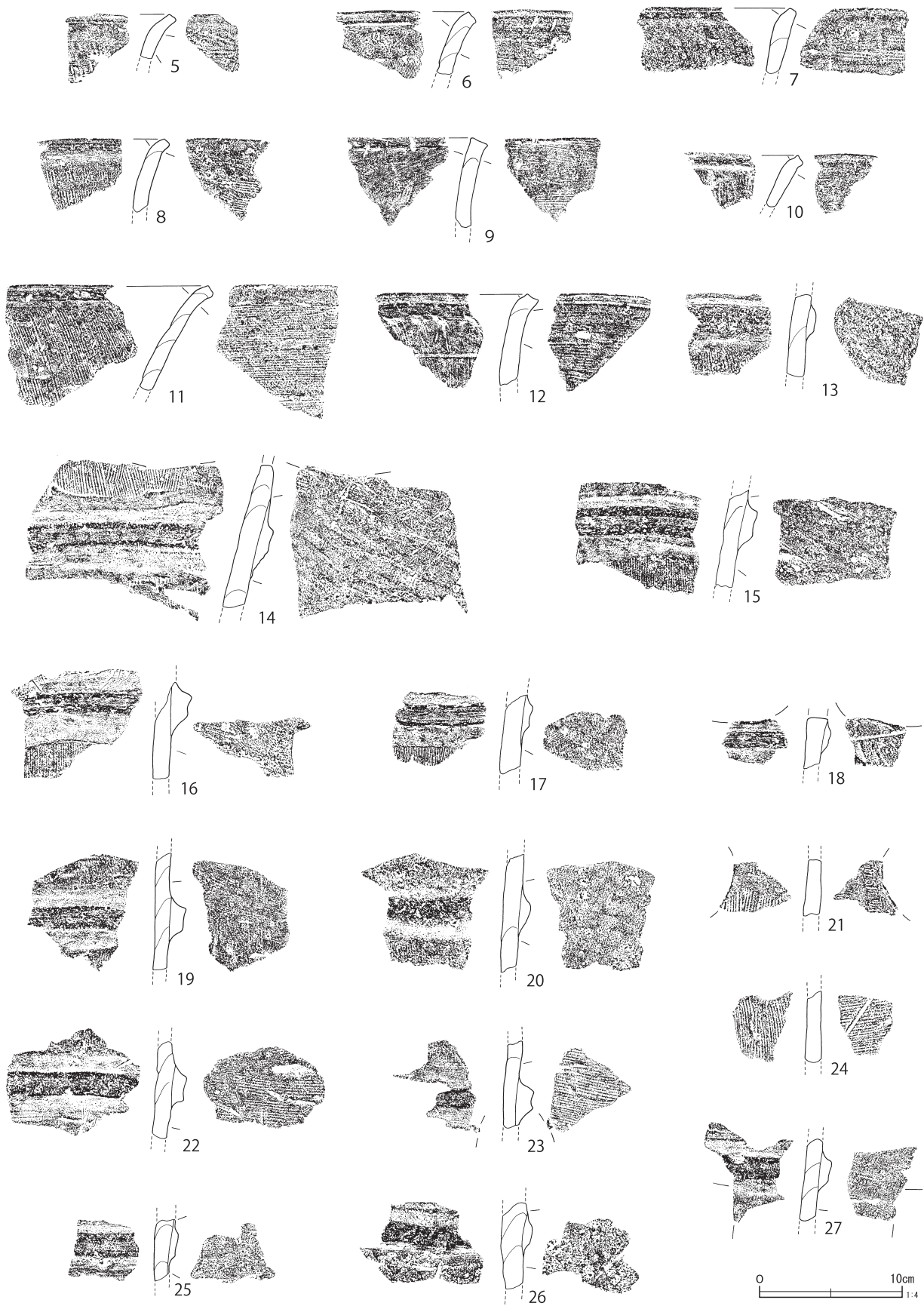
出土した埴輪の大きな特徴は、埼玉古墳群の大型前方後円墳に樹立されていても何ら遜色のない、口径40cmを越す大型の多条突帯埴輪が出土し



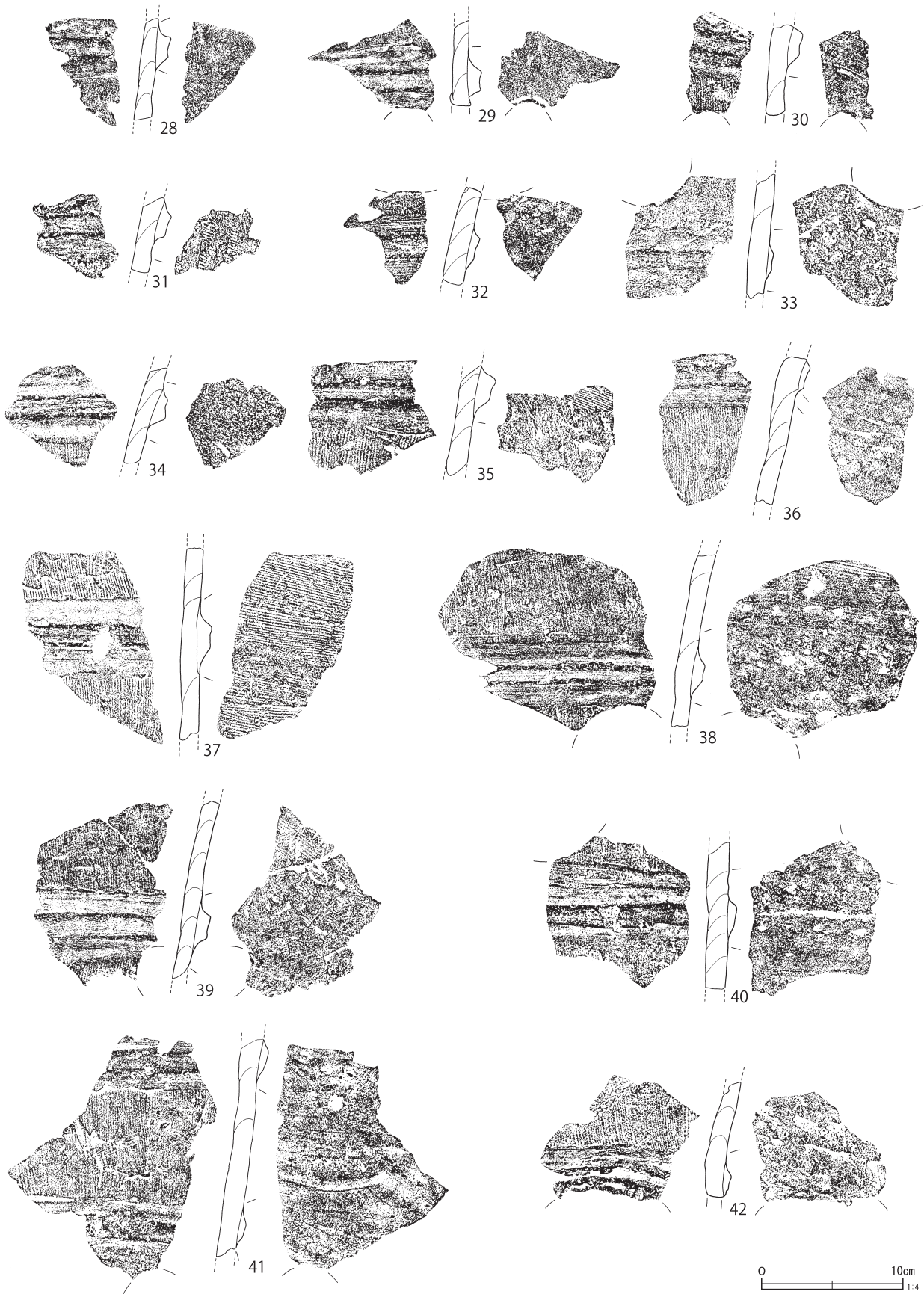
第336图 D区第3号墳遺物出土狀況



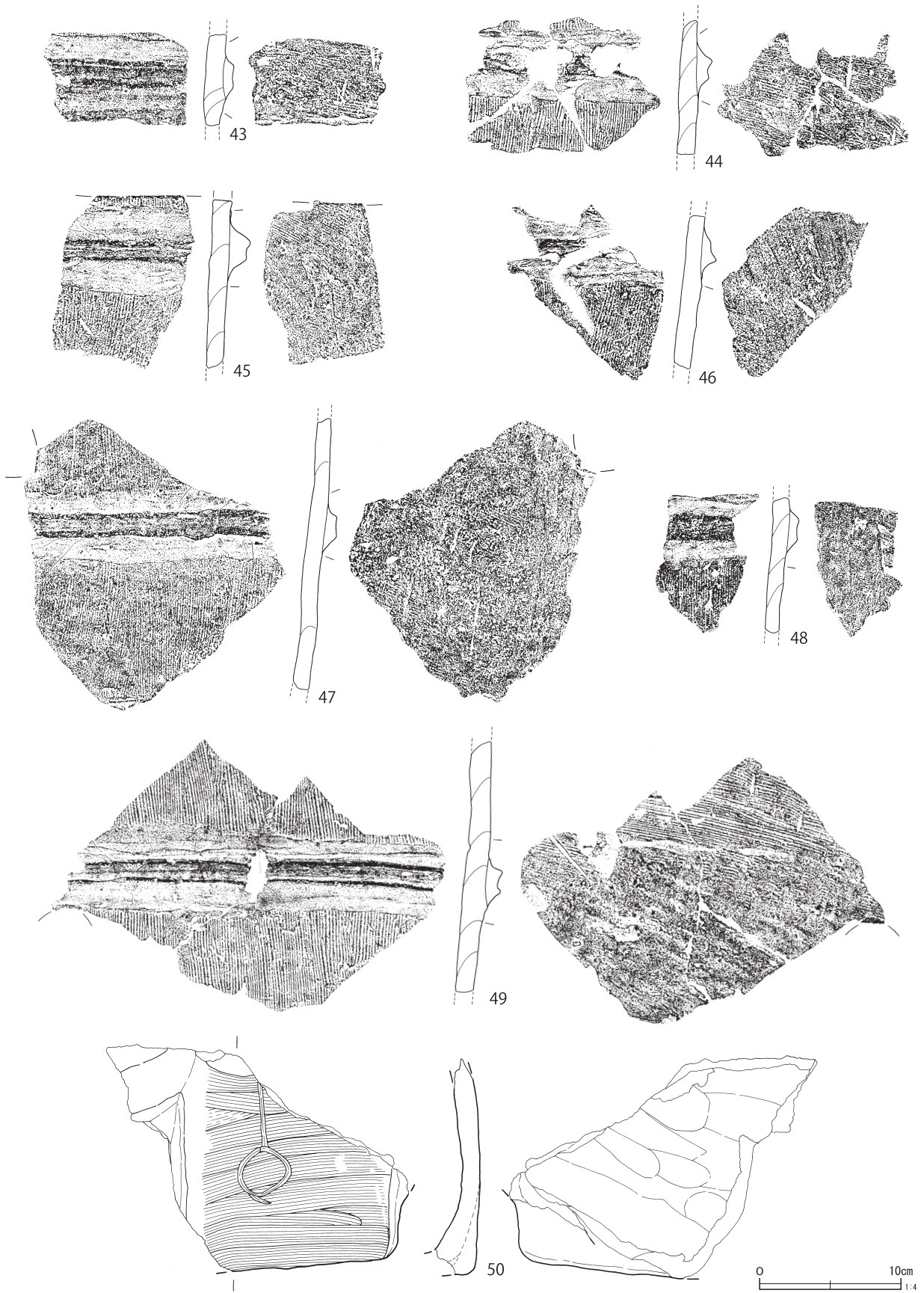
第337图 D区第3号墳出土遺物(1)



第338图 D区第3号填出土遗物(2)



第339图 D区第3号墳出土遺物（3）



第340图 D区第3号坑出土遗物(4)

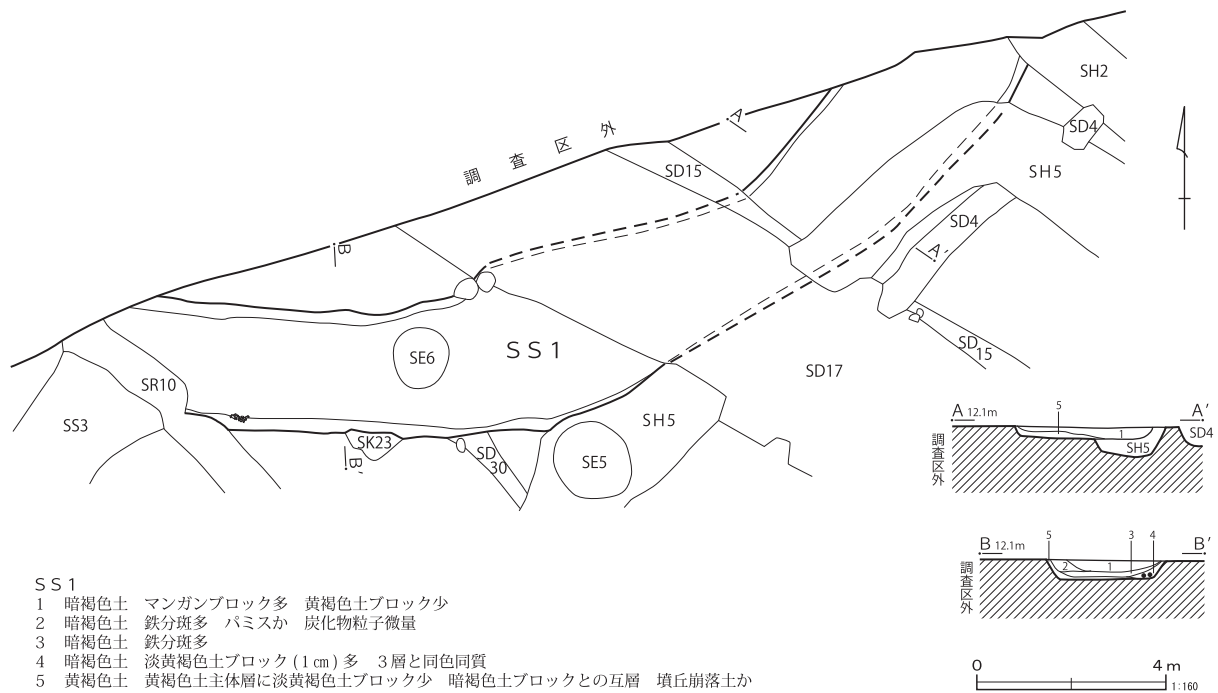
第82表 D区第3号墳出土遺物観察表

番号	区別	種別	器種	残存率(%) 残存状態	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	D	土師器	台付甕	55		(8.1)	[5.7]	C D F	不良	明赤褐	No.50 外面ハケの痕 内面ヘラナデ 剥離著しい
2	D	埴輪	円筒	第1段～ 口縁部 2/3残	(33.3)		[43.5]	A C F J	普通	橙	No.9・13 G-16 第2段長14.2cm 口縁長17.5cm 第1突帯幅0.9cm・高さ2.6cm 第2突帯幅0.9cm・高さ3.4cm 透孔(5.8)cm×6.7cm 外面はタテハケ、内面はヨコハケとナナメのハケを施す。透孔は2段で各2個か 口縁内面「×」のヘラ記号あり 突帯M字形 ハケメ11
3	D	埴輪	円筒	第2段～ 口縁部 1/4残	(47.3)		[24.8]	A C F G	普通	明赤褐	No.23・23②・24 口縁長16.2cm 第2突帯幅1.1cm・高さ3.5cm 外面はタテハケ、内面はヨコとナナメのハケを施す。透孔あり 口縁内面「×」のヘラ記号あり 突帯M字形 ハケメ14
4	D	埴輪	円筒	第1段～ 口縁部 3/4残	41.7		[42.4]	A C F	普通	明赤褐	No.4 No.4下段の下 第2段長14.1cm 口縁長17.3cm 第1突帯幅0.6cm・高さ4.1cm 第2突帯幅0.5cm・高さ2.7cm 外面はタテハケ、内面はナナメのハケを施す。透孔あり。口縁内面「×」のヘラ記号あり 突帯低台形 ハケメ20

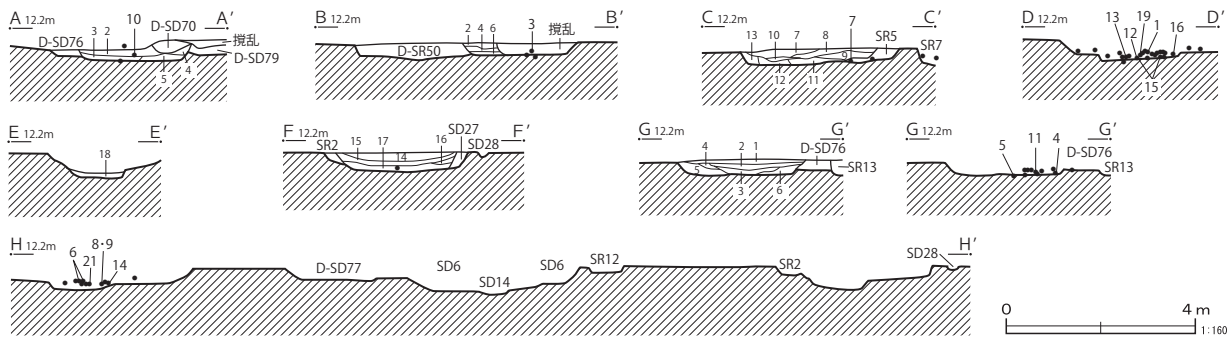
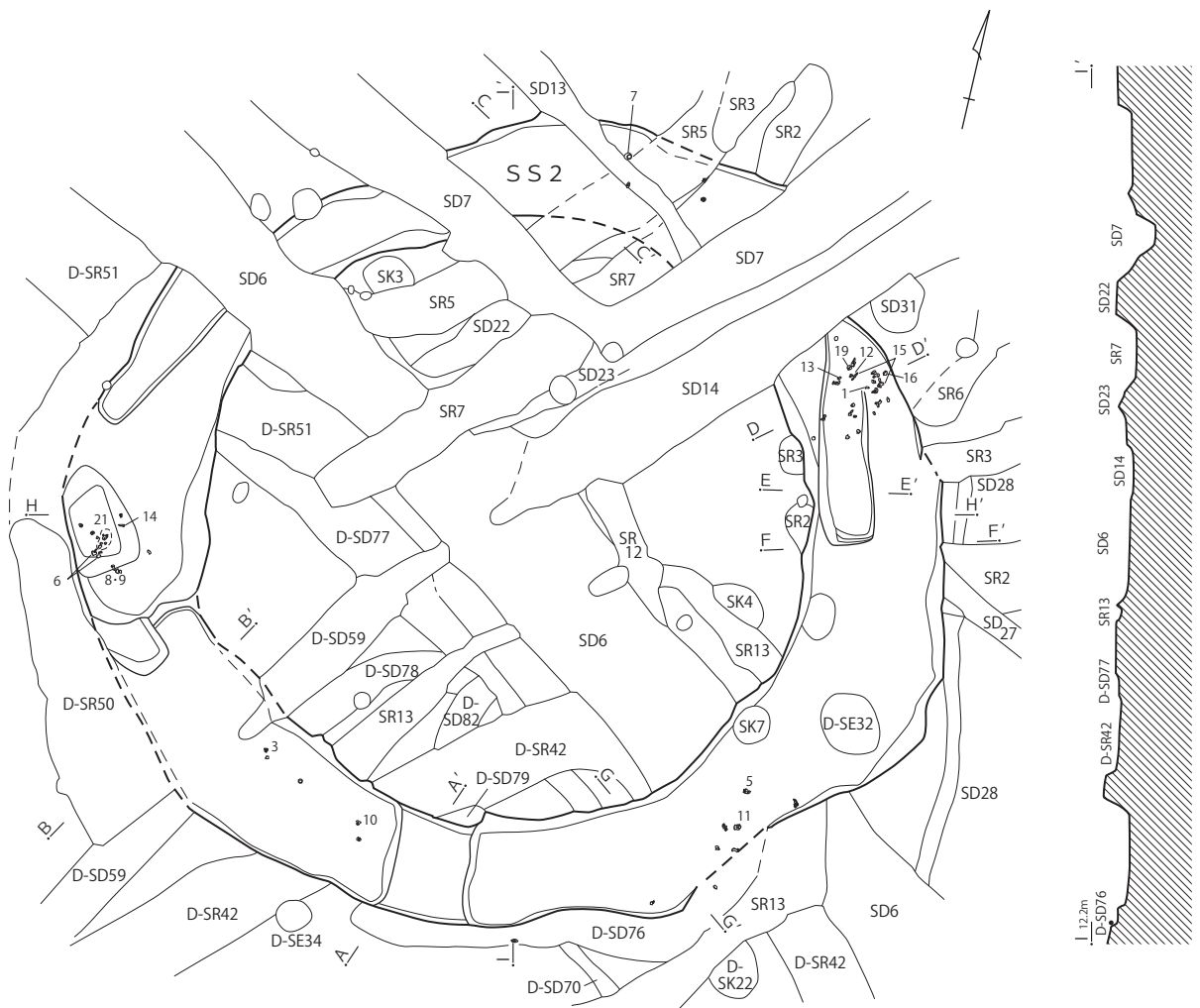
番号	器種	残存 部位	法量(cm)	出土 位置	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	備考
5	円筒	口縁	高[2.8]	H-17G	①A C D ②橙③普通		6	外面・内面ともヨコナデを施す。	
6	円筒	口縁	高[4.3]	SD49・ 50	①B C D F K ②明赤褐 ③普通		20	外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はヨコナデを施す。	
7	円筒	口縁	高[3.6]	H-17G	①B C D K ②にぶい橙 ③普通		9	外面はタテハケ、内面はヨコハケの後ヨコナデを施す。	
8	円筒	口縁	高[5.1]	G-16G	①A B C D ②橙③普通		9	外面はタテハケ後ヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデを施す。	
9	円筒	口縁	高[6.3]	DSD49・ 59	①A C D F G ②にぶい橙 ③普通		14	内面はヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデを施す。	
10	円筒	口縁	高[3.1]	G-16G	①A B C D F J ②橙③普通		8	外面はタテハケ後ヨコナデか。内面はヨコハケ後ヨコナデか	器面は風化している
11	円筒	口縁	高[7.3]	SS3 No.33	①A B C D F K ②橙 ③普通		11	外面はナナメのハケ後、端部ヨコナデ、内面はヨコハケ後、ヨコナデを施す。	
12	円筒	口縁	高[6.3]	SS3 No.10	①A C D F ②橙③普通		10	外面はナナメハケ後ヨコナデ、内面はヨコハケ後ヨコナデを施す。	
13	円筒	胴部片	高[5.7]	G-17・ 18G	①A B C D F K ②にぶい橙 ③普通	低台形	10	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナデか 突帯幅0.5cm 高さ2.6cm	器面は風化している
14	円筒	胴部片	高[10.2]	SS2 No.7	①A C F G K ②浅黄橙 ③普通	低台形	12	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメのヘラナデを施す。突帯幅0.8cm 高さ5.9cm	
15	円筒	胴部片	高[6.7]	SS3 No.37	①A C F G ②橙③普通	台形	13	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメのヘラナデを施す。突帯幅0.9cm 高さ4.1cm	内面に輪積み痕あり
16	円筒	胴部片	高[6.7]	SS3 No.48	①A F J ②にぶい橙 ③普通	高 M字形	13	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメのハケを施す。突帯幅1.4cm 高さ3.8cm	
17	円筒	胴部片	高[5.6]	H-17G	①A C F G ②橙③普通	低台形	21	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメのハケを施す。突帯幅0.6cm	
18	円筒	胴部片	高[3.6]	SS3 No.31	①A B C D K ②明赤褐 ③普通	低台形		内面はナナメのヘラナデを施す。突帯幅0.5cm 高さ2.3cm	透孔あり
19	円筒	胴部片	高[8.2]	G-17・ 18G	①A B C D F J K②にぶい橙 ③普通	高台形	11	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメのヘラナデを施す。突帯幅2.1cm 高さ3.3cm	器面は風化している

番号	器種	残存部位	法量(cm)	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	備考
20	円筒	胴部片	高[8.2]	G-17・18G	①ACFK ②浅黄橙 ③普通	三角形	14	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヘラナデを施す。突帯幅0.8cm 高さ3.8cm	器面は風化している
21	円筒	胴部片	高[4.0]	H-17G	①AB C D F ②にぶい橙 ③普通		11	外面はタテハケ、内面はヨコハケを施す。	透孔あり
22	円筒	胴部片	高[6.7]	H-17G	①AB C D F ②にぶい橙 ③普通	台形	12	外面はタテハケ(?)後、突帯貼付、内面はナナメのハケを施す。突帯幅1.0cm 高さ3.0cm	内面に輪積み痕あり
23	円筒	胴部片	高[6.1]	H-17G	①A C F G K ②橙③普通	M字形	11	外面はハケメ見えず、内面はナナメのハケを施す。突帯幅1.2cm	内面に輪積み痕あり
24	円筒	胴部片	高[4.0]	F-18G	①B C D F ②橙③普通		11	外面はタテハケ、内面はヨコハケを施す。	内面にヘラ記号あり
25	円筒	胴部片	高[4.3]	F-17・18G	①A B D F G I J②にぶい橙 ③普通	低台形		外面は遺存部分にハケメなし、内面はナデか 突帯幅0.5cm 高さ(3.1)cm	
26	円筒	胴部片	高[6.1]	SS3 No28	①A B C D F ②にぶい褐 ③普通	低台形	8	外面はハケメ見えず、内面はナナメのハケを施す。突帯幅0.7cm 高さ3.0cm	器面は風化している
27	円筒	胴部片	高[5.8]	H-17G	①B C D F G K ②明黄褐 ③普通	台形		外面はタテハケ(?)後、突帯貼付、内面はヘラナデを施す。突帯幅0.9cm 高さ2.9cm	内面に輪積み痕あり
28	円筒	胴部片	高[7.2]	H-17G	①A C F G ②にぶい橙 ③普通	M字形		外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヘラナデか(ナナメ) 突帯幅1.0cm 高さ3.1cm	器面は風化している
29	円筒	胴部片	高[6.0]	H-17G	①A B C D ②橙③普通	台形		外面はタテハケ(?)後、突帯貼付、内面はヘラナデか 突帯幅1.0cm 高さ3.1cm	透孔あり
30	円筒	胴部片	高[6.4]	SS3 No37	①B C D F ②にぶい橙 ③普通		11	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面は(ヘラ?)ナデを施す。突帯幅0.8cm	透孔あり
31	円筒	胴部片	高[5.4]	SS3 No35	①A C D F K ②橙③普通	台形	10	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメの粗いハケを施す。突帯幅0.8cm 高さ2.8cm	
32	円筒	胴部片	高[6.8]	G-17・18G	①A B C D F ②にぶい黄橙 ③普通	低台形		外面はナデ痕のみ、内面は指ナデを施す。突帯幅0.6cm 高さ3.1cm	透孔(円形か)あり
33	円筒	胴部片	高[8.7]	F-17G	①A C F ②橙③普通	低台形	10	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面は指ナデか 突帯幅0.4cm 高さ2.0cm	透孔あり 内面に輪積み痕あり
34	円筒	胴部片	高[7.4]	H-17G	①A B C D F K ②淡黄 ③普通	高M字形	11	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヘラナデか 突帯幅1.0cm 高さ2.9cm	器面は風化している
35	円筒	胴部片	高[7.9]	SS3 No.2	①A B C D F J K②にぶい橙 ③普通	高台形	9	外面ハケ後、突帯貼付、内面はナナメのハケとヘラナデを施す。突帯幅1.2cm 高さ3.7cm	内面に輪積み痕あり
36	円筒	胴部片	高[10.4]	SS3 No29	①A B C D F K ②黄褐 ③普通	低台形	11	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヘラナデ(ヨコ)を施す。突帯幅0.5cm 高さ2.3cm	内面に輪積み痕あり
37	円筒	胴部片	高[13.6]	SS3 No25	①A C D F ②黄橙③普通	低台形	10	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヨコハケを施す。突帯幅1.0cm 高さ5.4cm	内面に輪積み痕あり
38	円筒	胴部片	高[12.0]	SS3 No38	①A C D F K ②橙③良好	低台形	9	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメのハケとヘラナデを施す。突帯幅0.8cm 高さ3.6cm	透孔あり 内面に輪積み痕あり
39	円筒	胴部片	高[12.7]	SS3 No45	①A C F G ②浅黄橙 ③普通	台形	14	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヨコハケと指ナデを施す。突帯幅0.9cm 高さ4.0cm	内面に輪積み痕あり
40	円筒	胴部片	高[10.2]	SS3 No16	①A B C D ②橙③普通	低台形	12	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヨコ方向の指ナデを施す。突帯幅0.6cm 高さ2.9cm	透孔あり 内面に輪積み痕あり
41	円筒	胴部片	高[16.7]	SS3 No21	①A C F G J ②橙③普通	低台形	13	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヨコとナナメの指ナデを施す。突帯幅0.5cm 高さ3.0cm	突帯2条 ハケは不明 透孔・輪積み痕あり

番号	器種	残存部位	法量(cm)	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	備考
42	円筒	胴部片	高[8.0]	SS3 No.26	①ACFG ②にぶい橙 ③普通	低台形	11	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメのヨコナデを施す。突帯幅0.5cm 高さ2.5cm	透孔あり 内面に輪積み痕顕著
43	円筒	胴部片	高[5.4]	SS3 No.17	①ACDFJ ②橙③普通	低台形	10	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヨコに近いナナメのハケを施す。突帯幅0.7cm 高さ3.2cm	
44	円筒	胴部片	高[9.4]	SS3 No.18~20	①AB C D F ②にぶい橙 ③普通	高M字形	12	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメのハケを施す。突帯幅1.1cm 高さ4.0cm	
45	円筒	胴部片	高[11.7]	SS3 No.15	①AB C D F ②にぶい橙 ③普通	高台形	11	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はナナメのハケを施す。突帯幅1.5cm 高さ4.8cm	透孔と思われる(四角形?)
46	円筒	胴部片	高[10.7]	SS3 No.11	①ACDFJ ②にぶい橙 ③普通	M字形	12	外面はややナナメのハケ後、突帯貼付、内面はナナメのヘラナデを施す。突帯幅1.1cm 高さ3.7cm	タテハケ
47	円筒	胴部片	高[18.8]	SS3 No.46	①ACFGK ②橙③普通	台形	14	外面はタテハケ後、突帯貼付。内面はナナメのハケを施す。突帯幅0.9cm 高さ3.3cm	
48	円筒	胴部片	高[9.5]	H-17G	①ABCD ②にぶい橙 ③普通	低台形	10	外面はタテハケ(不明瞭)の後、突帯貼付、内面はナナメのハケナデを施す。突帯幅0.7cm 高さ3.1cm	
49	円筒	胴部片	高[17.8]	SS3 No.34・35	①AB C D F JK ②にぶい橙 ③良好	M字形	10	外面はタテハケ後、突帯貼付、内面はヨコに近いナナメのハケとヘラナデを施す。突帯幅1.1cm 高さ3.4cm	外面のハケメは鮮明である 透孔あり 内面へラ記号・輪積み痕あり
50	形象	馬の障泥	高[15.2]	SS3 No.3	①CFJ ②浅黄橙③普通		10	外面ヨコハケと指ナデ、内面指ナデ 幅[21.4]cm 厚さ3.0cm	



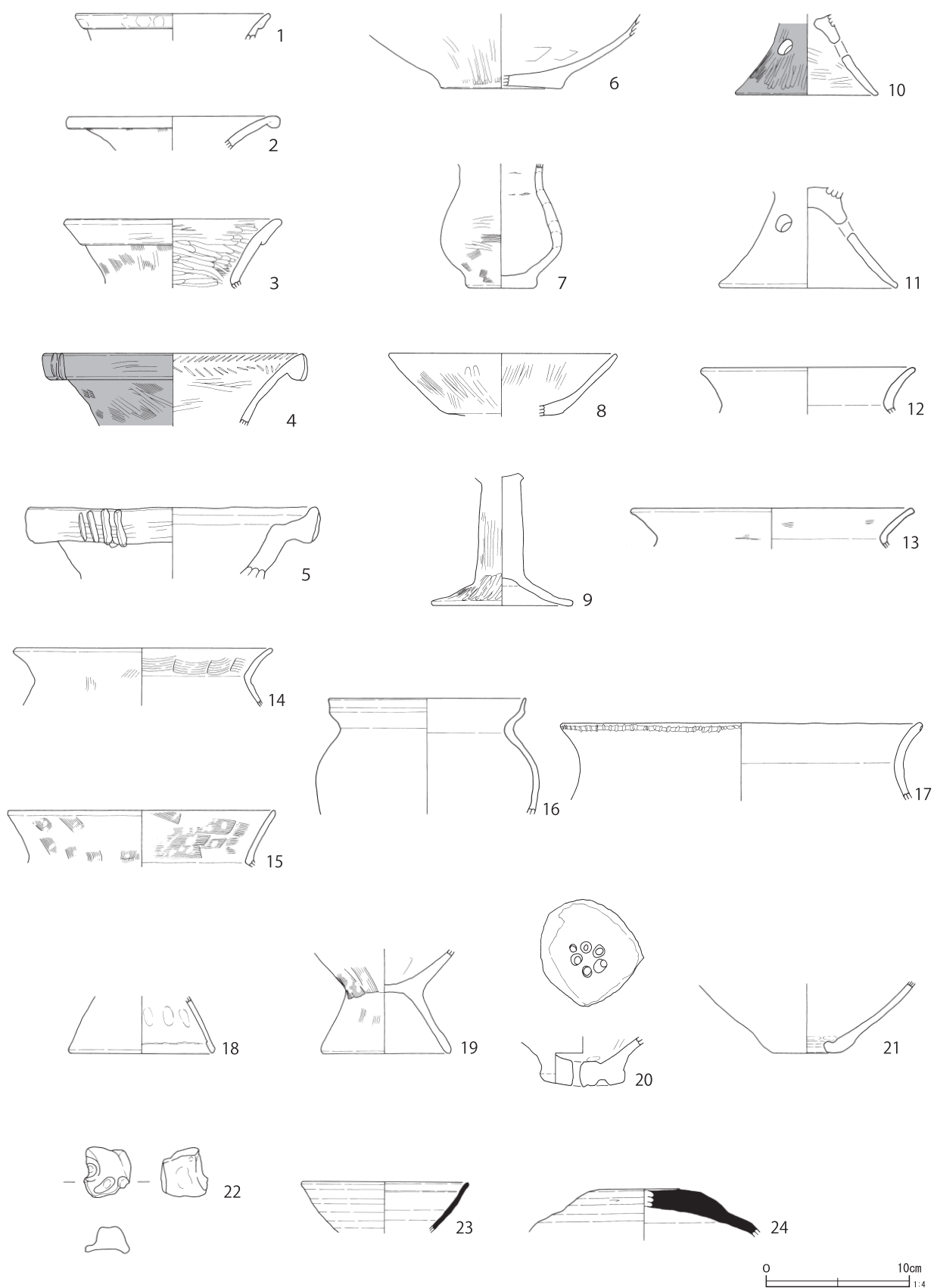
第341図 E区第1号墳



S S 2

- | | |
|---|--|
| 1 黒灰色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 | 10 灰褐色土 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 8層に比べて暗 |
| 2 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 微量 | 11 灰褐色土 鉄分ブロック (0.1 ~ 0.5 cm) 多 |
| 3 黒灰色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多 | 12 灰褐色土 鉄分ブロック (0.1 ~ 0.5 cm) 少 |
| 4 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 極多 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多 | 13 灰褐色土 鉄分ブロック (0.1 ~ 0.5 cm) 極多 |
| 5 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) ・黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 極多 | 14 黒灰色土 白灰色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多 |
| 6 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多 黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 少 | 15 黒褐色土 褐色粘土ブロック (1 cm) 微量 鉄分均質に少 |
| 7 黒褐色土 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 均質に少 灰褐色土ブロック少 | 16 黒褐色土 褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 微量 |
| 8 灰褐色土 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 均質に多 灰褐色土ブロック (1 cm) 少 | 17 黒褐色土 褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) ・褐色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) 多 |
| 9 黒褐色土 灰褐色土ブロック (1 ~ 5 cm) 極多 鉄分粒子多 | 18 黒褐色土 褐色粘土ブロック (3 ~ 7 cm) ・黄褐色粘土ブロック (2 ~ 4 cm) 多 |

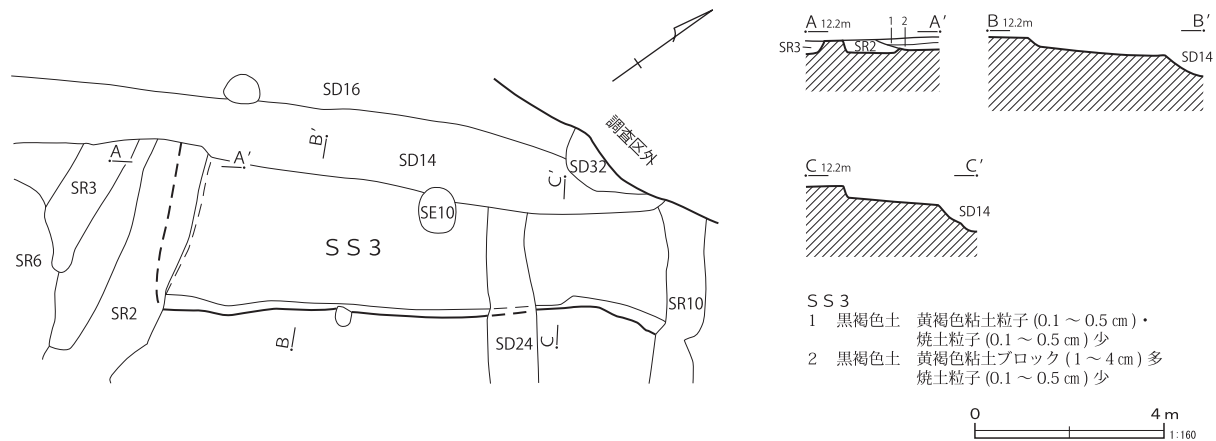
第342図 E区第2号墳



第343图 E区第2号墳出土遺物

第83表 E区第2号墳出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	SS2	E	土師器	小型壺	15	(13.4)		[2.0]	A C F J	普通	明黄褐	No.12 口縁部外面指ナデと指頭圧痕 器面風化著しい
2	SS2	E	土師器	壺	15	(14.6)		[2.4]	A C D F J	普通	浅黄	E-18G 口縁部内外面へら磨きか 頸部外面ハケ後へら磨きか 器面風化著しい
3	SS2	E	土師器	壺	20	(15.2)		[4.8]	A C D F	普通	橙	E-18G No.56 口縁部内外面横ナデ後へら磨き 内面ハケ後へら磨き 外面風化著しい
4	SS2	E	土師器	壺	20	(18.2)		[5.0]	A C D F	普通	にぶい 黄橙	No.44 口縁部内外面へら磨き 内面に羽状の沈線(植物質のものを押し付けたものか)あり 頸部外面ハケ後へら磨き 外面赤彩
5	SS2	E	土師器	壺	20	20.0		[4.9]	A C F	普通	橙	No.43 口縁部外面2本の横沈線が巡る 器面風化著しい 棒状浮文は4本で1単位と思われる
6	SS2	E	土師器	壺	40		(8.8)	[5.2]	A C D F	普通	橙	No.51・52 外面ハケ後へら磨き 内面・底部へらナデ 器面風化著しい 胴～底部外面に黒斑あり
7	SS2	E	土師器	小型壺	90		4.4	[8.8]	A C D F J	普通	にぶい 黄橙	No.2 外面ハケ後へら磨きか 内面へらナデとナデか 底部へらナデ 器面風化著しい 胴～底部外面に黒斑あり
8	SS2	E	土師器	高坏	20	(16.0)		[4.3]	A C D F J	普通	浅黄	No.54 内外面へら磨き 器面風化している
9	SS2	E	土師器	高坏	20		(9.6)	[9.2]	A C D F	普通	浅黄	No.54 外面へら磨き 端部内外面横ナデ 脚部内面へらナデか 器面風化している
10	SS2	E	土師器	器台	80		10.0	[5.6]	A C F J	普通	明黄褐	No.31 内外面へら磨き 穿孔3ヶ所(外面からの穿孔) 器面風化している 外面赤彩
11	SS2	E	土師器	高坏	75		12.3	[7.0]	A C F J	普通	にぶい 黄橙	No.38 穿孔3ヶ所(外面からの穿孔) 器面風化著しい
12	SS2	E	土師器	甕	10	(14.6)		[3.1]	A C D F	普通	にぶい 黄橙	No.18 口縁部内外面横ナデ 器面風化著しい
13	SS2	E	土師器	甕	10	(19.6)		[2.8]	A C F J	普通	浅黄	No.20 口縁部内外面ハケ後横ナデ 器面風化著しい
14	SS2	E	土師器	甕	20	(18.0)		[4.0]	A C F J	普通	橙	No.46 口縁部内外面横ナデ 器面風化著しい
15	SS2	E	土師器	甕	25	(18.4)		[4.0]	A C D J	普通	浅黄	No.8・18 内外面ハケ後横ナデか 器面風化している 内面に黒斑あり
16	SS2	E	土師器	甕	20	(13.8)		[7.9]	A B C D F G	普通	にぶい 黄橙	No.5 口縁部内外面横ナデ 胴部内外面へらナデか 器面摩滅著しい
17	SS2	E	土師器	甕	25	(24.9)		[5.3]	A C G	普通	にぶい 橙	D-20G 口縁上部内外面横ナデか 器面風化著しい 外面は全体的にやや赤色化(被熱によるものと思われる)
18	SS2	E	土師器	台付甕	20		(10.0)	[4.0]	A C D J	普通	にぶい 黄橙	E-18G 内面指頭圧痕とナデか 器面風化著しい 内面に黒斑あり 被熱により一部赤色化
19	SS2	E	土師器	台付甕	85		8.9	[7.2]	A C F J	普通	にぶい 黄橙	No.17 外面ハケ 底部内面へらナデか 脚部内面へらナデとナデか 器面風化著しい
20	SS2	E	土師器	甕	70		5.6	[3.5]	A C F J	普通	灰黄	E-20G 内外面へらナデ 穿孔6ヶ所(上面からの穿孔)
21	SS2	E	土師器	甕	25		4.8	[4.9]	A C J	普通	浅黄	No.50 外面へらナデか 内面へらナデ 底部内面指頭圧痕あり 底部1孔(下面からの穿孔) 器面風化著しい 内外面に黒斑あり
22	SS2	E	貝巢穴 痕泥岩			長さ2.4cm 幅2.5cm 厚さ1.5cm 重さ5.7g					赤褐	3孔まで確認できる 被熱による赤色化顕著
23	SS2	E	須恵器	坏	15	(11.6)		[3.5]	A C J	普通	黄灰	D-19G 南比企産 9C前半
24	SS2	E	須恵器	蓋	25			[3.6]	CHJ	普通	褐灰	E-18G 底部回転へら削り 南比企産 9C初



第344図 E区第3号墳

たことである。

円筒埴輪は、最上段から下に1・2段目のみを残すだけで、底部の破片がまったく認められず、正確な条数を復元することは難しい。類例との比較検討から5条突帯6段構成の大型品を復元することが妥当であろう。ここでは比較的残りの良かった2～4を基準にして分類を試みたい。

A類(2)は、いわゆる寸胴形の器形で、口縁部を除く各段に方形透孔を一对交差した状態で穿孔する。直立する口縁部は端部で短く外反する。外面調整は一次タテハケ、内面調整はナデ調整後、口縁部内面にヨコハケを丁寧に施す。突帯は突出度の高い台形で、上稜・下稜ともしっかりしている。色調は橙色を基調とし、胎土中に赤色粒子・白色針状物質を含む。こうした方形透孔を有する大型円筒埴輪の類例として近隣では埼玉二子山古墳、諏訪山古墳群第7号周溝が挙げられる。

B類(3)は、口縁部直下の2段分しか残っていないため、全体像は明確でない。寸胴形の器形と推定され、口縁部が大きく外反する。口唇部は中くぼみで、内側も浅くくぼんでいる。突帯は突出度の弱い台形である。突帯部分には胴部と色調の異なる粘土を意図的に用いて、色分けを行っている可能性が大きい。透孔は円形で突帯に接するように穿孔されている。色調は明赤褐色で、胎土

中に白色針状物質や小礫を含んでいる。

C類(4)は寸胴形の器形で、口縁部が緩やかに外反する。口縁部の幅が他の段間よりも広いことと、突帯が低平な台形であることが大きな特徴である。中間段の透孔は一段置きに一对交差した状態で穿孔する。突帯は低平な台形である。ハケメは細かく、外面調整は一次タテハケ、内面はナデ調整の後、口縁部にヨコハケを丁寧に施す。色調は明赤褐色を基調とし、胎土中に白色針状物質や小礫を含む。

なお、3点とも口縁部の内面には大きく「×」のヘラ記号が描かれている。

次に、第338～340図に掲載した破片資料について上記の分類に従い、記述する。

破片資料の大半がA類に該当する(9・12・14～16・19・20・22・23・27～29・32・35・37・39・43～49)。この中で方形透孔が見られるものは11点(14・16・23・27・29・32・37・39・45・47・49)を数える。また、49の内面には「×」のヘラ記号が一部残る。9は口縁部の丸味が弱く平板的であることから朝顔形埴輪の口縁部の可能性がある。

B類に該当するものは、7・8・11・13・24～26・30・31・33・34・36・38・40～42である。この中で円形透孔の一部を有するものは6点(30・33・38・40～42)ある。また、24は内面に「×」と考えられ

るへら記号の一部が見られる。前述したB類の特徴である、突帯に色調の異なる粘土を意図的に用いたものとして、25・33・41がある。25は赤褐色の胴部に淡褐色の突帯を、33・41は突帯に赤味の強い粘土を意図的に使い分けている。

C類は2点(6・17)のみで客体的なあり方を示す。なお、以上の類型に含まれない5・10・18・21は小型円筒埴輪の破片と考えられるが、本墳に直接伴うかどうかは明確にし得ない。

形象埴輪は、50の馬形埴輪の障泥部分の破片のみが出土した。胸繫の接続が状況から馬体の左側の障泥であることが分かる。障泥にはヨコハケを施し、へら描きによって輪鏝が線刻されている。同様の輪鏝表現をもつ破片がE区第7号溝跡からも出土している(第346図9)。

このように本墳からは直径20m未満の小規模円墳に相応しくない大型多条の円筒埴輪が少なくとも3個体認められた。しかし、周溝の比較的狭い範囲から出土し、底部の破片がまったく認められないことから、通常円筒埴輪のように墳丘を圍繞していた状況を復元することは難しい。特別な大型円筒埴輪であることや樹立本数の少なさを勘案した場合、埴輪棺の棺材に使用されたものと考えるのが最も合理的な解釈である。埴輪棺の棺材とした場合、すぐに思い浮かぶのは諏訪山古墳群第7号周溝にける大型円筒埴輪のあり方との共通性である(伝田・江原・城倉2011)。しかし、後世の攪乱による二次的な移動も十分に想定されるが、出土状況の観察では埴輪棺の存在を裏づけるような痕跡はまったく認められず、躊躇せざるを得ない。ここでは埴輪棺の棺材として用いられた可能性のほかに、数本の大型円筒埴輪を墳丘の一部に立て並べるような特殊な埴輪祭式のあり方についても視野にいれておきたい。

さて、本墳の築造時期については、A類とした方形透孔を有する大型円筒埴輪が、埼玉二子山古墳や諏訪山第7号周溝等から出土した大型円筒と

同工品の可能性が高いことから、城倉氏の指摘する「プレ桜山」段階(城倉2011)の6世紀前葉を中心とする年代に位置づけることができよう。従って、本墳がD区第1・2号墳よりも先行して築造されたものと考えておきたい。ではなぜ、本墳から大型円筒埴輪が出土したのか。明確な答を用意できないが、伝田氏が指摘するように大型円筒埴輪を埼玉古墳群へ供給する一方で、埴輪棺に利用するために生産地周辺の古墳に供給していた可能性が考えられる。今後の課題として、埴輪の生産や輸送の問題、埼玉古墳群との関連性など河川交通の利便性の高い場所に立地する本墳の歴史的意義について検討したい。

E区第1号墳(第341図)

B-22・23、C-21・22グリッドに位置する。E区第3号墳とは、極めて近い位置に検出された。

E区第10号周溝状遺構、E区第2・5号方形周溝墓より新しく、E区第6号井戸跡より古い。但し、E区第17号溝跡との新旧関係は不明である。

北側部分は、調査区外に続いている。西に位置するE区第3号墳と同一遺構であるのか、重複関係にあるのか、といった問題については明確な判断ができなかった。

円墳と推定されるが、墳丘や主体部は検出されていない。周溝の規模は、上場幅2.60~3.65m、下場幅2.08~3.30m、深さは0.24~0.42mである。

検出された周溝の円弧から推定される直径は、外周で29.80m、内周で24.02mとなる。周溝の底面は、比較的平坦である。周溝壁面の立ち上がりは緩やかで、断面形は皿状もしくは逆台形である。

土層断面の第3層は黒味が強く、上位には火山灰堆積であるかのように、黒色土がうっすらと積もった状態で検出された。また第5層は、墳丘からの崩落土の可能性が考えられる。

周溝内からは、古墳時代前期の土師器甕の胴部片が僅かに出土しただけで、古墳の築造時期を示すような遺物は出土していない。

E区第2号墳 (第342・343図)

D・E-18~20、F-18・19グリッドに位置する。D区第3号墳とは8.30mの距離に位置する。

D区第42・50・51号周溝状遺構、E区第2・3・5~7・13号周溝状遺構、E区第3・4・7号土壇、D区第76・77・79号溝跡、E区第27号溝跡より新しく、D区第32号井戸跡、D区第70号溝跡、E区第6・7・13・14号溝跡より古い。但し、その他の溝跡や、E区第7号土壇との新旧関係は不明である。

今回の調査で検出された6基の古墳跡の中で、全周が確認できた2基内の1基である。比較的形の整った円墳で、墳丘や主体部は検出されなかった。周溝の規模は、上場幅2.10~3.50m、下場幅1.80~3.05m、深さは0.28~0.40mである。周溝の外周径は17.28×18.76m、墳丘径は12.74×12.96mである。周溝の底面には、凹凸が認められる。周溝壁面の立ち上がりは緩やかで、断面形は皿状である。周溝の幅は一定しておらず、外周側はプラン的にもやや歪みを有している。これに対して内周側では比較的プランの乱れが少ない。周溝の北東部分には、全長4.60m、上場幅0.93~1.04m、下場幅0.75~0.88m、深さ0.56mの規模をもつ溝状の掘

り込みが認められた。

土層断面における第11~13層は、墳丘からの崩落土の可能性をもつ。周溝からは古墳時代前期の土師器 (第343図1~21) をはじめ、貝巢穴痕泥岩 (22)、平安時代の須恵器片 (23・24) が出土しているが、古墳に伴う遺物がなく、築造時期については不明である。

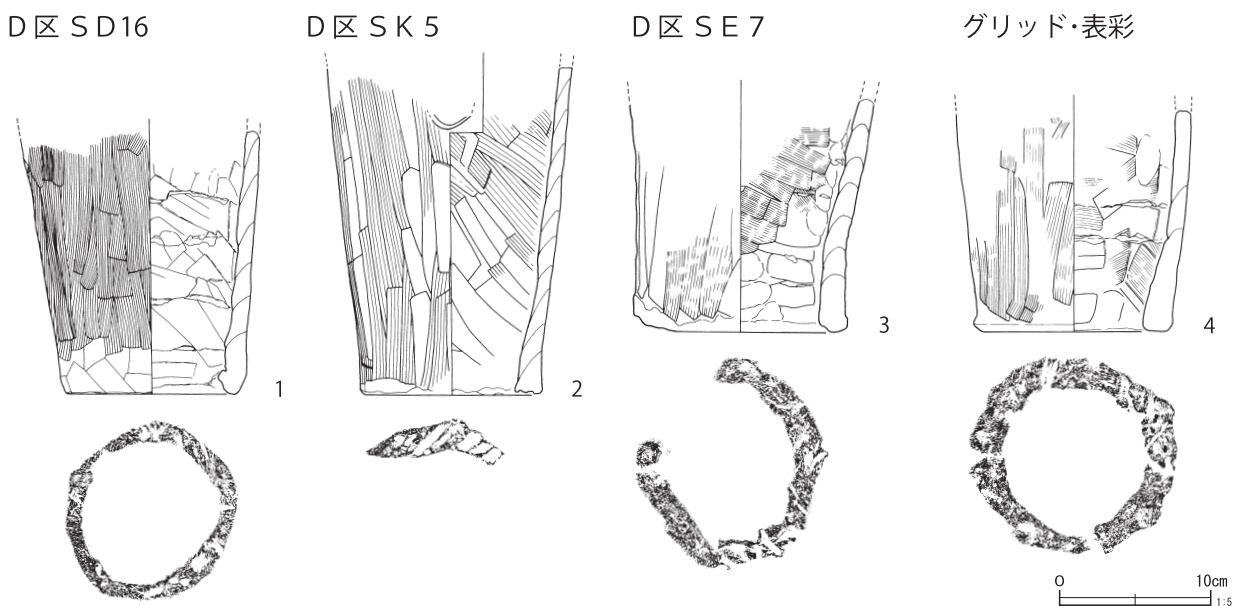
E区第3号墳 (第344図)

C-20・21、D-20グリッドに位置する。E区第1号墳とは、極めて近い位置に検出された。

E区第2・10号周溝状遺構、E区第10号井戸跡より新しく、E区第14号溝跡より古い。E区第24号溝跡との新旧関係は不明である。

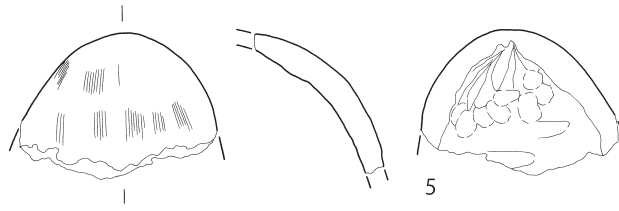
北側部分は、調査区外に続いていると推定される。東に位置するE区第1号墳と同一遺構であるのか、重複関係にあるのか、といった問題については不明である。方墳または前方後円墳の前方部の可能性が考えられるが、特定するには至らなかった。墳丘や主体部は検出されていない。検出された周溝の規模は、東西10.40m、南北3.20m、深さは0.18~0.45mである。

周溝は直線的に延びるが、一部歪んでいる箇所

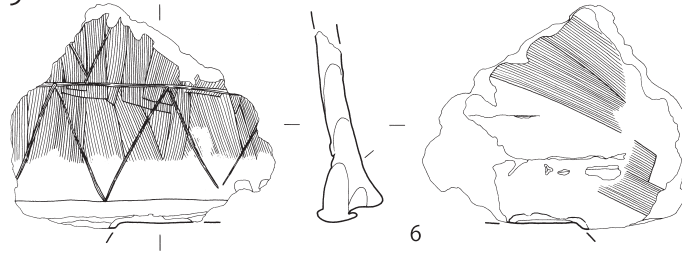


第345図 古墳以外出土埴輪 (1)

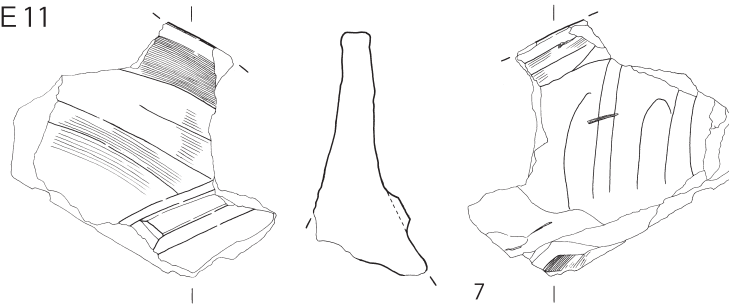
B区 SE33



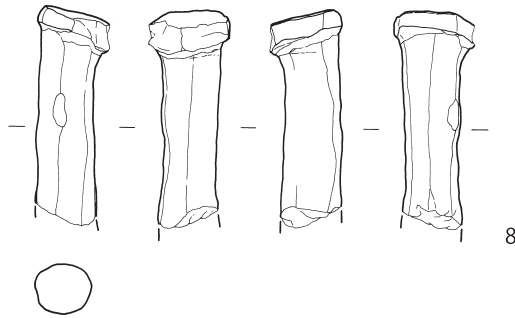
D区 SD9



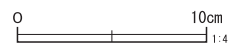
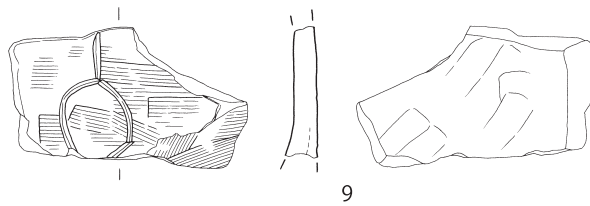
D区 SE11



I 14G・表彩



E区 SD7



第346图 古墳以外出土埴輪 (2)

が見られた。周溝の底面は比較的平坦である。周溝壁面の立ち上がりは、緩やかな部分と急峻な部分があり一定していない。断面形は皿状もしくは逆台形に近い。遺物がなく、時期は不明である。

古墳以外出土埴輪 (第345・346図)

古墳の所在するD・E区を中心に、古墳跡と重複する溝跡や井戸跡などの埋土中から数多くの埴輪片が出土している。ここでは特徴的なものを中心に説明する。

1・3・4は円筒埴輪の底部の破片である。底径12cm前後の2条3段の小型品と思われる。外面調整は一次タテハケを基調としている。1・3は外面基底部に板押圧による底部調整が見られる。今回調査された古墳跡では底部調整をもつものは出土しておらず、周辺に6世紀後葉の古墳が存在する可能性を示す。2は図示した上端部に小円孔を残すことから形象埴輪の器台部と考えられる。

5～9は形象埴輪を一括した。5はB区第33号井戸跡から出土した人物埴輪の頭部である。頭頂部付近の破片で、内面に絞り目を残すが、外面には頭髪や被り物等を表現した痕跡はない。6はD

区第9号溝跡から出土した家形埴輪の屋根部の軒先から壁体にかけての破片である。軒先に接するように直線的に切り込まれた開口部が残る。寄棟造りの屋根部と推定され、外面にヘラ描きによって三角文を2段に施文する。なお、D区第1号墳から出土した家形埴輪(第326図9)と同一個体と考えられる。7はD区第11号井戸跡から出土した馬形埴輪の立髪の一部である。粘土板によって成形され、外面に粘土紐を貼付して、手綱を表現する。8はI14グリッドから出土した円板状の頭部をもつ棒状品の破片である。有頭部の形状から人物埴輪に付属した大刀、もしくは馬形埴輪の尻尾と推定される。9はE区第7号溝跡から出土した馬形埴輪の障泥の破片である。外面にヘラ描きにより輪鏡を表現する。D区第3号墳から同じ輪鏡表現をもつ破片(第340図50)が出土しており、同墳への帰属が考えられる。但し、輪鏡の大きさや胎土の色調が異なること、さらに同じ障泥の左側部分の破片であることから、別個体となることが分かる。

第84表 古墳以外出土埴輪観察表

番号	器種	残存部位	法量(cm)	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	備考
1	円筒	底部	底径12.5 高[17.5]	DSD16 No.7	①A B C D F G ②橙③普通		13	外面タテハケ 内面ヨコとナナメの指ナデ	輪積み痕顕著
2	円筒	底部	底径(12.1) 高[21.6]	DSK5 No.1	①A B C F G ②橙③普通		8	外面タテハケ 内面ナナメのハケと指ナデ	基部幅1.8cm
3	円筒	底部	底径14.1 高[15.3]	DSE7 No.1	①A C D F G ②橙③普通		14	外面タテハケ 内面ナナメのハケとヨコ方向の指ナデ	
4	円筒	底部	底径12.7 高[14.5]	H-14G 表彩	①A C D F ②明赤褐③普通		12	外面はタテハケ 内面はナナメのハケと指押さえ	
5	形象	人物の頭	高さ[7.4] 幅[10.3]	BSE33	①A C D F ②明赤褐③普通			上部絞り 中部指押さえ 下部ヨコ方向の指ナデ	
6	形象	家の屋根	高さ[11.8] 幅[13.9] 厚さ3.5	DSD9 No.3	①A C F G ②灰黄褐③普通		17	外面ハケの後に線刻 内面ハケと指ナデ	
7	形象	馬の立髪	高さ[12.8] 幅[14.0] 厚さ6.0	DSE11	①C F J ②浅黄橙③普通		20	外面ハケの後に指ナデ 内面縦方向の指ナデ	
8	形象	馬の尻尾	長さ[11.5] 幅3.0 厚さ2.6	I-14G 表彩	①A B C F ②明赤褐③普通			全面指ナデ	
9	形象	馬の障泥	高さ[7.0] 幅[12.4] 厚さ1.6	ESD7	①A B C F G ②明赤褐③普通		12	外面横方向のハケの後に線刻 内面ナナメ方向のヘラナデと指ナデ	

(9) 溝跡

確認された溝跡は、A区3条、B区71条、C区22条、D区87条、E区33条の計216条である。

時期別にみた溝跡数は、古墳時代前期24条、中・近世以前1条、中・近世45条のほか、時期不明146条である。出土遺物が少なく、しかも凶化に及ばないような小破片が多いことから、時期決定できなかったものが溝跡全体の7割弱を占める結果となった。

今回の調査で検出された溝跡の中に、連結溝と称される、周溝状遺構の周溝と別の周溝状遺構の周溝を「連結」していると考えられる遺構が確認された。これは、周溝内に溜まった水を、周溝同士を連結することによって、地形的により低い谷地形や溝に導水する機能を持っていたと推測されている溝跡である。

具体的には（以下、略号で表記する）、

- 1：SR 1（Ⅲ期）の開口部を連結すると推測されるSD 5。
- 2：SR 1とSR 2ないしSR 3（Ⅲ期）を連結すると推測されるSD10。

3：SR 8（Ⅱ期）とSR 6（Ⅲ期）を連結すると推測されるSD58。

4：SR 9（Ⅰ期）とSR10（Ⅱ期）を連結すると推測されるSD99。

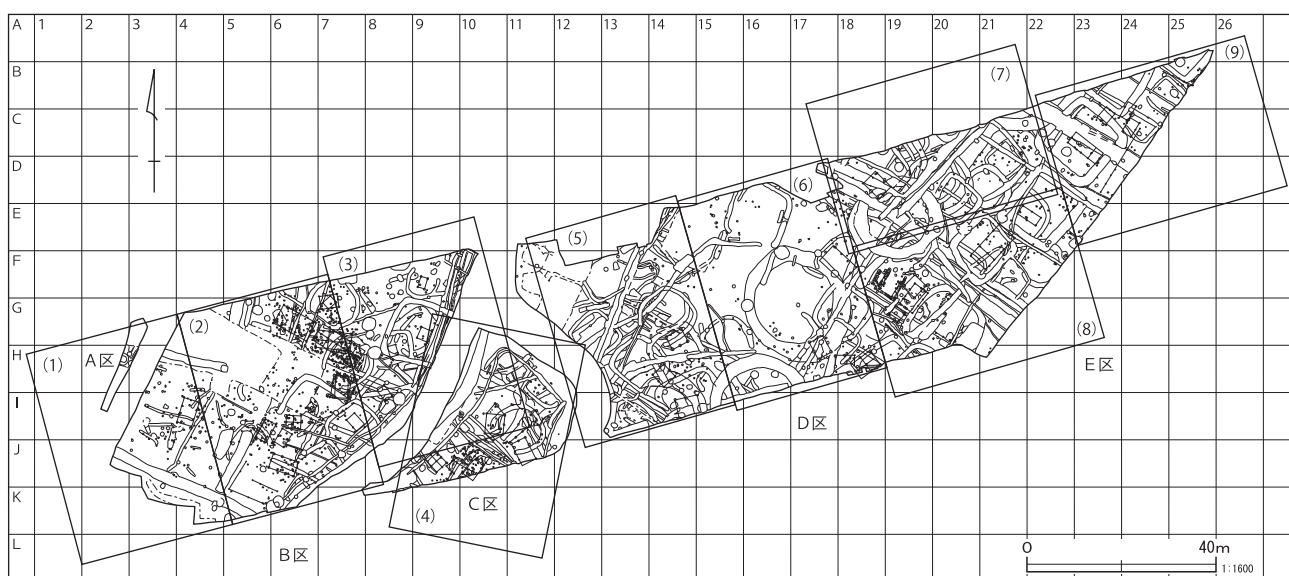
5：DSR 2（Ⅲ期）とDSR 6（Ⅲ期）に連結すると推測されるDSD101。

6：DSR38（Ⅲ期）とDSR42（Ⅲ期）またはDSR46（Ⅲ期）を連結すると推測されるSD81。

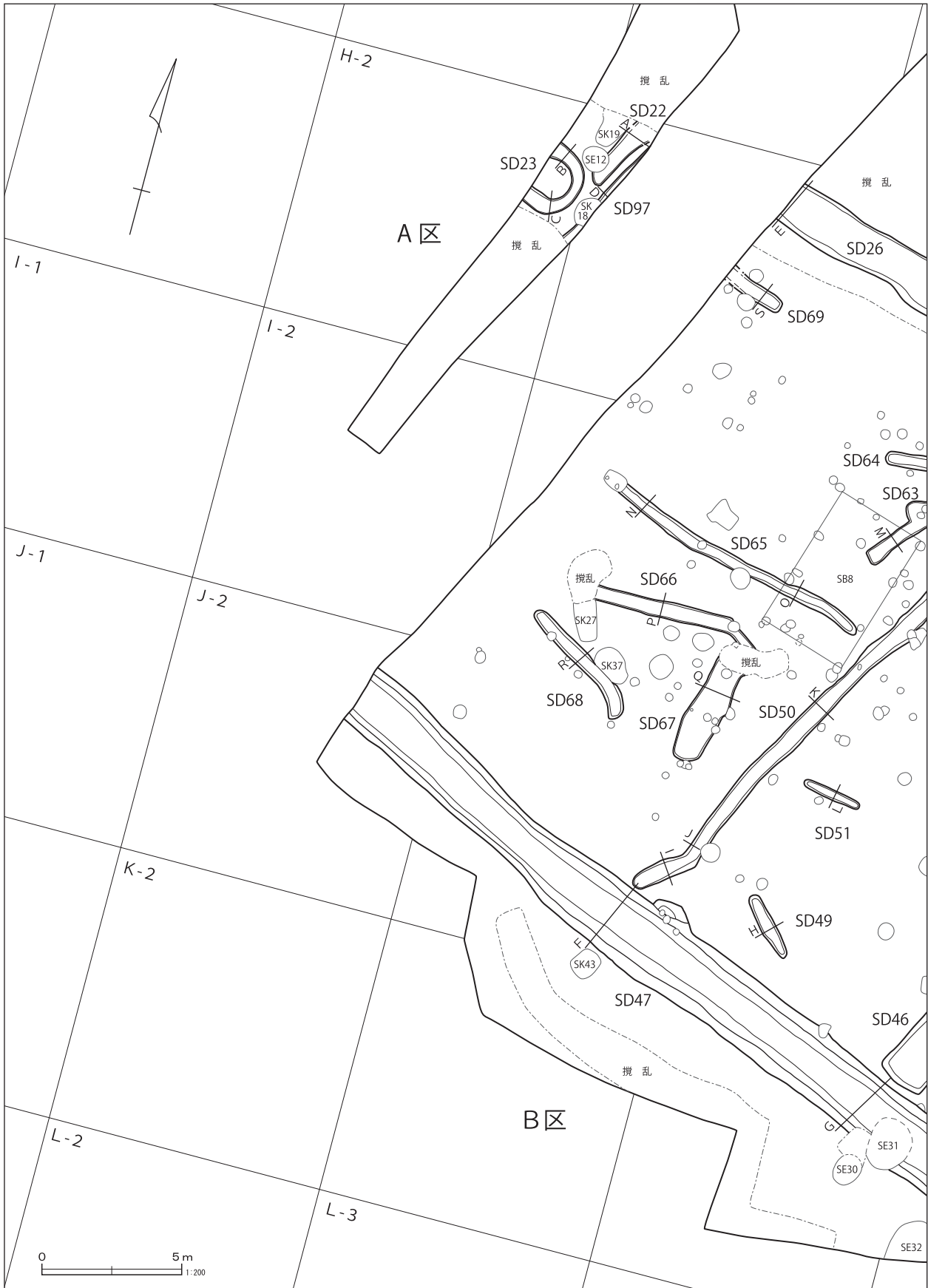
8：DSR48（Ⅲ期）とESR15（Ⅲ期）連結すると推測されるSD102。

等が挙げられる。時期の異なる遺構同士が連結されている例があるが、周溝自体は残存していたと考えられる。

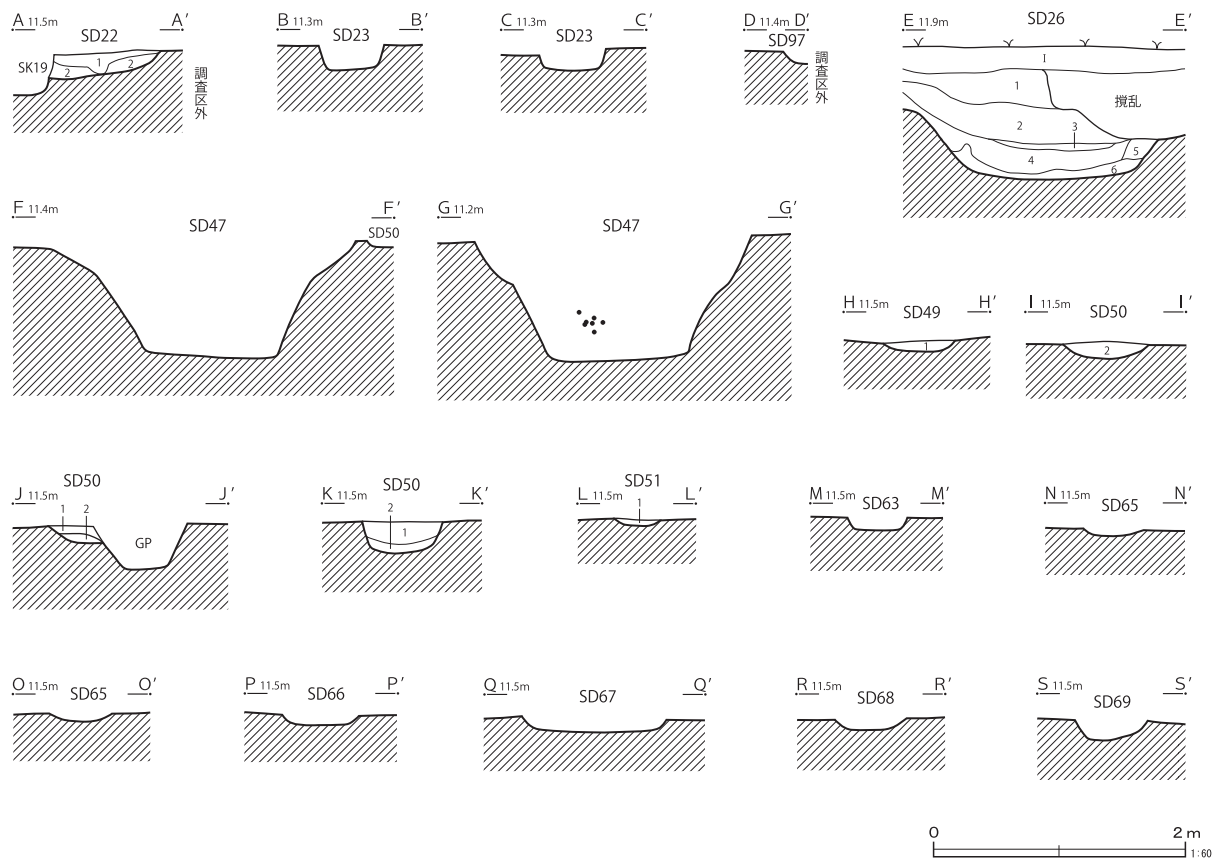
なお、遺構名は、A～C区の連番で命名したが、D・E区は調査の工程上、平行して行ったため、遺構名の重複を避けるべく、D区第1号溝跡、E区第1号溝跡というように、調査区名を冠して命名し、整理においてもこれを踏襲した。故に、調査時の欠番は、整理時も同様とした。



第347図 溝跡区割図



第348図 溝跡区割図(1)



SD22 A-A'
 1 暗褐色土 橙色土粒子 (0.3 cm) 少 疎らに少 しまり強
 2 黄褐色土 暗灰色粘質土・黄褐色土やや多 しまり強 粘性強

SD26 E-E'
 1 灰褐色土 耕作土
 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 1 cm) 微量
 2 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.7 ~ 2.5 cm) 多
 褐色土ブロック (0.3 ~ 0.8 cm) 不均一にやや多 埋戻し土
 3 暗褐色土 酸化土多
 4 黒褐色土 褐色土粒子 (0.3 cm)・灰褐色粘土ブロック (4 cm) 微量
 5 暗褐色土 褐色土ブロック (0.5 cm)・黄褐色粘土ブロック (0.7 cm) 多
 6 灰褐色粘土 褐色土ブロック (1 cm) 少
 黒褐色土ブロック (0.5 ~ 1 cm) やや多

SD49 H-H'
 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) 多 黄褐色粘土ブロック (3 cm) やや多

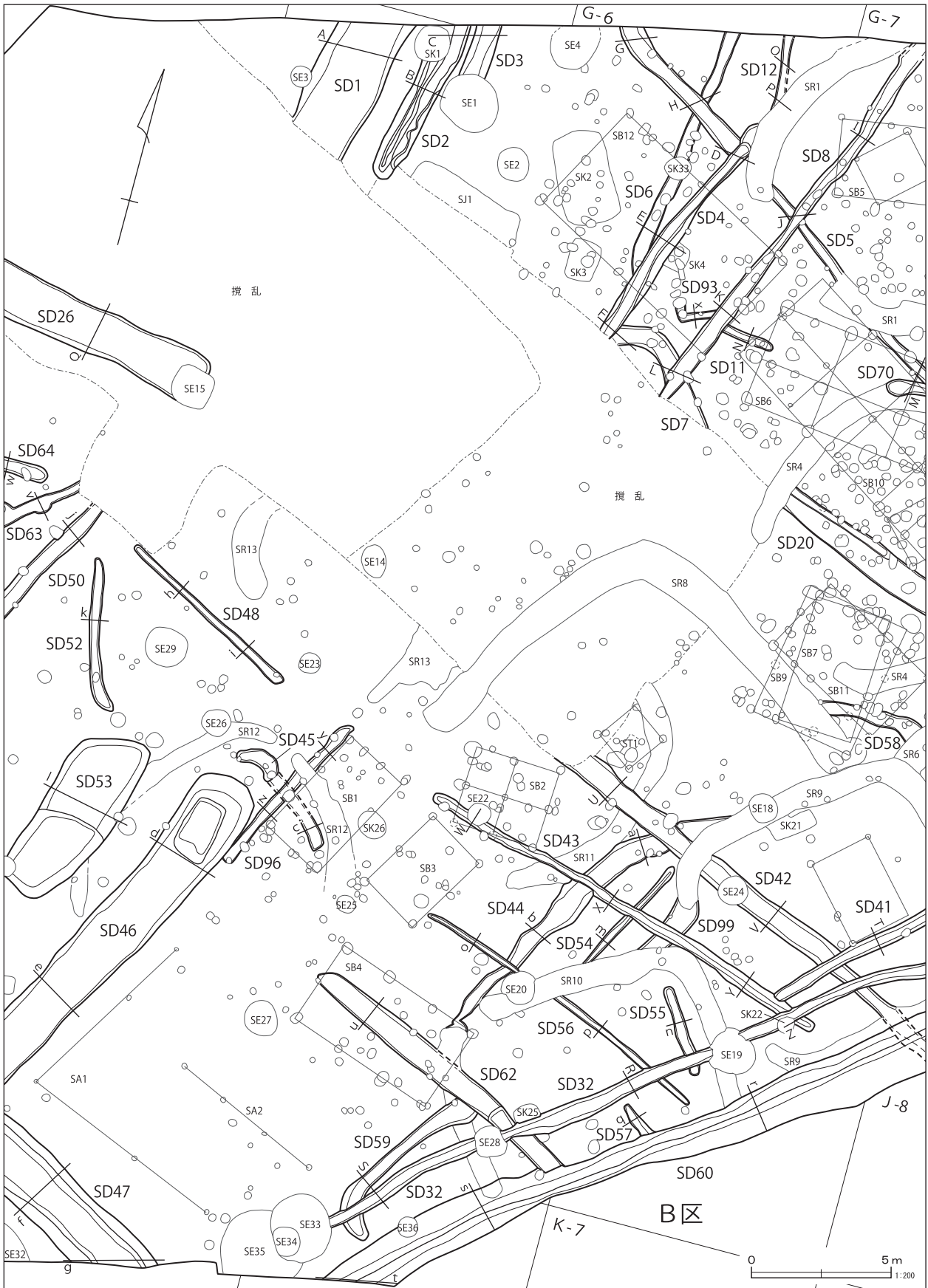
SD50 I-I' ~ K-K'
 1 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 4 cm)・
 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多
 2 褐色土 黒色土ブロック (0.5 ~ 1.5 cm) 少 褐色土粒子 (0.3 cm) 微量

SD51 L-L'
 1 褐色土 黒色土ブロック (1 cm) 少 炭化物微量

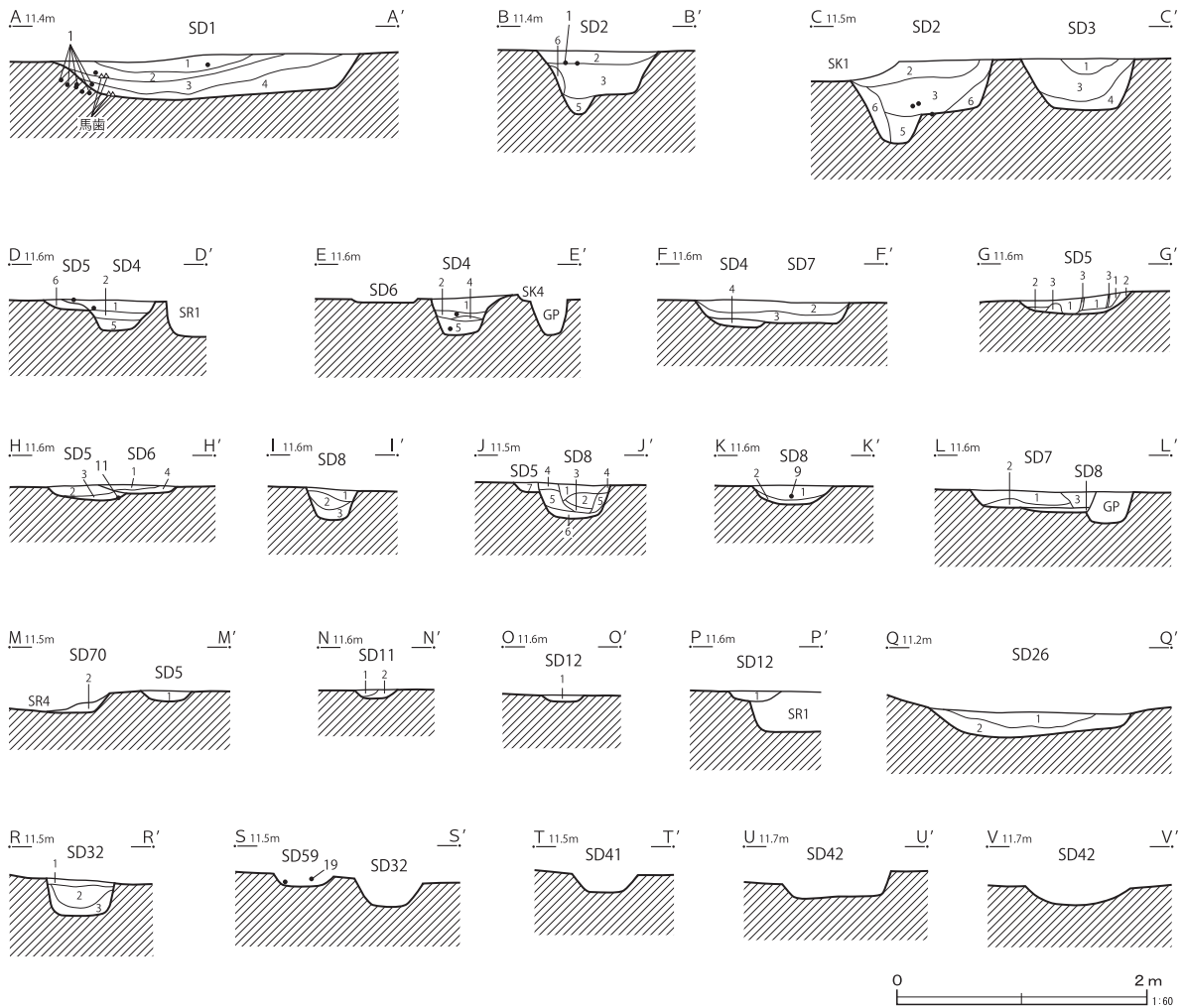
第349図 溝跡断面図 (1)

第85表 溝跡計測表

遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考	遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考
SD1	G-5	260	205	35	中世	SD12	F-6	40	25	8	
SD2	F・G-5	120	25	45	近世	SD13	F-8・9	145	130	12	
SD3	F・G-5	93	58	38		SD14	F-9	(100)	(95)	17	
SD4	G-6	75	45	29		SD15	F-9・10	60	28	34	
SD5	F-6 G-6・7 H-8	88	56	15	古墳(前)	SD16	F・G-9 H-8・9	100	30	54	中・近世
SD6	F・G-6	60	55	25		SD17	G-9	(100)	(80)	14	
SD7	G・H-6	75	55	18		SD18	G-8・9	95	67	21	
SD8	F-7 G-6・7 H-6	70	50	28	近世	SD19	G-8・9	45	32	6	
SD9	F・G-7・8	130	105	6		SD20	H-7・8	120	105	26	
SD10	F-9 G-7・8	90	70	42	古墳(前)	SD21	H-8	40	22	13	
SD11	G-6	40	20	7		SD22	H-3	85	60	20	



第350图 溝跡区割图 (2)



SD1 A-A'

- 1 黒灰褐色土 褐色土粒子多 しまり強
- 2 黒灰褐色土 褐色土粒子少 しまり強
- 3 黒色土 炭化物粒子・灰白色粘土ブロック(1cm)微量 しまり強
- 4 黒灰褐色土 炭化物粒子微量 灰白色粘土ブロック(2~3cm)少 しまり強 粘性やや強

SD2-3 B-B'・C-C'

- 1 黄褐色土 褐色土ブロック(0.3~0.7cm)少
- 2 暗褐色土 褐色土粒子(0.2~0.5cm)少
- 3 暗褐色土 褐色土ブロック(0.5~1cm)多
- 4 黒褐色土 焼土粒子・褐色土ブロック(0.4~0.6cm)微量
- 5 暗褐色土 褐色土ブロック(0.5~1cm)少
- 6 褐色土 粘土ブロック少

SD4-5-7 D-D'~F-F'

- 1 黒色土 褐色土粒子微量
- 2 黒色土 褐色土粒子(0.3~0.5cm)多
- 3 黒色土 褐色土粒子(0.2~0.5cm)少
- 4 黒色土 褐色土ブロック(0.5~2cm)多
- 5 黒色土 褐色土粒子(0.2~0.5cm)少
- 6 黒色土 褐色土ブロック(3~5cm)少

SD5-6 G-G'・H-H'

- 1 黒色土 褐色土粒子(0.3~0.5cm)・黄褐色粘土ブロック(0.2~0.6cm)少
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子(0.2~0.4cm)・褐色土粒子(0.2~0.5cm)均質に少 シルト質
- 3 黄褐色土 黄褐色粘土・褐色土粒子(0.3~0.4cm)少
- 4 黒色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)均質に少

SD8 I-I'・K-K'

- 1 暗褐色土 褐色土粒子多 焼土粒子微量
- 2 暗褐色土 褐色土粒子多
- 3 褐色土 褐色土粒子多

SD5-8 J-J'

- 1 暗褐色土 焼土粒子少
- 2 暗褐色土 褐色土粒子多
- 3 暗褐色土 褐色土粒子少 粘性やや強
- 4 褐灰色土 褐色土粒子多
- 5 黄褐色土 褐色土粒子多
- 6 褐色土 褐色土粒子多 粘性やや強
- 7 黒褐色土 褐色土粒子極多

SD7 L-L'

- 1 黒褐色土 褐色土粒子・褐色土ブロック多
- 2 褐灰色土 褐色土ブロック多
- 3 暗褐色土 褐色土粒子多

SD5-70 M-M'

- 1 黒褐色土 黄灰色粘土粒子(0.1cm)少
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.3~0.5cm)少

SD11 N-N'

- 1 黒褐色土 焼土粒子少
- 2 黒褐色土 褐色土粒子(0.2~0.4cm)少

SD12 O-O'・P-P'

- 1 暗褐色土 黄灰色粘土粒子(0.1cm)均質に少

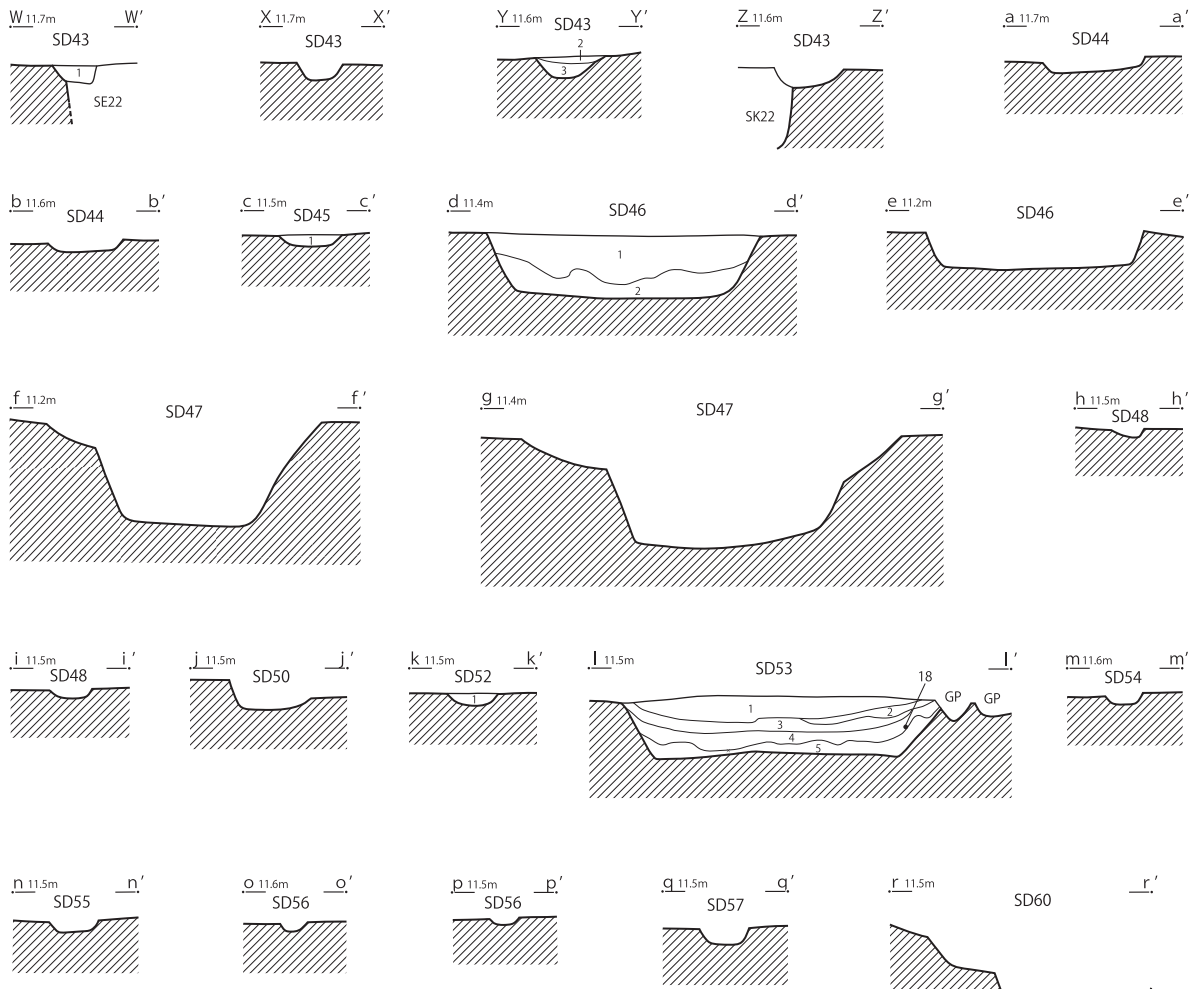
SD26 Q-Q'

- 1 暗褐色土 褐色土ブロック(0.5cm)・黄褐色粘土ブロック(0.7cm)多
- 2 灰褐色粘土 褐色土ブロック(1cm)少 黒褐色土ブロック(0.5~1cm)やや多

SD32 R-R'

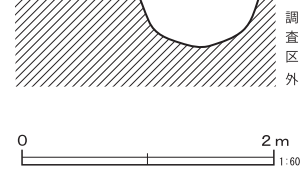
- 1 灰褐色土 褐色土粒子(0.4cm)やや多
- 2 灰褐色土 褐色土粒子(0.2cm)・褐色土ブロック(0.6cm)やや多 黄褐色粘土粒子(0.3cm)少
- 3 灰褐色土 褐色土ブロック(0.2~0.6cm)多 炭化物粒子(0.2cm)少

第351図 溝跡断面図(2)

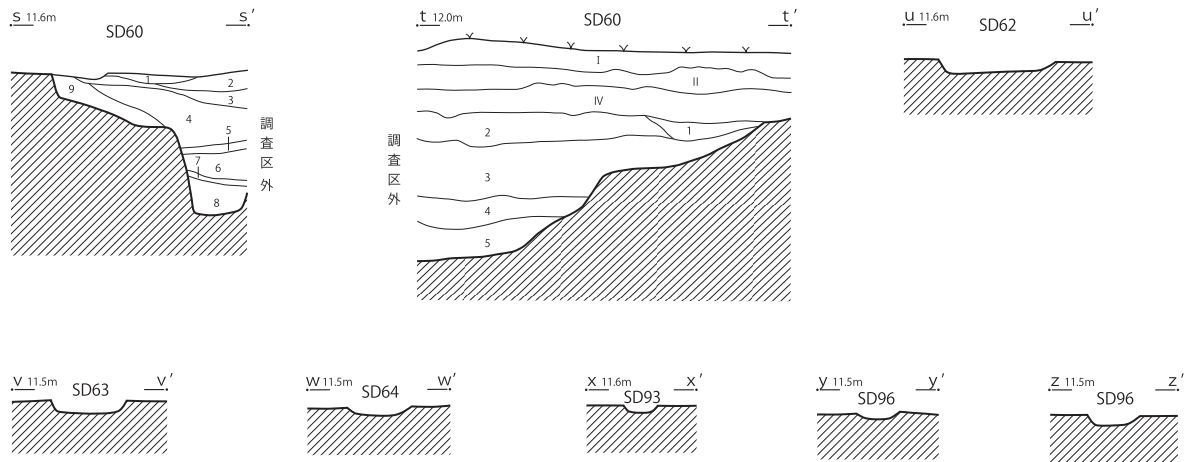


- SD43 W-W'・Y-Y'
- 1 褐色土 褐色土粒子 (0.1 cm) 少
 - 2 褐色土 褐色土ブロック (0.3 ~ 0.6 cm) 微量
 - 3 褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm) 斑らに少
- SD45 c-c'
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) ・ 褐色土ブロック (0.5 cm) 多
- SD46 d-d'
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (10 cm) 多
 - 2 暗灰色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 2 cm) 少

- SD52 k-k'
- 1 黒褐色土 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 多 焼土粒子・炭化物粒子微量
- SD53 l-l'
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 cm・5 ~ 10 cm) 多 褐色粘土ブロック (0.5 cm) ・ 褐色土ブロック (0.7 cm) 少 埋戻し土
 - 2 黒色土 暗灰色粘土ブロック (1.5 cm) ・ 焼土粒子 (0.1 cm) 微量
 - 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.2 ~ 1.5 cm) ・ 褐色土ブロック (0.5 cm) 微量
 - 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.9 cm) ・ 褐色土ブロック (0.5 ~ 0.9 cm) やや多
 - 5 明灰褐色土 黄褐色粘土粒子斑に多 粘性強



第352図 溝跡断面図 (3)



SD60 s-s'

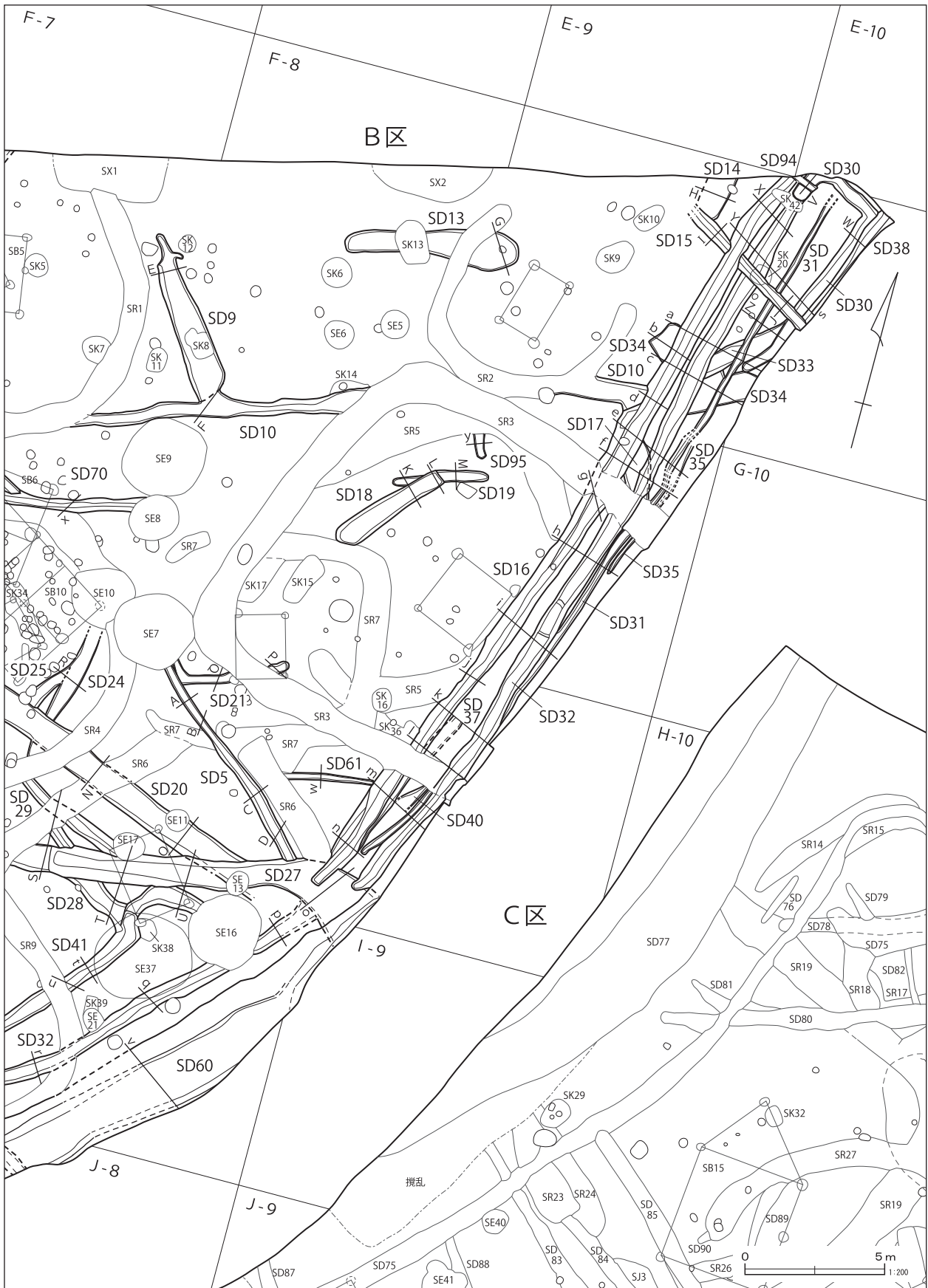
- 1 暗褐色土 地山ブロック・赤褐色粘土ブロック(1cm)少 鉄分多 炭化物微量
- 2 明褐色土 地山ブロック(2~3cm)・鉄分多 赤褐色土ブロック(1cm)少 炭化物微量
- 3 暗褐色土 地山ブロック(2~3cm)・炭化物少 鉄分多
- 4 暗褐色土 地山ブロック(1cm)・灰褐色粘土ブロック(1~2cm)・炭化物少 鉄分多
- 5 暗灰色土 鉄分多 粘性強
- 6 暗灰色土 焼土粒子・鉄分微量 炭化物少 粘性強
- 7 暗灰色土 粘性強
- 8 暗灰色土 青灰色粘土ブロック多 炭化物少 焼土粒子微量 粘性強
- 9 明褐色土 地山ブロック多 暗褐色土ブロック(1~2cm)少

SD60 t-t'

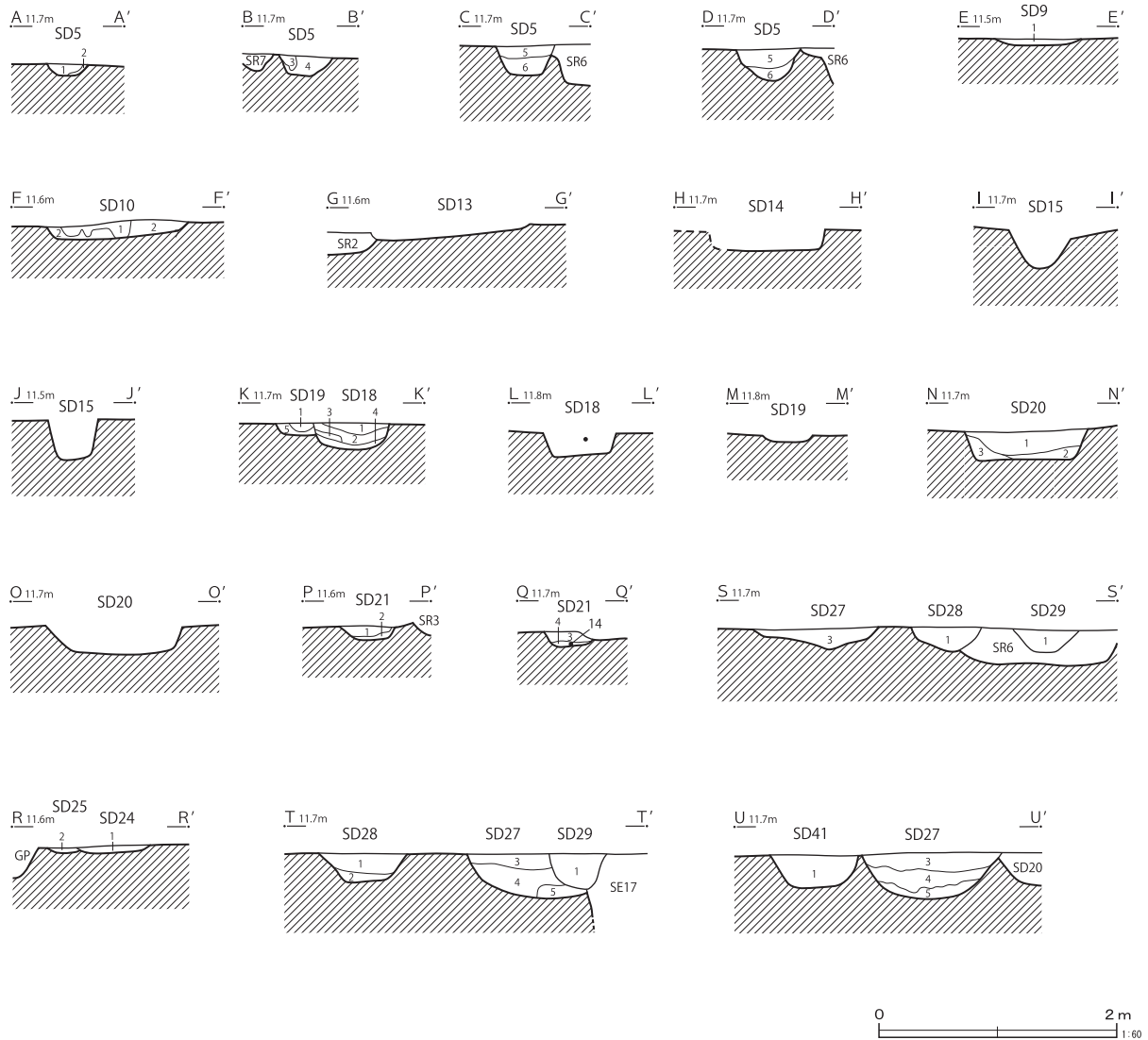
- I 灰褐色土 耕作土
- II 灰褐色土 浅間A軽石・焼土粒子・炭化物粒子少
- IV 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック・鉄分粒子多
- 1 明褐色土 IV層中に黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)少
- 2 明褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~2cm)多 埋戻し土か
- 3 褐灰色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)少
- 4 暗褐色土 暗灰色土ブロック(1cm)微量
- 5 暗褐色土 炭化物ブロック(1cm)微量 緑灰色粘土粒子不均一に少 埋戻し土か

第353図 溝跡断面図(4)

遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考	遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考
SD23	H-2	68	50	20		SD48	I-4・5	38	28	7	
SD24	H-7・8	65	50	5		SD49	J-4	58	40	9	
SD25	H-7	53	32	5		SD50	H・I-4 J-3・4	78	55	25	
SD26	H-3~5	180	165	60		SD51	J-4	35	22	5	
SD27	H-8・9 I-7~9	190	170	40		SD52	I-4・5	50	32	10	
SD28	H・I-8	80	50	24		SD53	I・J-4・5	270	195	50	中世
SD29	H-7・8	65	32	30		SD54	I-6・7 J-6	32	18	30	
SD30	E・F-10	55	36	54		SD55	J-7	42	28	8	
SD31	F-9・10 G・H-9	32	20	23		SD56	J-6・7	28	18	7	
SD32	F-9・10 K-6	75	45	40		SD57	J-7	45	22	23	
SD33	F-9・10	70	48	13		SD58	H・I-7	86	72	10	古墳(前)
SD34	F-9・10	[200]	[170]	7		SD59	J・K-6	98	72	10	
SD35	G-9	[36]	[30]	7		SD60	H-9~K-6	[265]	[150]	112	中・近世
SD37	H-9	(40)	(20)	25		SD61	H-8・9	28	12	7	
SD38	F-10	[52]	[30]	27		SD62	J-6・7	95	85	10	
SD40	H-9	50	35	10		SD63	H・I-4	50	40	10	
SD41	I-7・8 J-7	80	38	30		SD64	H-4	55	38	7	
SD42	I-6・7 J-7・8	100	78	20		SD65	I-3・4	52	32	7	
SD43	I-6・7 J-7	50	30	17		SD66	I-3・4	68	55	8	
SD44	I-6・7 J-6	102	62	12		SD67	I・J-3	125	112	12	
SD45	I-5	68	50	8		SD68	I・J-3	55	40	8	
SD46	I-5 J・K-4・5	220	178	100	中・近世	SD69	H-3	62	42	16	
SD47	J-2・3 K-4・5	240	105	98		SD70	G-7・8	65	45	17	古墳(前)



第354図 溝跡区割図(3)



SD5 A-A' ~ D-D'

- 1 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 cm) 少 しまり強 粘性やや強 埋戻し土か
- 2 褐灰色土 褐灰色土ブロック多 しまり強 粘性やや強 自然堆積
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) やや多 しまり・粘性やや弱
- 4 黒褐色土 黄褐色土ブロック (0.5 ~ 1 cm) 少 しまり・粘性やや弱
- 5 黒褐色土 酸化鉄少 しまり強 粘性やや強
- 6 黒褐色土 黒褐色土粒子少 しまり強 粘性やや強

SD9 E-E'

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 微量
褐色土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) やや多

SD10 F-F'

- 1 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 少
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) 多

SD18-19 K-K'

- 1 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 ~ 0.4 cm) 微量
黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
- 2 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 ~ 0.4 cm) 少 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多
黄褐色粘土ブロック (1 cm) 微量
- 3 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 ~ 0.4 cm) ・黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量
- 4 黒褐色土 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 微量
黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) やや多
- 5 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 多

SD20 N-N'

- 1 明暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 微量
- 2 暗褐色土 褐色土ブロック (0.5 ~ 0.7 cm) 多
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) やや多 鉄分少

SD21 P-P'・Q-Q'

- 1 暗褐色土 酸化鉄やや多 しまり強
- 2 褐灰色土 黄褐色土ブロック (2 ~ 3 cm) 多 しまり強 粘性やや強
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック (2 cm) 多
褐色土ブロック (0.5 ~ 1 cm) やや多 しまり・粘性やや弱
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 多 しまり・粘性やや弱

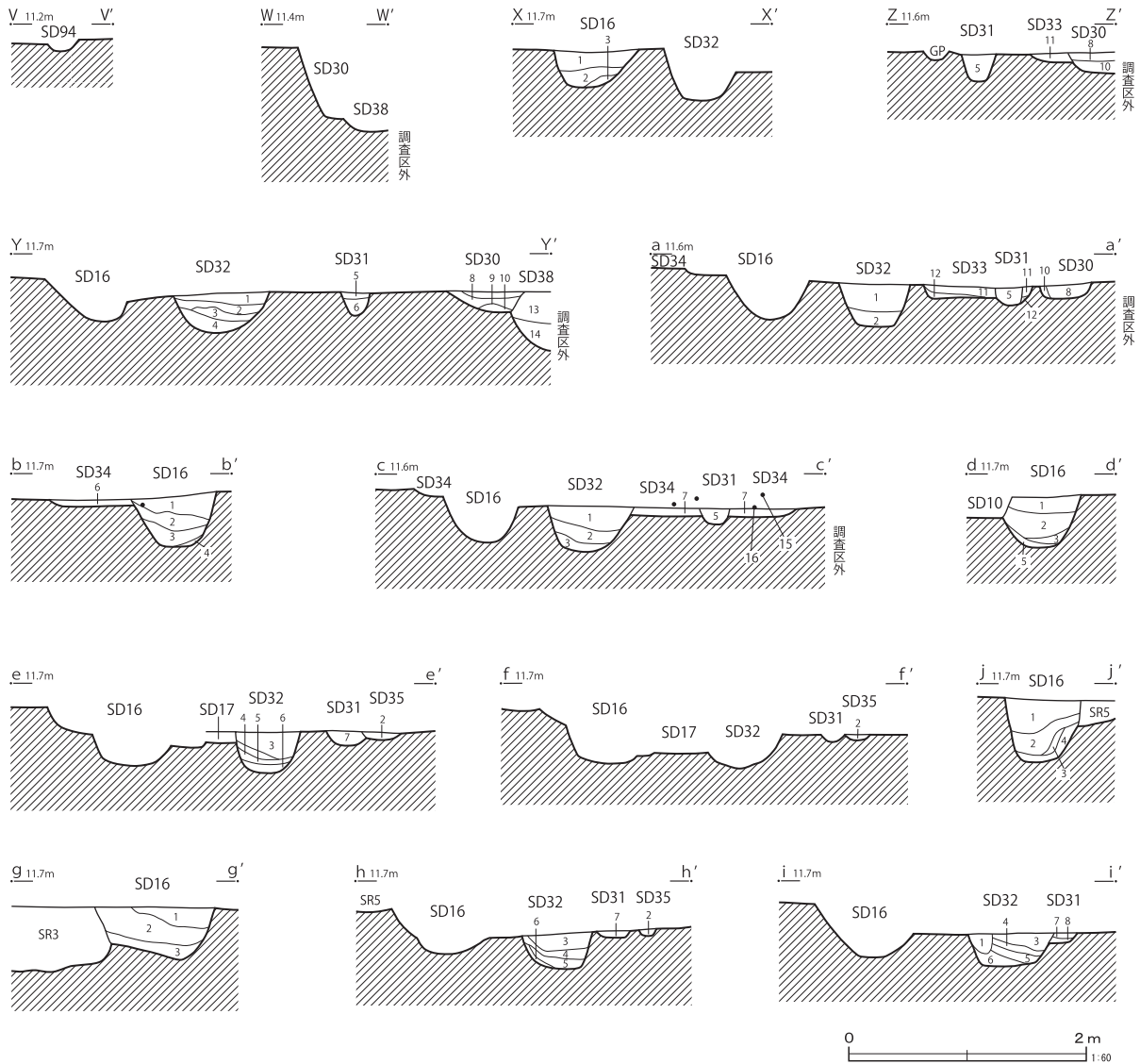
SD24-25 R-R'

- 1 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 少
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 少

SD27 ~ 29・41 S-S' ~ U-U'

- 1 明暗褐色土 焼土粒子 (0.2 cm) 微量
- 2 灰褐色土 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 少
暗褐色土ブロック (0.3 cm) 疎らに少
黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多 焼土粒子 (0.2 cm) 少
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多 焼土粒子 (0.2 cm) 少
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (2 cm) ・黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) 微量
- 5 灰褐色土 褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多

第355図 溝跡断面図 (5)



SD16 X-X'・b-b'・d-d'・j-j'

- 1 褐色土 炭化物少
- 2 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 少
褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) やや多
- 3 暗褐色土 炭化物少
- 4 暗褐色土 焼土微量
- 5 黄褐色土 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) やや多
- 6 黒褐色土 褐色土ブロック (0.4 ~ 0.6 cm) 少

SD30 ~ 34・38 Y-Y' ~ a-a'・c-c'・e-e'

- 1 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 cm) 少
- 2 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 cm) 多
- 3 褐色土 褐色土粒子 (0.3 cm) 多 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) やや多
- 4 褐色土 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多
- 5 褐色土 褐色粘土粒子 (0.2 cm) 多
- 6 黄褐色土 褐色粘土粒子 (0.2 cm) ・黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) 少
- 7 黒色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) ・黄褐色粘土ブロック (0.6 ~ 0.8 cm) ・
褐色土粒子 (0.4 cm) 多 焼土粒子 (0.2 cm) 微量
- 8 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) ・焼土粒子 (0.2 cm) 微量
- 9 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少
- 10 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) 少
- 11 黒褐色土 褐色土粒子 (0.2 cm) 多 焼土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少
- 12 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多
- 13 暗褐色土 焼土粒子 (0.2 cm) 微量
- 14 暗褐色土 酸化土 ・黄褐色粘土ブロック (1 cm) ・褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) ・
褐色粘土ブロック (1 cm) 少

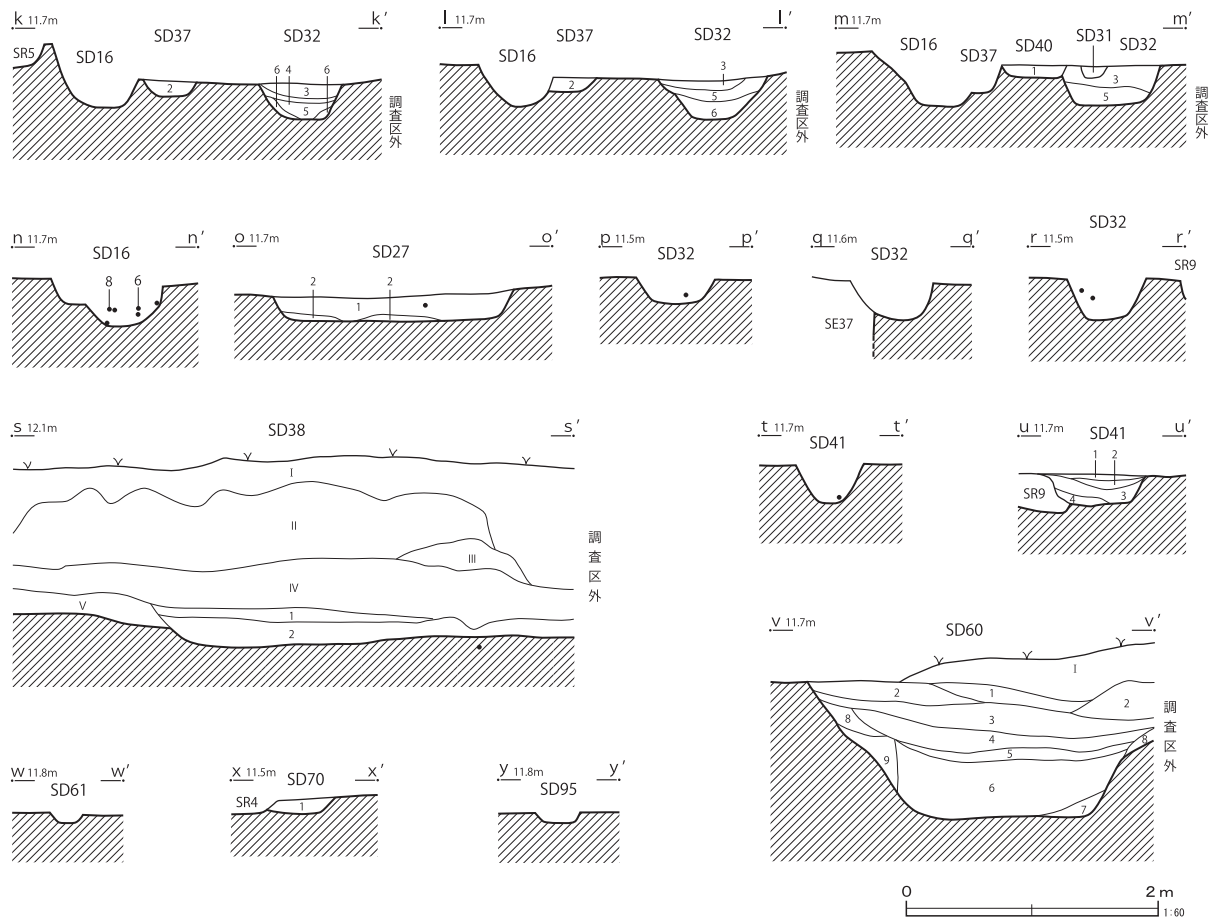
SD31・32・35 e-e'・f-f'・h-h'・i-i'

- 1 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少
- 2 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) 微量
- 3 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 cm) 少
- 4 褐色土 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多
- 5 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 cm) 多
- 6 褐色土 褐色土粒子 (0.3 cm) 多
黄褐色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) やや多
- 7 褐色土 褐色粘土粒子 (0.2 cm) 多
- 8 黄褐色土 褐色粘土粒子 (0.2 cm) ・黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) 少

SD16 g-g'

- 1 明暗褐色土 焼土粒子少 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) やや多
- 2 明暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.2 ~ 1 cm) 少
- 3 暗褐色土 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) 多

第356図 溝跡断面図 (6)



SD32・37・40 k-k' ~m-m'

- 1 褐色土 褐色土粒子均質に少 明灰色粘土粒子少
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.2 ~ 0.8 cm) やや多
褐色土ブロック (1 cm) 疎らに少 焼土粒子 (0.2 cm) 微量
- 3 暗褐色土 暗褐色土 (0.3 cm) 少
- 4 褐色土 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多
- 5 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 cm) 多
- 6 褐色土 褐色土粒子 (0.3 cm) 多
黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) やや多

SD27 o-o'

- 1 暗褐色土 褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少
- 2 明褐色土 褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多

SD38 s-s'

- I 灰褐色土 耕作土
- II 黄褐色土 褐鉄鉱・マンガン (0.3 cm) 少
- III 明褐色土 マンガン (0.5 cm) 少
- IV 灰白色土 褐鉄鉱・マンガン (0.5 cm) を全体的に少
- V 黄灰色土 褐鉄鉱・マンガン (0.5 cm) を全体的に少
- 1 明暗灰色土 酸化土多
- 2 灰褐色土 褐色粘土粒子 (0.3 cm) 微量 粘性強

SD41 u-u'

- 1 暗褐色土 褐色土粒子 (0.4 cm) やや多
- 2 褐色土 焼土粒子 (0.2 cm) 微量
- 3 褐色土 褐色土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) やや多 炭化物ブロック (0.6 cm) 微量
- 4 褐色土 褐色土ブロック (0.2 ~ 0.6 cm) 多 炭化物粒子 (0.3 cm) やや多

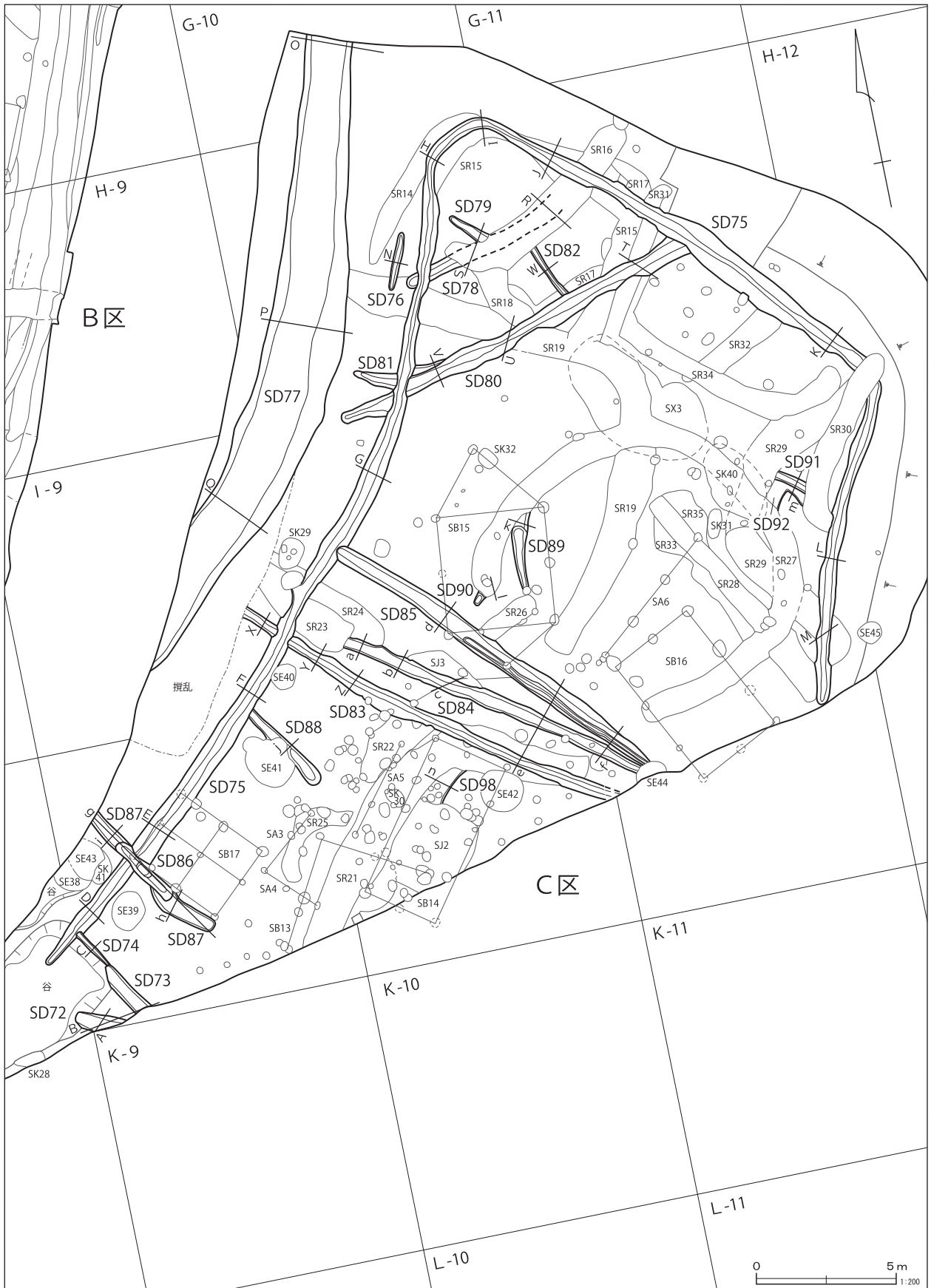
SD60 v-v'

- 1 灰褐色土 耕作土
- 1 暗褐色土 地山ブロック・赤褐色粘土ブロック (1 cm) 少 鉄分多
炭化物微量
- 2 明褐色土 地山ブロック (2 ~ 3 cm)・鉄分多
赤褐色土ブロック (1 cm) 少 炭化物微量
- 3 暗褐色土 地山ブロック (2 ~ 3 cm)・炭化物少 鉄分多
- 4 暗褐色土 地山ブロック (1 cm)・灰褐色粘土ブロック (1 ~ 2 cm)・
炭化物少 鉄分多
- 5 暗灰色土 鉄分多 粘性強
- 6 暗灰色土 焼土粒子 鉄分微量 炭化物少 粘性強
- 7 暗灰色土 青灰色粘土ブロック多 炭化物少 焼土粒子微量 粘性強
- 8 明褐色土 地山ブロック多 暗褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 少
- 9 明褐色土 地山ブロック・灰褐色粘土ブロックの混土層
暗褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 少

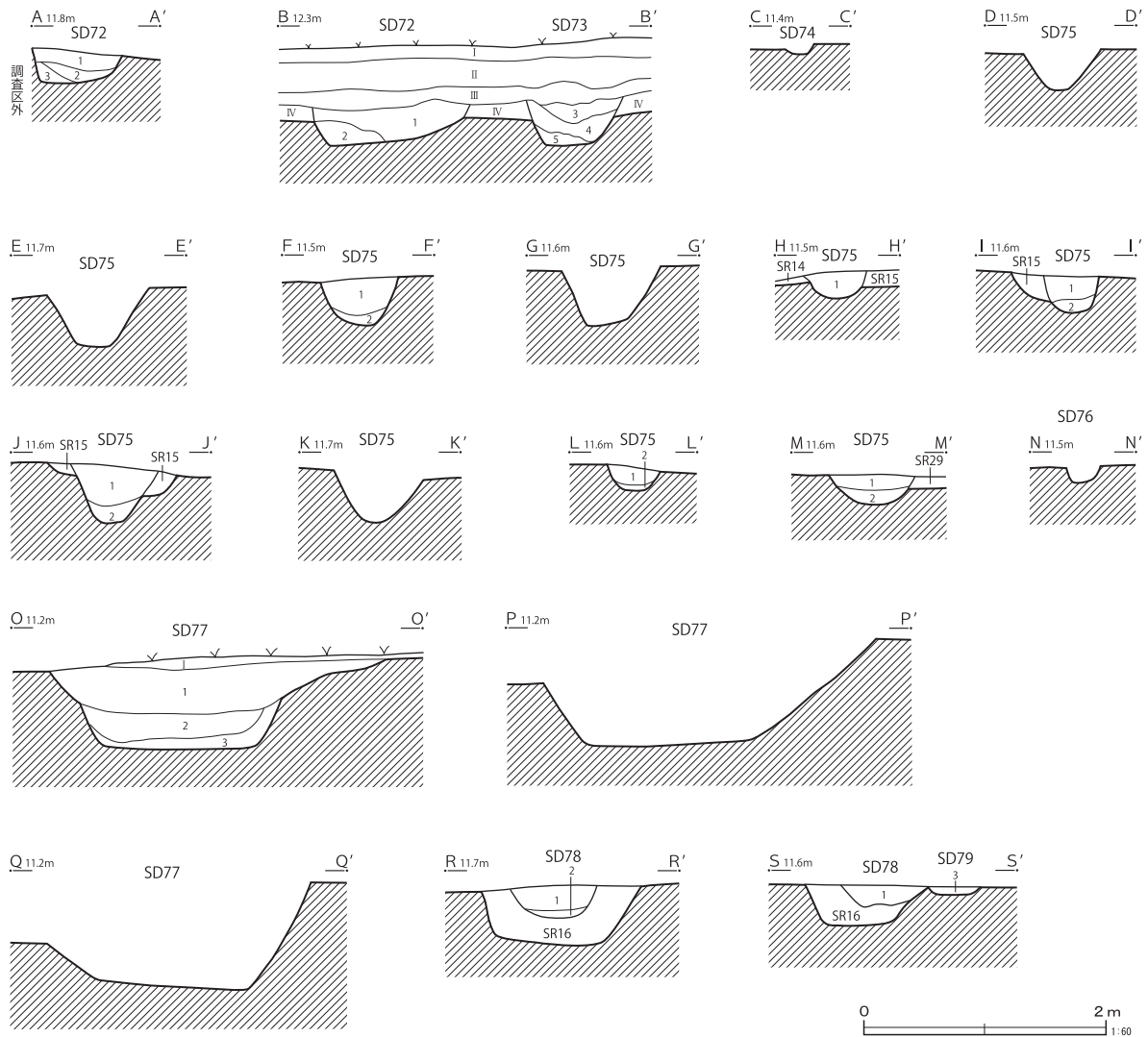
SD70 x-x'

- 1 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少

第357図 溝跡断面図 (7)



第358図 溝跡区割図 (4)



SD72 A-A'

- 1 暗褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 均質に少
- 2 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 多 壁崩落土か
- 3 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (0.8 ~ 1 cm) 少 壁崩落土か

SD72・73 B-B'

- I 灰褐色土 表土層
- II 灰褐色土 浅間A軽石・焼土粒子・炭化物粒子少
- III 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 多 古墳時代包含層
- IV 黄灰色土 黄灰色粘土ブロック・鉄分粒子多
- 1 黒褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.1 cm) 均質に少
- 2 黒褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 疎らに少
- 4 黒色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 疎らに少
- 5 黒色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 若干

SD75 F-F'

- 1 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 少
- 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 cm) やや多

SD75 H-H' ~ J-J'

- 1 褐色土 黄褐色土粒子・黒色土粒子・鉄分多 黄褐色ブロック (1 ~ 2 cm) 少
- 2 褐色土 黄褐色土粒子・黒色土粒子・暗褐色土ブロック (1 ~ 2 cm)・鉄分多 黄褐色土ブロック (2 ~ 3 cm) 少

SD75 L-L'・M-M'

- 1 褐色土 黒褐色土ブロック (0.5 ~ 0.7 cm)・黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
- 2 褐色土 黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多 鉄分ブロック (1 ~ 3 cm) 少

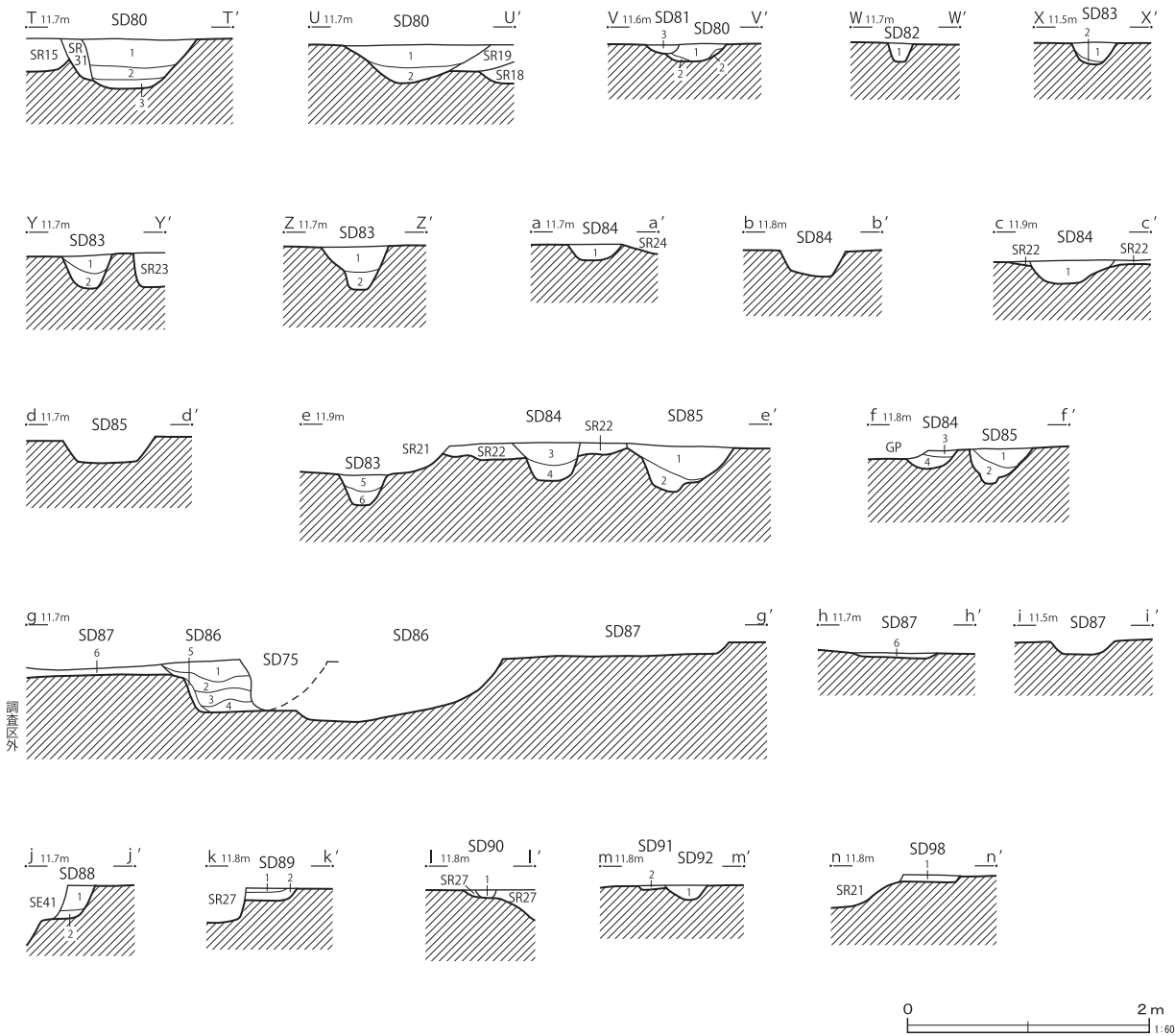
SD77 O-O'

- 1 灰褐色土 耕作土
- 1' 暗褐色土 A'側は崩落か 褐色土ブロック少 粘性弱
- 2 暗褐色土 1層より明 褐色土ブロック (5 ~ 10 cm) 少 粘性やや強
- 3 青灰色土 褐色土ブロック少 粘性強

SD78 R-R'・S-S'

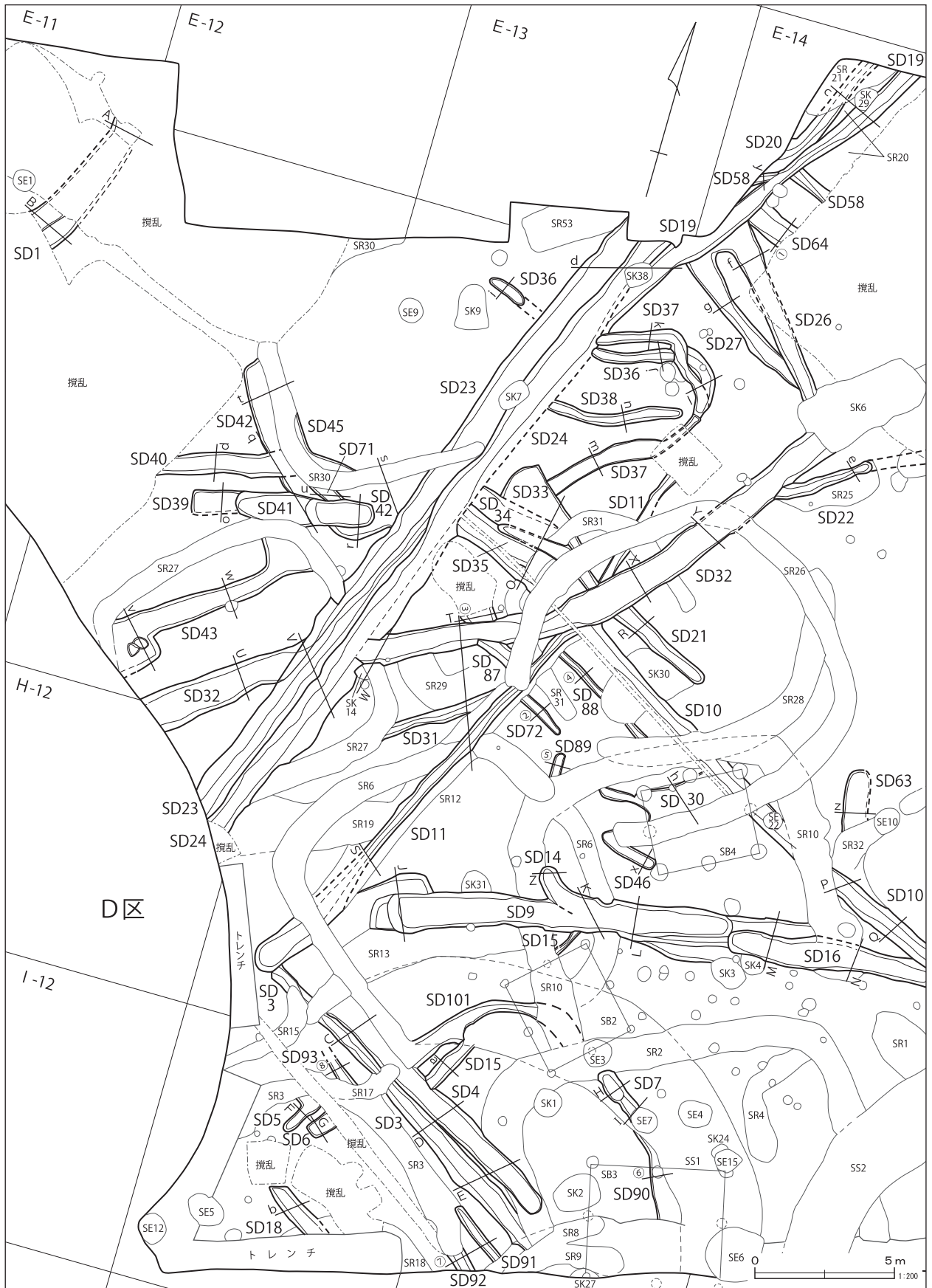
- 1 褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 少 焼土粒子 (0.1 cm) 微量
- 2 黄灰色土 褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 多 黒褐色土ブロック (0.5 ~ 0.7 cm) やや多
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 3 cm) やや多

第359図 溝跡断面図 (8)

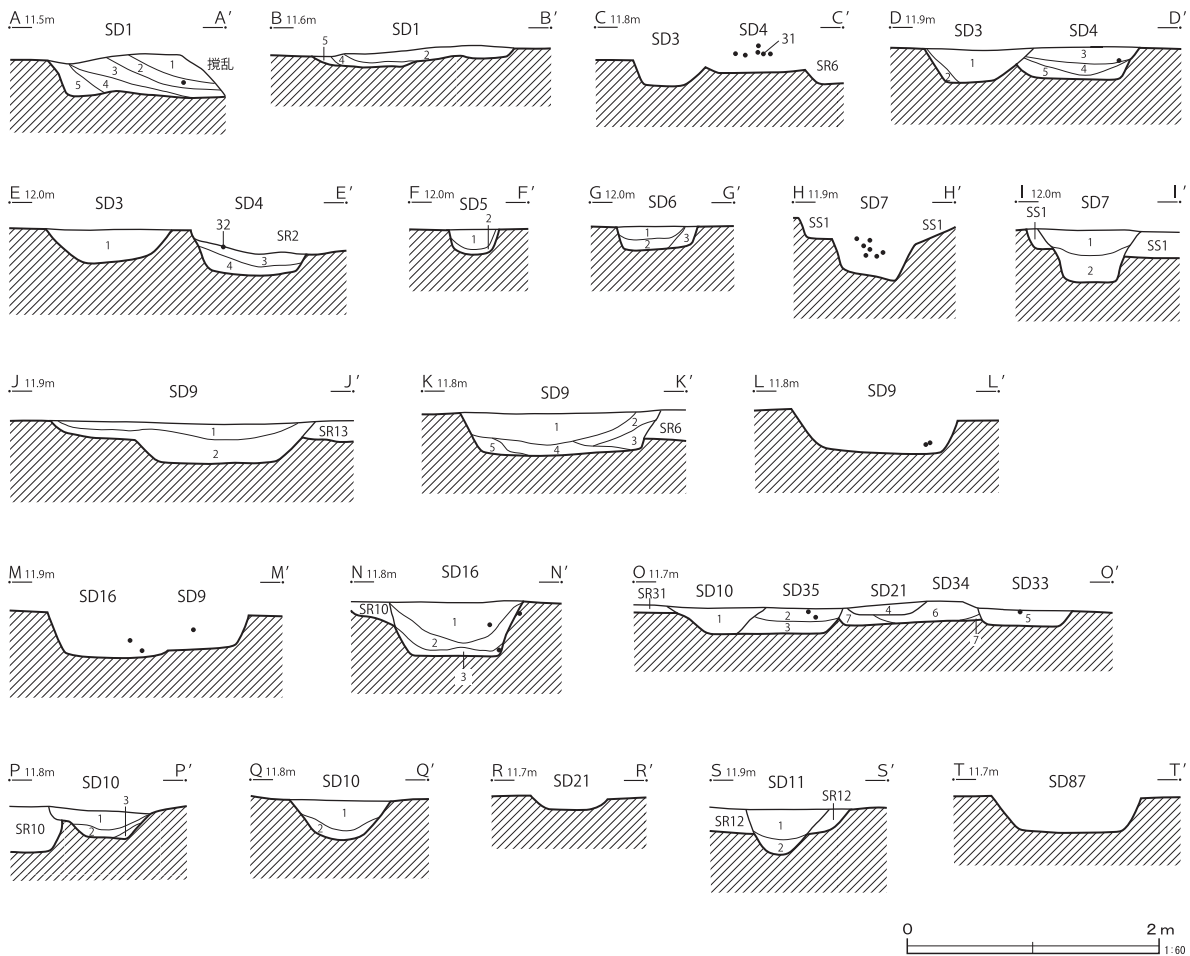


- SD80 T-T'
- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少
 - 2 暗褐色土 焼土粒子・炭化物ブロック少
 - 3 暗褐色土 焼土ブロック多
- SD80・81 U-U'・V-V'
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(1cm)・酸化土少
褐色粘土粒子(0.1~0.3cm)微量
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~2cm)やや多
 - 3 暗褐色土 褐色土ブロック(1~2cm)やや多
- SD82 W-W'
- 1 黄灰色土 黒褐色土ブロック(1cm)やや多
- SD83 X-X' ~ Z-Z'
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック(1~5cm)・鉄分多
 - 2 黒褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック(1~2cm)微量
- SD84 a-a'・c-c'
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子・鉄分多 黄褐色土ブロック(1~2cm)少
- SD83~85 e-e'・f-f'
- 1 褐色土 灰褐色土ブロック(1~5cm)少 鉄分・マンガン多
 - 2 褐色土 黄褐色土ブロック(3~5cm)少 鉄分・マンガン多
 - 3 黒褐色土 黄褐色土粒子・鉄分多 黄褐色土ブロック(1~2cm)少
 - 4 黒褐色土 黄褐色土粒子多
 - 5 黒褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック(1~5cm)・鉄分多
 - 6 黒褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック(1~2cm)微量
- SD86・87 g-g'・h-h'
- 1 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.3cm)少 酸化土均質に少
 - 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.5cm)やや多
焼土粒子(0.1~0.2cm)微量
 - 3 黒色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.2cm)少
黄褐色粘土ブロック(1cm)微量
 - 4 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.5cm)多 黄褐色粘土ブロック(1cm)・
褐色粘土ブロック(0.5cm)やや多
 - 5 黒灰色土 黄褐色粘土粒子(1cm)多
 - 6 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5cm)やや多 酸化土均質に少
- SD88 j-j'
- 1 黒褐色土 黄灰色粘土粒子(0.1cm)を均質に少
 - 2 黒色土 黄灰色粘土ブロック(1cm)多 埋戻し土か
- SD89 k-k'
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・鉄分多
 - 2 黒褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1~2cm)多
- SD90 l-l'
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1~2cm)多
- SD91・92 m-m'
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子(0.3~0.5cm)・黄褐色土ブロック(1~3cm)多
鉄分ブロック(1~3cm)少
 - 2 褐色土 黒褐色土ブロック(1~3cm)・鉄分ブロック(1~3cm)少
- SD98 n-n'
- 1 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多

第360図 溝跡断面図(9)



第361図 溝跡区割図 (5)



SD1 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.2cm)少 土器片含む
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色粘土ブロック(0.5cm)多
褐色粘土粒子(0.1~0.3cm)少 炭化物ブロック(0.5cm)微量
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.2cm)やや多
褐色粘土粒子(0.1~0.2cm)少
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.5cm)多 黄褐色粘土ブロック(1cm)少
焼土粒子(0.1~0.2cm)微量
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5cm)多
黄褐色土粘土ブロック(1~2cm)やや多

SD3・4 D-D'・E-E'

- 1 褐色土 黄褐色粘土ブロック(1.5cm)微量
- 2 黄褐色土 黄褐色土主体の層 流込み土
- 3 黒灰色土 黄褐色粘土ブロック(0.2~1cm)少
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~2cm)やや多
- 5 黒褐色土 黄褐色土主体の層

SD5 F-F'

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)多 黄褐色土ブロック(1~2cm)・炭化物微量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1~2cm)多

SD6 G-G'

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック少
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子やや多 黄褐色土ブロック少
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子少 黄褐色土ブロック微量

SD7 I-I'

- 1 暗褐色土 褐色粘土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色粘土ブロック(1~2cm)やや多 焼土粒子(0.1~0.2cm)少
- 2 暗褐色土 褐色粘土粒子(0.2~0.5cm)・黄褐色粘土粒子(0.3cm)やや多

SD9 J-J'

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)極多 黄褐色土ブロック(1~2cm)・鉄分少 炭化物微量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1~3cm)多 鉄分少 炭化物微量

SD9 K-K'

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・鉄分多
黄褐色土ブロック(1~2cm)・炭化物微量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)極多
黄褐色土ブロック(1~2cm)少 炭化物微量
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)少
黄褐色土ブロック(1~2cm)・炭化物微量
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1~3cm)多 鉄分少 炭化物微量
- 5 黄褐色土 黄褐色土ブロック主体 暗褐色土ブロック状に少

SD16 N-N'

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック(1~10cm)多 埋戻し土
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子(粗粒0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1~3cm)多 鉄分少 炭化物微量
- 3 黄褐色土 黄褐色土ブロック主体 暗褐色土ブロック状に少

SD10・21・33・34・35 O-O'

- 1 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5cm)微量
- 2 黒褐色土 褐色粘土ブロック(0.5cm)やや多
黄褐色粘土ブロック(1cm)少
- 3 黒褐色土 褐色粘土ブロック(0.5~1cm)やや多
黄褐色粘土ブロック(1~3cm)多
- 4 褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1cm)・炭化物粒子(0.1~0.2cm)少
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.3cm)多
- 6 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~1cm)やや多
- 7 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~2cm)多 自然堆積

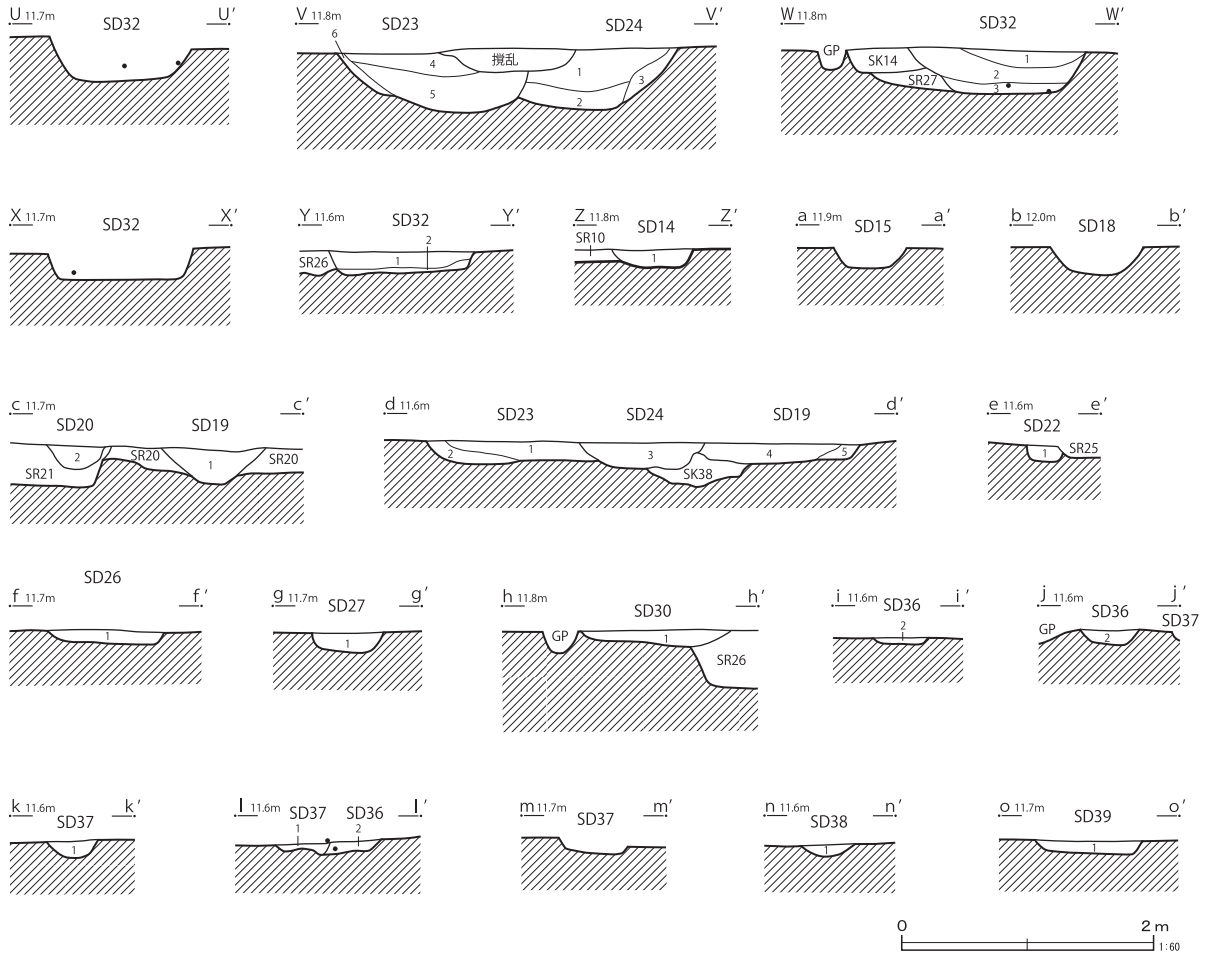
SD10 P-P'・Q-Q'

- 1 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5cm)微量
- 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5cm)やや多 酸化土均質にやや多
- 3 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~1cm)多

SD11 S-S'

- 1 黒褐色土 焼土粒子(0.1cm)微量 鉄分均質に少
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.3cm)少

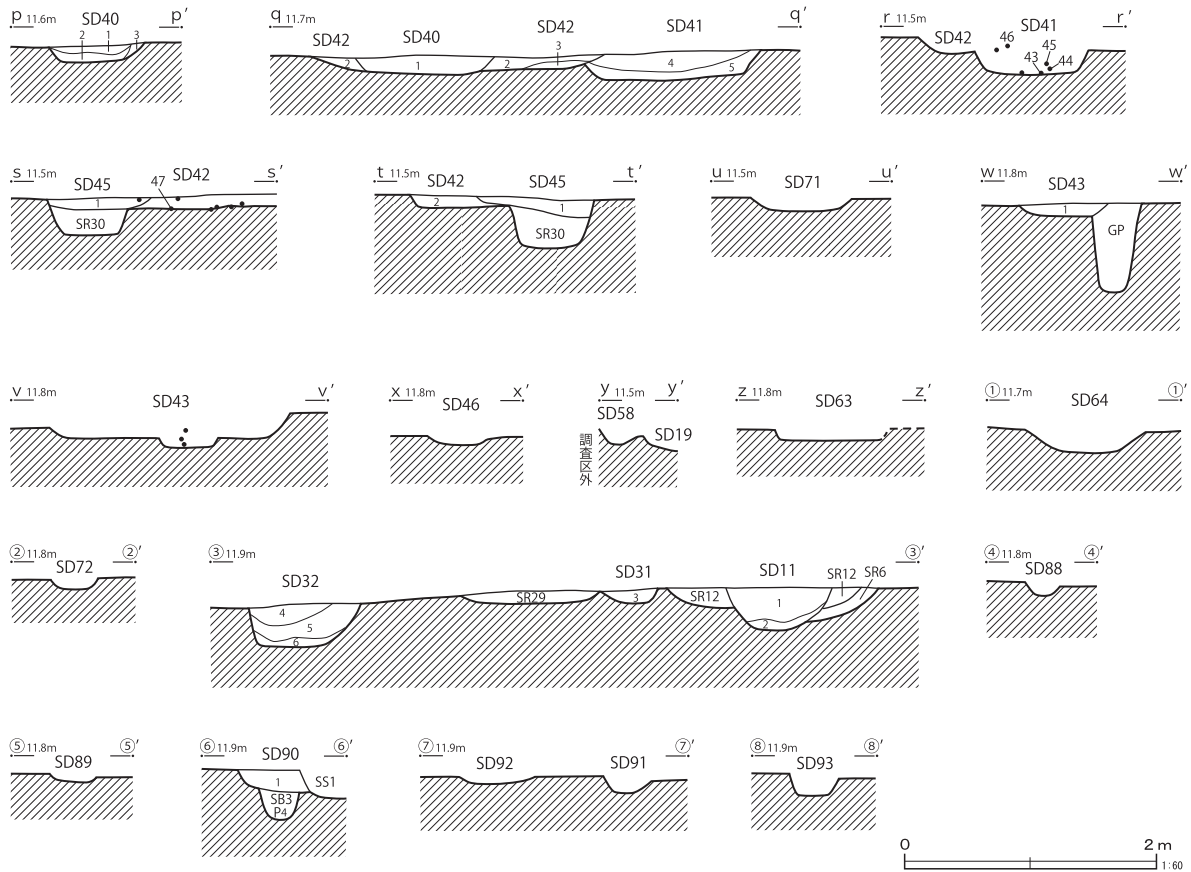
第362図 溝跡断面図 (10)



- SD23・24 V-V'
- 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5 cm)・焼土粒子(0.1 cm)微量
 - 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5 cm)微量
黄褐色粘土ブロック(2 cm)少 焼土粒子(0.1 cm)微量
 - 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~1 cm)多 鉄分均質に少
 - 褐色土 酸化土微量
 - 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.7 cm)微量 鉄分多
 - 褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~2 cm)多
- SD32 W-W'
- 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3 cm)少 鉄分粒子(0.1~0.3 cm)微量
 - 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3 cm)・黄褐色土ブロック(1~3 cm)・鉄分粒子(0.1~0.3 cm)少
 - 黒灰色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3 cm)・黄褐色土ブロック(1~3 cm)少 鉄分粒子(0.1~0.3 cm)微量
- SD32 Y-Y'
- 黒灰色土 褐色粘土粒子(0.2 cm)微量
 - 黒灰色土 褐色粘土ブロック(0.5~1 cm)少 黄褐色粘土ブロック(1 cm)やや多
- SD14 Z-Z'
- 黒褐色土 褐色粘土ブロック(0.5~0.7 cm)多 焼土粒子(0.1 cm)少
- SD19・20 c-c'
- 褐色土 褐色粘土粒子(0.1~0.2 cm)微量
 - 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5 cm)微量
- SD23・24・19 d-d'
- 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.7 cm)微量 鉄分多
 - 褐色土 黄褐色粘土ブロック(1~2 cm)多
 - 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5 cm)微量
黄褐色粘土ブロック(2 cm)少 焼土粒子(0.1 cm)微量
 - 褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.4 cm)微量 鉄分やや多
 - 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~4 cm)多 自然堆積

- SD22 e-e'
- 黒褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3 cm)少
黄褐色土ブロック(3~5 cm)多
鉄分粒子(0.1~0.3 cm)微量 自然堆積
- SD26 f-f'
- 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.2~0.4 cm)やや多 酸化土均質にやや多
- SD27 g-g'
- 褐色土 褐色粘土粒子(0.1~0.2 cm)・酸化土少
- SD30 h-h'
- 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3 cm)少
鉄分粒子(0.1~0.5 cm)多
- SD36・37 i-i'~l-l'
- 褐色土 黄褐色土ブロック(2~3 cm)・鉄分多 炭化物少
 - 褐色土 黄褐色土ブロック(2~3 cm)・鉄分多
- SD38 n-n'
- 褐色土 黄褐色土ブロック(2~3 cm)多 炭化物少
- SD39 o-o'
- 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3 cm)・黄褐色土ブロック(1~3 cm)・鉄分ブロック(1 cm)少

第363図 溝跡断面図(11)



SD40 p-p'

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) 少
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) ・鉄分やや多
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 cm) やや多 鉄分少

SD40 ~ 42 q-q'

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 cm) 少
- 2 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (0.5 cm) 少
- 3 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) やや多
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) ・褐色粘土粒子 (0.2 cm) ・酸化土やや多
- 5 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 多

SD42・45 s-s'・t-t'

- 1 灰褐色土 黄褐色土粒子 (0.2 ~ 0.4 cm) 多 黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 極多 黒褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 少

SD43 w-w'

- 1 暗褐色土 褐色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) 多 酸化土やや多

SD11・31・32 ③-③'

- 1 黒褐色土 焼土粒子 (0.1 cm) 微量 鉄分均質に少
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
- 3 黒褐色土 黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 極多 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量
- 5 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) ・鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
- 6 黒灰色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少 鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量

SD90 ⑥-⑥'

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) ・褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) やや多

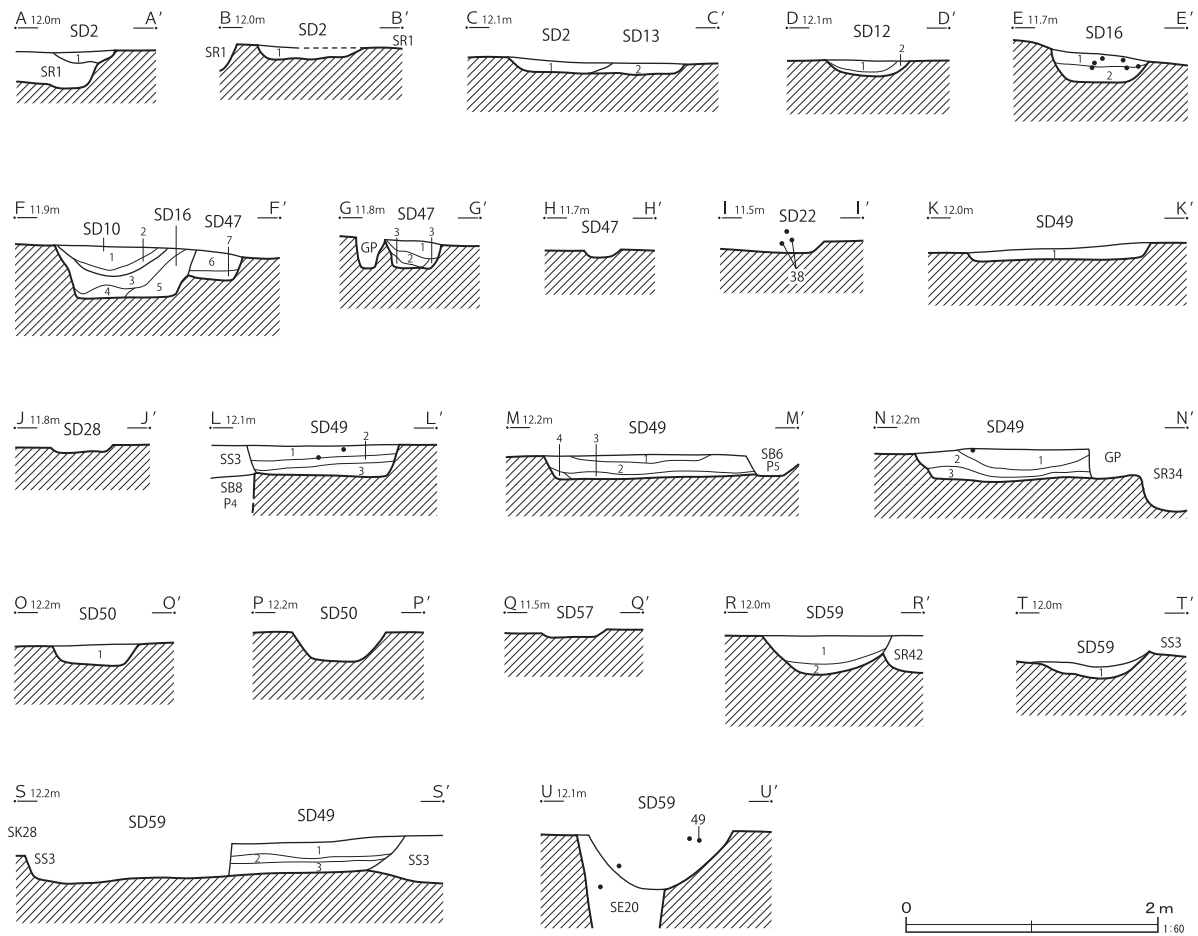
第364図 溝跡断面図 (12)

遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考
SD72	J-8・9	69	52	28	
SD73	J-9	58	38	23	
SD74	J-9	25	10	8	
SD75	H~J-8~12	112	41	49	近世
SD76	H-10	26	12	14	
SD77	G-10 H・I-9・10	275	160	77	中・近世
SD78	H-10	50	22	27	中・近世
SD79	H-10	45	28	7	中・近世
SD80	H-10・11 I-10	80	32	42	中・近世
SD81	H-10	45	28	42	中・近世

遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考
SD82	H-11	28	10	15	古墳(前)
SD83	I-9~J-11	78	15	35	
SD84	I-10 J-10・11	70	28	22	古墳(前)
SD85	I-10 J-10・11	82	45	48	中・近世
SD86	J-9	50	20	52	
SD87	J-9	75	50	12	
SD88	I・J-9	53	30	27	古墳(前)
SD89	I-10	55	35	12	
SD90	I-10	28	12	70	
SD91	I-11	28	12	40	中・近世



第365図 溝跡区割図 (6)



SD2 A-A'・B-B'

1 褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)少

SD2・13 C-C'

1 褐色土 黄褐色土粒子少 鉄分多
2 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)多 黄褐色土ブロック(1~2cm)少

SD12 D-D'

1 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)多 黄褐色土ブロック(1cm)微量
2 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1cm)多

SD16 E-E'

1 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)多 黄褐色土ブロック(1~2cm)少
2 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1~3cm)多

SD10・16・47 F-F'

1 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5cm)微量
2 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5cm)やや多 酸化土均質にやや多
3 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)極多
黄褐色土ブロック(1~2cm)少 炭化物微量
4 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)少
黄褐色土ブロック(1~2cm)・炭化物微量
5 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)・黄褐色土ブロック(1~3cm)多
鉄分少 炭化物微量
6 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.7cm)微量 鉄分やや多
7 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.3cm)少 焼土粒子(0.1cm)微量

SD47 G-G'

1 灰褐色土 黄褐色土粒子・鉄分多
2 暗褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック(1cm)・鉄分少
3 灰黄褐色土 鉄分多

SD49 K-K'

1 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3cm)多
黄褐色土ブロック(3~5cm)極多

SD49 L-L'

1 黒褐色土 黒褐色土ブロック少
2 黒褐色土 黒褐色土ブロック微量
3 黒褐色土 黒褐色土ブロック多

SD49 M-M'・N-N'

1 暗褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック(2~3cm)少
2 暗褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック(1cm)微量
3 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック(1~3cm)多
4 黄褐色土 黄褐色土ブロック

SD50 O-O'

1 褐色土 黄褐色土粒子微量 鉄分多

SD59 R-R'

1 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3cm)少
2 暗褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3cm)極多
黄褐色土ブロック(1~3cm)多

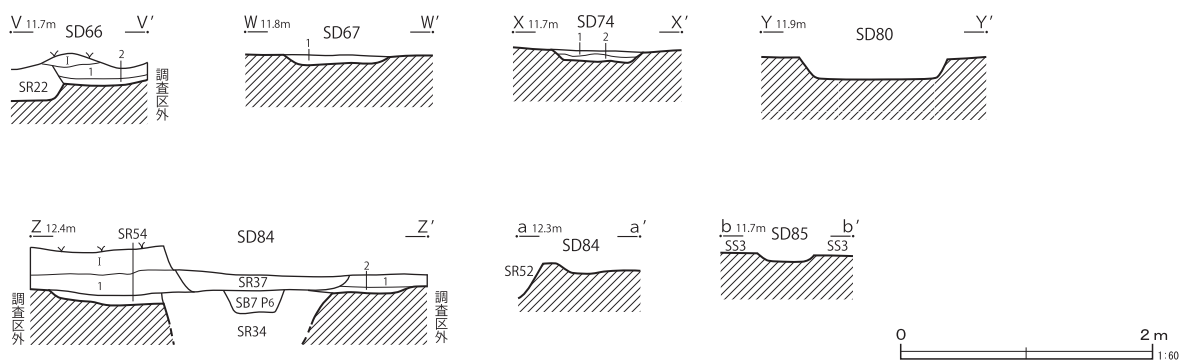
SD49 S-S'

1 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.2~0.5cm)少
2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子(0.2~0.5cm)やや多
3 黒褐色土 褐色粘土ブロック(0.5cm)やや多

SD59 T-T'

1 褐色土 灰褐色土ブロック(1cm)やや多

第366図 溝跡断面図 (13)



SD66 V-V'

- 1 灰褐色土 耕作土
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子(粗粒0.1~0.2cm)多 焼土ブロック(1~2cm)微量
- 2 黄褐色土 黄褐色土多 暗褐色土少

SD67 W-W'

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.3cm)少 黄褐色土ブロック(1~3cm)多

SD74 X-X'

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子(0.1~0.2cm)多 黄褐色土ブロック(1cm)微量
1層下部に炭化物が帯状に入る
- 2 黄褐色土 黄褐色土主体の層 黒褐色土ブロック状に少

SD84 Z-Z'

- 1 灰褐色土 耕作土
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子(0.1~0.3cm)やや多
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)やや多

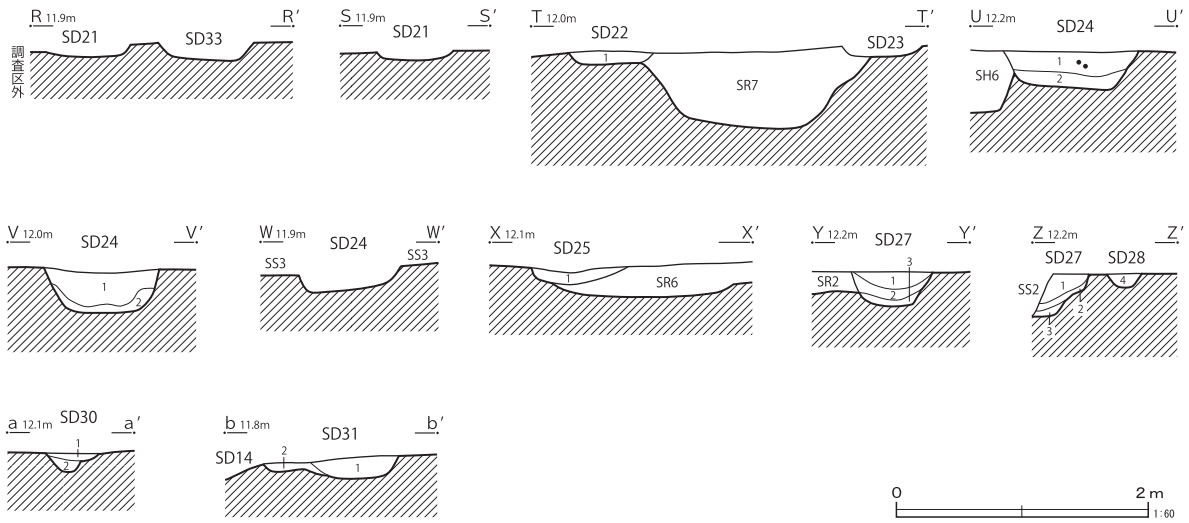
第367図 溝跡断面図 (14)

遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考
SD92	I-11	[68]	[60]	13	
SD93	G-6	30	22	6	
SD94	E・F-10	35	22	8	
SD95	G-9	32	22	9	
SD96	I・J-5	50	35	9	
SD97	H-2・3	[32]	[25]	10	
SD98	J-10	[50]	[40]	7	古墳(前)
SD99	I・J-7	90	82	10	古墳(前)
DSD1	F-11	160	150	35	
DSD2	H-15・16	70	50	11	中・近世
DSD3	H-13 I-13・14	105	50	27	
DSD4	H-13 I-13・14	100	65	38	古墳(前)
DSD5	I-13	35	25	20	中・近世
DSD6	I-13	70	50	18	中・近世
DSD7	H-14	70	45	41	
DSD9	H-13~15	215	100	34	
DSD10	G-13・14・15	80	50	32	中・近世
DSD11	F-14~H-13	115	50	37	
DSD12	H-16	85	75	12	中・近世
DSD13	H-16	70	55	9	中・近世
DSD14	H-14	85	50	14	
DSD15	H-13・14 I-13	60	35	17	
DSD16	H-14~16	120	90	45	中世
DSD18	I-13	80	45	22	
DSD19	E-13・14 F-13	75	55	27	近世
DSD20	E-14	(110)	26	18	中世
DSD21	G-13・14	75	45	11	近世
DSD22	E-15 F-14・15	70	65	12	古墳(前)
DSD23	E・F・G・H-13	135	[100]	51	中・近世

遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考
DSD24	E~H-13 H-12	140	85	49	近世
DSD26	E・F-14	100	80	10	
DSD27	E・F-14	100	75	16	
DSD28	E-15	60	45	12	
DSD30	G-14	[115]	[110]	14	
DSD31	G-13	55	25	11	
DSD32	F-14~H-12	134	110	36	
DSD33	F・G-13	[170]	[155]	13	
DSD34	F・G-13	[95]	[75]	17	
DSD35	G-13	[75]	50	20	
DSD36	F-13・14	60	30	12	中・近世
DSD37	F-13・14	65	51	13	近世
DSD38	F-13・14	65	30	9	近世
DSD39	G-12	(95)	75	11	近世
DSD40	G-12・13	90	55	11	中・近世
DSD41	G-12・13	110	95	15	古墳(前)
DSD42	F・G-12・13	[169]	[150]	10	中世
DSD43	G-12	202	161	23	近世
DSD45	F・G-12・13	[45]	[36]	14	
DSD46	G・H-14	50	33	7	近世
DSD47	G・H-15	70	50	22	
DSD48	F・G-18 G-19	60	21	18	中・近世
DSD49	E~G-18 H-17	188	165	90	
DSD50	G・H-18	85	50	20	近世
DSD51	G-18	45	40	8	
DSD52	F-18	—	—	46	
DSD53	G-18・19	75	70	10	
DSD54	G-19	[341]	[335]	13	
DSD55	F-18 G-18~20	65	45	22	古墳(前)



第368图 沟迹区割图 (7)

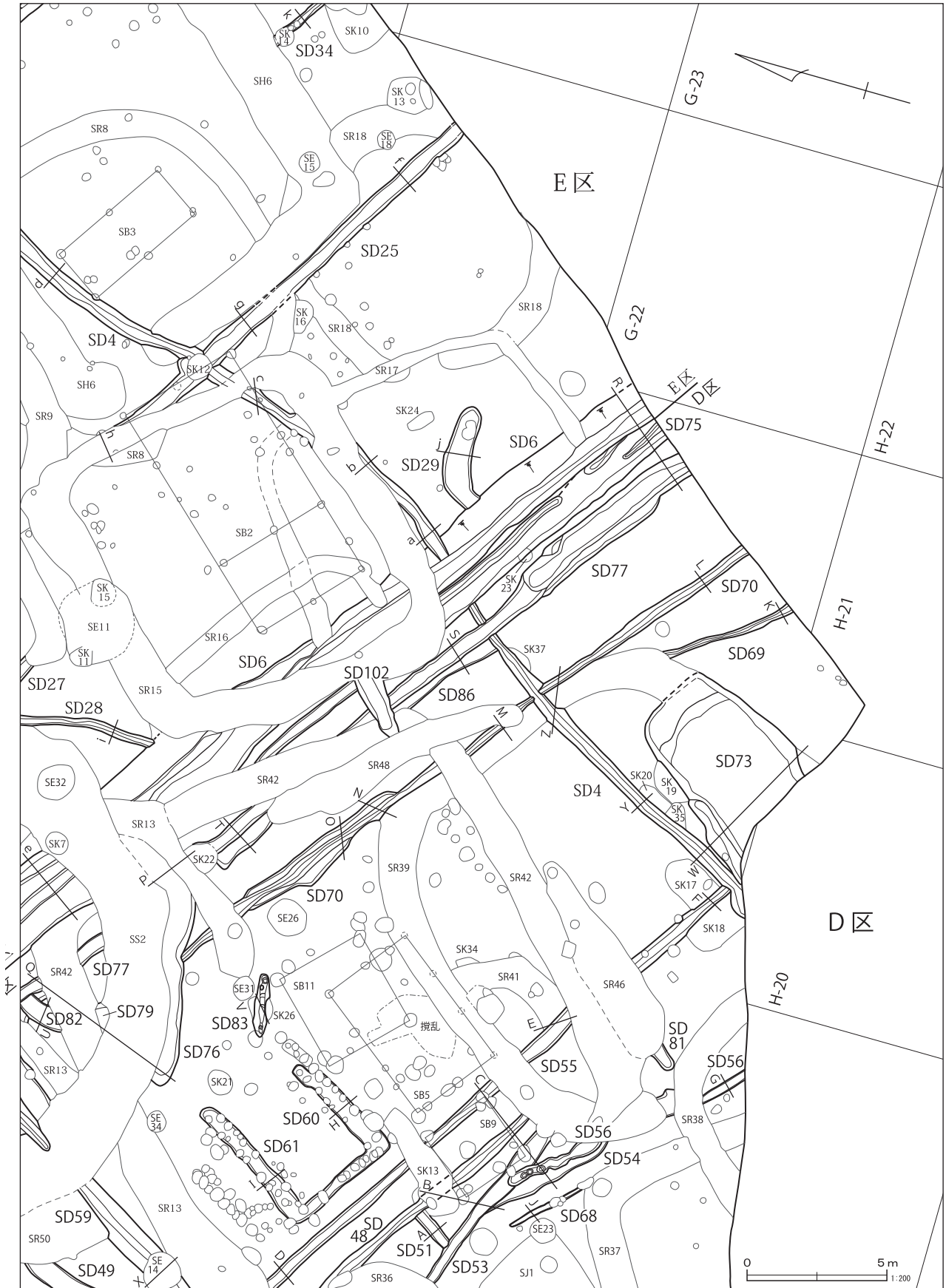


- SD22 T-T'
1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) ・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少
- SD4 U-U'
1 褐色土 黒色土ブロック (1 cm) 少
2 黒色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) 少
- SD24 V-V'
1 褐色土 黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少
鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 均質に少
2 褐色土 黄褐色土ブロック (5 ~ 7 cm) 極多
- SD25 X-X'
1 明褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 微量

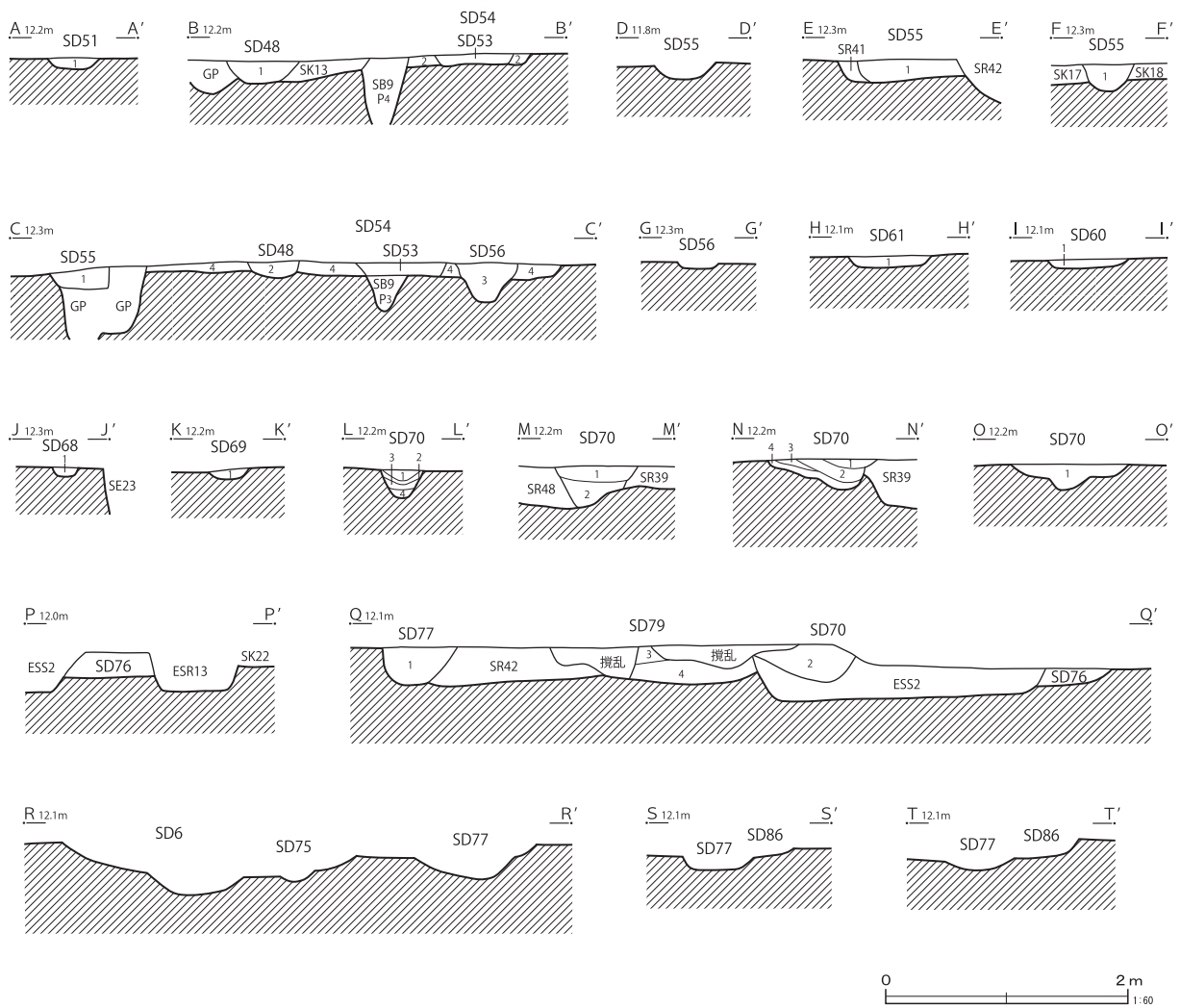
- SD27-28 Z-Z'
1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) ・黒色土ブロック (0.5 cm) 少
黄褐色粘土ブロック (1 cm) 微量
3 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (0.5 ~ 2 cm) 多
4 黒褐色土 褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 均質に多
- SD30 a-a'
1 灰褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 cm) 多
2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多
- SD31 b-b'
1 黒色土 黄褐色粘土ブロック (3 ~ 5 cm) 多
2 灰色土 黒褐色粘土ブロック (1 ~ 3 cm) 少

第370図 溝跡断面図 (16)

遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考
DSD56	G-19	90	66	6	
DSD57	D-15・16	70	55	15	
DSD58	E-14	55	15	13	
DSD59	E-18~H-17	135	85	95	
DSD60・61	F-18・19 G-19	65	54	10	中・近世
DSD63	G-15	(90)	(85)	8	
DSD64	E-14	102	62	19	
DSD66	D-16	95	55	17	
DSD67	F-17	90	60	7	
DSD68	G-19	35	25	7	
DSD69	G-21	35	16	8	
DSD70	F-19~G-21	102	25	34	
DSD71	G-12・13	61	49	10	
DSD72	G-13・14	42	25	7	
DSD73	G-20・21 H-20	482	320	121	古墳(前)
DSD74	E-16	78	51	11	古墳(前)
DSD75	F-20・21 G-21	101	55	33	近世
DSD76	E・F-19	[90]	[78]	22	古墳(前)
DSD77	E-18~G-21	140	115	30	古墳(前)
DSD78	E-18・19	[91]	[75]	23	
DSD79	E-19	—	—	28	古墳(前)
DSD80	D・E-17	111	92	17	古墳(前)
DSD81	G-19	60	43	18	古墳(前)
DSD82	E-19	70	50	8	
DSD83	F-19	55	20	95	
DSD84	H-18	48	28	7	古墳(前)
DSD85	F-17	48	38	7	
DSD86	F-19・20	[61]	[39]	15	
DSD87	G-13	101	82	28	
DSD88	G-13・14	38	18	10	
DSD89	G-14	38	22	7	
DSD90	I-14	[90]	[75]	17	古墳(前)
DSD91	I-14	41	22	13	
DSD92	I-14	62	31	6	
DSD93	I-13	38	25	16	
DSD101	H-13・14	95	52	10	古墳(前)
DSD102	F-20	85	40	35	古墳(前)



第371図 溝跡区割図 (8)



SD51 A-A'
1 褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 多

SD48・54 B-B'
1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少
褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 極多
2 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多

SD48・54・55・56 C-C'・E-E'・F-F'
1 褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量 (SD55)
2 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) を下層に多 (SD48)
3 褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 極多
黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多 (SD56)
4 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・
黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多 (SD54)

SD61 H-H'
1 褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・黒褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 少

SD60 I-I'
1 褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 極多

SD68 J-J'
1 黄褐色土 黄褐色土主体 暗褐色土がブロック状に少

SD69 K-K'
1 黒褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 多

SD70 L-L'
1 褐色土 黄褐色土粒子微量
2 褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土多
3 褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック (1 cm) 少
4 褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 多

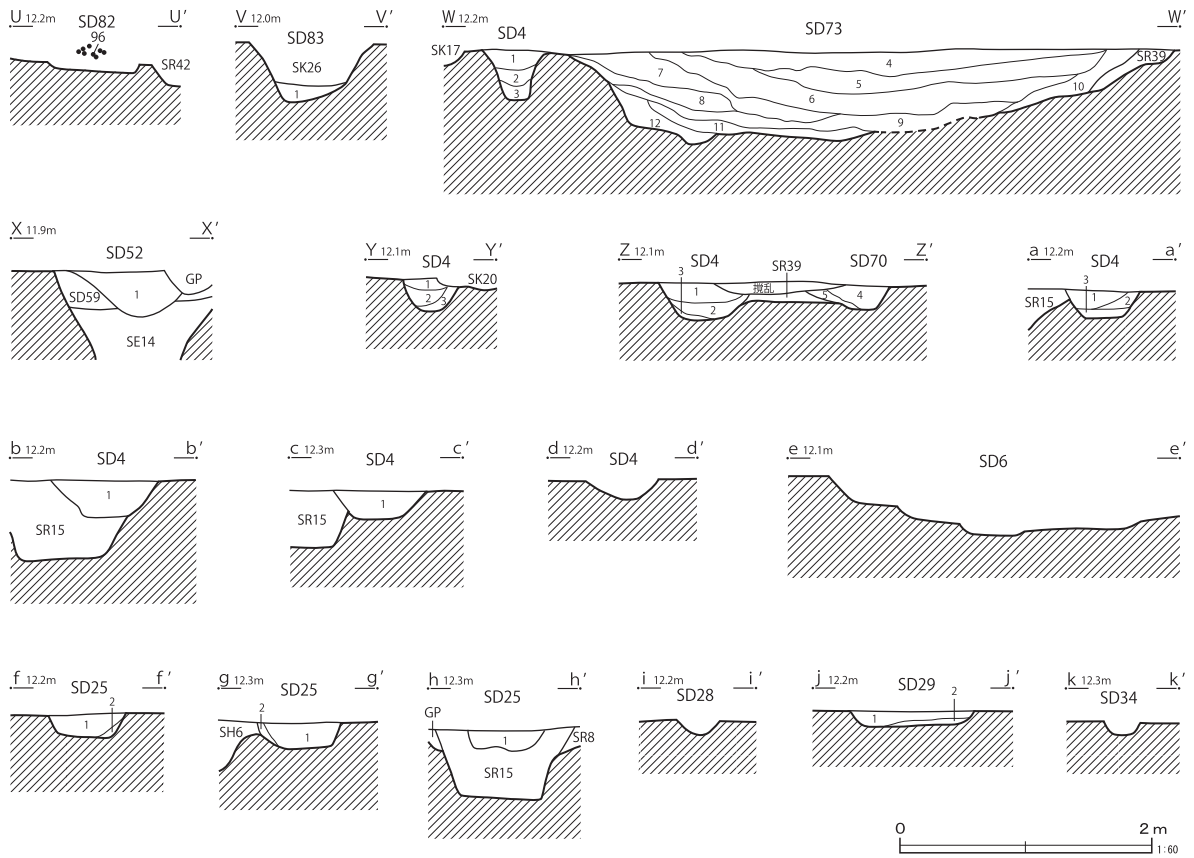
SD70 M-M'
1 暗褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 疎らに少 自然堆積
2 褐灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 少 自然堆積

SD70 N-N'
1 褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm)・黄褐色土ブロック (1 cm) 多
マンガン・鉄分少
2 褐色土 黄褐色土粒子少 マンガン・鉄分少
3 褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多 マンガン・鉄分少
4 褐色土 黄褐色土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm)・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) 多

SD70 O-O'
1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.2 ~ 0.5 cm) 少

SD70・77・79 Q-Q'
1 灰褐色土 黄褐色粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量
2 黒灰色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm)・
焼土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量
3 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量
鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 少
4 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm)・鉄分粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 極多
炭化物粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 多

第372図 溝跡断面図 (17)



SD83 V-V'

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.5 cm) 多
黄褐色土ブロック (1 ~ 5 cm) 極多

SD73・SD4 W-W'

- 1 褐灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 少 自然堆積
2 暗褐灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 疎らに少 自然堆積
3 黄灰色土 黄灰色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) と褐灰色土の混合層
自然堆積
4 暗褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少 自然堆積
5 黒褐色土 4層をブロック状 (0.2 ~ 0.3 cm) に少 自然堆積
6 黒色土 褐灰色土 (0.5 ~ 0.8 cm) をブロック状に少 自然堆積
7 暗褐灰色土 10層に近似 黄褐色粘土粒子少 自然堆積
8 暗褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 少
炭化物粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多 自然堆積
9 黒灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.1 cm) を均質に少 焼土粒子・炭化物粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 少 自然堆積
10 暗褐灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 多 自然堆積
11 黒灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.3 cm) 多 部分的に黒色土粒子少 自然堆積
12 黒灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.3 cm) 多 自然堆積

SD52 X-X'

- 1 褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.3 cm) 微量

SD70・SD4 Y-Y'・Z-Z'

- 1 褐灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 少 自然堆積
2 暗褐灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 疎らに少 自然堆積
3 黄灰色土 黄灰色粘土ブロック (0.5 ~ 0.8 cm) と褐灰色土の混合層
自然堆積
4 暗褐色土 黄灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 疎らに少 自然堆積
5 褐灰色土 黄灰色粘土粒子 (0.2 ~ 0.3 cm) 少 自然堆積

SD4 a-a' ~ c-c'

- 1 褐色土 黒色土ブロック (1 cm) 少
2 褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック (1 ~ 2 cm) 極多
3 褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック少

SD25 f-f'

- 1 褐色土 黄褐色土粒子・鉄分多
2 黄褐色土 黄褐色土ブロック少

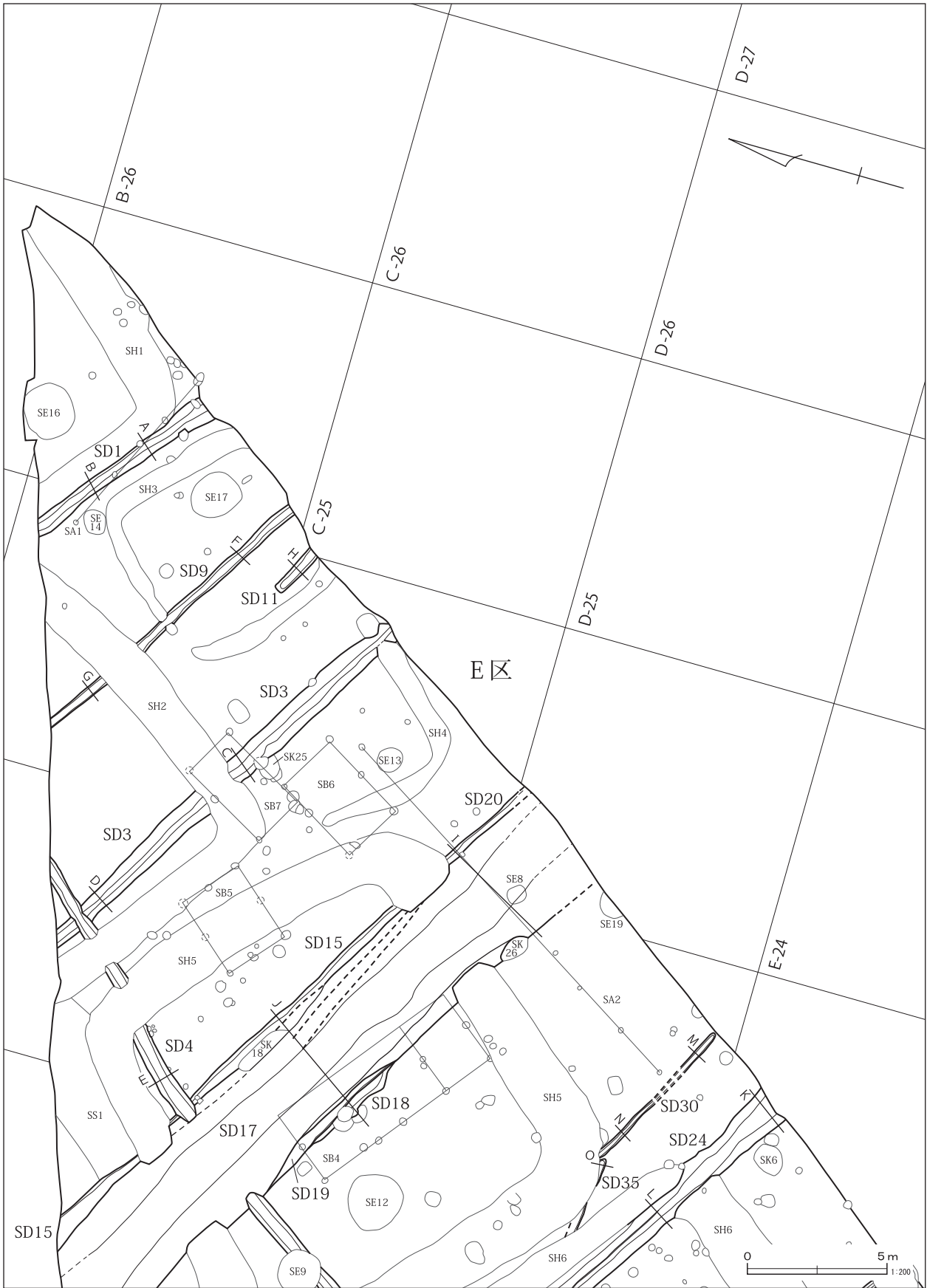
SD25 g-g'・h-h'

- 1 明褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 微量
2 明褐色土 黄褐色粘土粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 多

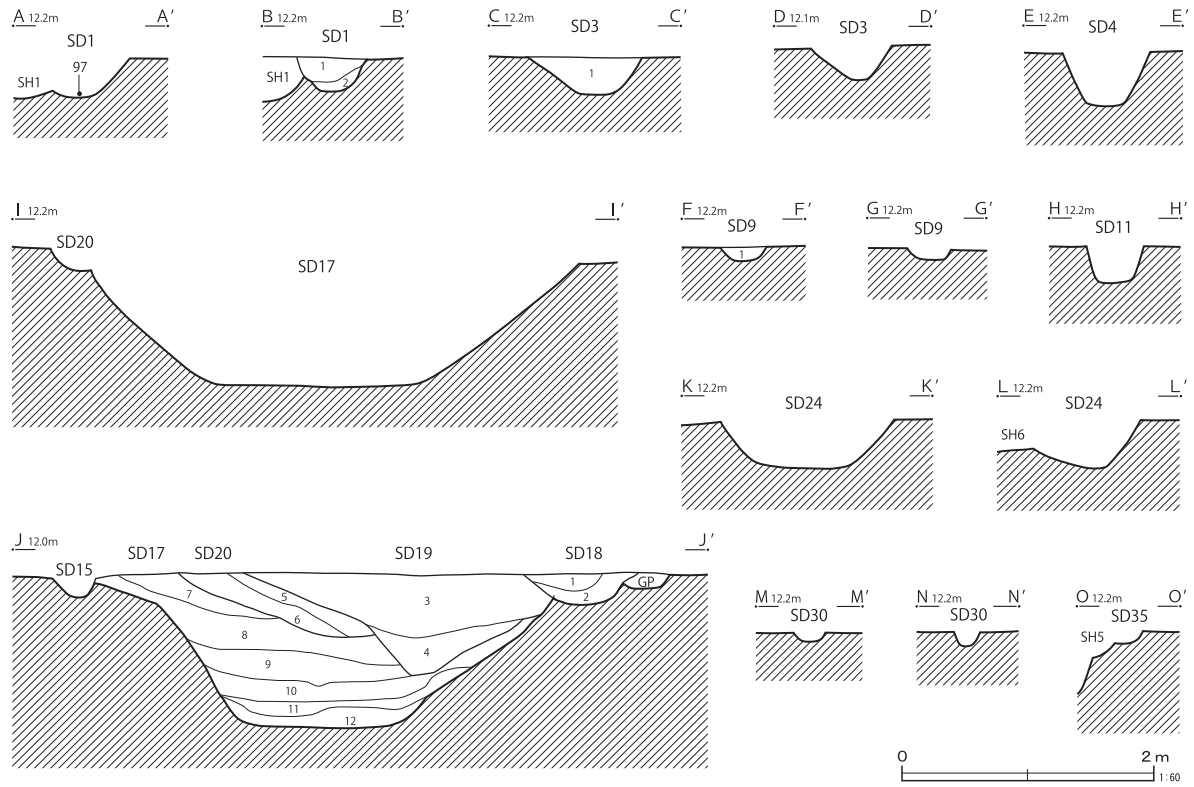
SD29 j-j'

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック (3 ~ 5 cm) 多
2 黄褐色土 黄褐色土ブロックを均質に多

第373図 溝跡断面図 (18)



第374図 溝跡区割図 (9)

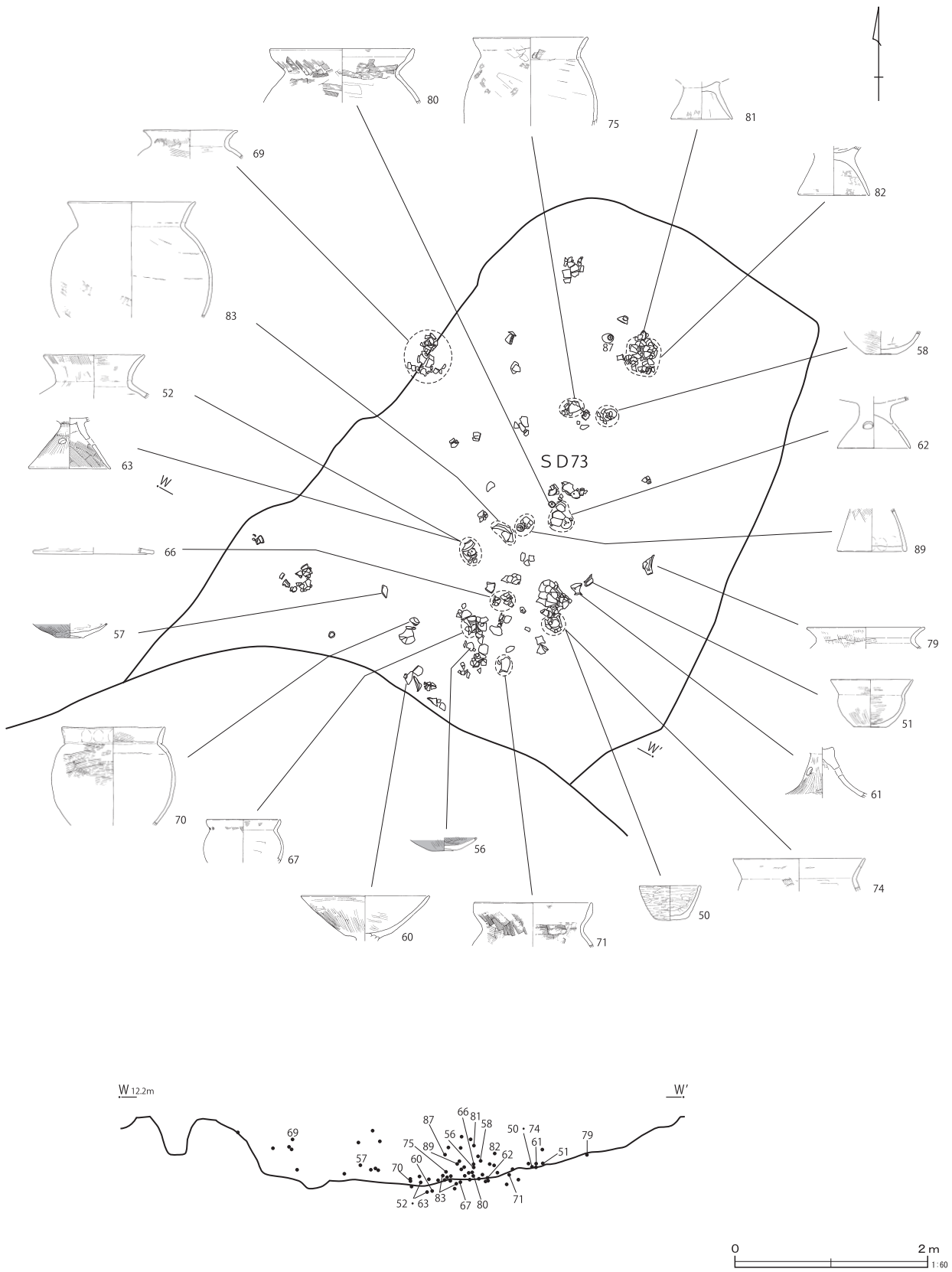


- SD1 B-B'
- 1 暗褐色土 淡黄褐色土ブロック・鉄分・マンガン斑若干
2 淡黄褐色土 地山ブロック・鉄分・マンガン斑多
- SD3・SD9 C-C'・F-F'
- 1 オリーブ褐色土 パミス状粒子（浅間A軽石か）少
- SD17～20 J-J'
- 1 褐色土 黄褐色粘土粒子（0.1～0.2cm）・暗褐色土ブロック（5cm）少 やや砂質
2 褐色土 黄褐色粘土ブロック（0.5cm）多
3 褐色土 黄褐色粘土粒子（0.1～0.2cm）微量
- 4 暗灰色土 褐灰色粘土ブロック（0.1～0.7cm）微量 鉄分多
5 褐色土 黄褐色粘土ブロック（1cm）多 褐色粘土粒子（0.1～0.2cm）やや多 埋戻し土
6 褐色土 黄褐色粘土粒子（0.1～0.3cm）少
7 褐色土 黄褐色粘土ブロック（1cm）やや多
8 褐色土 黄褐色粘土ブロック（1～5cm）多
9 褐色土 暗褐色土ブロック（1～4cm）・鉄分やや多 黄褐色粘土ブロック（1～5cm）・暗褐色土ブロック（1～4cm）多 鉄分やや多 埋戻し土
10 暗褐色土 褐灰色粘土ブロック（0.3～4cm）多 鉄分・マンガンやや多 粘性強
11 褐灰色土 マンガン・鉄分少 粘性強
12 黄灰色土 黄褐色粘土ブロック（1～2cm）・鉄分少 マンガンやや多 粘性強

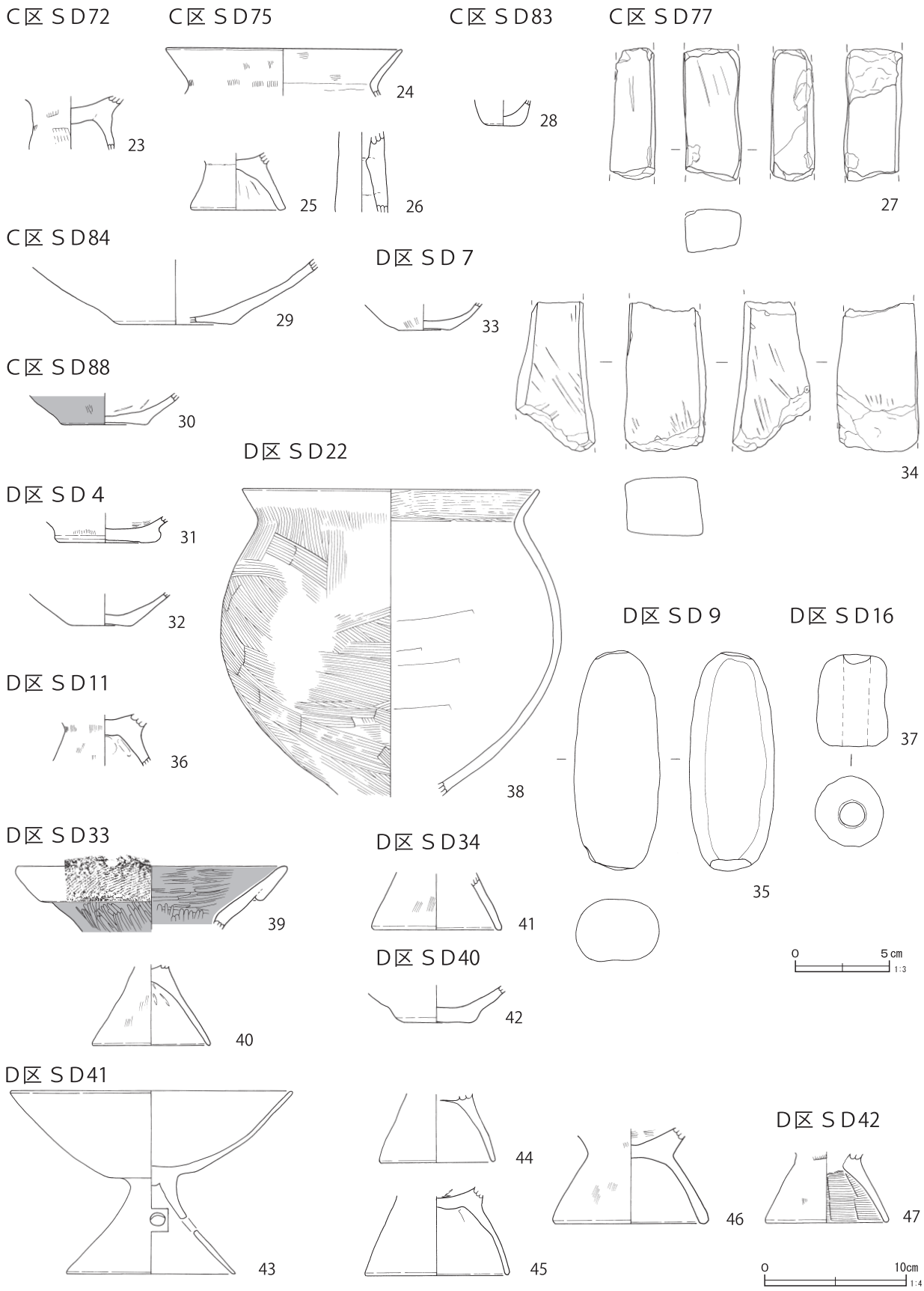
第375図 溝跡断面図 (19)

遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考
ESD1	B-24・25	102	36	35	中・近世以前
ESD2	C・D-19	86	61	23	
ESD3	B-23・24 C-24	102	24	28	
ESD4	B-23～H-20	76	35	43	
ESD5	C-19・20	60	36	23	
ESD6	D-17～G-21	249	141	47	近世
ESD7	C-20 D-17～20	217	35	102	近世
ESD9	B-24・25	50	30	15	中・近世
ESD10	D-17	140	111	38	
ESD11	B-24 C-24・25	45	20	28	
ESD12	D-18	132	100	46	
ESD13	D-18・19	84	31	42	近世
ESD14	C-20～E-19	180	60	78	近世
ESD15	B-22 C-22・23	[75]	[65]	16	
ESD16	C・D-20	[100]	[91]	48	中・近世
ESD17	B-22～D-24	401	166	109	
ESD18	C-23	[70]	[34]	25	

遺構	グリッド	上場幅 (cm)	下場幅 (cm)	深さ (cm)	備考
ESD19	C-23	(263)	(48)	80	
ESD20	C・D-24	[35]	[6]	50	
ESD21	C・D-19	80	60	12	
ESD22	D・E-19	[80]	[60]	11	
ESD23	D・E-19	[65]	[50]	8	
ESD24	C-21～E-23	110	90	40	
ESD25	D-20 F-22	80	[50]	20	
ESD27	E-20	61	40	33	
ESD28	D・E-20	35	20	11	
ESD29	F-21	102	75	12	
ESD30	C-22 D-23	56	11	16	
ESD31	D-19・20	[121]	[91]	17	
ESD32	C-20・21	[136]	[60]	33	
ESD33	C-19	62	40	14	
ESD34	E-22・23	35	16	12	
ESD35	D-22・23	[30]	[23]	11	



第376图 D区第73号沟迹遗物出土状况

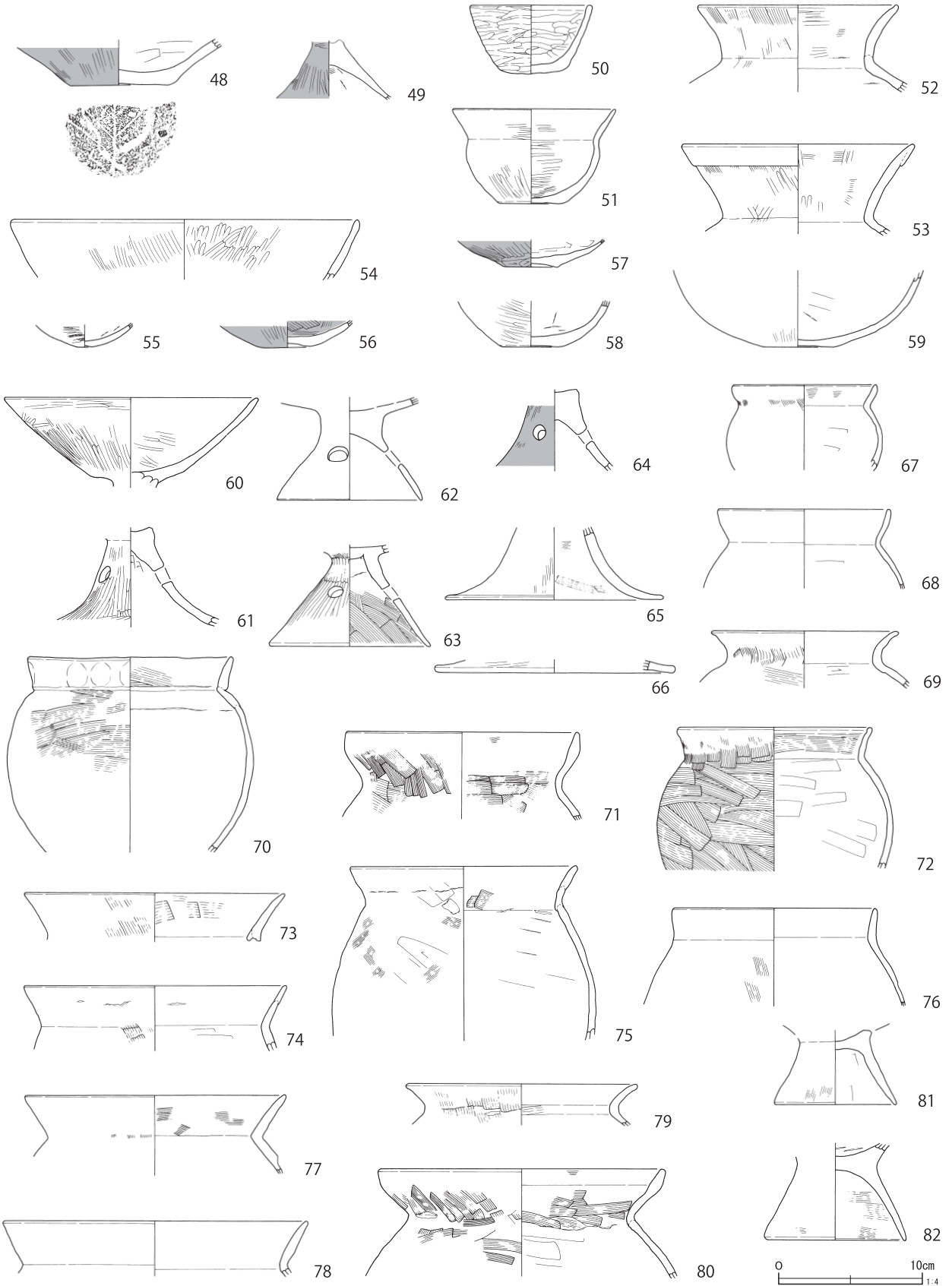


第378图 沟迹出土遗物(2)

D区 SD52

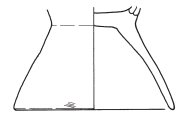
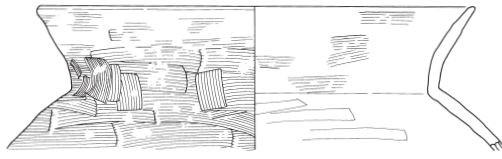
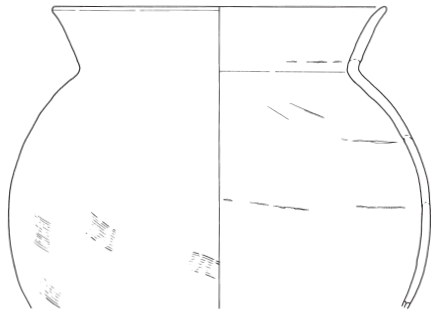
D区 SD59

D区 SD73



第379图 溝跡出土遺物(3)

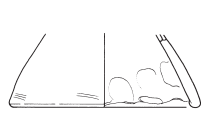
D区 SD73



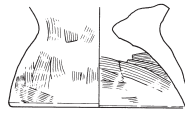
83

84

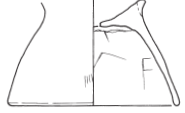
85



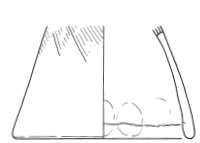
86



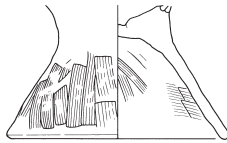
87



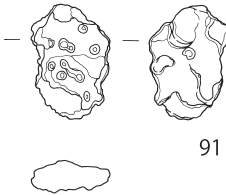
88



89



90



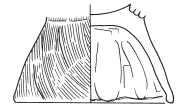
91



92



D区 SD74



93

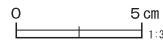
D区 SD77



94



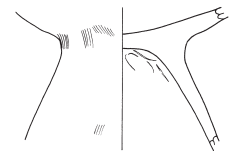
95



5 cm

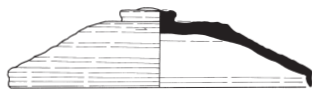
1:3

D区 SD82

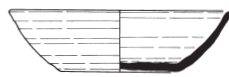


96

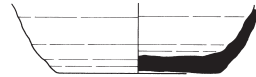
E区 SD1



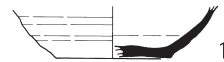
97



99



100



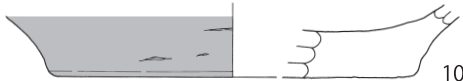
101



98



E区 SD6

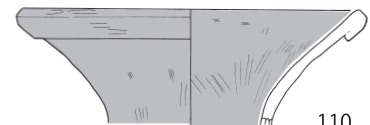


104

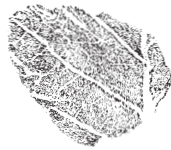


105

E区 SD7



110



106



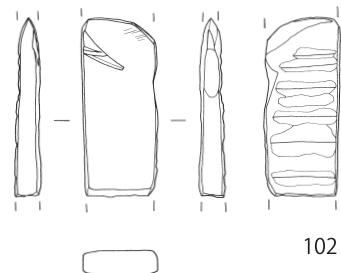
107



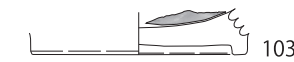
10 cm

1:4

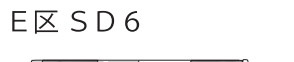
E区 SD3



102



103



108

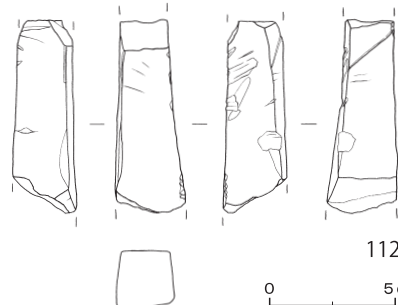


109

E区 SD7



111



112

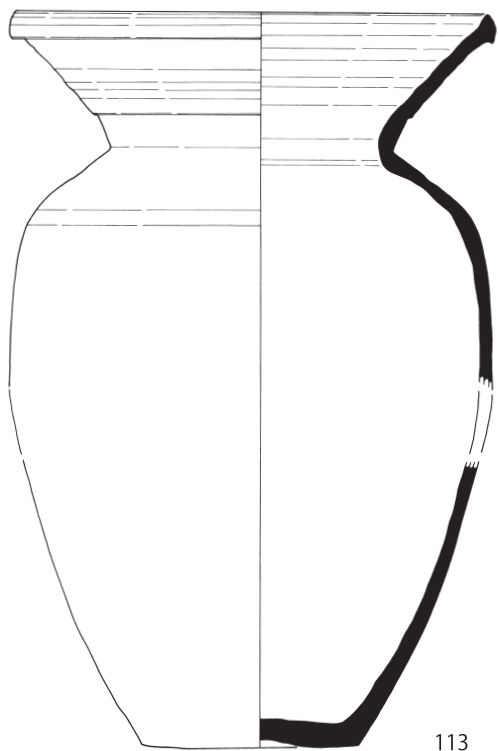


5 cm

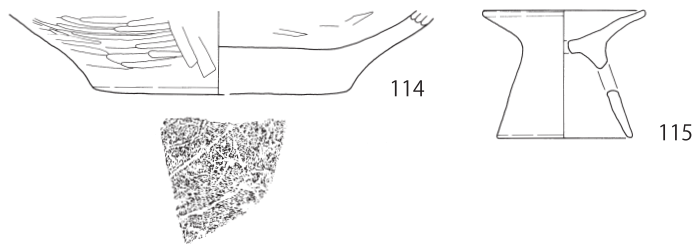
1:3

第380图 沟迹出土遗物(4)

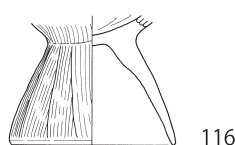
E区SD4



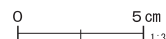
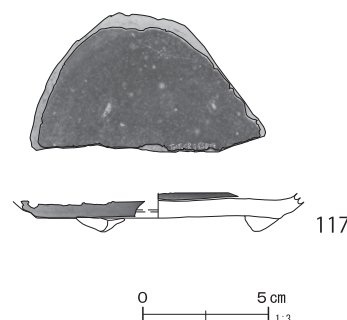
E区SD10



E区SD29



E区SD24



第381図 溝跡出土遺物(5)

第86表 溝跡出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
1	SD1	B	陶器	壺	5			[14.2]	A C	良好	暗赤褐		No.4~6・8・9 口縁部内外面横ナデ 外面自然釉 常滑 13C後半か
2	SD2	B	陶器	瓶	40		(5.0)	[4.5]	A F G	良好	灰白 緻密	轆轤	No.2 畳付を除き鉄釉施釉 瀬戸・美濃系 18C代か 二次的被熱か
3	SD16	B	陶器	皿	25	(12.2)	(7.8)	2.6	F	普通	灰白	轆轤	全面長石釉 見込み雨降り文か 削出し高台 見込み円錐ピン砂粒 腰~高台・高台内に円錐ピン跡 瀬戸・美濃系 志野 16C末~17C初
4	SD16	B	陶器	高台付鉢	15		(13.2)	[4.0]	A E G	普通	灰黄		中世か
5	SD16	B	須恵器か	甗	5			[6.3]	A D	普通	灰		口縁上部内面と外面頸部自然釉
6	SD16	B	陶器	甗	5			[6.1]	A F	良好	灰		No.4 口縁上部内面~頸部自然釉附着 常滑 13C代か
7	SD16	B	陶器	甗	5			[4.7]	A C F	普通	灰黄褐		F-9・10G 口縁部内外面横ナデ 外面自然釉
8	SD16	B	瓦質土器	鉢	45		(11.6)	[6.7]	A C G	普通	灰白		No.5 器面風化著しい
9	SD8	B	陶器	灯明皿	30	(10.4)	(4.5)	1.7	A	良好	灰白	轆轤	No.1 内外面銹釉 底部静止糸切 油溝半月状 瀬戸・美濃系 18C後半~19C中葉
10	SD5	B	土師器	台付甗	55			[4.2]	C D F G	普通	にぶい 橙		H-8G 内外面摩滅・風化著しい
11	SD5	B	土師器	台付甗	45		(9.8)	[7.5]	C D F	普通	にぶい 橙		No.1
12	SD7	B	土師器	壺	90		(5.4)	[2.6]	D F G	普通	にぶい 黄橙		器面風化著しく調整痕はみえない
13	SD10	B	陶器	瓶	5		(5.0)	[2.2]		良好	褐灰 緻密	轆轤	F-9G 全面鉄釉 底部細かな布目痕あり 土瓶か 瀬戸・美濃系か 18C代か
14	SD21	B	土製品	土玉	80	径2.1×2.2cm 高さ2.3cm 孔径0.4~0.6cm 重さ8.3g							

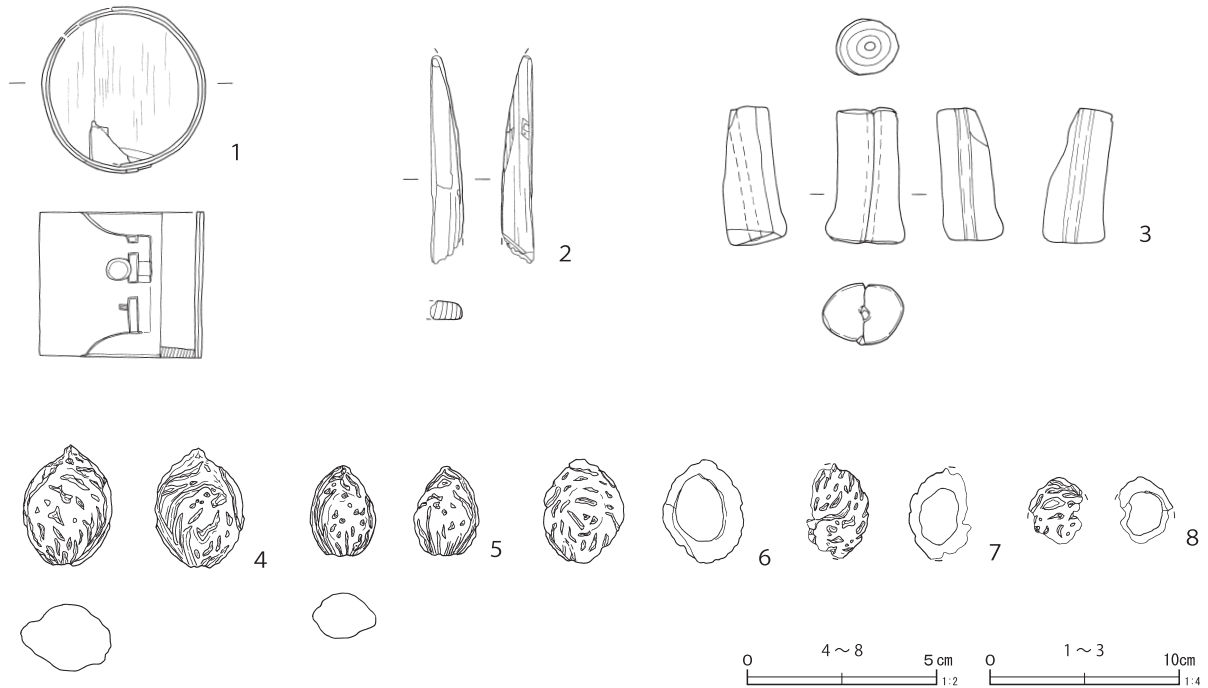
番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
15	SD34	B	土師器	台付甕	55		(9.3)	[5.3]	C D F G	普通	にぶい 橙		No.3 内外面摩滅・風化著しい
16	SD34	B	土師器	高坏	30	(22.0)		[7.6]	A C F G	普通	灰白		No.4 口縁部外面擦糸文あり 内外面赤彩 器面風化著しい
17	SD46	B	陶器	碗	45		(4.2)	[1.7]	A G	良好	灰白 緻密	轆轤	内外面・高台内青磁釉あり 削出し高台無釉部に鉄漿がみえている
18	SD53	B	炆器	片口鉢	40	(21.2)	11.6	8.4	A C G	普通	灰		No.1 ロクロナデ 体部外面下位回転ヘラ削り 貼り付け高台
19	SD59	B	土師器	台付甕	20		(9.2)	[6.7]	A C F	普通	にぶい 黄橙		No.2 器面風化著しい
20	SD60	B	鉄滓			縦6.5cm 横8.4cm 厚さ4.4cm 重さ197.2g							
21	SD60	B	石製品	板碑		長さ[10.1]cm 幅[5.9]cm 厚さ1.1cm 重さ107.9g							J-7G 緑泥片岩 梵字の下部とその下に文字(漢字)とおぼしき刻みがあるがどちらも不明
22	SD60	B	陶器	皿	10		(8.0)	[1.3]		普通	灰白	轆轤	内外面・畳付長石釉 貫入多 気泡あり 削出し高台 見込みやや黒ずみ断面上位にまでシミが及んでいる 灯明皿に転用か 瀬戸・美濃系 志野 16C末～17C初
23	SD72	C	土師器	台付甕	75			[3.7]	A C F G	普通	明赤褐		内面ヘラナデ 外面風化著しく調整不明瞭
24	SD75	C	土師器	甕	20	(16.6)		[3.3]	A C D	普通	にぶい 黄褐		I-12G 口縁部内外面横ナデ 器面風化著しい
25	SD75	C	土師器	台付甕	45		(6.1)	[4.0]	B D F G I	普通	にぶい 赤褐		風化している
26	SD75	C	土師器	高坏	40			[5.6]	A D F G	普通	橙		I-12G 器面風化している
27	SD77	C	石製品	砥石		長さ6.9cm 幅2.9cm 厚さ2.2cm 重さ70.7g							凝灰岩製 使用痕あり
28	SD83	C	土師器	手捏ね土器	70		2.0	[1.3]	F G	普通	浅黄橙		J-10G
29	SD84	C	土師器	壺	30		(8.0)	[4.5]	A C F	普通	にぶい 橙		J-10G 器面風化著しい
30	SD88	C	土師器	壺	55		(6.2)	[2.2]	C F	普通	灰白		外面赤彩 内面ヘラナデ
31	SD4	D	土師器	壺	90		6.8	[2.1]	A C D F J	普通	明赤褐		No.4 外面ハケ 内面ヘラナデか 内面の調整は雑 風化の度合いは低い
32	SD4	D	土師器	壺	80		4.1	[2.2]	A C D F J	普通	赤褐		No.7 器面風化著しい
33	SD7	D	土師器	小型壺	70		3.6	[1.8]	A C D F	普通	橙		外面ヘラミガキ 器面風化著しい
34	SD7	D	石製品	砥石		長さ[7.9]cm 幅4.3cm 厚さ3.1cm 重さ174.0g							4面とも使用 全面に鉄か・マンガン付着
35	SD9	D	石製品	敲石か		長さ11.4cm 幅4.4cm 厚さ3.2cm 重さ277.9g							H-13G
36	SD11	D	土師器	台付甕	75			[3.6]	A C D F J	普通	にぶい 黄橙		G-14G 外面ハケ 脚部内面ヘラナデと指頭圧痕か
37	SD16	D	土製品	土錘		長さ4.8cm 厚さ3.1cm 孔径1.4cm 重さ66.7g					浅黄		
38	SD22	D	土師器	台付甕	60	(20.6)		[21.6]	A C E F	普通	橙		No.2・3 口縁内外面横ナデ 胴部内外面ヘラナデ 外面大黒斑・内面小黒斑あり
39	SD33	D	土師器	壺	5	(19.2)		[4.6]	A C D F	普通	赤		G-13G 口縁部外面単節 LRの縄文 端部結節する 外面頸部・内面赤彩
40	SD33	D	土師器	高坏	20		(8.3)	[5.6]	A C D F J	普通	明黄褐		G-13G 外面ヘラ磨きか 脚部内面ヘラナデとナデか 器面風化著しい
41	SD34	D	土師器	台付甕	10		(9.0)	[4.0]	A D F	普通	橙		端部内外面横ナデ 器面風化著しい
42	SD40	D	土師器	壺	20		(5.2)	[2.6]	A C D F	普通	にぶい 黄橙		器面風化著しい
43	SD41	D	土師器	高坏	80	20.0	12.0	12.8	A C F G	普通	橙		No.5 穿孔4ヶ所(外からの穿孔) 器面風化著しく調整不明 坏部外面に大黒斑あり
44	SD41	D	土師器	台付甕	80		8.2	[4.8]	A C F J	普通	にぶい 黄橙		No.3 脚部内面ヘラナデか 器面風化著しい
45	SD41	D	土師器	台付甕	65		10.0	[6.1]	A C D F	普通	赤橙		No.4 坏部内面ヘラナデ 脚部内面ヘラナデか 器面風化著しく調整不明
46	SD41	D	土師器	台付甕	35		(10.8)	[6.7]	A C D F	普通	灰		No.2 外面ハケ 坏部内面ハケとヘラナデか 脚部内面ヘラナデか

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型 技法	備考
47	SD42	D	土師器	台付甕	70		8.6	[5.8]	A C F	普通	にぶい 橙		No.1 内外面ハケ 外面風化著しい 外面被熱のためやや赤色化
48	SD52	D	土師器	壺	40		(7.0)	[3.2]	A F	普通	明赤褐		H-17G 外面へら磨き 内面へらナデ 底部木葉痕あり 外面赤彩 器面風化著しい
49	SD59	D	土師器	高坏	70			[3.4]	A C D	普通	橙		No.4 外面へら磨き 脚部内面へらナデ 外面赤彩 器面風化著しい
50	SD73	D	土師器	埴	60	(8.2)	4.7	4.7	A C F G	普通	にぶい 橙		外面粗いへら磨き 内面・底面指ナデ 外面風化している 外面小黑斑あり
51	SD73	D	土師器	埴	75	(10.2)	4.3	6.5	A C F	普通	にぶい 橙		遺物集中区No.35 口縁部内外面横ナデ後へら磨き 器面風化著しい 赤彩か
52	SD73	D	土師器	壺	25	(13.8)		[6.0]	A C D E F	普通	橙		遺物集中区No.38 外面ハケ後へら磨きか 内面ハケ後へら磨き
53	SD73	D	土師器	壺	15	(16.0)		[6.2]	C D F G I	普通	明赤褐		遺物集中区No.26 外面ハケ後へら磨き 器面風化著しい
54	SD73	D	土師器	高坏	15	(24.0)		[4.1]	A C D F G	普通	橙		口縁部内外面へら磨き 器面風化している
55	SD73	D	土師器	埴	85		1.0	[1.6]	A D G	普通	にぶい 橙		外面ハケ後へら磨き 内面へらナデ 底部指押さえあり 器面風化著しい
56	SD73	D	土師器	小型壺	75		3.6	[1.9]	A C D F G	普通	にぶい 黄橙		外面へら磨き 内面ハケ 外面風化著しい 外面黒斑あり 内外面赤彩
57	SD73	D	土師器	壺	70		3.8	[1.9]	A C D F	普通	にぶい 黄橙		遺物集中区No.14 外面へら削り後へら磨き 内面へらナデ 内面工具の当り痕あり 外面赤彩・黒斑あり
58	SD73	D	土師器	小型壺	75		4.0	[3.2]	A B C D F G	普通	灰白		遺物集中区No.7 外面へら磨き 内面へらナデ 器面風化著しい 外面に黒斑あり
59	SD73	D	土師器	壺	55		4.9	[5.3]	A C G	普通	橙		遺物集中区No.56 外面へら磨きか 内面へらナデか 器面風化著しい 外面に黒斑あり
60	SD73	D	土師器	高坏	75	17.6		[6.2]	A C D F J	普通	灰白		遺物集中区No.8 外面へら磨き 器面風化著しい 内面に大黒斑あり
61	SD73	D	土師器	高坏	85			[6.8]	A B C F G	普通	橙		遺物集中区No.10 外面へら磨き 内面へらナデか 穿孔3ヶ所(外からの穿孔) 器面風化著しい
62	SD73	D	土師器	高坏	80		11.0	[7.1]	A C F G	普通	にぶい 橙		遺物集中区No.37 穿孔3ヶ所 器面風化著しい
63	SD73	D	土師器	高坏	80		11.2	[7.0]	B C D E F	普通	にぶい 黄橙		遺物集中区No.40 外面へら磨き 内面上位ナデ 内面中・下位ハケ 穿孔3ヶ所(外面からの穿孔)
64	SD73	D	土師器	高坏	70			[5.6]	A B C F G	普通	にぶい 黄橙		遺物集中区No.26 外面へら磨き 内面へらナデか 穿孔3ヶ所(外からの穿孔) 外面赤彩 器面風化著しい
65	SD73	D	土師器	高坏	20		(15.0)	[5.0]	A C F G I	普通	浅黄橙		外面へら磨き 器面風化著しい 外面赤彩か
66	SD73	D	土師器	高坏	5	(16.3)			C D F	普通	橙		
67	SD73	D	土師器	小型甕	25	(10.0)		[5.9]	A B C F J	普通	灰白		遺物集中区No.20 口縁部内外面横ナデ 器面風化著しい 外面に黒斑あり
68	SD73	D	土師器	小型甕	20	(11.8)		[5.4]	A B C F G	普通	にぶい 橙		遺物集中区No.67 口縁部内外面横ナデか 器面風化著しい 胴部外面に黒斑あり
69	SD73	D	土師器	甕	20	(12.5)		[3.9]	A B D	普通	にぶい 黄褐		口縁部内外面横ナデ
70	SD73	D	土師器	甕	50	14.2		[13.5]	A B C F G	普通	明赤褐		遺物集中区No.46 口縁部外面指頭圧痕あり 外面ハケ 内面へらナデか 被熱のため赤色化 口縁～胴部外面に黒斑あり 器面風化著しい
71	SD73	D	土師器	甕	20	(16.0)		[6.0]	A C D F G	普通	にぶい 黄橙		遺物集中区No.9 口縁部内面～外面上部横ナデ
72	SD73	D	土師器	甕	25	(13.4)		[9.9]	A C D F J	普通	にぶい 黄橙		遺物集中区No.17 口縁部内外面横ナデ 被熱のため器面は赤色化・風化している
73	SD73	D	土師器	甕	10	(18.0)		[3.3]	A B C F G	普通	橙		口縁部内外面ハケ後横ナデか 器面風化著しい
74	SD73	D	土師器	甕	20	(18.2)		[4.5]	A C D F	普通	にぶい 橙		口縁部内外面横ナデか 頸部にハケが少し残存
75	SD73	D	土師器	甕	20	(15.6)		[12.0]	A C F	普通	にぶい 赤褐		遺物集中区No.35 口縁上部横ナデ 外面肩部～体部へら削り後粗いハケ
76	SD73	D	土師器	甕	20	(13.9)		[6.7]	A B C	普通	橙		遺物集中区No.52 口縁部内外面横ナデか 体部内面へらナデか 器面風化著しい

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
77	SD73	D	土師器	甕	20	(18.0)		[5.5]	A C D I	普通	灰黄褐		遺物集中区No11 口縁部内外面ハケ後横ナデか 器面風化著しい
78	SD73	D	土師器	甕	10	(21.0)		[3.8]	A C F	普通	にぶい橙		口縁部内外面横ナデ 器面摩滅し調整不明瞭
79	SD73	D	土師器	甕	20	(16.0)		[2.8]	A B C F G	普通	にぶい黄橙		口縁部内外面横ナデ
80	SD73	D	土師器	甕	20	(19.7)		[7.4]	A C D	普通	にぶい黄橙		遺物集中区No39 口縁上部内外面ハケ後横ナデ
81	SD73	D	土師器	台付甕	90		8.4	[5.1]	A C F G	普通	にぶい黄橙		遺物集中区No41 外面ハケか 内面ヘラナデか 器面摩滅調整不明瞭
82	SD73	D	土師器	台付甕	85		9.6	[6.7]	A C F G I	普通	浅黄橙		遺物集中区No61 外面ハケか 内面ハケナデ 器面風化著しい 外面に黒斑あり
83	SD73	D	土師器	甕	25	(17.6)		[15.8]	C F G	普通	にぶい橙		遺物集中区No62 口縁部内外面横ナデ 外面ハケ 内面ヘラナデ 器面風化著しい
84	SD73	D	土師器	甕	25	(23.4)		[8.5]	A C D F J	普通	橙		遺物集中区No29 口縁上部内外面横ナデ 口縁外面に黒斑あり 器面やや風化
85	SD73	D	土師器	台付甕	35		(8.3)	[5.3]	C D F I	普通	にぶい橙		外面ハケ 脚部内面ヘラナデか 内外面風化著しい
86	SD73	D	土師器	台付甕	20		9.4	[3.8]	B C D	普通	にぶい黄橙		脚部内面ナデと指頭による押さえか 器面風化著しい
87	SD73	D	土師器	台付甕	55		(9.4)	[5.2]	A C D F G	普通	にぶい橙		G・H-20 外面底部～脚部ハケ 端部ハケ後横ナデ 内面ハケ 外面風化著しい
88	SD73	D	土師器	台付甕	85		8.9	[5.6]	A C D F G	普通	にぶい橙		遺物集中区No57 外面ハケか 内面ヘラナデ 外面風化著しい
89	SD73	D	土師器	台付甕	80		9.2	[5.9]	A C D F G	普通	灰白		遺物集中区No59 内面ヘラナデと指ナデ
90	SD73	D	土師器	台付甕	55		11.2	[7.0]	A C D F	普通	にぶい橙		遺物集中区No31
91	SD73	D	鉄滓			長さ5.9cm 幅4.2cm 厚さ1.5cm 重さ50.0g							
92	SD73	D	土製品	土玉		高さ3.1cm 幅3.3cm 孔径0.8cm 重さ29.9g			A B C D F G	普通	にぶい橙		大黒斑あり
93	SD74	D	土師器	台付甕	80		8.7	[5.1]	A C D F J	普通	褐灰		E-16G 外面ハケ 内面ヘラナデ後指押さえ
94	SD77	D	土師器	台付甕	15			[3.8]	A C D F	普通	灰黄		内外面ハケ 器面風化している
95	SD77	D	土師器	台付甕	5		(10.9)	[3.9]	A C D F J	普通	にぶい褐		外面ハケ 内面ヘラナデか 器面風化著しい
96	SD82	D	土師器	台付甕	25			[7.5]	A B C D	普通	明黄褐		No.5 外面ハケ 底部内面・脚部内面ヘラナデ 脚部上部内面に指頭圧痕
97	SD1	E	須恵器	蓋	95	15.9		4.2	A C D F	普通	灰白	轆轤	No.1 外面轆轤ナデ 南比企産 9C第1四半期
98	SD1	E	須恵器	坏	25	(13.4)	(5.4)	3.7	A H J	普通	灰	轆轤	底部回転糸切り離し 南比企産 9C第2四半期
99	SD1	E	須恵器	坏	60	(11.6)	6.2	3.2	A C F G H	普通	灰	轆轤	底部回転糸きり 南比企産 9C第2四半期
100	SD1	E	須恵器	瓶	55		8.6	[3.7]	A J	普通	浅黄	轆轤	底部回転糸きり離し 群馬秋間産か 8C中葉
101	SD1	E	須恵器	坏	65		6.0	[2.7]	A C H J	普通	灰	轆轤	底部回転糸切り離し後周辺ヘラ削り カマ印あり 南比企産 9C第2四半期
102	SD3	E	石製品	砥石か		長さ[7.1]cm 幅3.0cm 厚さ0.9cm 重さ35.0g							西側 凝灰岩か 両端部欠損 鉄分・マンガン少量付着
103	SD3	E	陶器	瓶か	20		(8.5)	[1.8]	A	普通	淡黄	轆轤	西側 灰釉 削り出し高台 見込みトチ跡 瀬戸・美濃系 18C後～19C中葉か
104	SD6	E	土師器	壺	15		(18.6)	[3.9]	A B C D F G	普通	にぶい黄橙		外面ヘラナデ後ヘラ磨き 外面赤彩 底部木葉痕
105	SD6	E	瓦質土器	焙烙	5			[4.9]	A B	普通	灰褐		口縁部内外面横ナデか 外面煤付着
106	SD6	E	土師器	甌	25		(5.2)	[1.9]	A C F J	普通	明黄褐		外面ヘラ削りか 内面ヘラナデ 1孔と考えられる(上面からの穿孔) 器面風化著しい
107	SD6	E	土師器	壺	85		3.4	[2.8]	A D F J	不良	橙		E-19G 外面ヘラ磨き 内面ヘラナデか 器面風化著しい 外面に黒斑あり
108	SD6	E	磁器	碗	5	(8.5)		[2.4]	G	良好	灰白緻密	轆轤	内外面透明釉 内面二重圈線 呉須 筆描き 肥前系 18C代か
109	SD6	E	磁器	碗	20	(8.8)		[1.5]	G	良好	灰白緻密	轆轤	内外面透明釉 内面一重圈線 呉須 筆描き 肥前系 18C代か

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
110	SD7	E	土師器	壺	10	(16.2)		[6.2]	A D F	普通	橙		内外面ハケ後へラ磨き 器面風化著しい 内外面赤彩
111	SD7	E	磁器	小坏	20	(7.0)		[3.6]	A G	良好	灰白	轆轤	内外面透明釉 口縁一重圈線 胴部草花 文か 呉須 筆描き 肥前系 18C代
112	SD7	E	石製品	砥石		長さ[7.6]cm 幅2.3cm 厚さ2.2cm 重さ62.7g							D-18G 凝灰岩 両端部欠損 4面使用 全面鉄分・マンガン付着
113	SD4	E	須恵器	甕	35	(24.9)	11.5	[39.0]	C G H J	普通	灰	轆轤	No.1・2 口縁部内面～胴部外面・底部 内面自然釉付着 南比企産 9C前半
114	SD10	E	土師器	壺	20		(14.0)	[4.5]	A C F	普通	にぶい 橙		外面へラ磨き 内面へラナデ 底部木葉 痕あり
115	SD10	E	土師器	器台	35	(8.9)	(7.1)	6.7	A C D F	普通	橙		No.2 孔数不明(1ヶ所のみ残存・外から の穿孔) 器面風化著しい
116	SD29	E	土師器	台付甕	70		(8.7)	[5.8]	A C D F J	普通	にぶい 黄橙		No.2 底部内面へラナデ 外面ハケ 脚 部内面へラナデか 器面風化
117	SD24	E	陶器	香炉	25		(9.6)	[1.5]	A	良好	灰白	轆轤	内面鉄釉 底部回転へラ削り 見込み円 錐ピン跡 瀬戸・美濃系 18C代か

B区 SD47



第382図 第47号溝跡出土木製品・種子

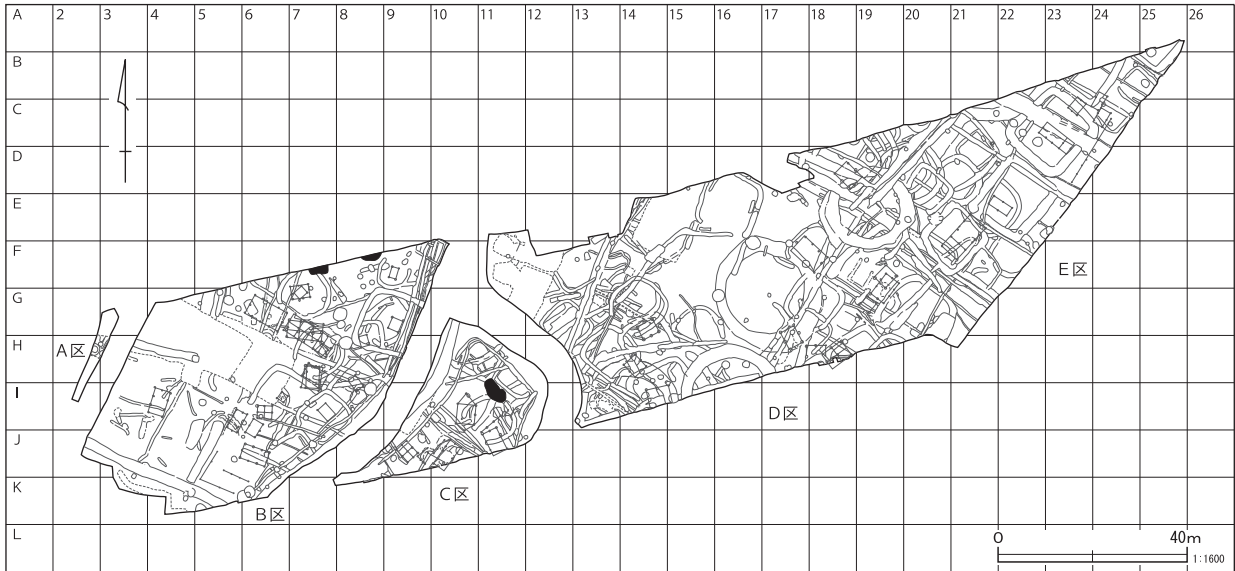
第87表 第47号溝跡出土木製品観察表

番号	遺構	区別	機種	計測値	備考	番号	遺構	区別	機種	計測値	備考
1	SD 47	B	側板 底板	側板径[8.6]cm 底板径[8.5]cm 高さ[7.6]cm 底板的厚さ0.5cm	No.1 柾目	5	SD 47	B	種子	長さ2.4cm 幅1.7cm 厚さ1.2cm	一括
2	SD 47	B	底板	底板径[11.0]cm 幅[1.6]cm 厚さ1.0cm	No.1 柾目	6	SD 47	B	種子	長さ2.7cm 幅2.1cm 厚さ1.1cm	一括
3	SD 47	B	さや状 木製品	長さ7.2cm 幅3.3cm 厚さ2.9cm	No.2 芯なし 削り出し	7	SD 47	B	種子	長さ[2.5]cm 幅[1.6]cm 厚さ[0.8]cm	一括
4	SD 47	B	種子	長さ3.1cm 幅2.3cm 厚さ1.7cm	一括	8	SD 47	B	種子	長さ[1.8]cm 幅[1.4]cm 厚さ[0.6]cm	一括

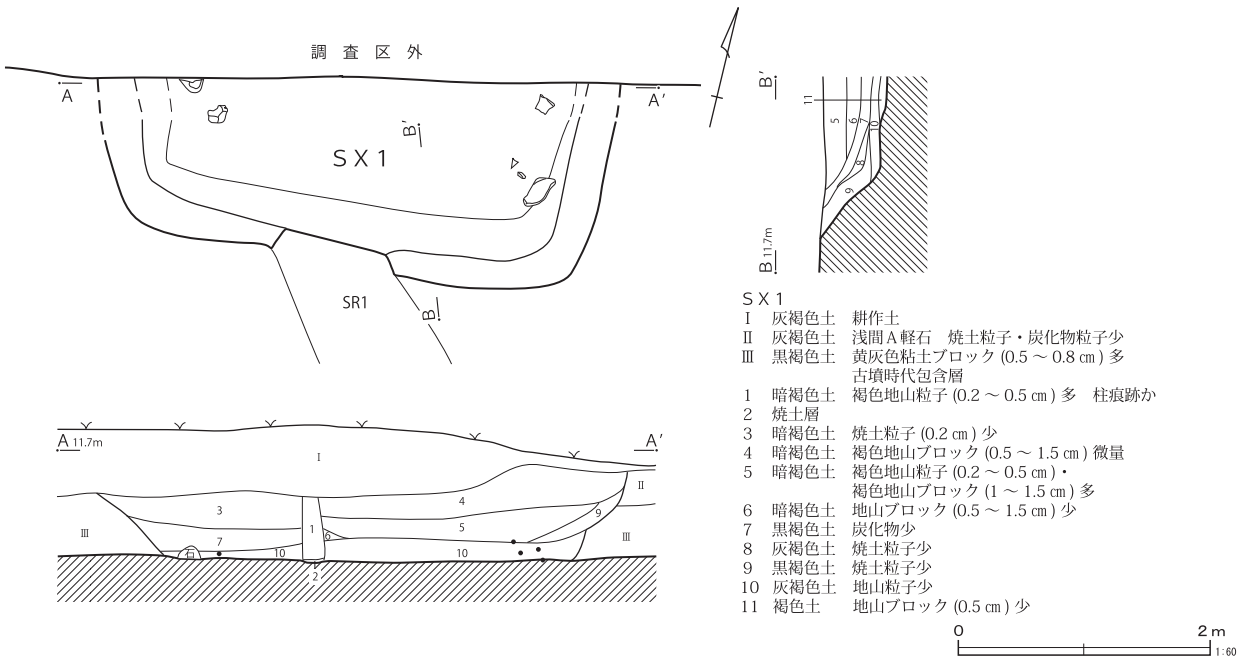
(10) 性格不明遺構

性格不明遺構については、形状や規模、あるいは出土遺物などから、井戸跡や貯蔵のための土壇、あるいは墓壇など、遺構の性格を特定できない遺構に対して、この名称のもと調査を行った。

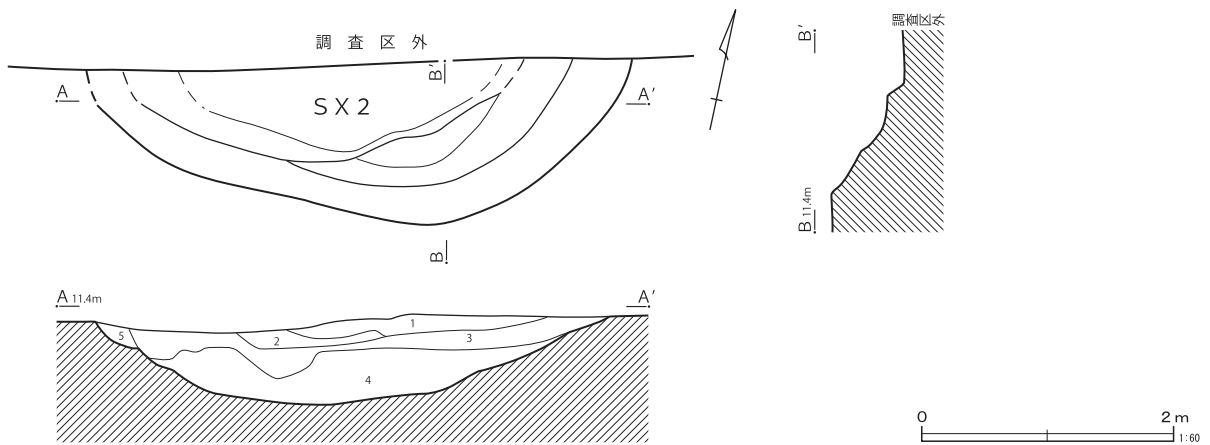
一般に土壇と命名する場合と同様、明確な根拠に乏しい。富田後遺跡の発掘調査で、性格不明遺構とした遺構は、B区2基、C区1基の計3基である。



第383図 性格不明遺構分布図



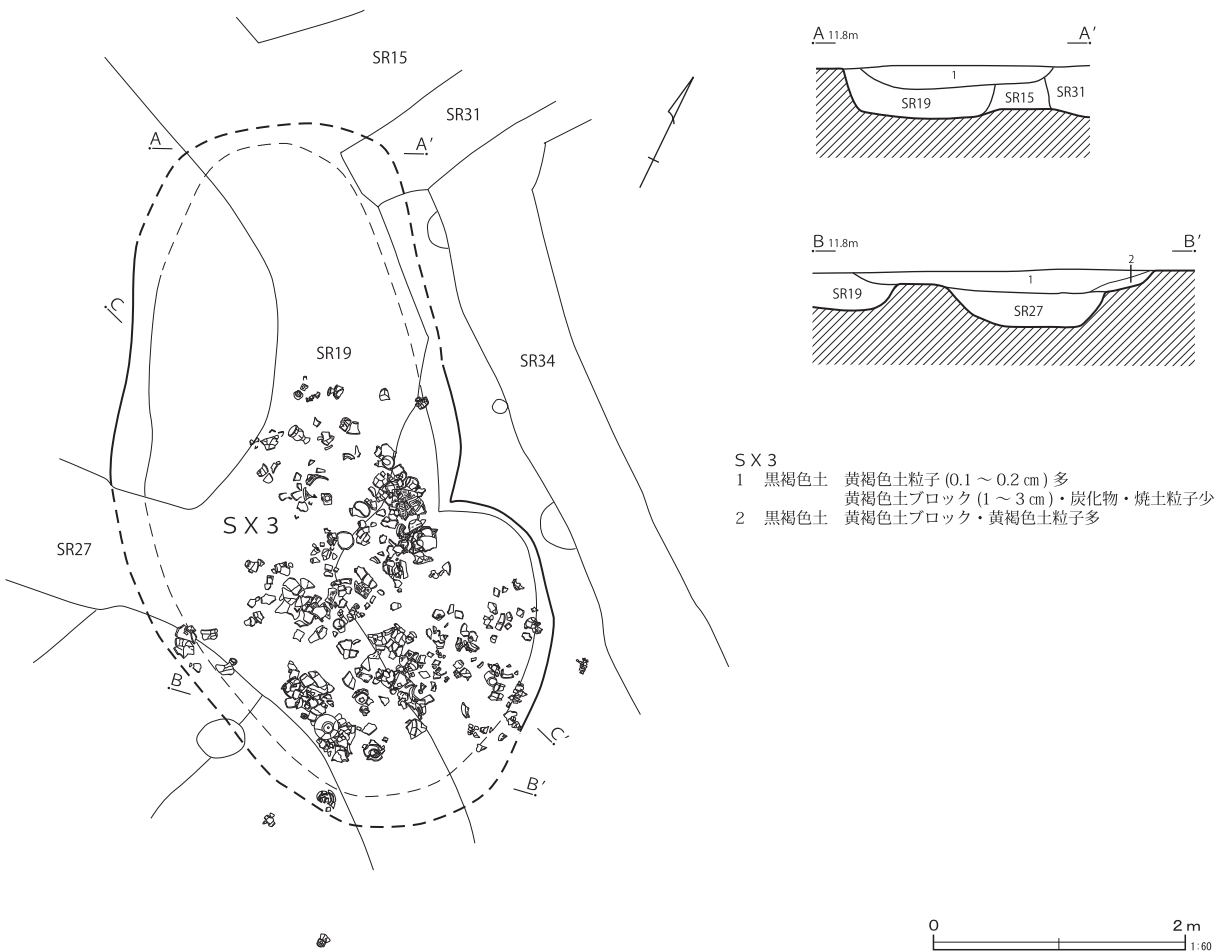
第384図 第1号性格不明遺構



S X 2

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 2 cm) 多
- 2 暗灰色土 褐色地山ブロック (0.5 cm) やや多 褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.9 cm) 少 焼土ブロック (0.7 cm) 微量
- 3 暗灰色土 褐色地山ブロック (0.5 ~ 0.7 cm) ・灰褐色粘土ブロック (0.5 ~ 0.9 cm) 多 炭化物粒子 (0.3 ~ 0.5 cm) 微量
- 4 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック (1 ~ 3 cm) ・灰褐色粘土ブロック (2 ~ 5 cm) 多
- 5 暗褐色土 暗褐色土ブロック (0.5 cm) 少

第385図 第2号性格不明遺構



S X 3

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子 (0.1 ~ 0.2 cm) 多
黄褐色土ブロック (1 ~ 3 cm) ・炭化物・焼土粒子少
- 2 黒褐色土 黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子多

第386図 第3号性格不明遺構

第1号性格不明遺構（第384図）

F-7グリッドに位置する。本遺構の北側部分は調査区外に続く。第1号周溝状遺構より新しい。

平面形は隅丸方形、または隅丸長方形と推定される。断面形は概ね逆台形で、底面は平坦である。

規模は、東西方向は上場幅（4.08）m、下場幅（3.22）m、南北方向は上場幅 [1.70] m、下場幅 [1.08] m、深さ52～75cm、現表土からの深さ72～105cm、長軸方位はN-6°-W、またはN-84°-Eである。

第I層は灰褐色土の耕作土である。第II層は灰褐色土で、層中に焼土粒子や炭化物粒子の他に、浅間A軽石を微量混入している。第III層は黒褐色土で、黄灰色粘土ブロックの他に、古墳時代の遺物を含む包含層である。

覆土内に、褐色地山ブロックが斑状に認められることから、本遺構は埋め戻されていると考えられる。その覆土内には、柱痕跡と思しき土層が認められることから、本遺構が埋め戻された後に、建てられた建物があった可能性が考えられる。

底面付近から、白磁の小破片と、自然石が出土したが、図化には至らなかった。

本遺構は、浅間A軽石を混じる第II層より新しいことから、本遺構の時期は、近世またはそれ以降であることが分かるが、遺構の性格は特定できなかった。

第2号性格不明遺構（第385図）

F-8グリッドに位置する。北側は調査区外に続く。

平面形は円形、または楕円形と推定される。断面形は概ね碗形であるが、壁面には段を有している。

規模は、東西方向は上場幅（4.33）m、下場幅（2.65）m、南北方向は上場幅 [1.27] m、下場幅 [0.96] m、深さ65cm。

覆土内に、褐色地山ブロックが斑状に認められることから、本遺構は埋め戻されていると考えられる。遺構の性格は特定できなかった。

遺物は出土しなかった。遺構の時期は不明である。

第3号性格不明遺構（第386～389図）

H・I-11グリッドに位置する。第15・19・27・31号周溝状遺構よりも新しい。本遺構が壊している各種遺構の調査の過程で、プランが失われたため、破線で図示した。

2基の土壇が重複しているかのような形状であるが、覆土から識別することはできなかったため、1基の遺構として扱った。平面形は歪な楕円形で、断面形は皿状である。

規模は、長軸方向は上場幅（5.70）m、下場幅（5.24）m、短軸方向は上場幅2.80～（2.88）m、下場幅2.32～（2.56）m、深さ8～18cm。長軸方位はN-38°-Wを指す。

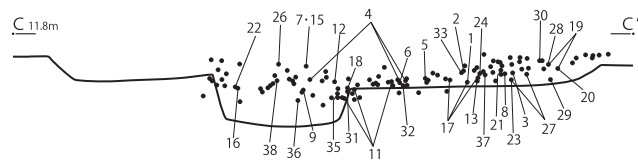
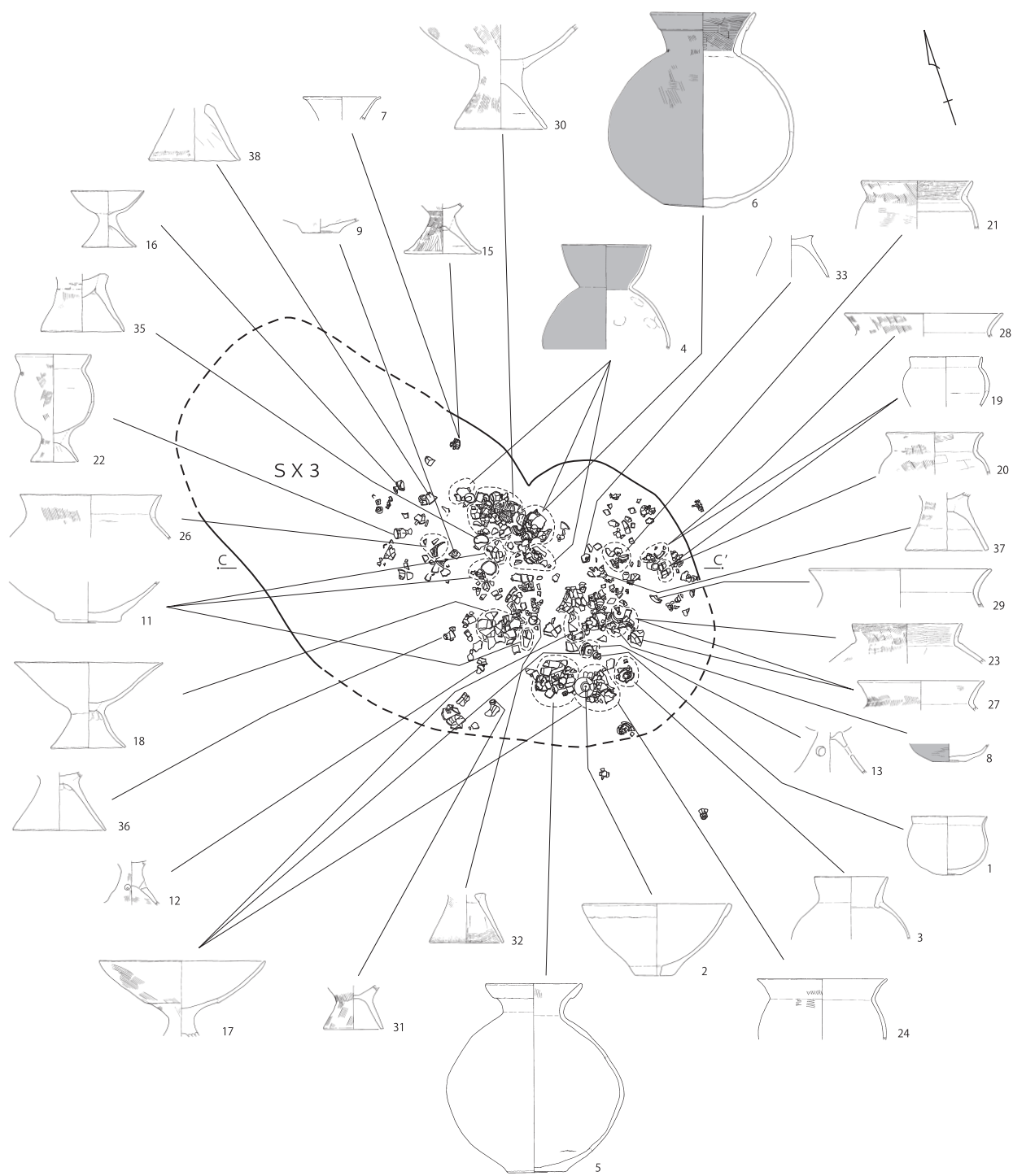
覆土内に、黄褐色土ブロックが斑状に認められるため、本遺構は埋め戻されていると考えられる。

本遺構の中央から南半部にかけて、多量の土師器片がまとまった状態で出土した。その内、図化に及んだ土師器は、壺・高坏・埴・器台・甗・台付甗など計38点（1～38）である。いずれの土器も、窪地状態であった本遺構内に、一括廃棄されたものと考えられる。

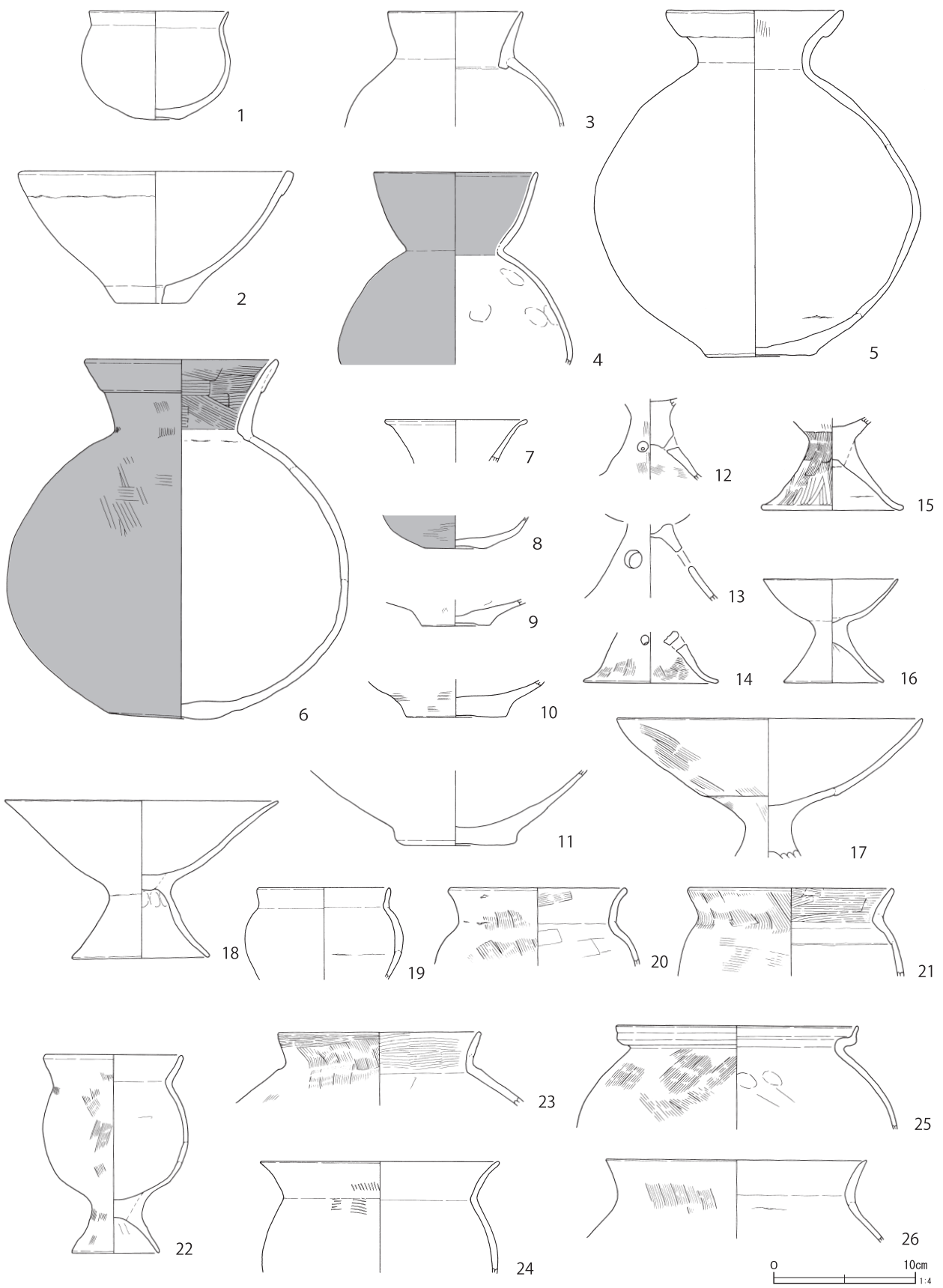
出土土器の大部分は破片の状態で検出されたが、少数ながら残存率の高い例（2：95% 6：80% 18：90% 22：95%）も認められた。土師器の器面は一様に風化しており、18の高坏は二次的被熱の可能性が高い。

31の台付甗の内面底部には、炭化物（おこげ）が付着した状態であった。

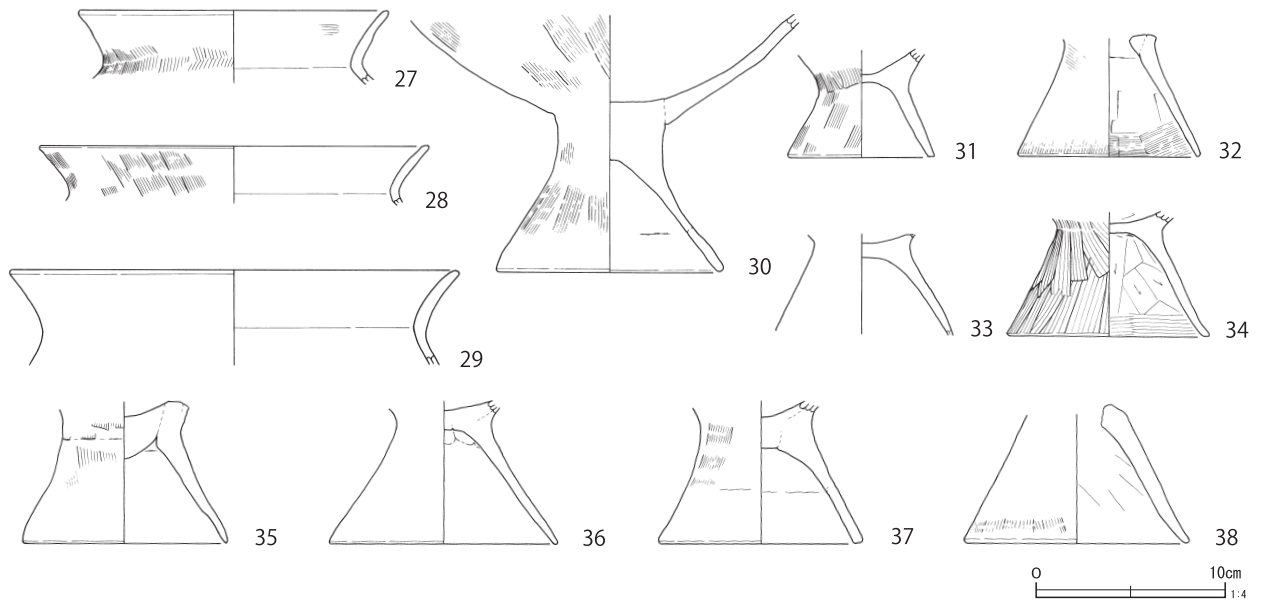
遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。



第387图 第3号性格不明遺構遺物出土状況



第388図 第3号性格不明遺構出土遺物（1）



第389図 第3号性格不明遺構出土遺物(2)

第88表 第3号性格不明遺構出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	SX3	C	土師器	埴	55	9.7	3.1	7.5	A D F G	普通	橙	No.19 口縁部内外面横ナデ 外面に黒斑あり 器面風化著しく調整不明
2	SX3	C	土師器	甑	95	18.3	4.8	9.3	A C D	普通	橙	No.12 口縁部内外面横ナデ 器面風化著しく調整不明瞭
3	SX3	C	土師器	埴	70	9.3		[8.2]	C E F I	不良	橙	No.15 器面風化著しく調整不明瞭 石英多
4	SX3	C	土師器	埴	50	11.3		[13.6]	C D F G	不良	橙	No.62・63・67 内面指頭圧痕あり 内外面風化著しく調整不明瞭 口縁部内面・外面赤彩
5	SX3	C	土師器	壺	70	12.2	7.2	24.3	A C D	普通	にぶい黄橙	No.11 胴部内面ヘラナデか 器面風化著しい
6	SX3	C	土師器	壺	80	(13.4)	7.9	25.3	A C D F	普通	淡黄	No.62 胴部内面・底部ヘラナデか 外面・口縁部内面赤彩 風化著しく調整不明瞭
7	SX3	C	土師器	埴	35	(9.8)		[3.0]	A C F	普通	明赤褐	No.70 器面風化著しく調整不明
8	SX3	C	土師器	埴	70		4.4	[2.3]	C D F G	普通	浅黄橙	No.25 内面ヘラナデか 外面赤彩 器面風化している
9	SX3	C	土師器	壺	65		(4.8)	[1.9]	A C D F G	普通	橙	No.103 内面ヘラナデか 器面風化著しい
10	SX3	C	土師器	壺	30		(6.8)	[2.6]	C F G	普通	灰白	SR19・34 内面・底部ヘラナデか 外面ハケ後ヘラナデか 器面風化著しく調整不明瞭
11	SX3	C	土師器	壺	50		8.0	[5.3]	A C D	普通	橙	No.12・71・72・84 器面風化著しく調整不明瞭
12	SX3	C	土師器	高坏	70			[5.6]	A C F	普通	赤	No.95 脚部内面ハケナデか
13	SX3	C	土師器	高坏	65			[5.2]	A C D G	普通	黄褐	No.16 穿孔3ヶ所 器面風化著しく調整不明瞭
14	SX3	C	土師器	器台	70		(9.3)	[3.5]	A C F	普通	にぶい赤褐	穿孔3ヶ所 風化している
15	SX3	C	土師器	高坏	40		(9.8)	[6.5]	C D	普通	明赤褐	No.70 脚部下位内外面横ナデ 脚部内面ヘラナデか 内面は著しく風化
16	SX3	C	土師器	高坏	75	(9.4)	6.8	7.3	A C F G	不良	橙	No.120 風化著しく調整不明
17	SX3	C	土師器	高坏	55	(21.4)		[9.8]	C F	普通	明赤褐	No.12・13・19・21・73 内外面摩滅著しい

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
18	SX3	C	土師器	高坏	90	19.1	9.5	11.1	A C E F	普通	にぶい 橙	No.90 脚部内面上位指頭圧痕あり 二次的 被熱か 内外面摩滅・風化著しく調整不明
19	SX3	C	土師器	小型壺	20	(9.2)		[6.5]	B C D G	普通	にぶい 赤褐	No.42・44 口縁部内外面横ナデ 体部内面 ヘラナデか 器面風化著しい
20	SX3	C	土師器	甕	25	(12.2)		[5.5]	A B C F G	普通	にぶい 褐	No.42 口縁部内外面横ナデ 肩部内面ヘラ ナデ 器面風化著しい
21	SX3	C	土師器	甕	25	(14.2)		[6.2]	C D F G	普通	灰褐	No.35 外面ハケ 口縁部内面ハケ 肩部内 面ヘラナデ 器面風化著しい
22	SX3	C	土師器	台付甕	95	9.4	6.1	14.0	A C F	普通	橙	No.110 口縁部内外面横ナデ 内面ヘラナ デか 脚部内面ヘラナデ 器面風化著しい
23	SX3	C	土師器	甕	20	(14.0)		[5.2]	A C	普通	にぶい 橙	No.27 肩部内面ヘラナデ 内面と外面のハ ケは別のモノを使用している 外面風化著 しい
24	SX3	C	土師器	甕	20	16.5		7.8	A C D G	普通	褐	No.13 口縁部内外面横ナデ 器面風化著し い
25	SX3	C	土師器	S字状 口縁付甕	20	(16.8)		[7.3]	A B C F G	普通	浅黄橙	No.88 SR19 口縁上部内外面横ナデ 胸 部内面指頭圧痕あり 器面風化著しい
26	SX3	C	土師器	甕	20	(18.2)		[5.6]	A C D G	普通	にぶい 黄橙	No.97 器面風化著しい
27	SX3	C	土師器	甕	20	(16.2)		[3.9]	A C	普通	灰黄褐	No.26・27 口縁部内外面横ナデ 肩部内 面ヘラナデか 器面風化著しく調整不明瞭
28	SX3	C	土師器	甕	20	(20.4)		[3.1]	A C	普通	橙	No.44 口縁部内外面横ナデ 肩部内面ヘラ ナデか 器面風化著しい
29	SX3	C	土師器	甕	20	(23.4)		[5.0]	A C F G	普通	浅黄橙	No.37 口縁部内外面横ナデ 肩部内面ヘラ ナデか 風化著しく調整不明瞭
30	SX3	C	土師器	台付甕	80		(11.8)	[13.6]	A C F	普通	にぶい 橙	No.68 内面ヘラナデか 器面剥離・風化著 しく調整不明瞭
31	SX3	C	土師器	台付甕	80		7.6	[5.7]	A C F	普通	にぶい 黄橙	No.5 内面・脚部内面ヘラナデか 外面被 熱により赤色化 内面底部炭化物(おこげ) 付着 器面風化著しい
32	SX3	C	土師器	台付甕	80		9.4	[6.2]	C D F G	普通	にぶい 黄橙	No.82 外面ハケ 脚部内面上中位ヘラナデ 下位ハケナデ 器面風化著しい
33	SX3	C	土師器	台付甕	90			[5.4]	A C D G	普通	にぶい 黄橙	No.33 全面風化著しく調整不明瞭
34	SX3	C	土師器	台付甕	90		10.6	[6.6]	A C D F G	普通	にぶい 黄橙	SR19・34
35	SX3	C	土師器	台付甕	70		(10.6)	[7.5]	C D E	普通	明赤褐	No.69 端部内外面横ナデ 脚部内面ヘラナ デ 器面風化著しい
36	SX3	C	土師器	台付甕	30		(11.9)	[7.6]	C D F	普通	橙	No.96 脚部内面上部指頭圧痕あり 内外面 摩滅・風化著しく調整不明瞭
37	SX3	C	土師器	台付甕	80		10.5	[7.5]	C D F	普通	にぶい 橙	No.32・33 脚部内面ヘラナデ
38	SX3	C	土師器	台付甕	25		(11.6)	[6.8]	C F	普通	にぶい 黄橙	No.115 内面ヘラナデ 端部内外面横ナデ 外面被熱により赤色化・同化著しい 内面 付着物(焼土か)あり

(11) 火葬墓跡

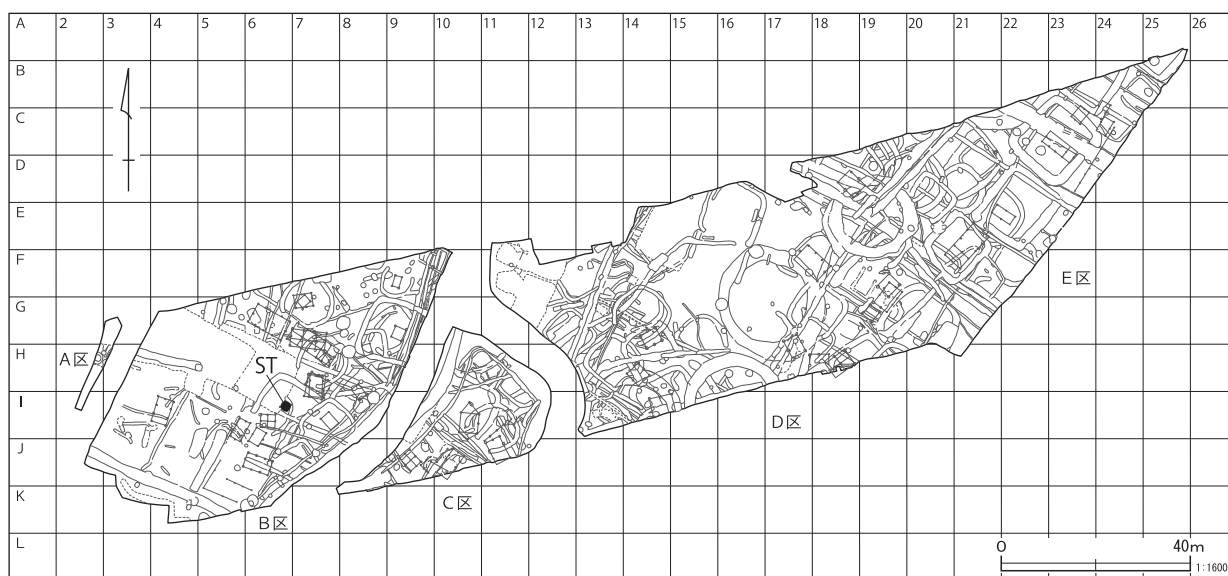
今回の調査で火葬墓跡が1基確認された。火葬墓と表現したが、火葬を行った後、骨は別の場所に納めるのであろうから、墓という語を用いるのは適切ではないかも知れないが、通例に従い火葬墓という語を用いた。

第1号火葬墓跡 (第391図)

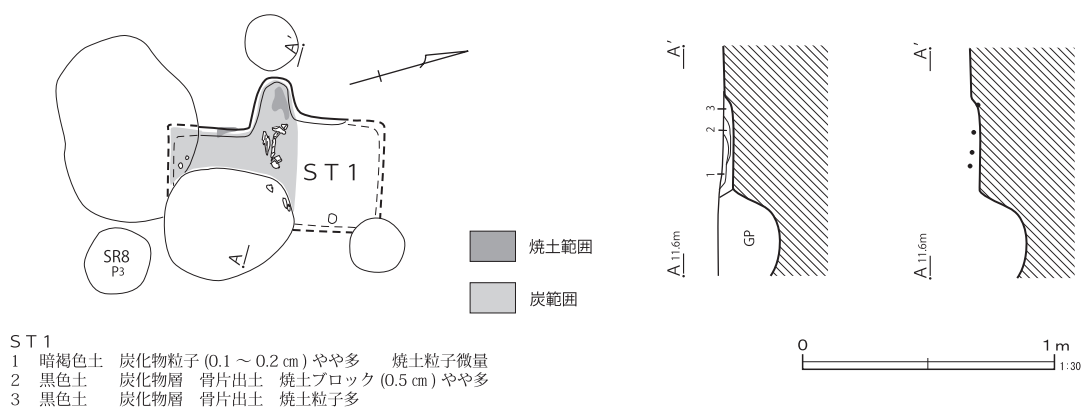
I-6グリッドに位置する。土層断面A-A'で重複しているピットより新しい。また、直接には重複してはいないが、第8・11号周溝状遺構よりも

新しいと推定される。平面形は焚口が楕円状に飛び出した長方形で、断面形は皿状である。

規模は、長軸は上場幅(85)cm、下場幅(81)cm、短軸は上場幅(46)cm、下場幅(41)cm、深さ3~5cm、焚口からの奥行き(60)cm、長軸方位はN-20°-E、焚口の方位N-70°-Wである。骨片が、少量出土している。遺構の時期は、中・近世と考えられる。



第390図 火葬墓跡位置図



第391図 第1号火葬墓跡

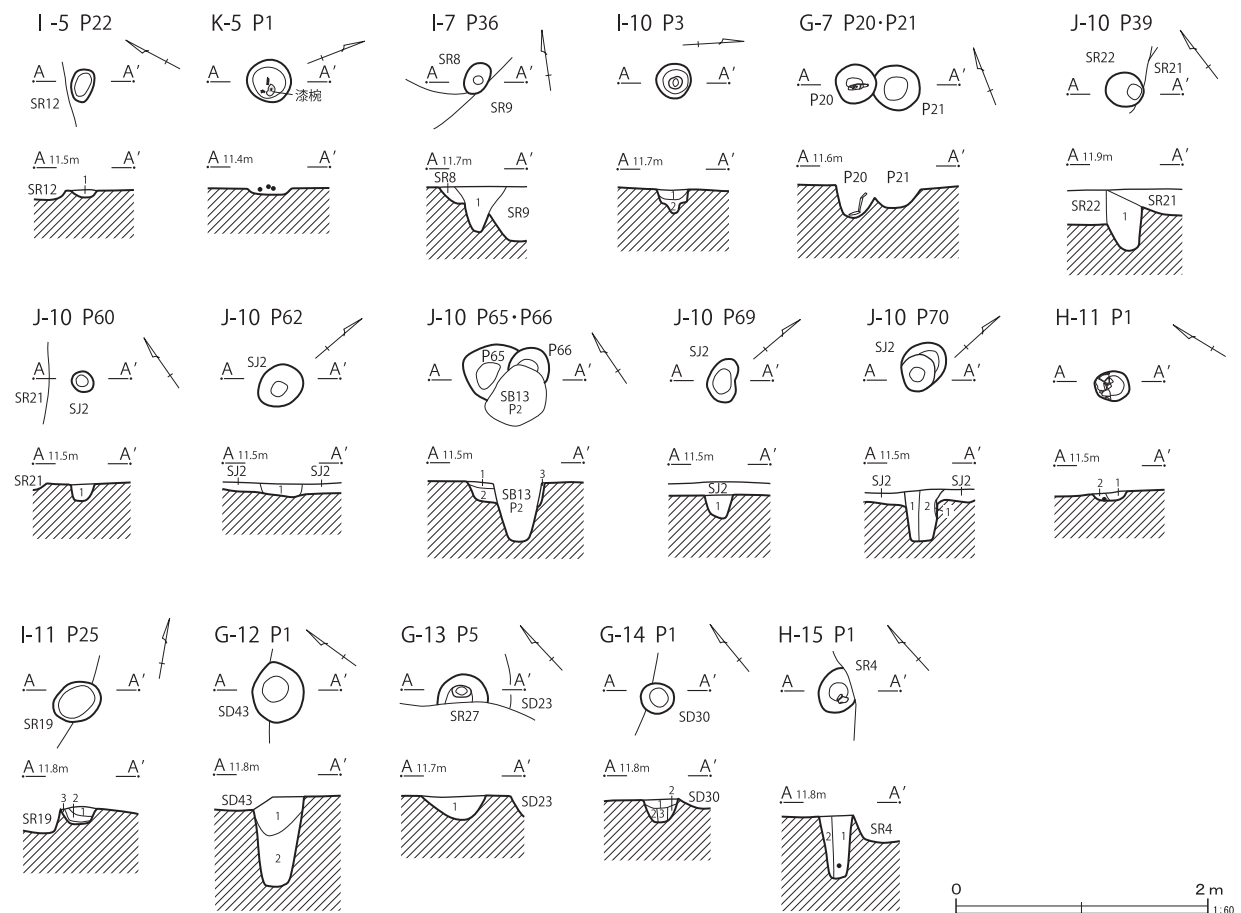
(12) グリッドピット

富田後遺跡では、多数のピットが検出された。ここに掲載するピットは、土層断面図があるものだけに限り、新たにエレベーション図は起こさなかった。

しかし遺物については、遺構図が掲載されてい

ないピットも含めて、図化の可能なものは、全点実測しここに掲載した。

ピットの中には、掘立柱建物跡の柱穴も含まれている可能性があるが、柱筋が整っていないものは、グリッドピットとして扱った。



I-5 P22
1 暗褐色土 褐色粘土ブロック多

I-7 P36
1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック少

I-10 P3
1 暗褐色土 褐色粘土粒子微量 柱痕跡
2 暗褐色土 褐色粘土ブロック・灰色粘土ブロック多

J-10 P39
1 黒褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック多

J-10 P60
1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子やや多

J-10 P62
1 黒褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック多

J-10 P65・P66
1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子少 酸化土やや多
2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック微量
3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック・褐色粘土粒子多 炭化物粒子微量 焼土粒子少 埋戻し土

J-10 P69・P70
1 黒褐色土 黄褐色土粒子多
2 黒褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック多
3 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック少

H-11 P1
1 黄灰色土 褐色土粒子少
2 暗褐色土 黄灰色土粒子少 埋戻し土か

I-11 P25
1 黒褐色土 黄褐色土ブロック・鉄分多
2 黒褐色土 黄褐色土粒子多
3 黒褐色土 黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子・鉄分多

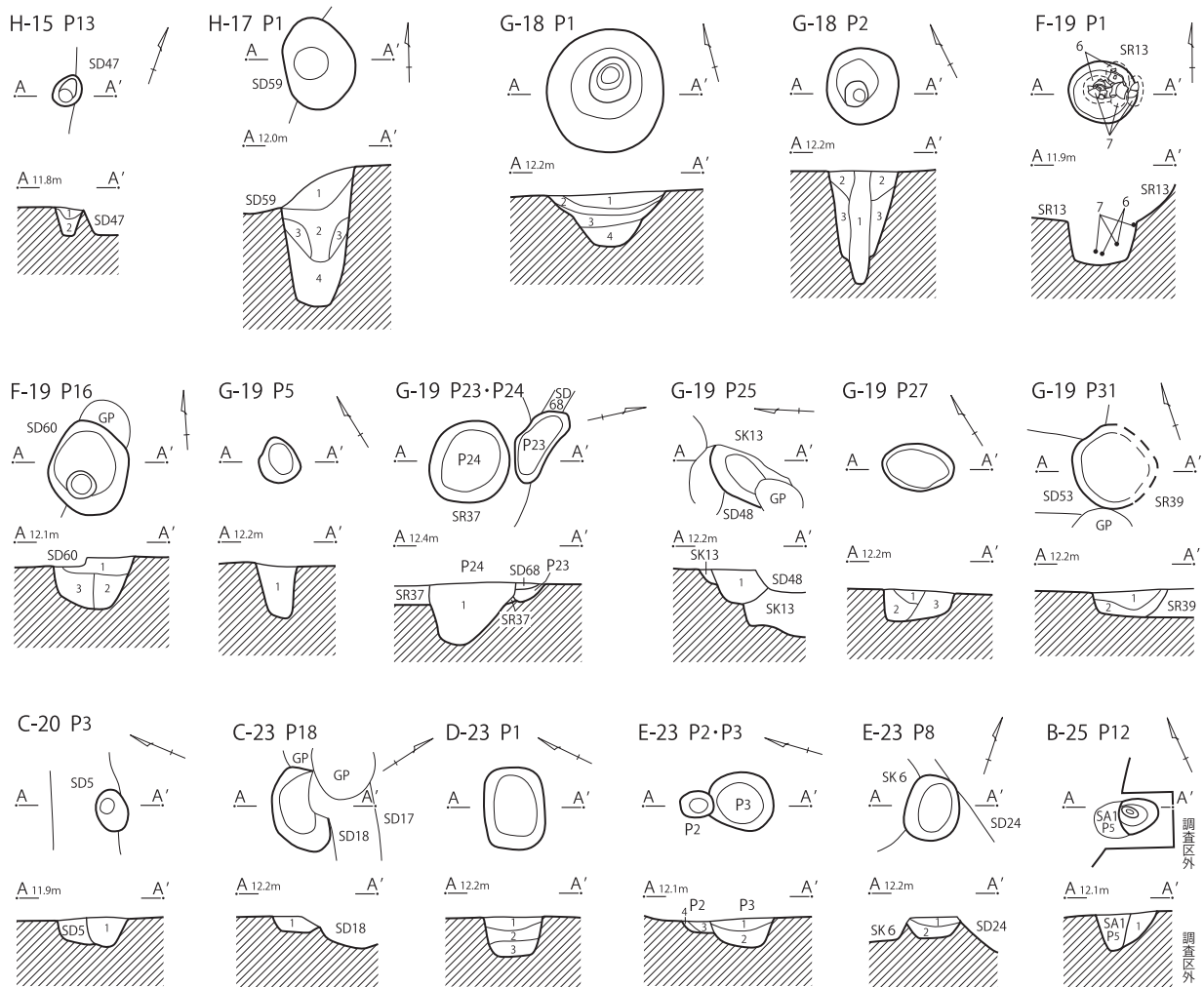
G-12 P1
1 黒灰色土 灰色粘土ブロック・鉄分やや多
2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子やや多

G-13 P5
1 黒灰色土 黄褐色粘土粒子・鉄分多

G-14 P1
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少
2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多
3 暗褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒子少 柱痕跡

H-15 P1
1 黒灰色土 黄褐色粘土ブロックやや多 鉄分粒子少 炭化物微量 柱痕跡
2 黒灰色土 黄褐色粘土粒子・褐色粘土粒子少

第392図 グリッドピット (1)



H-15 P13
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・鉄分多
 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子・鉄分多

H-17 P1
 1 暗褐色土 黄灰色粘土粒子微量
 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒子多 埋戻し土
 3 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック微量
 4 黒褐色土 黄褐色粘土ブロックやや多

G-18 P1
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子極多 黄褐色土ブロック微量 焼土粒子少
 2 暗褐色土 黄褐色土粒子多 焼土粒子少
 3 暗褐色土 黄褐色土粒子極多 黄褐色土ブロック多
 4 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック微量 埋戻し土か

G-18 P2
 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子少
 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒子多
 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック多

F-19 P16
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子多 焼土粒子少
 2 黒褐色土 黄褐色土粒子少 黄褐色土ブロック多
 柱痕跡
 3 暗褐色土 黄褐色土粒子極多 黄褐色土ブロック極多 埋戻し土

G-19 P5
 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック多

G-19 P24
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子多 黄褐色土ブロック少

G-19 P25
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック多

G-19 P27
 1 暗褐色土 灰黄褐色土ブロック少
 2 褐色土 灰黄褐色土ブロック多
 3 褐色土 灰黄褐色土ブロック多

G-19 P31
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック極多
 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック少

C-20 P3
 1 褐色土 鉄分粒子疎らに少

C-23 P18
 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子少

D-23 P1
 1 黒褐色土 黄褐色土粒子多 焼土粒子・炭化物少
 2 黒褐色土 黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子多
 焼土ブロック・焼土粒子・炭化物少
 3 黒褐色土 黄褐色土粒子多 焼土粒子・炭化物微量

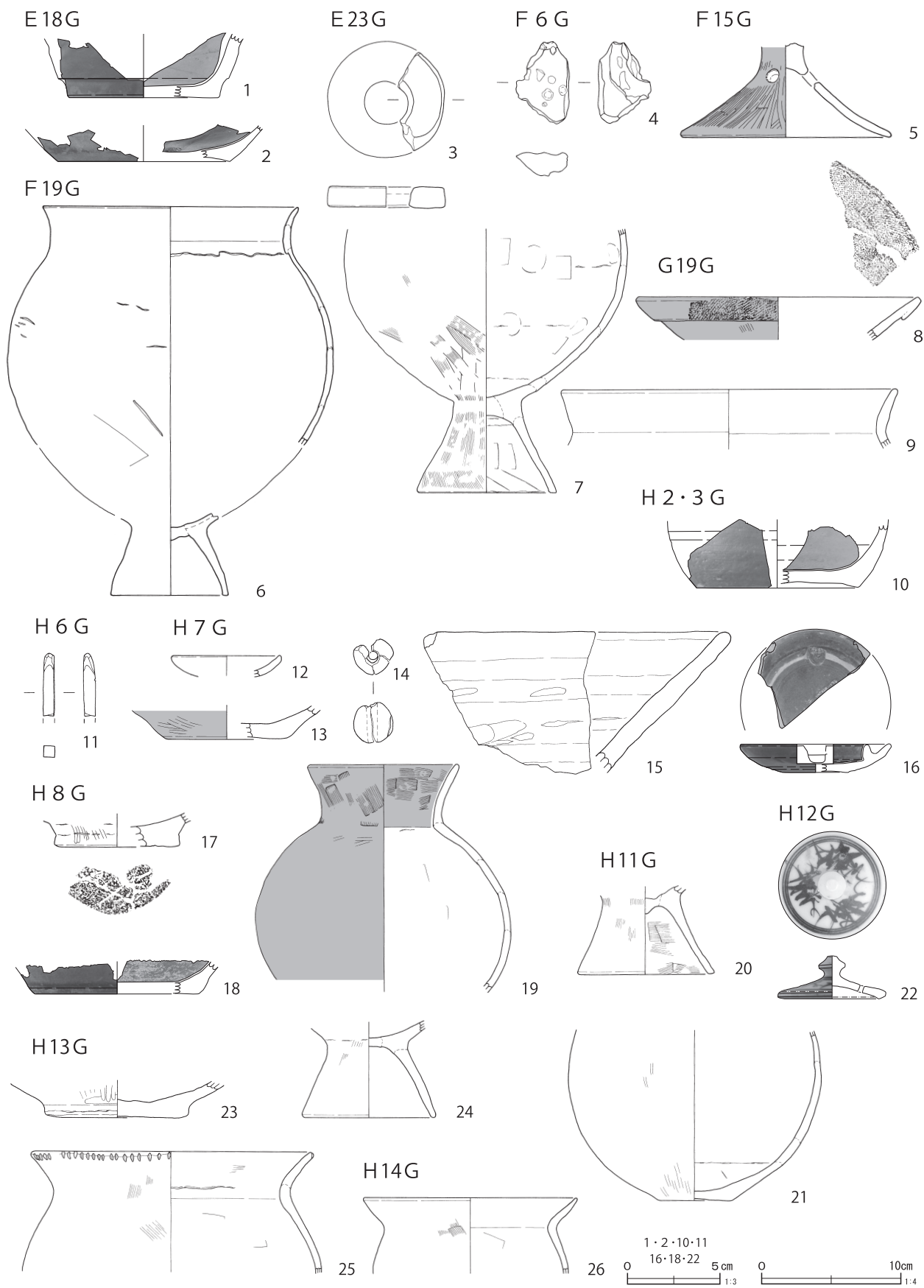
E-23 P2・P3
 1 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物ブロック疎らに少
 2 褐色土 黄褐色粘土粒子少
 3 褐色土 黄褐色粘土粒子多 焼土少
 4 暗褐色土 黄褐色粘土粒子少

E-23 P8
 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒子少
 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック多

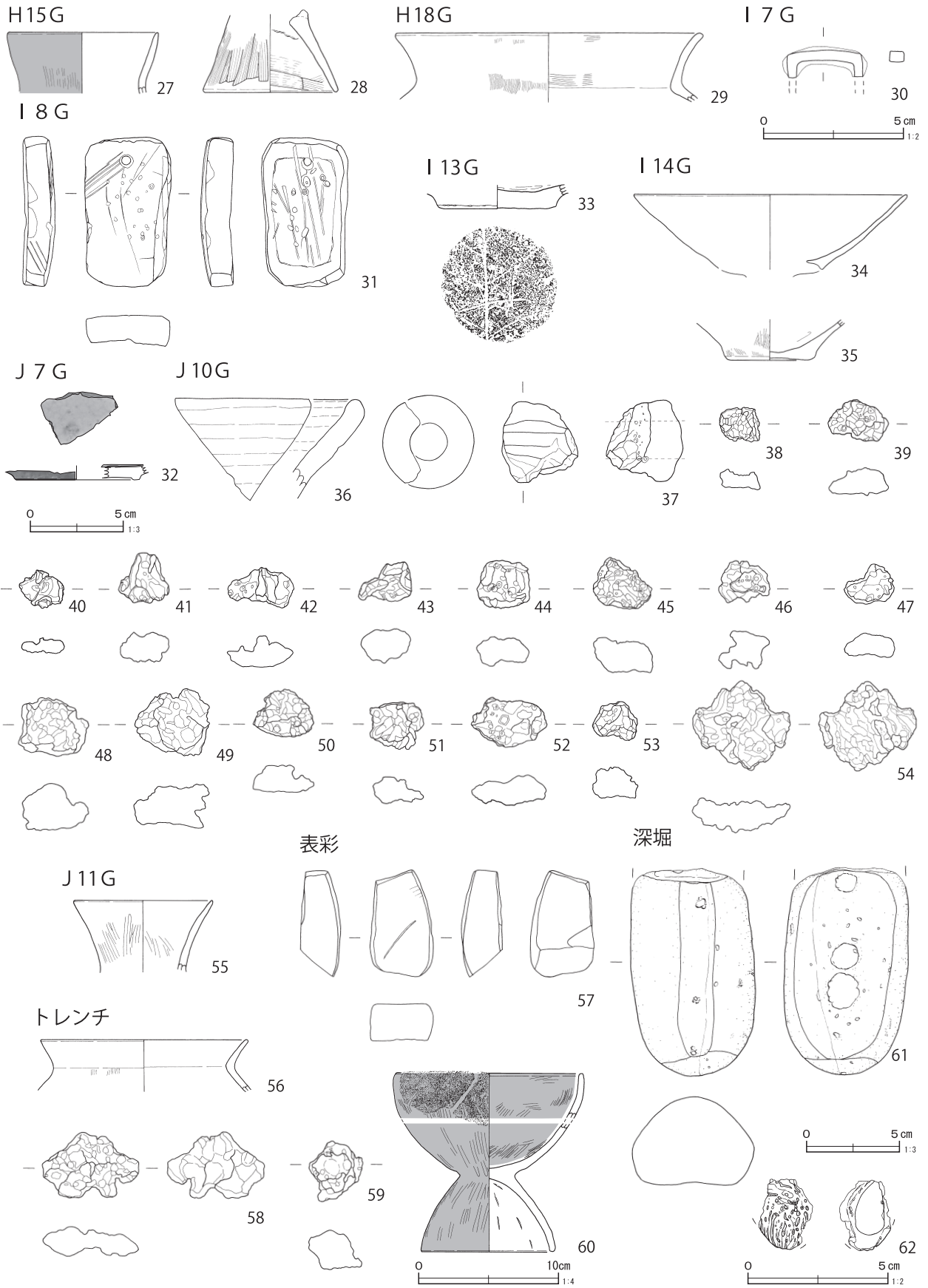
B-25 P12
 1 褐色土 黄褐色粘土ブロック多



第393図 グリッドピット (2)



第394図 グリッド出土遺物 (1)



第395図 グリッド出土遺物（2）

第89表 グリッド出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
1	E-18G	E	陶器	瓶か	10		(8.2)	[4.4]	A	良好	褐緻密	轆轤	外面鉄釉 底面鉄釉付着 底部胎土目あり 瀬戸・美濃系 18C代か
2	E-18G	E	陶器	土瓶	20		(9.4)	[2.0]	A	良好	灰白緻密	轆轤	内面鉄釉 外面無釉 外面煤付着 内面の釉に気泡あり 瀬戸・美濃系 18C後～19中葉か
3	E-23G	E	土製品	円環状土製品	30				A G	普通	灰		P-1 外径(6.2)cm 内径(2.3)cm 厚さ1.1cm 重さ[14.0]g
4	F-6G	B	鉄滓			長さ5.7cm 幅3.8cm 厚さ1.7cm 重さ52.9g							
5	F-15G	D	土師器	高坏	70		(14.9)	[6.5]	A D F	普通	にぶい橙		内面ヘラナデ 穿孔3ヶ所 外面赤彩
6	F-19G	E	土師器	台付甕	30	(18.2)	8.3	(28.0)	A C D F J	普通	にぶい橙		P-1 No.2・4 口縁部内外面横ナデか 外面ハケか 内面ヘラナデか 外面に黒斑あり 器面は風化著しく全体的に剥離しているため調整痕はみえない
7	F-19G	E	土師器	台付甕	45		9.8	[18.8]	A E F	普通	にぶい橙		P-1 No.1～3 外面ヘラナデとヘラ削りか 内面ヘラナデと指頭圧痕 器面風化している 外面は被熱のため赤色化している部分あり 外面に大黒斑あり
8	G-19G	D	土師器	壺	15	(20.0)		[3.1]	A F G	普通	浅黄橙		外面ヘラ磨き 外面赤彩
9	G-19G	D	土師器	甕	20	(24.0)		[4.3]	A C F	普通	にぶい黄橙		口縁部内外面横ナデか 器面風化著しい
10	H-2・3	A	陶器	瓶	15		(8.8)	[3.7]	A D G	普通	白灰緻密	轆轤	外面鉄釉 瀬戸・美濃系 底部静止糸切か 底面胎土目あり 18C後～19C中葉か
11	H-6G	B	石製品	不明		縦[3.3]cm 横0.6cm 厚さ0.65cm 重さ3.3g							滑石製 側面は極めて滑らか
12	H-7G	B	土師器	器台	15	(7.7)		[1.5]	A C D F	普通	灰黄褐		器面風化
13	H-7G	B	土師器	壺	25		(9.2)	[2.3]	A B C F	普通	灰白		P86 外面風化している 内面風化著しく調整不明瞭 外面赤彩
14	H-7G	B	土製品	土玉	80	径2.2×1.0cm 高さ2.2cm 孔径0.4～0.6cm 重さ6.2g							
15	H-7G	B	陶器	鉢	5			[7.5]	A C J	普通	灰白		表採
16	H-7G	B	陶器	灯明皿	20	(8.0)	(3.5)	1.5	A	良好	灰白	轆轤	内外面錆釉 底部静止糸切り 胴部外面に輪トチ跡付着 油溝半月状 瀬戸・美濃系 18C後～19C中葉
17	H-8G	B	土師器	壺	25		(9.0)	[2.4]	E F	普通	にぶい橙		No.2 底部木葉痕あり 器面風化
18	H-8G	B	陶器	瓶か	5		(8.8)	[1.7]	A	普通	褐灰	轆轤	外面灰釉か 貫入多 内面雑な施釉で無釉部が点・線状に多数あり鉄漿か 底部手持ち削り 瀬戸・美濃系 18C後葉～19C中葉か
19	H-8G	B	土師器	壺	60	(10.5)		[6.3]	A C D F	普通	黄褐		No.3 口縁上部ハケ後横ナデ 胴部外面ヘラ磨き 胴部内面ヘラナデ 外面・口縁部内面赤彩 器面風化著しい
20	H-11G	C	土師器	台付甕	95		9.0	[6.3]	A C D G	普通	橙		表採 内面ハケ 外面ハケか 器面風化著しい
21	H-11G	C	土師器	壺	60		5.2	[12.1]	A C D F G	普通	にぶい橙		外面磨きが施されていた 内面ヘラナデ風化・摩滅著しい
22	H-12G	D	磁器	蓋	100	5.8		2.3	G	良好	灰白緻密	轆轤	内外面透明釉 胴表面草文 呉須 筆描き 瀬戸・美濃系 19C代
23	H-13G	D	土師器	甕	35		(10.2)	[2.6]	C D	普通	にぶい黄橙		胴部外面ヘラ磨きとヘラナデ 底部外面に黒斑
24	H-13G	D	土師器	台付甕	55		(9.3)	[6.9]	A C D F	普通	赤褐		外面ハケ 底部内面・脚部内面ヘラナデ 内外面風化著しく調整不明瞭
25	H-13G	D	土師器	壺	20	(20.0)		[8.5]	A C F G	普通	浅黄橙		口縁部内外面横ナデ 胴部内面ヘラナデか 器面風化著しい 胴部外面黒斑あり
26	H-14G	D	土師器	甕	10	(15.2)		[5.4]	A C D F	普通	淡黄		口縁部内外面横ナデ 器面風化著しい 内面に黒斑あり
27	H-15G	D	土師器	埴	10	(10.9)		[4.4]	A C D J	普通	にぶい黄橙		外面ヘラ磨き 内面ヘラ磨きか 器面風化著しい 外面赤彩
28	H-15G	D	土師器	台付甕	55		9.5	[5.5]	A C	普通	にぶい橙		外面ハケ 脚部内面ハケとナデ
29	H-18G	D	土師器	甕	20	(21.5)		[4.9]	A C D F	普通	明赤褐		口縁部内外面横ナデか 器面風化著しい

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
30	I-7G	B	鉄製品	鋳か		長さ2.6cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 重さ2.4g							錆化著しい
31	I-8G	B	石製品	温石		縦7.9cm 横4.6cm 厚さ1.6cm 重さ105.9g							滑石製 石鍋片を転用か 全面大雑把な面取り 砥石としても使用か 凸面(石鍋外面)は被熱のため一部赤色化
32	J-7G	B	陶器	皿	5		(6.6)	[0.8]	A	普通	浅黄	轆轤	表採 内外面・畳付・高台内の一部長石釉あり 削出し高台 見込みトチ跡・畳付胎土目・高台内輪トチ跡あり 貫入・気泡多 瀬戸・美濃系 志野 16C末～17C初
33	I-13G	D	土師器	壺	80		8.3	[1.7]	C D F	普通	橙		内面指ナデとヘラナデ 底部木葉痕あり
34	I-14G	D	土師器	高坏	20	(19.6)		[5.3]	A B F G	普通	橙		器面風化著しい
35	I-14G	D	土師器	壺	70		5.7	[2.9]	A C F	普通	にぶい橙		外面ハケ後ヘラ磨き 内面・底部ヘラナデ
36	J-10G	B	瓦質土器	鉢	5			[7.1]	B C F J	普通	にぶい黄橙		No.15
37	J-10G	C	土製品	羽口		長さ5.5cm 外径(6.6)cm 内径(2.6)cm 重さ58.3g							No.18 外面溶解による気泡あり 内面被熱により赤色化
38	J-10G	C	鉄滓			縦2.4cm 横2.8cm 厚さ1.4cm 重さ9.3g							No.23
39	J-10G	C	鉄滓			縦2.8cm 横4.3cm 厚さ1.9cm 重さ23.4g							No.1
40	J-10G	C	鉄滓			縦2.6cm 横3.1cm 厚さ1.1cm 重さ9.3g							No.50
41	J-10G	C	鉄滓			縦3.5cm 横3.5cm 厚さ2.6cm 重さ19.3g							No.36
42	J-10G	C	鉄滓			縦2.8cm 横4.7cm 厚さ2.2cm 重さ25.5g							No.50
43	J-10G	C	鉄滓			縦2.6cm 横3.6cm 厚さ2.3cm 重さ17.8g							No.9
44	J-10G	C	鉄滓			縦3.3cm 横3.7cm 厚さ2.0cm 重さ14.5g							
45	J-10G	C	鉄滓			縦3.4cm 横4.2cm 厚さ2.3cm 重さ35.5g							No.31
46	J-10G	C	鉄滓			縦2.9cm 横3.6cm 厚さ2.6cm 重さ20.3g							No.24
47	J-10G	C	鉄滓			縦2.6cm 横3.5cm 厚さ1.5cm 重さ16.9g							No.7
48	J-10G	C	鉄滓			縦3.9cm 横4.7cm 厚さ3.3cm 重さ65.6g							
49	J-10G	C	鉄滓			縦4.7cm 横5.4cm 厚さ3.1cm 重さ93.8g							
50	J-10G	C	鉄滓			縦3.4cm 横4.3cm 厚さ1.9cm 重さ43.0g							No.11
51	J-10G	C	鉄滓			縦3.3cm 横3.8cm 厚さ1.9cm 重さ32.6g							No.26
52	J-10G	C	鉄滓			縦3.5cm 横5.4cm 厚さ2.1cm 重さ41.8g							No.50
53	J-10G	C	鉄滓			縦2.7cm 横3.2cm 厚さ2.2cm 重さ23.3g							No.2
54	J-10G	C	鉄滓			縦6.3cm 横7.0cm 厚さ2.4cm 重さ76.4g							No.27
55	J-11G	C	土師器	壺	15	(9.8)		[5.1]	A D E F	普通	明赤褐		外面ヘラミガキ 器面摩滅している
56		D	土師器	甕	20	(14.6)		[3.6]	A C	普通	明黄褐		西側トレンチ 口縁部内外面横ナデか 器面風化著しい
57	表採	B	石製品	砥石か		長さ5.7cm 幅3.3cm 厚さ2.0cm 重さ62.8g							泥岩か
58	表採	C	鉄滓			縦4.1cm 横6.9cm 厚さ2.0cm 重さ54.8g							
59	表採	C	鉄滓			縦4.3cm 横3.8cm 厚さ2.8cm 重さ50.9g							
60	表彩	E	土師器	高坏	75	(13.4)	9.5	[12.4]	A C D F J	普通	赤褐		口縁外面縄文 内外面ヘラ磨き 外面・坏部内面赤彩
61	深堀	E	石製品	敲石		長さ[10.9]cm 幅6.5cm 厚さ4.6cm 重さ512.6g							花崗岩製 敲打のためか少し傷んでいる
62	G-5G	B	種子			長さ[2.5]cm 幅[1.88]cm 厚さ[0.8]cm							

(13) 自然科学分析 (樹種同定)

富田後遺跡からは、点数は多くないものの木製品が出土した。当時の植生や木材利用の在り方を知るべく、独立行政法人森林総合研究所の能城修

富田後遺跡出土木材の樹種

富田後遺跡から出土した中世の井戸杵と近世前期の曲物やその他製品、および古墳前期の椅子の23点の樹種を報告する。樹種同定は、木取りの観察後、遺物から片刃カミソリをもちいて横断面、接線断面、放射断面の切片を切り取り、それをガムクロラール(抱水クロラール50g、アラビアゴム粉末40g、グリセリン20ml、蒸留水50mlの混合物)で封入しておこなった。各プレパラートにはST2-1332~1339およびST2-1364~1383の番号を付して標本番号とした。ただし報告するのはこのうち図化されたもののみである。また2点のプレパラート標本には複数の樹種が見いだされたため、その標本は除外する。試料21点中には針葉樹3分類群と広葉樹5分類群が見いだされた(表1)。以下には各分類群の木材解剖学的な記載をおこない、代表的な標本の光学顕微鏡写真を載せて同定の根拠を示す。

1. カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 図1: 1a-1c (枝・幹材、ST2-1365)

樹脂道も樹脂細胞も欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材は量が少ない。仮道管の内壁には2本ずつまとまって斜めに走るらせん肥厚をもつ。放射組織は柔細胞のみからなる。

2. スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don ヒノキ科 図1: 2a-2c (枝・幹材、ST2-1364)

樹脂道を欠く針葉樹材。早材は薄壁で径の大きい仮道管からなり、早材から晩材への移行はやや急で、晩材は明瞭。早材の終わりから晩材に樹脂

一氏に樹種同定を委託した。以下は、その分析結果である。

能城修一 (森林総合研究所木材特性研究領域)

細胞が散在する。分野壁孔は孔口が水平にちかく開く大型のスギ型で1分野に2個。

3. ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endヒノキ科 図1: 3a-3c (枝・幹材、ST2-1369)

樹脂道を欠く針葉樹材。早材はやや厚壁の仮道管からなり、早材から晩材への移行は緩やかで晩材は量が少ない。早材の終わりから晩材に樹脂細胞が散在する。分野壁孔は孔口が垂直~斜めに開く中型のトウヒ型~ヒノキ型で1分野に2個。

4. クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図1: 4a-4c (枝・幹材、ST2-1332)

小型で丸い道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合して密に散在し、それを放射方向に幅のひろい放射組織が縦断する放射孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で3~4細胞幅となり、ときに大型の集合状となる。

5. クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図1: 5a-5c (枝・幹材、ST2-1382)

ごく大型で丸い孤立道管が年輪のはじめに1~3列ほど配列し、晩材では小型で薄壁の孤立道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性。

6. コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図1, 2: 6a-6b (枝・幹材、ST2-1340)

大型で丸い孤立道管が年輪のはじめにほぼ1列に配列し、晩材ではすぐ小型化した小型で薄壁の孤立道管が火炎状~放射状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、単列の小型

のものとして大型で複合状のものとなる。

7. コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図2: 7 a, 7 c (枝・幹材, ST2-1366)

中型で丸い厚壁の孤立道管が放射方向にのびる列をなす放射孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織はいびつで狭い帯状で、しばしば大型の結晶をもつ。放射組織は同性で、単列の小型のものとして大型で複合状のものとなる。

8. ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図2: 8 a-8 c (枝・幹材, ST2-1375)

年輪のはじめに大型の孤立道管が1列に配列し、晩材ではすぐ小型化した薄壁の道管が多数集合して斜め～接線方向に連なる塊をなす環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は上下端の1列が直立する異性で6～8細胞幅くらい、しばしば上下端には大型の結晶をもつ。

中世の井戸枠にクリが、近世前期(か)の曲物にスギとヒノキが多用されている(表1)。それ以外は検討点数が1点ずつであり、樹種選択を論じることが困難である。

表1 富田後遺跡出土木材樹種同定試料

試料番号	prep no.	樹種	図版番号	調査区	遺構	器種	木取り	時期	備考
1	ST2-1332	クマシデ属イヌシデ節	322図19	B	SE35	建築材	芯持丸木	近世前期か	
2	ST2-1333	スギ・エノキ属	321図9	B	SE9	へら状木製品	芯なし削り出し	中世	
3	ST2-1334	コナラ属アカガシ亜属	321図8	B	SE9	半球状木製品	芯なし削り出し	中世	
4	ST2-1335	スギ	323図20	C	SE39	椅子	芯なし削り出し	古墳前期	
5	ST2-1336	コナラ属コナラ節		D	15GP1	柱根	芯持丸木		
6	ST2-1337	コナラ属コナラ節		D	15GP1	柱根	芯持丸木		
7	ST2-1338	コナラ属コナラ節	392図3	B	SD47	さや状木製品	芯なし削り出し	近世前期か	
8	ST2-1339	スギ	322図16	B	SE33	板状木製品	板目	近世前期か	転用材
9	ST2-1340	コナラ属コナラ節		D	SE19	柱材	芯持丸木	中世	
10	ST2-1364	スギ	321図2	B	SE2	底板	柾目		
11	ST2-1365	カヤ	321図1	B	SE2	不明品	板目		
12	ST2-1366	コナラ属アカガシ亜属	321図7	B	SE9	不明品	追柾目	中世	穿孔2箇所
13	ST2-1367	ヒノキ	322図18	B	SE35	側板	柾目	近世前期か	
14	ST2-1368	ヒノキ	322図18	B	SE35	底板	柾目	近世前期か	
15	ST2-1369	ヒノキ	322図17	B	SE35	底板	柾目	近世前期か	
16	ST2-1370	ヒノキ	322図17	B	SE35	側板	柾目	近世前期か	
17	ST2-1371	ヒノキ	392図1	B	SD47	底板	柾目	近世前期か	
18	ST2-1372	ヒノキ	392図1	B	SD47	側板	柾目	近世前期か	
19	ST2-1373	ヒノキ		E	SE6	側板	柾目	平安～中世	
20	ST2-1374	スギ	392図2	B	SD47	底板	柾目	近世前期か	
21	ST2-1375	ケヤキ	323図22	E	SE17	漆碗	横木取り	近世前期か	内外面黒漆
22	ST2-1376	クリ	322図15	B	SE9	井戸枠	みかん割り	中世	
23	ST2-1377	クリ	322図10	B	SE9	井戸枠	みかん割り	中世	
24	ST2-1378	クリ	322図12	B	SE9	井戸枠	半割	中世	
25	ST2-1379	モミ属		D	SE1	杭	芯持丸木	五領	炭化
26	ST2-1380	クリ		B	SE9	井戸枠の部品	割材	中世	
27	ST2-1381	ヒノキ	321図11	B	SE9	井戸枠 鴨居	板目	中世	転用材
28	ST2-1382	クリ	321図13	B	SE9	井戸枠	半割	中世	転用材
29	ST2-1383	クリ	321図14	B	SE9	井戸枠	みかん割り	中世	

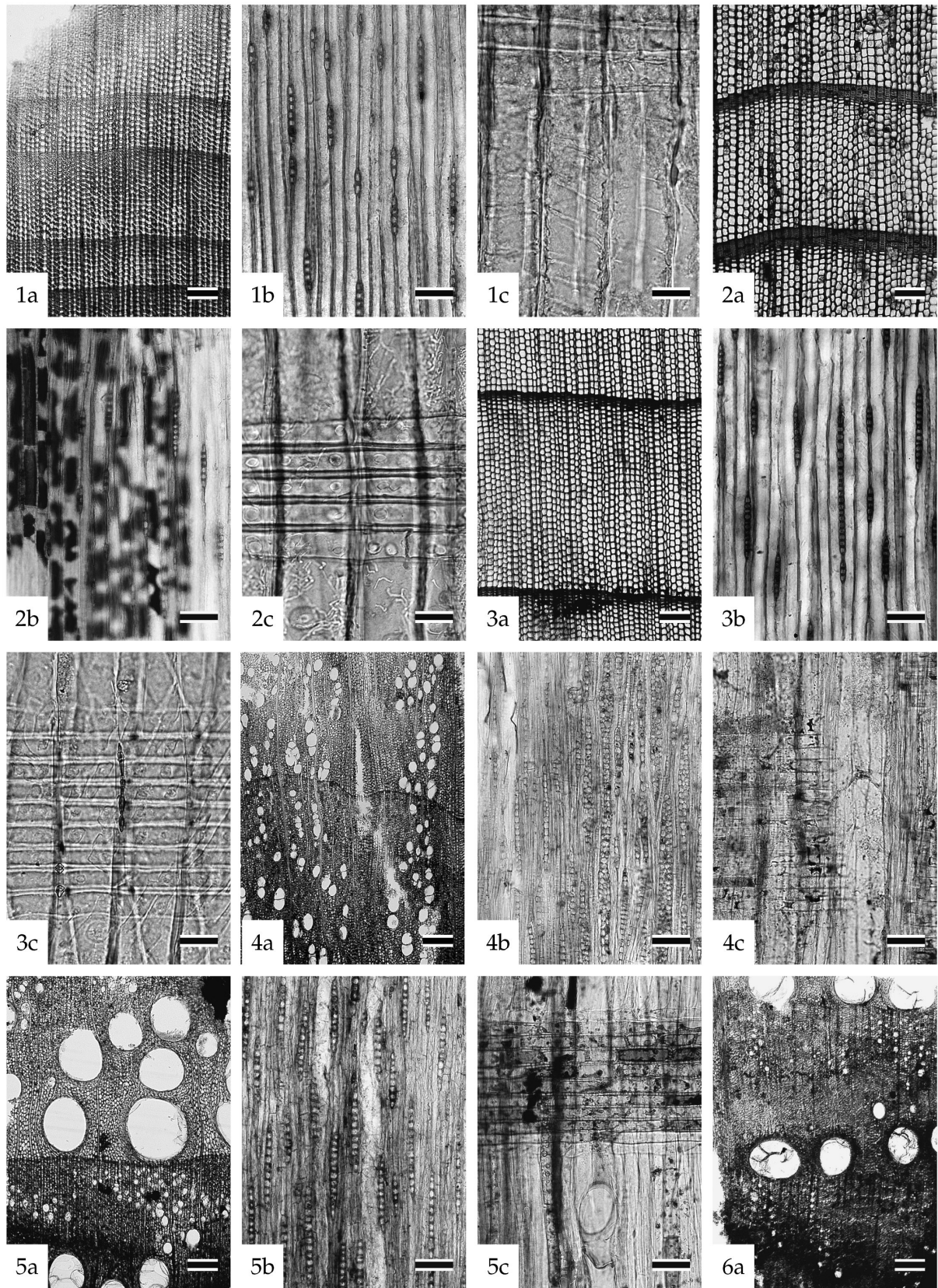


図1 富田後遺跡出土木材の顕微鏡写真(1)

1a-1c: カヤ(枝・幹材, ST2-1365), 2a-2c: スギ(枝・幹材, ST2-1364), 3a-3c: ヒノキ(枝・幹材, ST2-1369), 4a-4c: クマシデ属イヌシデ節(枝・幹材, ST2-1332), 5a-5c: クリ(枝・幹材, ST2-1382), 6a: コナラ属コナラ節(枝・幹材, ST2-1340). a: 横断面(スケール=200 μ m), b: 接線断面(スケール=100 μ m), c: 放射断面(スケール=25 μ m(1c, 2c, 3c), 50 μ m(4c, 5c)).

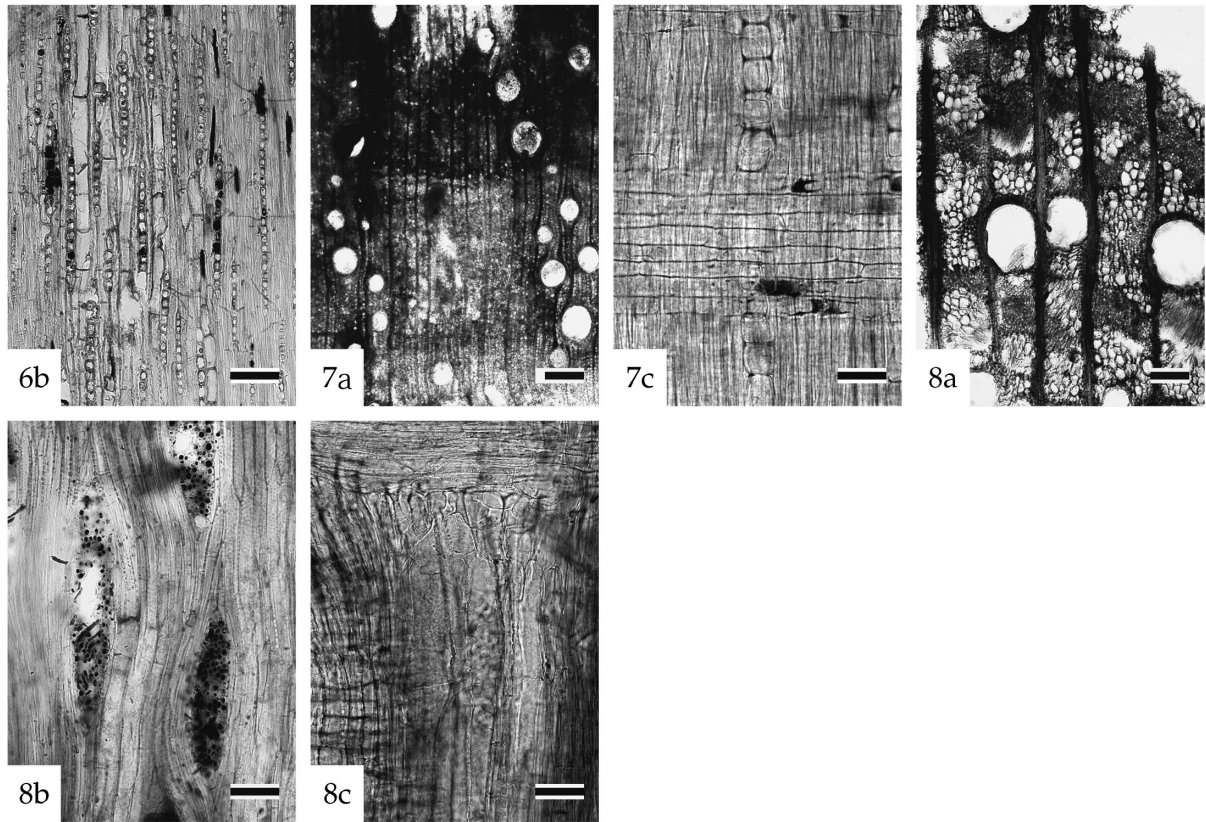


図2 富田後遺跡出土木材の顕微鏡写真(2)

6b: コナラ属コナラ節(枝・幹材, ST2-1340), 7a, 7c: コナラ属アカガシ亜属(枝・幹材, ST2-1366), 8a-8c: ケヤキ(枝・幹材, ST2-1375). a: 横断面(スケール=200 μ m), b: 接線断面(スケール=100 μ m), c: 放射断面(スケール=50 μ m).

表2 富田後遺跡出土木材の樹種

樹種名	古墳前期 椅子	中世		近世前期?				総計
		井戸枠	他製品	建築材	曲物	不明	漆椀	
カヤ						1		1
スギ	1		1		2			4
ヒノキ		1			6			7
クマシデ属イヌシデ節				1				1
クリ		5						5
コナラ属コナラ節							1	1
コナラ属アカガシ亜属						1		1
ケヤキ							1	1
総計	1	6	1	1	8	2	1	21

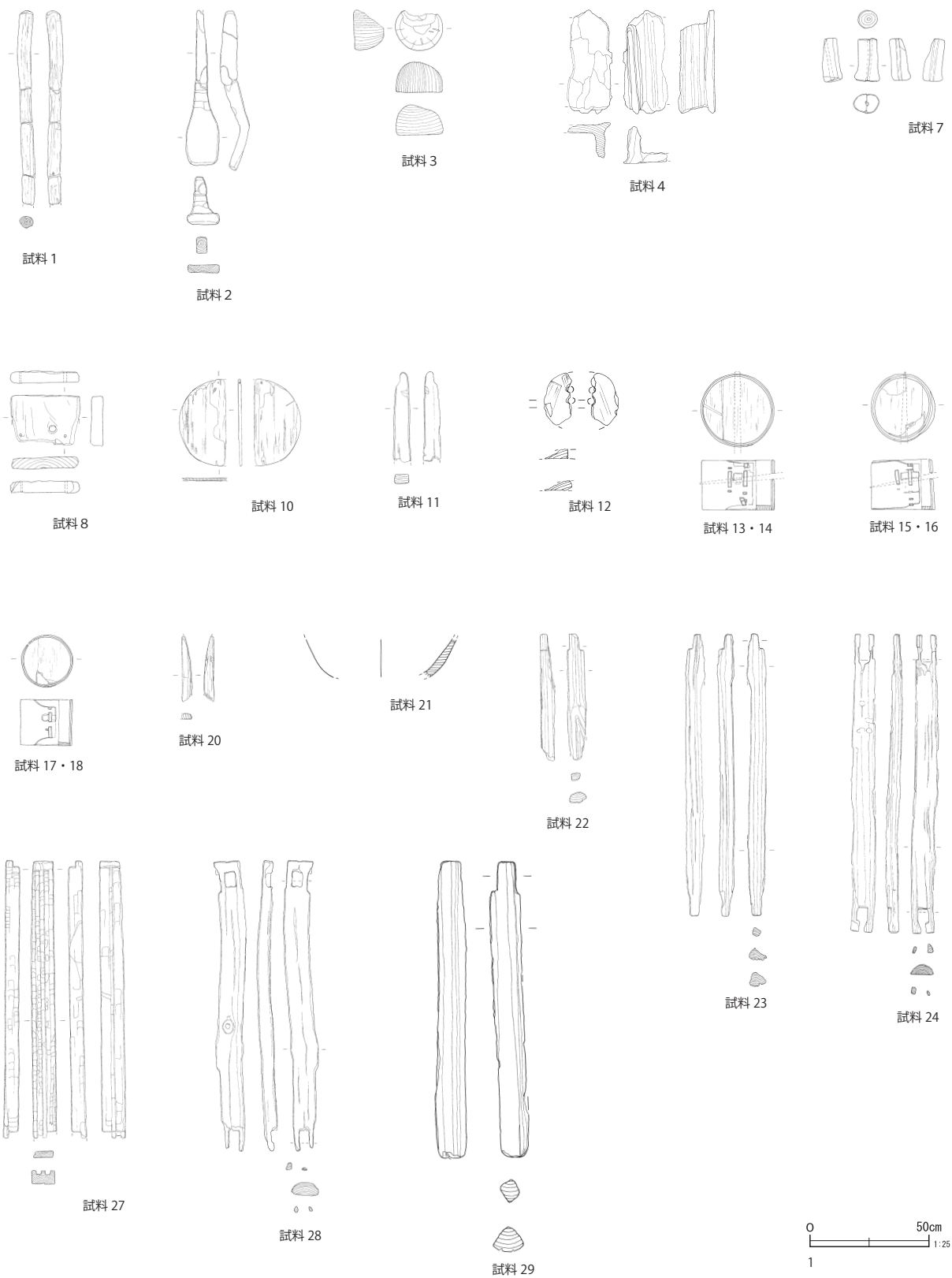


図3 樹種同定試料

V 調査のまとめ

1. 調査の成果

富田後遺跡第1・2次調査では、縄文時代の土壇5基、古墳時代前期の住居跡4軒、周溝状遺構96基、方形周溝墓7基、掘立柱建物跡6棟、井戸跡28基、土壇21基、溝跡24条、性格不明遺構1基、古墳時代後期の古墳跡6基、井戸跡1基、中・近世以前の掘立柱建物跡4棟、土壇2基、井戸跡3基、溝跡1条、中・近世の掘立柱建物跡25棟、井戸跡36基、溝跡45条、土壇4基、柵列跡7基、性格不明遺構1基、火葬墓跡1基、これらの他に、時期の特定できない井戸跡27基、土壇75基、溝跡146条、性格不明遺構1基などを検出した。

富田後遺跡は、比企郡川島町内の荒川低地に形成された自然堤防上に立地する遺跡である。縄文時代については、町内では、本遺跡とは別の自然堤防上に東野遺跡(前期)、平沼一丁田遺跡(中期)が知られており、各々の遺跡が存在する自然堤防の形成時期がどこまで遡るかが判明した。富田後遺跡の調査でも、少数ではあるが縄文時代後期の遺構が検出されたことにより、本遺跡が立地する自然堤防は、この時期には形成されていたことが判明した。ちなみに、旧流路を挟んだ対岸の自然堤防上に立地する元宿遺跡でも後期の土壇が検出されており、こちらについても、縄文時代後期には形成されていたことが既に判明している。

弥生時代については、元宿遺跡と、本遺跡が存在する自然堤防上の村並遺跡から、中期の土器が僅かに出土しているのみで、本遺跡でも確認されておらず、既期の状況は現状においては詳らかではない。

富田後遺跡の存在する自然堤防上に本格的に人の手が加わるのは、古墳時代前期であることが竪穴住居跡や多数の周溝状遺構などの発見によって証明された。

富田後遺跡は、遺構数が多く密度も高いことか

ら、この時期の拠点集落と推測される。

特に、周溝状遺構の数の多さと密度は、県内戸田市の鍛冶谷・新田口遺跡や都内北区の豊島馬場遺跡と並ぶ、関東有数の遺跡といえる。但し、鍛冶谷・新田口遺跡の調査の段階(昭和57~59年度)では「周溝状遺構」という遺構の概念はなく、平面形の類似した「方形周溝墓」との認識のもと、調査が行われた。しかし、比較的小規模で平面形が不整形、激しく重複していること、埋め戻しが行われている等の要素を基に観察してみると、周溝状遺構が多数含まれている可能性がある(「方形周溝墓」としての報告例は97基)。豊島馬場遺跡の調査(平成7・9年度)の段階でも、類似の遺構は「方形周溝墓」との認識で調査が行われたが、報告書刊行の段階で「周溝状遺構」との見解を示した(全150基)。

この時期の居住施設として、竪穴住居(SJ)・掘立柱建物(SB)・周溝状遺構(SR)がある。町内遺跡における検出遺構数を列挙すると、白井沼：SJ7・SB1・SR10、平沼一丁田：SJ0・SB2・SR3、元宿：SJ17・SB10・SR11、富田後遺跡：SJ4・SB6・SR96となり、周溝状遺構の比率の高さが目立つ。

周溝状遺構は、自然堤防上の遺跡に特徴的な形態であるが、自然堤防上の大集落で、本遺跡の西約8kmに位置する反町遺跡(東松山市)では、周溝状遺構は1例も確認されておらず、北島遺跡(熊谷市)では1例が確認されたに過ぎない。つまり、これらの集落では、周溝状遺構という形態は、選択されなかったことになる。居住施設として上記の3つの選択肢があり、どのような理由を選択したのか。また、ほぼ同じ立地条件下にある同一遺跡内で、なぜ各選択肢が混在するのか。本遺跡の調査結果は、この課題を検討するうえで、良好な

資料を提供したといえる。

本遺跡の古墳時代前期のもうひとつの特徴は、井戸廃絶の際に井戸内に土器を納めたと推定される例が多く、比率も高い(28基中10ないし11例)ことである。この点に関しては他に検出例が少なく、好資料が得られたといえる。

ちなみに、土器を納めた古墳時代前期の井戸跡が確認されている例としては、前出の鍛冶谷・新田口遺跡(26基中2例)・豊島馬場遺跡(82基中5例)のほか、熊谷市下田町遺跡(86基中1例)・都内荒川区町屋四丁目実揚遺跡(16基中4例)などが挙げられる。

後期の古墳からは、大型古墳に樹立されるに相応しい大型の円筒埴輪が出土し、この地における

当時の政治的位置を考える好資料となった。

古墳時代後期の古墳が築造された(6世紀前葉～中葉)後、時期的に空白、もしくは集落が縮小したと考えられる。

平安時代(8～9世紀)に入ると、ごく僅かではあるが、掘立柱建物・井戸・溝等が造られはじめる。そして、これらと同時期と推測される遺物も少数ながら出土している。これらの点から、古墳時代後期以降、縮小した集落はやや拡大したと考えられる。

中・近世にはいると、遺構数・遺物量はやや増加するが、近隣の元宿遺跡(掘立柱建物跡32棟・井戸跡74基・土壇225基・溝跡140条)には及ばず、その違いが問題点として浮かび上がってきた。

2. 縄文時代の富田後遺跡と川島町の自然堤防

(1) 縄文時代の富田後遺跡

今回の調査の結果、富田後遺跡では縄文時代後期の遺構や遺物が検出された。ここでは、富田後遺跡の縄文時代についてまとめていくこととする。

富田後遺跡から検出された遺構は、土壇が5基である(第21図)。土壇は、縄文時代以降の遺構に一部が壊されており、全容が把握できるものはなかった。このことから、調査区内には他にも縄文時代の遺構が存在していた可能性が考えられる。

帯状に展開する調査区内における縄文時代の遺構の分布は、第396図に見られるように、C区からE区にかけて検出されており、A区B区からは検出されていない。遺跡の調査区は、第397図に見られるように北から南方向に残存する自然堤防の右岸を、西から東に横断していることから、遺構は流路と想定される低地側に偏って検出されている。遺構外出土の縄文時代の遺物も同様である。

各土壇からは、深鉢形土器が出土しているが、その時期はすべて堀之内2式期である。また、遺構外からも土器の破片が検出されたが、いずれも堀之内2式期の土器である。同時期の土壇が数基

設けられていたことから、後期前葉には遺跡が立地する自然堤防が一定期間安定していたと考えられ、集落が営まれていた可能性が高い。住居跡は検出されなかったが、土壇の分布から流路に面した側の自然堤防上に、集落が立地していたと推定される。

堀之内2式期の遺構は、同じ自然堤防の対岸に位置する元宿遺跡(鈴木2009)からも1基検出されている。この土壇が、新时期自然堤防上で検出された初めての縄文時代の遺構であったので、今回の調査結果は、縄文時代の新时期自然堤防を考える上で貴重な事例となった。

(2) 縄文時代の川島町の自然堤防

川島町では、町を横断して通る一般国道首都圏中央連絡自動車道(以下圏央道)に関連する発掘調査が行われてきた。路線が、各時期の自然堤防を横断し、縄文時代の遺構や遺物が検出されたことによって、自然堤防上における川島町の縄文時代の様相が明らかになりつつある。今回の富田後遺跡において、川島町における圏央道に関連する報告が終了することとなった。元宿遺跡の報告で

も簡単にまとめたが、ここでは富田後遺跡の成果を加えて、川島町の自然堤防上における縄文時代の様相について触れておく。

川島町は、自然堤防の地形が良好に残る特徴的な地域である。自然堤防やそれに伴う流路跡については、その残存状態や重複関係から、古期・中期・新期に分類されている（川島町2005）。

自然堤防のうち、新期自然堤防が最も明瞭に残存しており、川島町の中央を北から南に縦断するものと越辺川沿いに位置するものがある。中期自然堤防は、新期自然堤防によって分断され、古期自然堤防は新期自然堤防と中期自然堤防によって分断されている。そのため、古期自然堤防については断片的で、その様相は明らかではない。

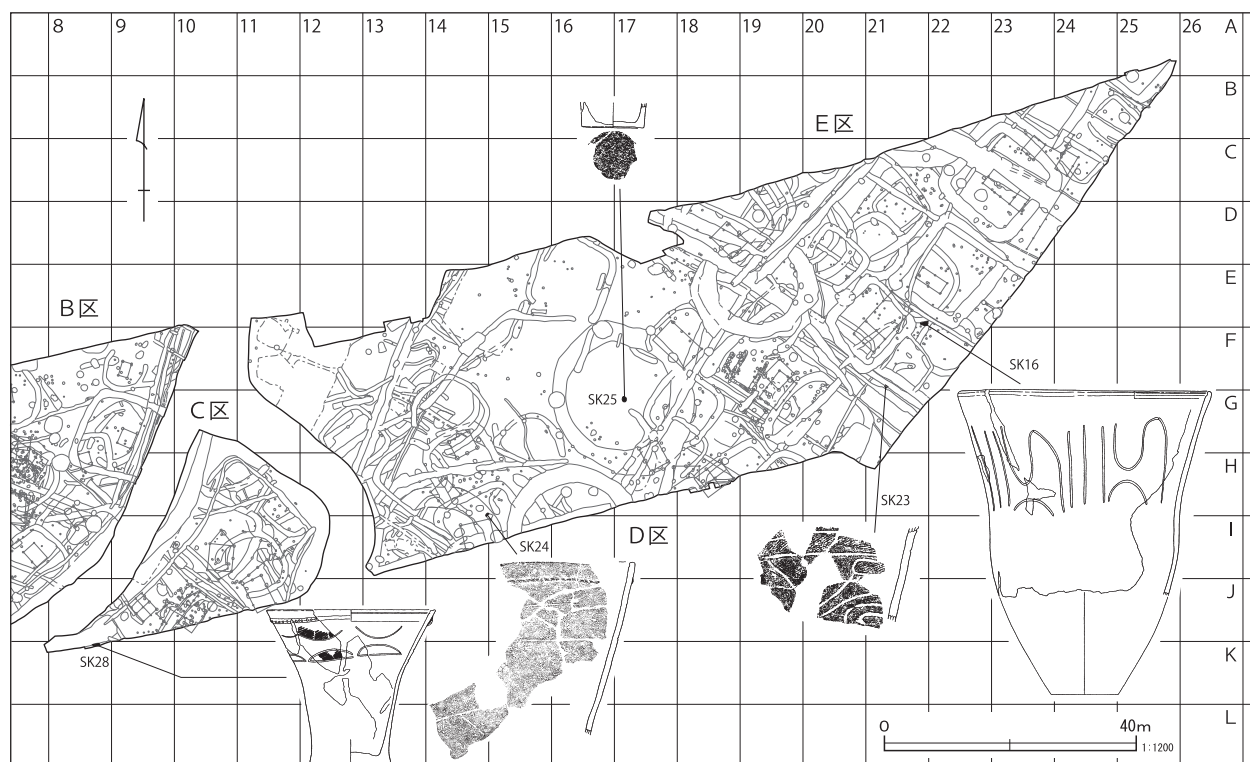
圏央道に関連して発掘調査された遺跡のうち、縄文時代の遺構が検出された遺跡は、西から平沼一丁田遺跡（宮井他2009）、白井沼遺跡（栗岡2007）、富田後遺跡、元宿遺跡（鈴木2009）、東野遺跡（宮

井他2009）である（第397図）。

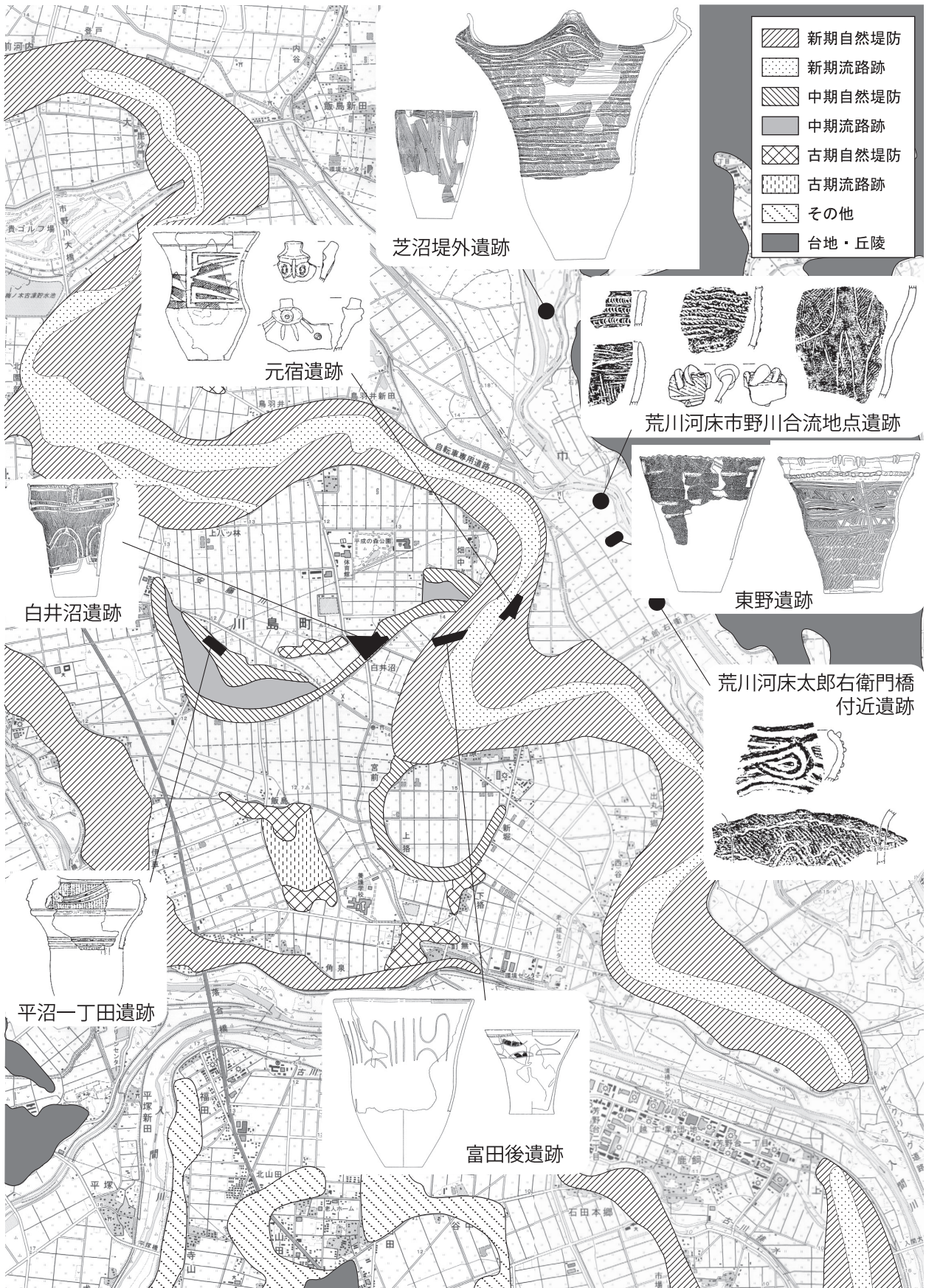
第397図で見られるように、中期自然堤防の左岸に平沼一丁田遺跡、右岸に白井沼遺跡、中央に位置する新期自然堤防の右岸に富田後遺跡、左岸に元宿遺跡が立地している。東端の東野遺跡は、地下深くから検出され、埋没している自然堤防上に営まれていたと考えられる。

今回の成果も加えると、中期の自然堤防では縄文時代中期、新期の自然堤防では縄文時代後期の遺構が検出されており、その時期が明確に分かれていることが特徴的である（第397図）。

中期自然堤防では、中期前葉以前の遺構は検出されていない。遺構は中期中葉から後葉の集石土壙や土壙が検出されている。白井沼遺跡からは、後期初頭の称名寺式土器の破片が検出されており、中期自然堤防は中期中葉から後葉にかけて安定して存在し、後期初頭まで続いた可能性が考えられる。



第396図 縄文時代の遺構



第397図 縄文時代の川島町の自然堤防

新期自然堤防では、流路を挟んで立地する富田後遺跡と元宿遺跡から後期前葉の堀之内2式土器を伴う土壌が検出された。同じ自然堤防上の村並遺跡では、主に堀之内2式期の遺物が検出されている(川島町2006)。これらのことから、新期自然堤防上では後期前葉に一定の安定期を迎えたと言える。

中期・新期自然堤防ともに、住居跡は検出されていないが、縄文時代以降の遺構との検出面に差が少ないことから、縄文時代の遺構の多くが壊されてしまったと考えられ、今後調査例が増加すれば住居跡が検出される可能性もある。

中期・新期自然堤防上での遺跡と比較し、東野遺跡(宮井他2009)は地表面下約4.5mから検出されている。荒川河床では、厚い堆積層下にありその検出は困難であるが東野遺跡では、前期末葉の住居跡が検出された。上流の芝沼堤外遺跡(金子

2004)も同様に、厚い堆積層下から前期後半の住居跡が検出されている。このことからすれば、荒川河床においては、地表面からは明らかにすることはできないが、縄文時代の前期に安定して存在した古い自然堤防が埋没していると考えられる。

以上、調査成果から縄文時代の各自然堤防の様相について述べてきたが、中期自然堤防では縄文時代中期、新期自然堤防では縄文時代後期、埋没した荒川河床周辺では縄文時代前期と、各期の自然堤防が安定した時期には、自然堤防の時期差とも一致するように、一定の時期差が認められた。

しかしながら、調査された範囲は自然堤防のごく一部であり、検出されていない時期の遺構も多い。今後の調査によってさらに新たな事実が明らかになると考えられるが、ここでは、現時点での川島町の縄文時代の様相を述べるにとどめておく。

3. 古墳時代前期の遺構と遺物について

今回の調査では古墳時代前期の周溝遺構96基、方形周溝墓7基、井戸跡28基、溝跡24条が検出された。遺構数だけでも県内有数の遺跡である。本来なら検討を尽くしたいところだが紙幅の都合もあるため、ここでは出土土器の時期区分と各時期の遺構の特徴とその変遷についてまとめることにしたい。

検討に入る前に遺構の種類についてだが、方形周溝墓と周溝遺構を弁別する福田の目安に従って調査を進めたため、基本的に両者を混同していることはないと考えられる。周溝遺構の性格については、別稿(福田2011)で建物の外部施設であることを確定できたため、以下では周溝持建物跡として論を進めることとする。

出土土器は古墳時代前期のものにほぼ限られ、3時期に分けることができる。この3時期は、本遺跡に近い東松山市反町遺跡において示した時期区分にほぼ対応するものである(赤熊・福田2011)。

型式論的变化については『反町遺跡II』で詳述したため、そちらを参照いただきたい。

なお、遺構数が多く、重複関係により層位論的関係を確認できる周溝持建物跡出土のものによって、まず時期区分を行い、方形周溝墓、井戸跡出土のものを別に示した(第398・399図)。

以下、各時期の様相についてその概要を述べる。

I期 B区4・D区25・51、E区2・10号周溝持建物跡の資料に代表される。甕類は口径と胴部径の差が小さく、頸部の括れが弱いものである。口縁端部に刻み目を施すものがある。胴部は球形胴である。壺類は複合口縁のものと単口縁のものがあり、大部分が無文だが、縄文が施文されるものもある。複合口縁の複合部は直立気味である。径に対して器高が高い印象を受ける。高坏は坏部が深いものである。坏部には大小があり、小型のものには縄文が施文されるものがある。周溝持建物跡からは甕類が多く出土し、方形周溝墓からは大型

の壺類が多く出土している。壺類の縄文は多段で羽状の構成をとるものではなく、網目状撚糸文も多段に施文するなど新しい様相が窺える。器形からもⅡ期に近い可能性が考えられる。

Ⅱ期 B区3号、D区10・28・34号、E区6号、の資料に代表される。甕類は単口縁で、短めの口縁部がほぼ直線的に開く。頸部は「く」の字に屈曲し、胴部径に比して口径の方がやや小さいことから、胴部の丸みが強調される。壺類も同様にⅠ期に比して口縁部は器高に占める割合が低く、複合口縁のものも長さが短いものが多い。高坏・器台ともに坏部と脚部の接合部が相対的に太くなっている。脚部も短く扁平な印象を受けるものが多い。11の平底の罎はⅠ期以前の系譜を引くもので、所謂小型丸底罎は伴っていない。井戸跡出土のものは壺類を中心としている。ほとんどが無文で、縄文施文のものも乱れた網目状撚糸文を多段に施し、文様壺の終焉を示すものと言えよう。

Ⅲ期 C区19・28号、D区48・50号、E区15号の資料に代表される。甕類は単口縁で、やや長めの口縁部が外反するものである。口径と胴部径がほぼ同じで、結果として頸部の締りが弱い印象を受ける。胴部はやや長めになる。壺類も同様である。高坏は脚部がハの字になるものと柱状になるものがある。前者は端部が更に外側に開くものが多い。後者は所謂下加南型高坏である。中実のものの中空のものがある。器台は脚部がハの字に開くやや器高の低いものと、脚部が大きく高さのあるものが認められる。罎が器種の一つとして定着し、低平な鉢類が多く認められるのが特徴である。D区42号26の単孔の甗は器高が高く、外来系のものである可能性もある。井戸跡出土のものも周溝持建物跡と同様の組成である。

各時期の年代観や他の遺跡、他地域との関係などは反町遺跡と同様である。年代としては3世紀後半から4世紀いっばいに相当すると考えられる。

外来土器は1点のみである。C区17号建物跡3は駿河の大廓式土器の口縁部である。色調は白、多孔質で、胎土は軽石を多く含む独特のものである。渡井編年の3期に相当する（渡井1998）。

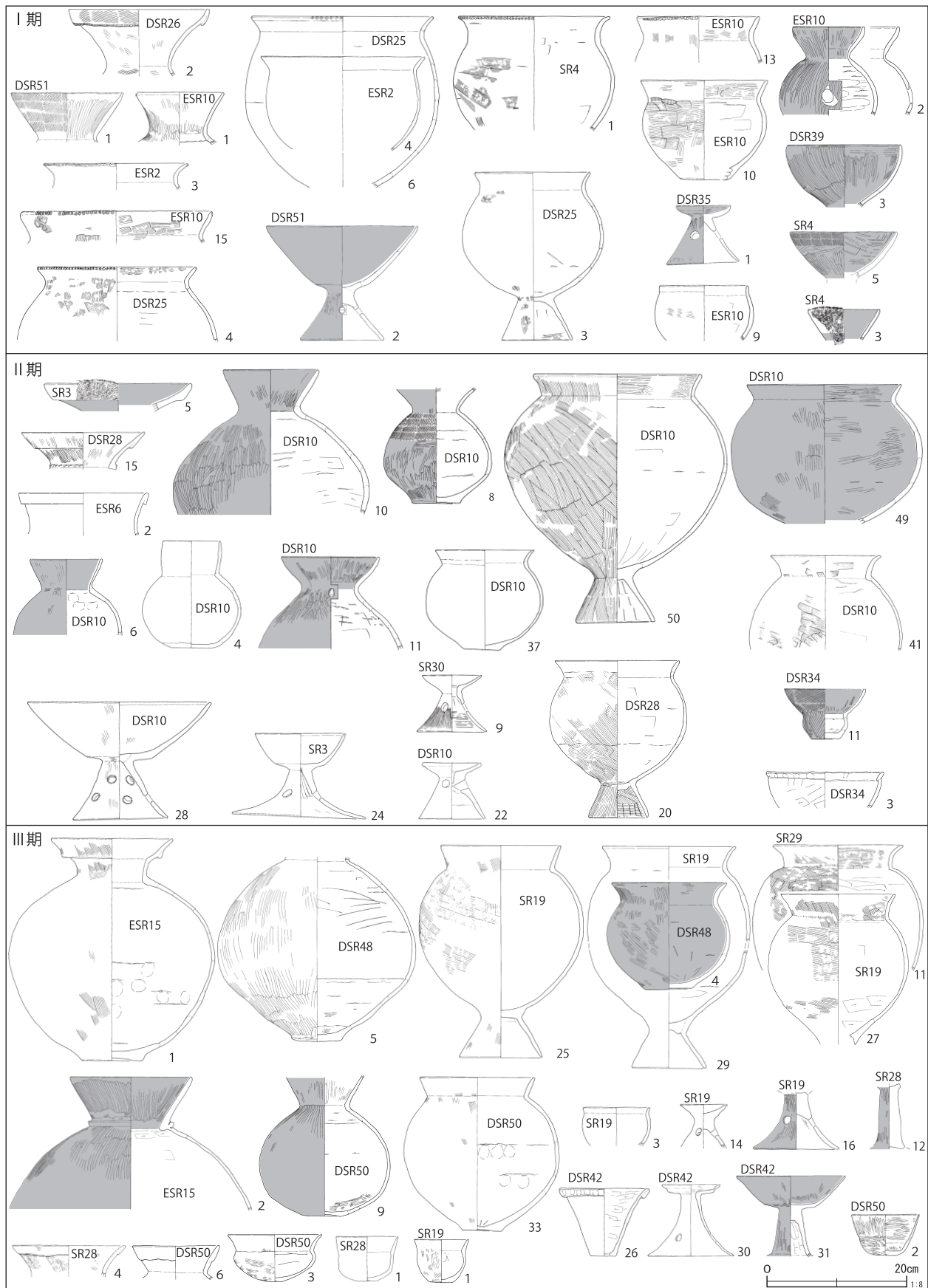
外来系土器は東海東部系、東海西部系のものである。D区22号建物跡6は東遠江の静岡県掛川市から菊川市周辺で見られる壺の頸部である。よく模倣されていて、一見外来土器と見紛うものである。頸部内面の横位のへう磨きが特徴的である。非常に堅緻で重く、胎土に白色針状物質を含む。D区10号建物跡12は駿河で大廓式とともに認められるものである。本来は複合口縁上下端に断面四角形の突帯が貼付されているが、本例は上端のみである。D区33号井戸跡113、C区19号建物跡8は所謂パレス壺の模倣品である。5号周溝墓17は胴部上半に櫛描波状文を施すものである。直接の系譜は不明だが頸部の形態から東海西部系を意識しているものと思われる。6号周溝墓9、D区42号建物跡53はS字状口縁台付甕を模倣したものである。大きく形態が崩れている。

次に各時期の遺構の様相について述べる。

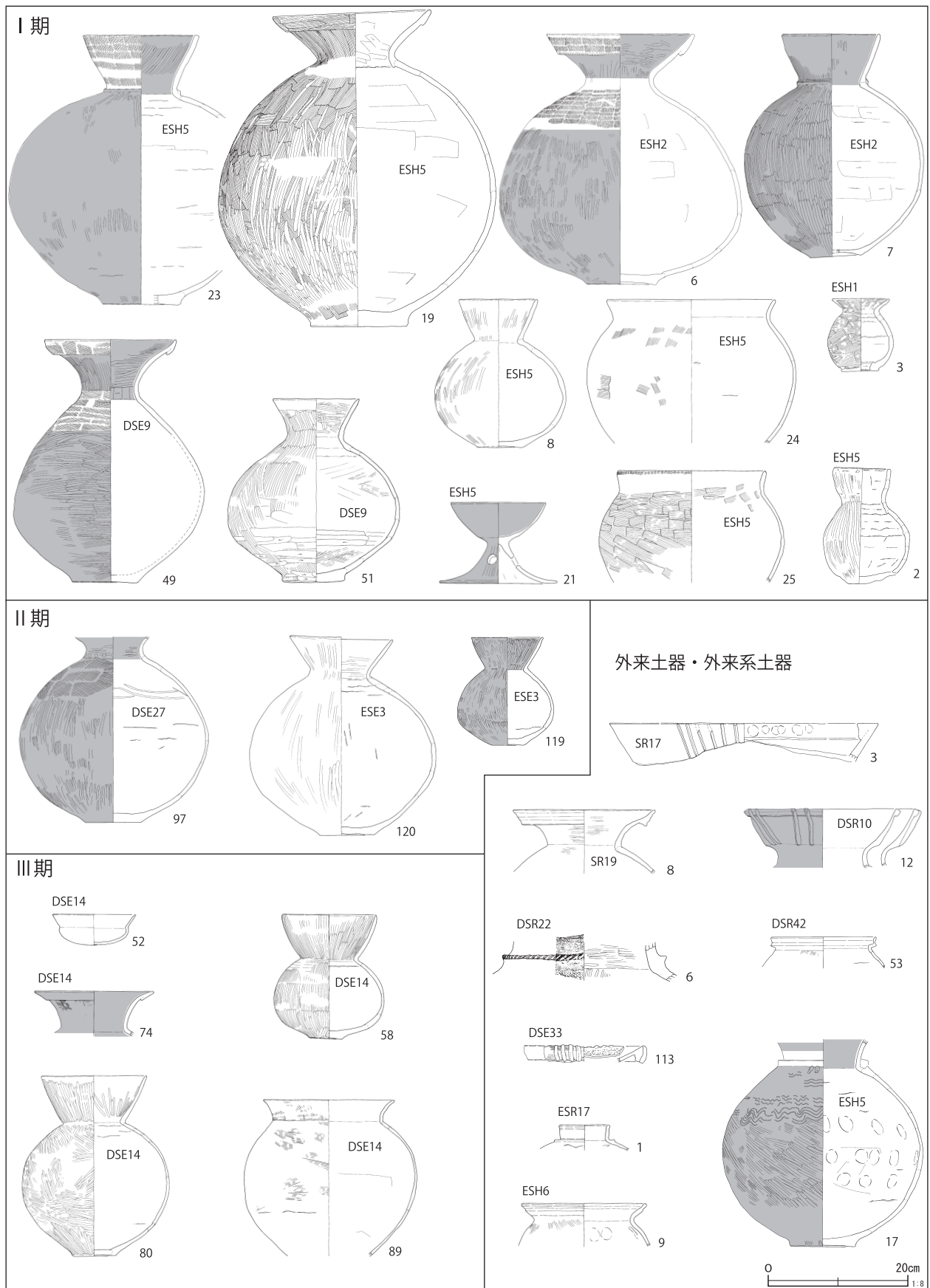
Ⅰ期 調査区全体に周溝持建物跡が分布し、東側に方形周溝墓群が展開している。周溝持建物跡の平面形は隅丸方形（Ⅰ）のものが大部分で、円形のもの（Ⅲ）を少数含んでいる。規模はD区39号、E区10号建物跡の12.2mが最も大きく、その他はB・Cランクのものである。開口部は①タイプのもものが大部分で、B区2号建物跡を除き南西側に開口している。

方形周溝墓は遺跡の東端に列状の群構成をもって展開する。前述のように、Ⅱ期にかけても展開する可能性があり、墓域は更に北側に展開するのであろう。規模は、現状では12mクラスの大型のものと6mクラスの小型のものに二分される。

また、6号周溝墓とE区8号建物跡は重複関係にあり、前者が後者を切る関係にある。墓地となる以前は居住域であったことが窺える。



第398図 富田後遺跡の時期区分 (1)



第399図 富田後遺跡の時期区分 (2)



第400図 古墳時代前期の遺構の変遷（1）



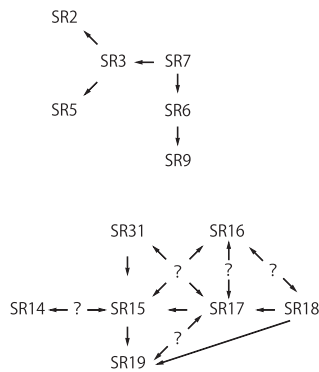
第401図 古墳時代前期の遺構の変遷（2）

第90表 富田後遺跡の「周溝」

遺構No.	規模(m)		周溝幅(m)		深さ(m)		主軸方位	平面形	規模	開口部	周溝	時期	備考
	長軸	短軸	最狭	最広	最浅	最深							
1	9.3	9.2	0.8	1.1	0.1	0.3	N-40°-E	I	C	②	a	III	
2	5.6	5.5	0.5	0.9	0.1	0.2	N-16°-E	I	A	③	a	I	
3	11.3	—	1.0	1.5	0.3	0.6	N-22°-E	II(I)	C	⑤	a	II	
4	9.0	8.8	0.8	1.4	0.2	0.5	N-46°-E	III	C	①	a	I	
5	7.8	—	1.0	[1.5]	0.1	0.2	N-60°-E	I	B	②	b	I	
6	9.6	5.3	0.9	1.1	0.2	0.4	N-53°-E	II	C	②	a	III	
7	6.7	5.8	0.6	1.7	0.1	0.3	N-82°-E	I	B	①	a	—	
8	10.8	10.2	1.0	1.5	0.2	0.4	N-36°-E	I	C	④	a	II	
9	8.7	8.0	0.7	1.0	0.1	0.4	N-49°-E	I	B	①	a	I	
10	9.0	5.7	0.7	1.1	0.1	0.3	N-32°-W	I	C	②	a	II	
11	—	—	0.5	1.0	0.1	0.2	—	I	—	(③)	a	—	
12	—	—	0.6	0.7	0.1	0.2	—	IV	—	①	b	III	
13	—	—	0.5	1.8	0.2	0.3	N-21°-E	—	—	①	a	—	
14	—	—	0.4	0.7	0.1	0.2	N-42°-E	I	—	③	a	—	
15	6.4	—	—	—	0.1	0.3	—	I	B	(②)	—	III	
16	—	—	1.1	1.4	0.3	0.5	—	I	—	④	a	III	
17	5.4	—	—	—	0.2	0.2	—	IV	A	③	a	III	
18	—	—	0.9	1.1	0.3	0.3	—	—	—	—	—	—	
19	10.6	10.1	1.0	1.5	0.3	0.4	N-28°-E	I	C	④	a	III	
21	—	—	1.3	1.7	0.2	0.2	—	I	—	①	a	—	
22	—	—	1.4	—	0.1	0.3	—	III	—	①	a	III	
23	—	—	1.0	1.4	0.3	0.4	—	II	—	—	—	—	
24	—	—	1.0	1.0	0.1	0.1	—	II	—	—	a	—	
25	2.6	—	0.5	0.8	0.1	0.2	N-48°-E	III	A	①	b	—	
26	—	—	0.7	0.8	0.1	—	—	II	—	—	—	—	
27	8.7	8.2	1.0	1.0	0.2	0.6	N-55°-E	I	B	①	a	—	
28	—	—	0.7	1.2	0.1	0.4	N-27°-W	II	—	—	b	III	
29	—	—	1.2	1.4	0.3	0.4	—	I	—	③	a	III	
30	—	—	0.8	0.9	0.4	—	N-34°-E	I	—	③	a	II	
31	—	—	0.6	0.7	0.4	0.4	N-30°-E	I	—	①	a	III	
32	—	—	0.9	1.1	0.1	—	N-58°-E	—	—	—	—	—	
33	—	—	—	—	0.2	0.3	N-27°-W	IV	—	—	a	—	
34	7.1	—	0.7	1.0	0.3	0.3	—	I	B	①	a	III	
35	—	—	—	—	0.3	0.3	—	IV	—	—	a	III	
D 1	—	—	1.5	1.7	0.2	0.4	N-42°-W	I	—	①	a	II	
D 2	10.8	8.2	0.9	1.7	0.2	0.4	N-26°-W	I	C	—	a	III	
D 3	—	—	0.9	1.0	0.2	—	—	I	—	③	a	III	
D 4	—	—	0.7	1.1	0.2	0.2	—	I	—	①	a	—	
D 6	9.1	8.4	0.7	1.1	0.2	0.4	N-49°-W	I	C	③	b	III	
D 8	—	—	0.7	—	0.1	0.5	—	I	—	—	—	I	
D 9	—	—	0.7	—	0.1	0.3	—	I	—	—	—	I	
D10	9.1	9.0	1.1	1.3	0.2	0.5	N-30°-W	I	C	③	a	II	
D12	—	—	1.4	1.8	0.2	0.5	N-26°-E	II	—	—	a	—	
D13	—	—	0.9	1.8	0.1	—	—	I	—	③	a	—	
D15	—	—	0.5	0.8	0.1	0.3	—	I	—	①	a	—	
D16	—	—	1.1	1.6	0.1	0.3	—	I	—	③	a	II	
D17	—	—	0.6	0.8	0.1	—	—	I	—	①	(a)	—	
D18	—	—	—	—	0.2	—	—	III	—	—	a	—	
D19	—	—	1.4	[1.7]	0.2	0.4	N-66°-E	—	—	—	a	III	
D20	—	—	—	—	0.2	—	—	—	—	—	—	III	
D21	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—	—	—	—	
D22	10.8	10.7	0.6	1.5	0.1	0.4	N-23°-E	I	C	①	a	II	
D23	—	—	0.7	1.5	0.1	0.3	—	IV	—	④	a	—	
D25	—	—	[0.9]	[1.0]	0.1	0.2	—	IV	—	①	b	I	
D26	9.9	9.6	0.8	1.1	0.3	0.5	N-38°-E	I	C	①	a	I	
D27	[8.4]	8.0	0.7	1.0	0.2	0.7	N-45°-E	I	B	(①)	a	I	
D28	—	—	1.1	1.2	0.2	0.3	—	I	—	④	a	II	
D29	—	—	1.1	1.4	—	0.1	—	I	—	—	a	—	
D30	7.6	6.2	0.5	0.8	0.1	0.3	N-59°-E	I	B	③	a	—	
D31	5.1	4.8	0.6	1.0	0.1	0.1	N-58°-W	I	A	③	a	—	
D32	7.6	7.5	0.8	1.7	0.1	0.2	N-30°-W	III	B	③	b	—	
D33	—	—	0.5	0.9	0.2	0.2	—	I	—	①	b	III	
D34	—	—	1.4	1.7	0.5	0.6	—	I	—	—	a	II	
D35	—	—	0.6	1.0	0.2	0.5	N-50°-W	I	—	④	a	I	
D36	9.3	8.8	0.8	1.2	0.1	0.6	N-52°-E	I	C	①	b	III	
D37	—	—	1.0	2.0	0.1	0.2	—	II	—	①	a	—	
D38	—	—	1.1	1.1	0.4	0.5	—	I	—	—	a	III	

遺構No.	規模(m)		周溝幅(m)		深さ(m)		主軸方位	平面形	規模	開口部	周溝	時期	備考
	長軸	短軸	最狭	最広	最浅	最深							
D39	[12.2]	—	1.2	1.6	0.2	0.4	N-39°-E	I	D	①	a	I	
D41	—	—	1.1	1.2	0.1	0.1	—	I	—	—	a	II	
D42	16.4	15.1	1.2	2.4	0.1	0.5	N-47°-E	II	D	③	a	III	
D44	—	—	1.0	1.2	0.2	0.2	—	I	—	—	a	II	
D46	—	—	0.8	[1.5]	0.4	0.5	—	—	—	—	—	III	
D48	—	—	0.7	1.6	0.3	0.6	—	—	—	—	—	III	
D50	—	—	—	—	—	0.4	—	III	—	—	a	III	
D51	—	—	1.4	1.6	0.1	0.2	N-63°-W	I	—	—	a	I	
D52	—	—	—	0.5	—	0.4	—	—	—	—	—	—	
D53	—	—	1.4	1.5	0.1	0.4	N-57°-E	II	—	①	a	—	
D54	—	—	—	—	—	0.3	—	—	—	—	—	—	
E 1	—	—	0.7	1.0	0.2	0.2	—	I	—	①	a	—	
E 2	10.8	—	0.8	1.9	0.1	0.3	—	III	C	①	b	I	
E 3	8.8	8.6	0.6	1.4	0.1	0.3	N-61°-E	I	B	①	a	I	
E 4	—	—	1.2	1.5	0.1	0.2	—	I	—	⑤	a	I	
E 5	—	—	0.7	1.2	0.2	0.5	—	I	—	—	a	II	
E 6	7.5	6.2	0.8	1.3	0.3	0.4	N-41°-E	II	B	①	a	II	
E 7	—	—	1.1	1.4	0.2	0.6	N-35°-E	(I)	—	③	a	III	
E 8	(10.1)	(9.8)	0.9	1.1	0.2	0.2	N-42°-E	III	C	①	a	III	
E 9	7.9	7.7	1.1	1.5	0.2	0.5	—	III	B	①	a	—	
E 10	12.2	11.2	0.9	1.3	0.2	0.7	N-53°-E	I	D	③	a	I	
E 11	5.8	5.7	0.4	0.8	0.1	0.3	N-51°-E	II	A	①	a	—	
E 12	—	—	0.6	0.8	—	0.2	N-36°-W	—	—	—	—	—	
E 13	8.6	7.5	0.4	1.3	0.4	0.4	N-42°-E	I	B	①	a	III	
E 14	—	—	0.5	0.7	0.2	0.4	—	IV	—	—	b	—	
E 15	9.9	8.9	0.8	1.8	0.4	0.8	N-45°-E	II	C	⑤	a	III	
E 16	—	—	0.6	0.8	0.2	0.5	—	I	—	①	a	I	
E 17	10.5	(5.7)	0.4	0.8	0.1	0.5	N-46°-E	II	C	—	a	II	
E 18	(7.9)	(7.8)	0.7	1.6	0.1	0.2	N-63°-E	III	B	①	a	—	

A～C区



SR25 → SR21 ← SR22

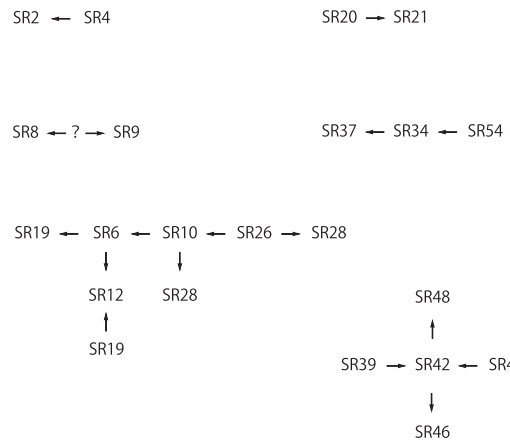
SR23 → SR24

SR35 → SR28 → SR33

SR27 → SR29 ← SR30

↓
SR32 → SR34 → SR31 ← SR15

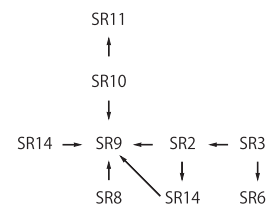
D区



E区

SR1 → SR5

SR17 ← SR18



第402図 周溝の層位的前後関係

方形周溝墓群と周溝持建物跡が若干地点を違えて展開する様相は元宿遺跡と同様である。

Ⅱ期 調査区全体に周溝持建物跡が散在して分布している。調査区の中のみだが、軒数が減少する。平面形はやはり隅丸方形のものが大部分だが、Ⅰ期やⅢ期に比して直線的なもの(Ⅱ)が多く、円形のもの(Ⅲ)は見られない。規模はB区3号建物跡の11.3mが最大で、Cランクのものが多い。開口部は①以外にも③④があり、南西側開口のものと南東側開口のものがある。

Ⅲ期 最も建物跡の数が多く、調査区全体に周溝持建物跡が分布している。平面形は、やはり隅丸方形のものが大部分で、方形のもの(Ⅱ)はD区42号建物跡のみである。この建物跡は、規模が16.4mと群中で最大であり、周囲に多くの建物跡が付随するように展開することから中心的な建物である可能性が考えられる。また、遺構数が多いこともあり、規模に大中小が認められる点は、元宿遺

跡や行田市小敷田遺跡(吉田1991)、騎西町小沼耕地遺跡(田中1991・木戸1999)などとも共通し、周溝持建物跡の集落の一般的な傾向であると考えられる。こうした状況は竪穴建物跡の集落とも共通している。開口部は①が大部分である。それ以外の形態も多く、周囲の状況に応じて平面形を選択したと思われる。基本的には南西側に開口し、他の建物跡との位置関係や通路となる空隙地との関係で、北東側や南東側に開口しているものと思われる。

また、各々の時期で井戸跡が検出されているが、基本的に建物跡の近傍に分布し、両者の密接な関係を窺わせる。戸田市鍛冶谷・新田口遺跡(西口1986)や小沼耕地遺跡と共通するものである。

以上、大変雑駁ではあるが、遺物、遺構の変遷について取りまとめた。紙幅や時間の都合もあり十分な検討を行うことができなかった。再考を期すことにしたい。

4. 土器が納められた井戸跡について

富田後遺跡では、古墳時代前期28基、古墳時代後期1基、中・近世以前3基、中・近世36基、不明30基、計98基の井戸跡が検出されている。

富田後遺跡の井戸跡の特徴は、土器を納めたと推定される井戸跡の数の多さと、その比率の高さにある。土器はいずれも古墳時代前期のもので、この時期の井戸跡28基中10例、およびその可能性があるもの1例の、計11例である。ちなみに、他遺跡の例をみると戸田市鍛冶谷・新田口遺跡では26基中2例、熊谷市下田町遺跡では86基中1例、都内北区豊島馬場遺跡では82基中6例、都内荒川区町屋四丁目実揚遺跡では16基中6例である。

該期の井戸跡のおよそ3分の1に対し、土器が納められているという比率の高さは、本遺跡のもつ特徴のなかでも、特筆されるべきものといえる。この特質を考えるに当たって、まず各井戸跡の概略を述べる。紙幅の都合上、平面形・断面形・法

量は繰り返さないため、報文と計測表を参照願いたい。ここでは、土器の置かれた状況を中心に述べていく。

なお、遺物名の後ろにあるカッコつきの数値は、挿図中の遺物番号と、残存率である。残存率は、完形の状態の何パーセントではなく、図示した土器の範囲内での残存率を示す。例えば、脚部の無い甕の口縁・胴部が8割ほど残っていれば80%と表現する。遺構名の表記に関しては、調査区A～E区のうち、D・E区の遺構については調査の工程上、区名を冠して命名し、D区第14号井戸跡ならば、DSE14と表記をした。古墳時代前期における時期については、福田 聖の行った編年(本書V-3)によるものであり、Ⅰ～Ⅲ期に編年されている。また、本項では人為的に置かれたと推定される土器について、「納めた」あるいは「納められた」と表現を用い、「埋納」という用語は用いな

いこととした。それは、埋められたのか否か、明確化されていない事例が大部分であることから、誤解を招く恐れがあるためである。

(1) 富田後遺跡の土器を納めた井戸跡の概要

I～III期の順に、西に位置するものから記す。

・D区第9号井戸跡(第304・314図)

底面に近いと考えられる位置から、壺4点(48:85%、49:95%、50:95%、51:95%)が、折り重なるように横たわった状態で出土した。4点のうち、1のみ、割れて破片となった状態で出土した。この他に、台付甕の脚部(47)と、図化には至らなかったが、壺の破片も同時に出土した。この2点については流れ込みの可能性が考えられるが、48～51の壺については、その出土状況から、人為的に井戸内に納められたものと考えられる。その後は、自然堆積であるのか、埋め戻しであるのかは特定できなかった。遺構の時期は、I期と推定される。

近在の同時期の周溝状遺は、SR27(8.1)・26(9.8m)・25(14.2m)・8(33.6m)・9(33.6m)・2(34.8m)・5(36.0m)・4(54.0)・9(57.6)がある。

・E区第4号井戸跡(第309・319図)

底面付近から、壺3点(121～123:いずれも95%)が出土した。121は口縁端部を欠いたもので、逆さまになった状態、122は横たわった状態、123は立位で出土した。出土状況から、人為的に納められたもの判断した。土層断面の第2層は、人為的埋め戻しと推定されるが、その他の土層については、人為的か自然堆積か特定できなかった。遺構の時期は、I期と推定される。

同時期のESE7とは、6.0mの距離にある。近在の同時期の周溝状遺構は、ESR2(2.8m)・3(5.1m)・4(12.1m)・10(4.0m)・8(5.8m)・16(16.2m)、DSR51(23.4m)・39(24.6m)・35(43.2m)である。

・E区第7号井戸跡(第309・320図)

底面から、壺1点(130:90%)、破片の壺2点(12985%・132:25%)が、第5層のほぼ同レベル

の位置から出土した。第6～9層は、人為的埋め戻しと推定されるが、130の壺を納めたのち埋め戻され、その際に、129・132が混入した可能性を考えたい。第1～5層は自然堆積と推定される。つまり、土器を納めた後、井戸の半分程まで埋め戻し、その後、順次自然堆積していったものと考えられる。遺構の時期は、I期と推定される。

同時期のESE4とは6.0mの距離にある。近在の同時期の周溝状遺構は、ESR8・10(6.9m)・2(9.3m)・3(11.9m)・4(13.2m)・16(15.6m)、DSR39(37.8m)・35(52.2m)がある。

・D区第27号井戸跡(第306・318図)

底面から、壺3点(97:90%、98:胴部下半の70%、99:胴部下半の80%)が、立位で並んだ状態で出土した。その内2点は胴部下半のみであり、欠け口に面取りの痕跡も認められないが、出土状況から、人為的に井戸内に納められたものと考えられる。その後は、自然堆積であるのか、埋め戻しであるのかは特定できなかった。遺構の時期は、II期と推定される。

同時期のDSE33とは5.4m、ESE3とは30.1mの距離にある。近在の同時期の周溝状遺構は、DSR22(1.9m)・44(11.3m)、ESR5(15.0m)、DSR28(30.4m)、ESR6(31.5m)、DSR28(30.4m)、ESR6(31.5m)、DSR41(32.3m)・10(34.3m)・34(34.5m)・1(36.8m)、ESR17(48.3m)がある。

・D区第33号井戸跡(第307・319図)

底面中央部の小さな窪みは、水溜めと考えられる。底面から10cm程浮いた位置から、壺1点(116:95%)が横たわった状態で出土した。また、底面から壺の口縁部(114:30%)、20cm程上位からも壺の口縁部(113:5%)の破片が出土した。位置は特定できないものの、壺の口縁部(115:60%)も出土している。土器は、人為的に納められている可能性が高い。なお、このレベルが、土器を納める時点での底面と考えられる。第1層は人為的埋め戻しと推定されるが、その他の層については、特

定できなかった。遺構の時期は、Ⅱ期と推定される。

同時期のDSE27とは5.4m、ESE3とは24.0mの距離にある。近在の同時期の周溝状遺構は、DSR22 (7.9m)、ESR5 (9.5m)、DSR44 (14.6m)、ESR6 (21.6m)・DSR41 (26.8m)・34(31.2m)・1 (38.4m)・34 (31.2m)・10 (36.0m)・1 (38.4m) がある。

・E区第3号井戸跡 (第308・319図)

底面付近から、壺2点 (119：100%、120：90%) が立位で並んだ状態で出土した。120は土圧で潰れたかのような状況であった。この2点については、人為的に納められた可能性が高い。その他に出土した壺 (118) は、口縁部分が90%程残っており、一概に混入と判断するには躊躇せざるを得ない。119と共に納められた可能性も考えられる。

なお、覆土については、人為的・自然堆積いずれとも特定できなかった。

遺構の時期は、Ⅱ期と推定される。

同時期のDSE33とは24.0m、DSE27とは30.0mの距離にある。近在の同時期の周溝状遺構は、ESR6 (3.9m)・5 (5.4m)・17 (22.4m)、DSR22 (31.0m)・41 (29.0m)・44 (38.2m) ほかがある。

・第11号井戸跡 (第297・312図)

底面から40cm程の位置から、胴部に(焼成後)穿孔された壺 (18：100%) が1点、横たわった状態で出土した。胴部には、穿孔の際の衝撃で生じたと考えられるヒビが認められる。穿孔された土器であることや出土状況から、人為的に納められたものと考えられる。この土器が井戸跡底面より上位から出土したのは、井戸内に土器を納める時点で、その位置まで埋まっていた可能性と、井戸を埋める過程で据えられた可能性とが考えられるが、特定することはできなかった。私見では、前者の可能性が高いと考える。

この他に、18とほぼ同レベルの位置から、土師器壺の口縁部の破片 (17：30%) 1点が出土している。この土器については、自然堆積で埋没したの

ではないかと推測される。Ⅲ期と推定される。

同時期のSE41とは18.0m、SE42とは27.6mの距離にある。近在の同時期の周溝状遺構は、SR6 (1.6m)・1 (14.2m)・19 (19.2m)・15 (22.8m)・12 (27.0m) がある。

・第41号井戸跡 (第302・313図)

底面から30cm程の位置から、壺 (24：100%) と、脚台部を欠く台付甕 (27：95%) が並んで、横たわった状態で出土した。この甕は、外面全体にススガ、内面下半には炭化物が付着しており、実際に使用されたものであることが分かる。脚台部は打ち欠いた可能性が高い。この2点は、人為的に置かれたと推測される。その後は、自然堆積で埋没したのではないかと考えられる。埴 (25) については、納めたか流入か、特定することはできなかった。遺構の時期は、Ⅲ期と推定される。同時期のSE42とは8.4m、SE11とは1.0mの距離にある。

近在の同時期の周溝状遺構は、SR22 (2.4m)・19 (9.9m)・28 (15.6m)・35 (16.4m)・15 (18.1m)・34 (19.1m)・17 (20.9m) がある。

・第42号井戸跡 (第302・313図)

底面から、口縁部を打ち欠いたとみられる壺1点 (30：100%) が、斜めに傾いた状態で出土した。欠け口は、面取りしている可能性がある。この他、壺・器台・台付甕の破片が5点出土している。この破片5点は流れ込み、30はその納められたものと考えられる。その後は自然堆積、埋め戻し、いずれとも特定できなかった。Ⅲ期と推定される。

同時期のSE41とは8.4m、SE11とは27.6mの距離にある。近在の同時期の周溝状遺構は、SR22 (1.2m)・19 (4.8m)・28 (15.6m)・35 (16.4m)・15 (18.1m)・34 (19.1m)・30 (20.9m)・17 (20.9m) がある。

・D区第29号井戸跡 (第307・318図)

底面から、口縁部上半を失った壺 (106：85%) が、口縁を斜め下に向けた状態で出土した。欠け口の、面取りの有無は識別できなかった。また、

底面から30cm弱の位置から鉢（107：80%）が、底面から60cm弱の位置から高坏の坏部（108：50%）が出土した。106は出土状況から、人為的に納められている可能性が高く、またこの土器の含まれる第5層は、埋めた土の可能性が高いと考えられる。

土層断面の第1～4層は自然堆積と推定される。107は、第4層の最上面から出土していること、残存率の高いことから、第4層がそこまで埋没した時点で再度納められた可能性も否定できない。108は、混入したと考えられる。遺構の時期は、Ⅲ期と推定される。

同時期のDSE14とは20.4m、DSE28（土器は納められていない）とは31.8mの距離にある。近在の同時期の周溝状遺構は、DSR36（5.8m）・42（16.8m）・33（18.7m）・2（20.3m）・50（22.9m）・48（31.3m）がある。

・D区第14号井戸跡（第304・315～317図）

井戸側の平面形は隅丸方形を呈し、四隅は、半円状に窪んでいる。覆土内から、板状・棒状木製品が出土している。この2点から、隅柱を有する横板組の木枠を有する井戸であった可能性が高い。この時期の井戸跡で、木枠をもつのは本遺構のみであり、さらに開口部の段状に窪む部分は、水を汲む際の足場の機能が想定される。木枠のみではなく、こういった構造をもつことも特徴的である。

また、平面規模は、「やや大きめ」といった程度であるが、深さが247cmと、他の時期の井戸も含め、最も深い。古墳時代前期の井戸跡28基の中には、深度80cm（DSE27：Ⅱ期）の例もある。DSE14と同じくⅢ期で、井戸内に土器が納められていた10基の深度をみると、111（SE42）～178（SE41）cmである。また、納められたものではないが、出土土器からⅢ期と推定される井戸跡（2基）の深度は、100（DSE30）・181（DSE28）cmである。このことから、DSE14の深度の大ききの程が分かる。深度がここまで他を圧倒しているのは、他の井戸以上に、

豊富な水を、常に湛えている必然性があったのではないか。同時期の他の井戸が、季節や天候の変化等の原因で、湧水量が減少しても、この井戸だけは水が枯れない、という井戸を目指した証と推測する。その理由は、この井戸が他の井戸とは異なり、特別な意味をもつ井戸であったためではないかと考えた。

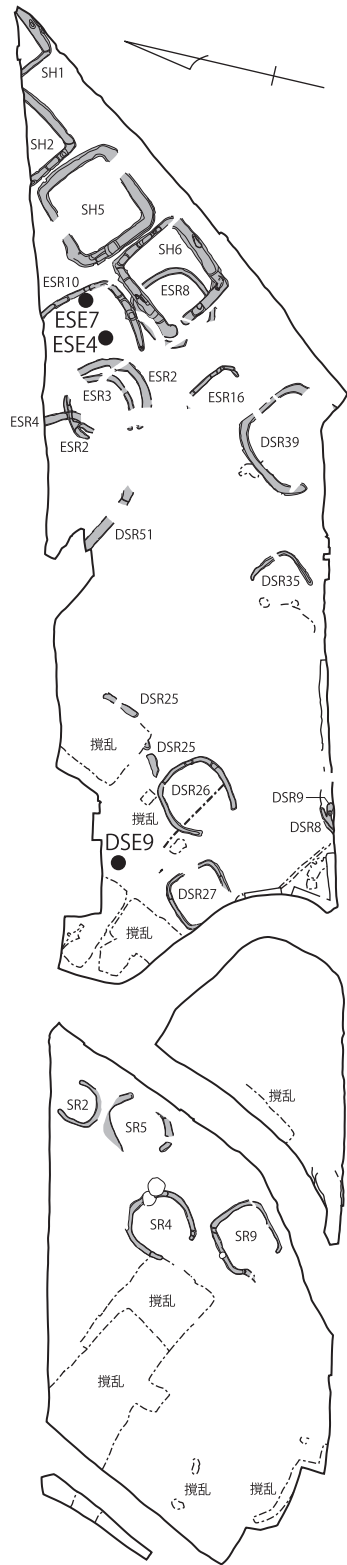
但し、複数回にわたって土器が納められたと仮定しても、同レベルまたは同じ土層から、接合率の低い破片が多く出土する事実に関しては説明がつかない。この点では、土器を納めるという行為が、1回のみ行われた井戸でも同様である。打ち欠いたのか否か、あるいは破片となっている土器でも納めたのか否か、これを問うには、現状では資料が少な過ぎ、憶測としてしか述べることはできない。

高低差1.5mの間に、井戸に納められた可能性が高い土器が多数含まれており、しかも異なるレベルで検出されている例があり、複数回にわたって土器が納められた結果と解釈したい。この仮定に立てば、井戸としての機能を失った時点でも、土器が納められたことになり、この井戸もしくは井戸跡、あるいはこの場所に納めること自体に意味があったのではないかと解釈した。井戸の構造についても、他の井戸とは一線を画していることもその表れと考える。

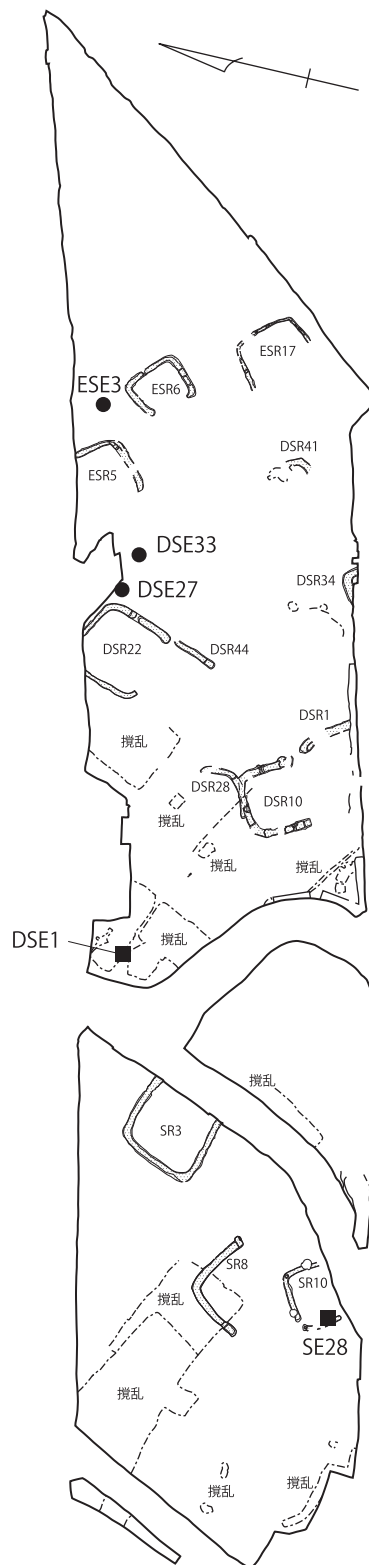
井戸内に納められたと推定される遺物を層ごとに挙げてみる。6層では55（95%）・81（90%）・58（85%）が納められたと考えられ、候補として66（65%）・70（70%）・82（70%）が挙げられる。5層では56（80%）・57（80%）・80（75%）第6層を跨ぐが納められたと考えられ、候補として61（80%）・83（75%）・85（60%）が挙げられる。4層では候補として89（70%）が考えられる。3層では86（90%）、2層では54（90%）が納められた土器と考えられる。

土器を納めた同時期のDSE29とは20.4m、土器を

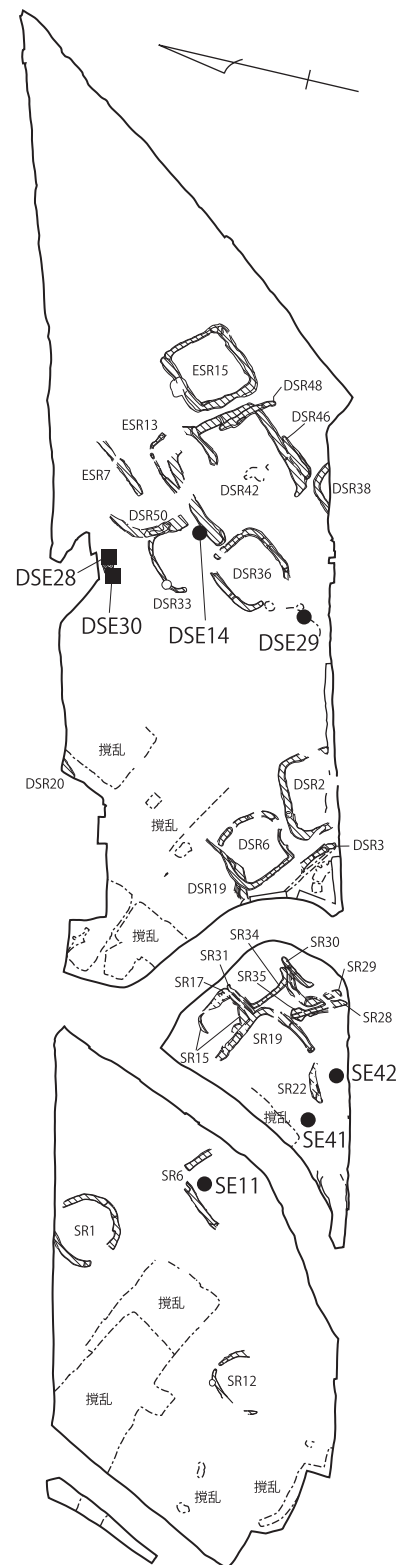
時期 I



時期 II



時期 III



- 土器が納められた井戸
- 土器が納められていない井戸



第403図 土器が納められた井戸跡と周溝状遺構の時期別分布

納めていないSE28とは15.6mの距離にある。

近在の同時期の周溝状遺構は、DSR50 (1.7m)・36・42(3.3m)・19(19.2m)・33(5.6m)、ESR13(6.7m)・7 (10.4m)、DSR46 (18.1m)・38 (18.2m)・ESR15 (18.5m) がある。

(2) 井戸跡の形態・法量について

平面形は円形または楕円形で、例外としてはD区第33・E区第7号井戸跡が隅丸長方形を呈する。また、第41号井戸跡では壁面と底面が「8」の字を呈している。意図的にロート状に掘削されたと考えられるのは、D区第14号井戸跡のみといえるのではないか。

深度については、完掘できたもので80～247cmと幅があり、98基全体を通じて65～247cmとなり共通する。第9号井戸跡(中世)とD区第14号井戸跡以外は素掘りであったと想定される。

土器が納められた井戸跡も、D区第14号井戸跡を除いて、他の井戸跡と大きな違いはない。湧水を汲み上げることができる深度・規模・形状であれば問題はなく、ごくありふれた井戸の一部に、土器を納めるという行為を行ったことになる。

(3) 富田後遺跡の土器を納めた井戸跡の検討

納められたと推定される土器とともに、破片も出土している例がある(SE11・DSE29・33・ESE3・4・7)。これらは破片として納められたのであるか、混入であるかは特定できない。地表で何らかの行為(祭祀)を行い、破碎したものを、完形もしくは完形に近い土器と共に納めるのであれば、もっと他の部位の破片も納めるのではないかと、この想定に基づき、混入として扱うこととした。しかし、破碎した土器の1片を、その土器の一部として納めた、という可能性も現段階では否定し切れない。

A 器種について

井戸に納められた土器は28点で、その内訳は壺26点・台付甕1点・鉢1点であり、壺が圧倒的多数を占める。その内、1点の壺(SE11:18)の胴部

は、焼成後穿孔が認められた。

SE41出土の台付甕は、外面全体に煤が、内面下半には炭化物が付着していた。その付着の度合いからみて、何度も使用されたと推測させるものであった。

この井戸跡からは、完形の壺(24)が1点、甕(27)と並ぶようにして出土している。このセット関係から、井戸近くでこの甕を用いて煮炊きをし、内容物を入れたまま、壺と共に井戸内に納められたのではないかと推測される。

B 打ち欠かれたと考えられる土器

土器の欠けている部位について触れてみたい。まず、欠けている部位別に列挙する。特に但し書きの無いものは、いずれも壺である。

- [1] 口縁部上位：ESE4 (121 I期)、DSE27 (97 II期)、ESE3 (120 II期)、DSE14 (55・56・81 III期)、DSE29 (106・197鉢 III期) の計8点。
- [2] 口縁～頸部全体：SE42 (30 III期)、DSE14 (82 III期) の計2点。
- [3] 胴部上半：DSE14 (83・85 III期)、DSE27 (98・99) の計4点。
- [4] 胴部下半：該当例なし。
- [5] 胴部全体：ESE7 (129 I期)、DSE14 (61・66・71 III期) の4例。
- [6] 脚部(全体もしくは一部)：SE41 (27 III期)、DSE14 (86・89) の計3例。

これらの他に、完形もしくはほぼ完形であるものは、ESE4 (122・123 I期)、ESE7 (130 I期)、DSE33 (116 II期)、ESE3 (119・120 II期)、SE11 (18 穿孔あり)、SE41 (24 III期)、DSE9 (49・50 III期)、DSE14 (53・55・57・58・80・90 III期) の計16点である。[1]～[6]の総計は21点であり、井戸内に納められたと推定される土器には、一部が打ち欠かれているものが比率的に高いと言える。しかし資料数が極めて少ないこともあり、土器を打ち欠くという行為の目的までは言及でき

ない。なお、打ち欠いたのち欠け口の面取りを行っている可能性をもつのは、SE42出土の壺(30)1点のみであった。

打ち欠く部位については、一定の共通点があるのではなく様々であるが、胴部上半もしくはそれよりも上位(14点)の例が、胴部下半の例(7点)を上回っているようである。

土器の一部を打ち欠く目的は何か、穿孔する行為との違いは何か。「手間」という物理的な意味でいえば、穿孔の方が「簡単」ではないか、と感じられてならない。この点については、残念ながら試案が浮かばない。

また、同じ井戸跡から出土した土器に、打ち欠いたものと、そうではないものとが混在する例SE41・DSE29・ESE4、打ち欠いた土器のみという例SE42(全1点)、打ち欠いた土器がない例DSE9・DSE33(1点)など様々なタイプがみられる。

なお、打ち欠いた土器が皆無として扱った例の中には、破片が出土している井戸跡もあるが、DSE9では台付甕の脚部のみであること、DSE33では壺の口縁部であるが、破片であることから、混入と判断した。

(4) 土器を納めた後の扱い方

井戸の底に土器を納めた後、そのままの状態が残すのか、あるいは土をかけて埋めたのか。

本遺跡では、以下の3つのケースが認められた。

- ① 土をかけることはなく、自然に埋まっていったと推定されるもの(SE41)。
- ② 土器を納めた後、土をかけて埋めたもの。埋めるのは、納めた土器が隠れる程度(DSE29)。
- ③ 土器を納めた後、土をかけてある程度埋めたもの。但し埋めるのは、井戸全体ではない(ESE7)。

富田後遺跡では実例は確認されなかったが、

- ④ 土器を納めた後、井戸全体を埋めたもの、もケースとして想定される。

但し、この問題について検討するにあたって、土器を納めた井戸跡が、自然堆積によるものか、

人為的堆積によるものかという点が問題となる。

こうした視点で、改めて調査時の土層断面図や土層註記、土層写真などの記録類を検討したが、自然堆積・人的堆積の別を特定できないものが多数残る結果となった。今後、調査においては、井戸跡の覆土に関する状況を注意深く観察し、調査所見も含め、①～④のケースについて明らかにする必要がある。

(5) 周溝状遺構との関連

井戸跡と周溝状遺構の時期別分布図(第403図)を眺めてみると、これらの遺構の全てが同時に存在したとはいえないものの、各期とも周溝状遺構が幾つかの「まとまり」、別表現をするならば「単位」に分かれていることが分かる。そして全てではないが、それらのまとまりに近い位置に、土器を納めた井戸跡が存在しているといえる。

I期では、B区東部～D区西部にかけて分布しているまとまりにはDSE9が、D区～E区中央部にかけてのまとまりにはESE4・7の2基がそれぞれ帰属していると考えられる。このまとまりの中に周溝状遺構同士の重複例がみられることから、少なくとも2期に分けられると考えられるが、土器を納めた井戸が2基存在するものもその表れと考えたい。

II期では、まとまりの境目が分かりにくいのが、おおよそB区に位置するまとまりと、D区～E区にまたがって分布するまとまりが想定される。前者では該期の井戸跡(SE28)は検出されているが、土器が納められた井戸跡は確認されていない。調査区外に存在していると考えたい。後者では、土器が納められた井戸跡が3基(DSE27・33、ESE3)検出されている。ここでも、周溝状遺構の重複例が認められることから、井戸に土器を納める行為が3度行われた結果と推定する。なお、方形周溝墓はII・III期においては調査区内に限っていえば、検出されていない。

III期では、B区～D区西端部にかけて分布する

まとめりと、D区東部～E区にかけて分布するまとめりとが認められる。どちらも周溝状遺構の重複例が認められ、土器が納められた井戸跡が、前者では3基(SE11・41・42) 後者では2基(DSE14・29) 存在している。このことから、土器を納めるという行為が、それぞれ3回と2回行われた結果と考えたい。

では、いつ、どのような目的で、井戸の底に土器が納められたのか。井戸の使用中に土器を入れてしまうと、物理的に水を汲み上げる際に妨げとなると考えられる。従って、井戸を掘削して使用を開始する時点や、使用中という可能性は極めて低い。残る可能性は、原因は判断できないが、井戸の使用を終了する時点であると考えられる。

土器を納めるという行為については、井戸の使用を終えるに当たって、井戸そのもの、もしくは井戸のカミに、感謝の意を表するためではなかったかと解釈した。

そして、各時期において、まとめりごとに、井戸に土器を納めるという行為が行われたと考えられる。井戸に土器を納めて、使用を終えてしまう意味は何か。別に井戸を掘り直すためか。実際に、同時期と推定される井戸が少なくとも他に17基確認されているが、土器は納められていない。各々のまとめりにとって意味深い井戸に代表して納めたのであろうか。重複する周溝状遺構があることから、時期差があると考えられ、土器を納める行為も複数回行われた、として論を進めてきた。しかし、同時に複数の井戸で行われたという可能性も否定できない。

井戸に土器を納めたのは、井戸の使用を終える時点と推測したが、どのような理由で使用しなくなったのか。

- a 湧水量が減り、使用に耐えなくなった。
- b 使用する必要がなくなった。

aについては、位置を変えて別の井戸を掘削したとも考えられる。

bについては、別に使用する井戸を掘削した場合と、その集落から別の場所に移動した場合とが考えられる。

この集落に住まいした人々は、ほかの土地へ移動する際に井戸に土器を納めた、と推定したが根拠に欠ける。では、移動した理由は何か、しかも複数回移動した理由は何か。この点については、洪水・氾濫などの自然災害や、農耕のように人的行為に関わるのか、いずれとも特定できない。しかし、何らかの理由で移動をする際に、井戸内部に土器を納めるという行為があったという可能性を指摘しておきたい。

そして、土器の納められた井戸が、ひとつのまとめりの中に複数存在する理由として、移動した後ある程度の期間を経て、また戻り一定期間を経た後、再び移動していく際に再度、土器を納めていった、という解釈も一案と考えた。

但し、すべてが同じ「まとめり」によって行われた、とは明言することはできない。

富田後遺跡は、土器が納められた井戸跡の事例数の多さと、その比率の高さが際立っているといえる遺跡である。

なぜ富田後の集落では、これだけの回数の、井戸内に土器を納めるという行為が行われたのか。流路を挟んだ対岸には、同時期に存在した元宿遺跡が立地している。この集落でも、古墳時代前期の井戸跡が、10基ではあるが検出されている。しかし、土器が納められていた井戸跡は皆無であった。両遺跡は近距離にあるが、集落としての性格の違いを窺わせる調査結果であった。

そしてこの問題は、該期の周溝状遺構の数の多さ、分布密度の高さとともに、本遺跡のもつ、最も大きな特徴のひとつといえるものである。

なお、土器が納められた古墳時代前期の井戸跡については、今回の調査における大きな成果であり、今後の検討課題としたい。

引用・参考文献

- 赤熊浩一他 2006『下田町遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第319集
- 赤熊浩一他 2011『反町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第380集
- 赤熊浩一・福田 聖 2011「3. 古墳時代の土器変遷」『反町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第380集
- 石坂敏郎 2000『稻荷台遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第239集
- 石守 晃 2003『中内村前遺跡(2)―5～7区―』群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第322集
- 岡田勇介 2009『東野／平沼一丁田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第360集
- 書上元博 1994『稻荷台遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第139集
- 金子直行 2004『芝沼堤外遺跡』川島町遺跡発掘調査報告書第2集
- 川島町 2005『川島町史』資料編 地質・考古
- 川島町 2007『川島町史』通史編 上巻
- 木戸春夫 1999『小沼耕地遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第247集
- 栗岡 潤 2007『白井沼遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査報告書第328集
- 坂上直嗣他 2006『東京都荒川区 町屋四丁目実揚遺跡』大成エンジニアリング株式会社 埋蔵文化財調査部
- 城倉正祥 2011『北武蔵の埴輪生産と埼玉古墳群』奈良文化財研究所 真陽社
- 鈴木孝之 2009『元宿遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第365集
- 鈴木孝之 1991『代正寺・大西』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第110集
- 田中正夫 1991『小沼耕地遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第100集
- 伝田郁夫・江原昌俊・城倉正祥 2011「続 比企の埴輪」『埴輪研究会誌』第15号 埴輪研究会
- 富田和夫他 2010『銭塚Ⅱ／城敷Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第369集
- 中島広顕他 1999『豊島馬場遺跡Ⅱ』東京都北区教育委員会
- 西口正純 1986『鍛冶谷・新田口遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第62集
- 日本考古学協会新潟大会実行委員会 1993『東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会
- 福田 聖 2000『方形周溝墓の再発見』同成社
- 福田 聖 2007「Vまとめ 3. 古墳時代」『久台遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第339集
- 福田 聖 2009『反町遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第361集
- 福田 聖 2011『低地遺跡から見た関東地方における古墳時代への変革』
- 山本 靖 2005『北島遺跡X』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第302集
- 山本 靖 2011『城敷遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第382集
- 吉田 稔 1991『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
- 若松良一他 2000『堂地遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査報告書第266集
- 渡井英誉 1998「大廓式土器小考―大廓式土器の画期とその展開」『庄内式土器研究XVI』